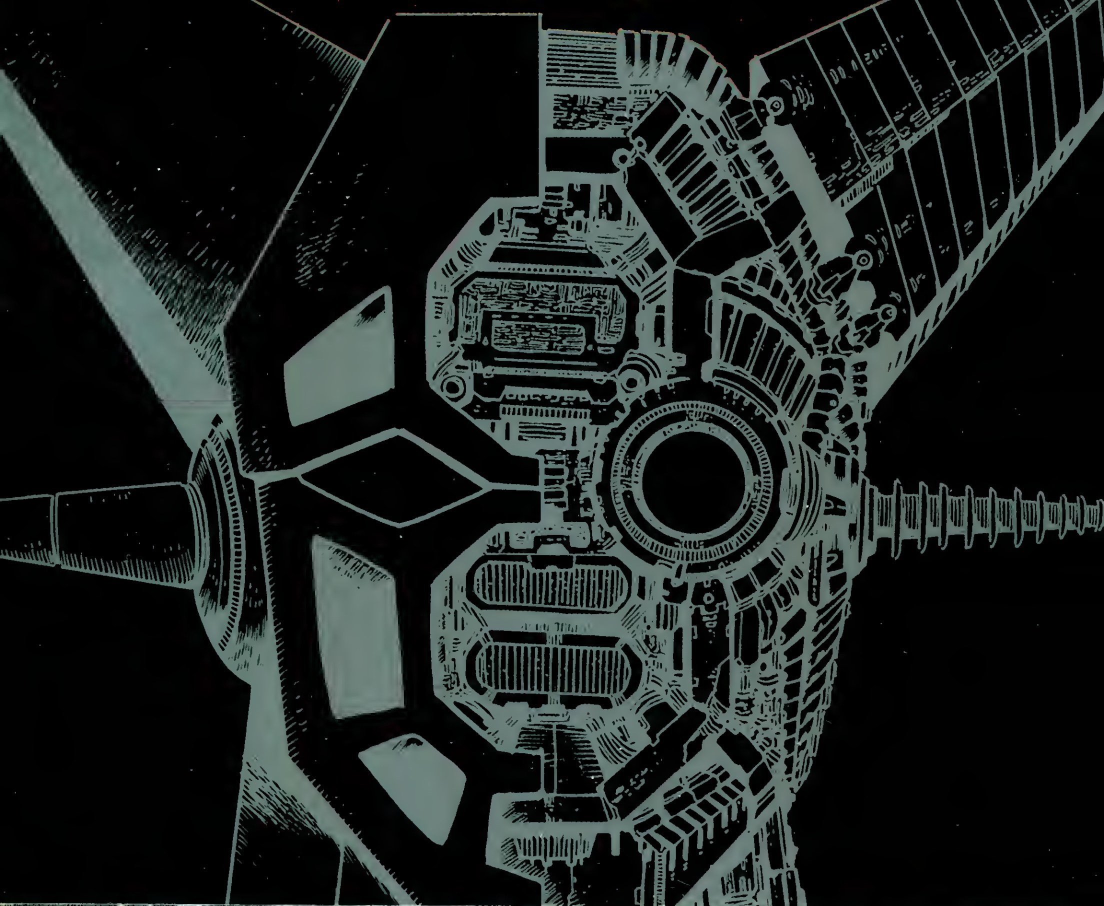
GETTER-ROBOT CHRONICLE

ゲッターロボ大全

岩佐陽一 編



究極の解析本!!

今明かされる、ゲッター誕生秘話。
永井豪、石川賢らによる初期設定等、本邦初公開資料満載。

ISBN4-575-28885-3
C0076 ¥1200E
9784575288858
1920076012006
定価：本体1200円＋税　双葉社

GETTER
ROBOT
CHRONICLE

ゲッターロボからゲッター號まで、
ゲッターの全てがここにある!!

- ○永井豪、石川賢、上原正三を始めコミック・アニメ関係者が当時を振り返る徹底インタビュー
- ○アニメ版『ロボ』『G』全エピソード&敵キャラ百科
- ○『ロボ』『G』連載時の幻の予告編マンガ&原作扉絵、学年誌掲載の読み切りマンガを復刻
- ○グッズ・カード等アイテム大量掲載…etc.

ゲッターロボ大全

GETTER ROBOT CHRONICLE

岩佐陽一 編

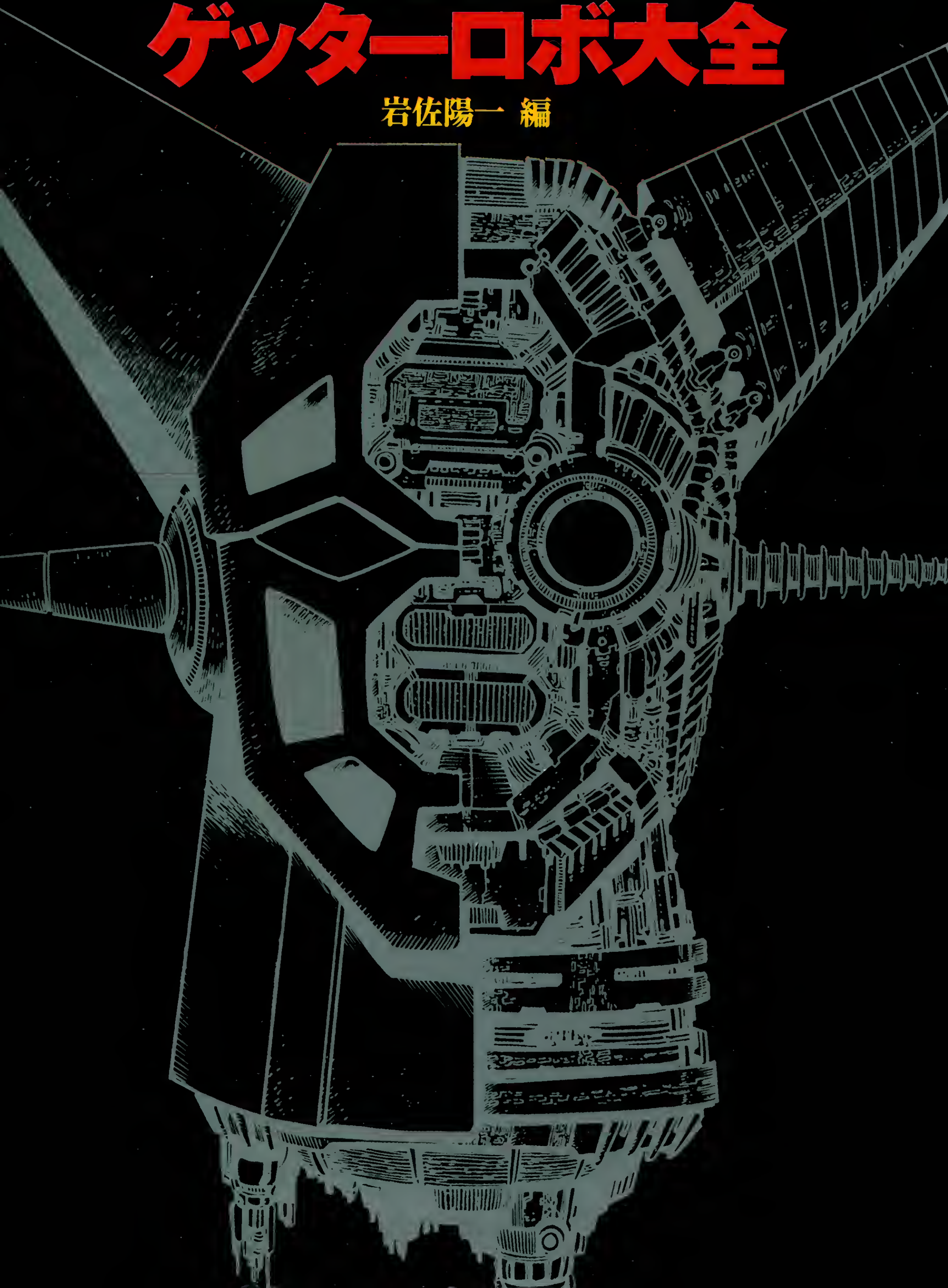
究極の解析本!!

双葉社

GETTER-ROBOT CHRONICLE

ゲッターロボ大全

岩佐陽一 編



ゲッターロボ大全

GETTER ROBOT CHRONICLE

岩佐陽一 編

双葉社

ISBN4-575-28885-3
C0076 ¥1200E
9784575288858
1920076012006
定価：本体1200円＋税　双葉社

GETTER
ROBOT
CHRONICLE



ゲッターロボ大全

定価：本体1200円+税

1998年10月15日　第一刷発行

編　者：岩佐陽一

発行者：井上功夫

発行所：株式会社双葉社

〒162-8540 東京都新宿区東五軒町3-28

COVER ILLUSTRATION: **KEN ISHIKAWA**
COVER DESIGN: **VOLARE inc.**



GETTER ROBOT CHRONICLE



GETTER ROBOT CHRONICLE

ゲッターロボ大全

GETTER ROBOT CHRONICLE

岩佐陽一 編

双葉社

『ゲッターロボ』
『ゲッターロボG』
『ゲッターロボ號』

プロローグ「過去よりの挑戦」

カラー原画大全

以下8ページに渡って掲載するカラーイラストは、『ゲッターロボ』『ゲッターロボG』『ゲッターロボ號』をモチーフに、原作者のひとりである石川賢が描き下ろしたものである。一部、行方不明のものを除いて現存するものはここにすべて掲載した。石川賢の筆と情熱が紡ぐ華麗なる「GETTER WORLD」を堪能して頂ければ幸いである。

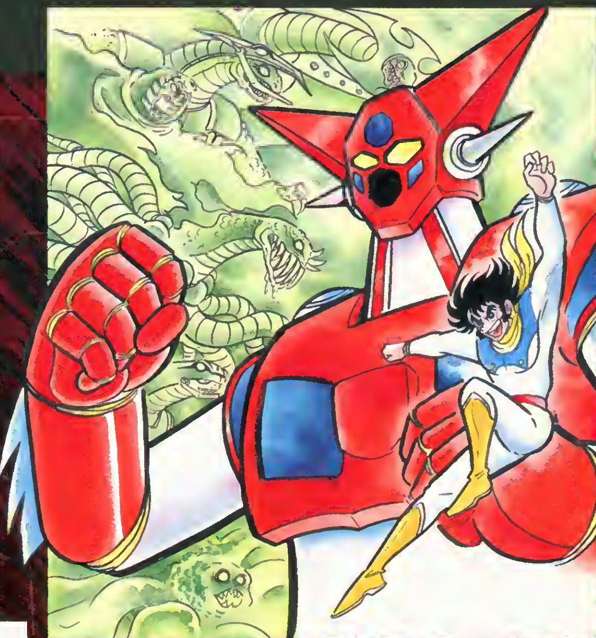
THE ARTWORKS OF KEN ISHIKAWA



すべてはここから始まった……！　記念すべき『週刊少年サンデー』連載第1回目の扉を飾ったのがこのイラストだ。リョウのコスチュームや、ムサシの顔etc。多分にパイロット的雰囲気をかもし出している。極めつけはなぜか"サッカーボール"を人指し指に立てたハヤトだろう。



「てんとう虫コミックス」表紙カバー絵



「てんとう虫コミックス」(小学館) 第3巻カバー絵



「サンデーコミックス」(秋田書店) 第1巻カバー絵



「てんとう虫コミックス」第2巻カバー絵



「てんとう虫コミックス」裏表紙カバー絵

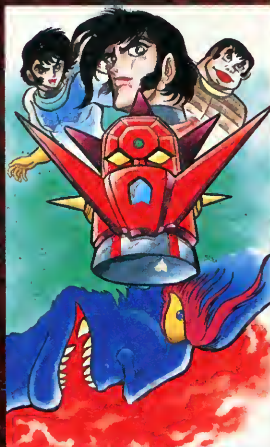


「サンデーコミックス」第3巻カバー絵



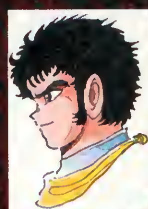
「てんとう虫コミックス」第2巻裏表紙絵

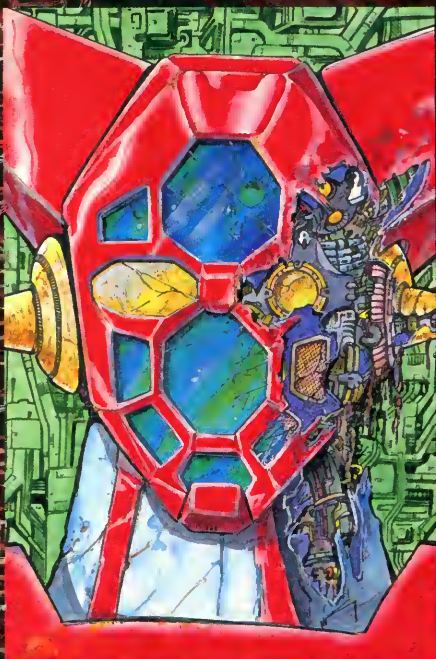




「サンデーコミックス」第2巻カバー絵







「スターコミックス（旧版）」（大都社）第1巻カバー絵



「スターコミックス（旧版）」第2巻カバー絵





「スターコミックス（旧版）」第4巻カバー絵

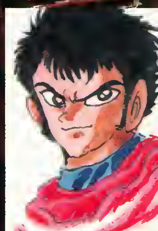


「スターコミックス（旧版）」第5巻カバー絵



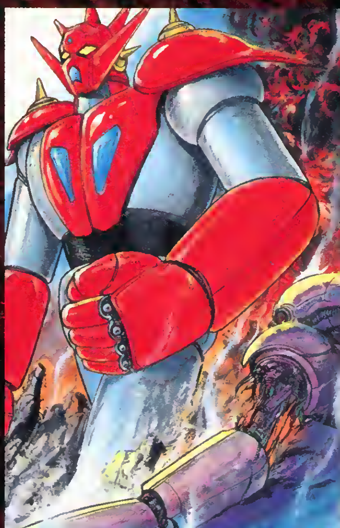
「スターコミックス（旧版）」第3巻カバー絵







「スターコミックス（新版）」第1巻カバー絵



「スターコミックス（新版）」第2巻カバー絵

THE ART WORKS OF K


「スターコミックス（新版）」第3巻カバー絵


『ゲッターロボ號』「スターコミックス」第1巻カバー絵


『ゲッターロボ號』「スターコミックス」第3巻カバー絵


『ゲッターロボ號』「スターコミックス」第2巻カバー絵


『ゲッターロボ號』「スターコミックス」第4巻カバー絵



『ゲッターロボ號』「少年キャプテンコミックス」第4巻カバー絵



『ゲッターロボ號』「少年キャプテンコミックス」第2巻カバー絵



『ゲッターロボ號』「少年キャプテンコミックス」(徳間書店) 第1巻カバー絵



『ゲッターロボ號』「少年キャプテンコミックス」第3巻カバー絵



『ゲッターロボ號』「少年キャプテンコミックス」第6巻カバー絵

THE ARTWORKS OF KEN ISHIKAWA



『ゲッターロボ號』「少年キャプテンコミックス」第3巻裏表紙絵



『ゲッターロボ號』「月刊少年キャプテン」91年2月号表紙用イラスト



『ゲッターロボ號』「月刊少年キャプテン」91年4月号表紙用イラスト



『ゲッターロボ大決戦』「スターコミックス」(大都社) カバー絵



『ゲッターロボ』「LD-BOX」(東映ビデオ) Vol.1 1巻ジャケット絵



『ゲッターロボ』「LD-BOX」Vol.2 1巻ジャケット絵



『ゲッターロボ』「LD-BOX」Vol. 3 発売時
店頭配布用ポスター・イラスト



『ゲッターロボ』「LD-BOX」Vol. 2 発売時
店頭配布用ポスター・イラスト



『ゲッターロボ』「LD-BOX」（東映ビデオ）Vol.2
4巻ジャケット絵



『ゲッターロボ』「LD-BOX」（東映ビデオ）Vol. 1発売時 店頭配布用ポスター・イラスト

THE ART WORKS OF KEN

GETTER ROBOT

本著は74年４月４日よりフジテレビ系列にてオンエアされた ゲッターロボ 、翌75年５月15日よりその続編として放送された ゲッターロボG そして 16年を経て製作され、91年２月11日よりテレビ東京系に放送局を移動してのスタートとなった ゲッターロボ號 の３作品を統括する意図のもとに刊行されたものである その誕生背景をはじめ、アニメ作品はもちろん原作、アイテムに至るまで ゲッターロボ というキーワードが誘引する要素のほとんどを集約したつもりである。これからの232ページ、「ゲッターロボ」を愛するあなたの目はあなたの体を離れて「GETTER WORLD」へと入っていくのである



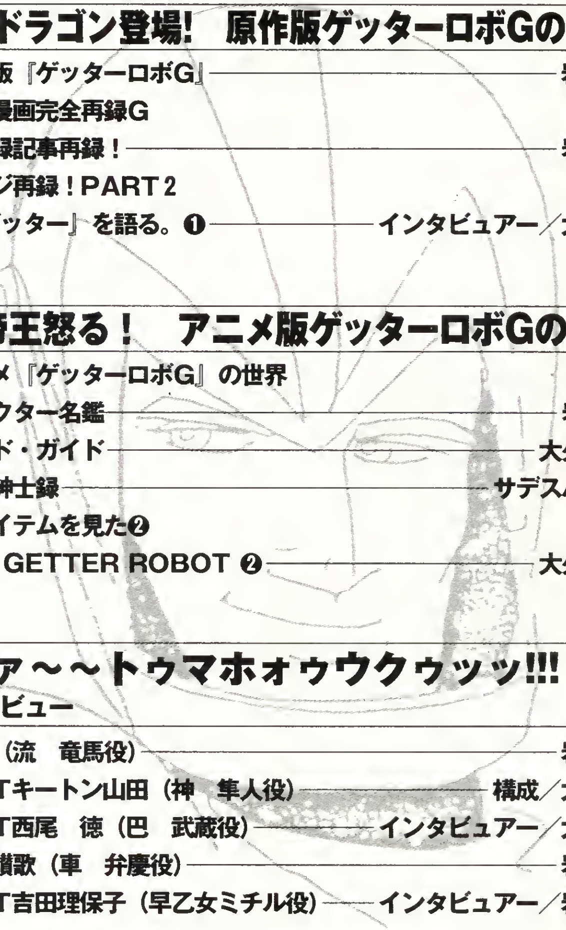
ゲッターロボ大全

GETTER ROBOT CHRONICLE

GETTER ROBOT CHRONICLE

ゲッターロボ大全

CONTENTS



GETTER ROBOT



プロローグ　過去よりの挑戦

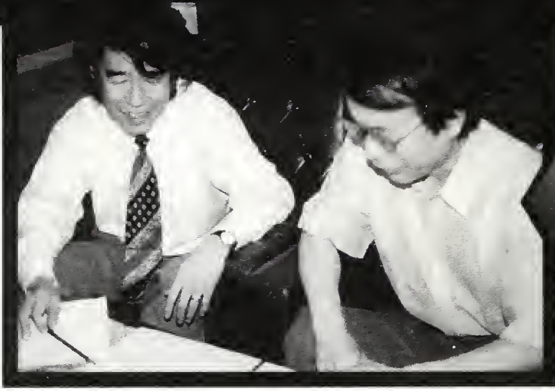
スタッフインタビュー

対談：永井隆×団龍彦

『ゲッターロボ』企画者

永井「本当はリョウを殺したかったんです」
団「ゲッター1の顔は亀甲もようですね」

進行・構成／大和　光





――まずは全国『ゲッター1』ファン共通の疑問からズバリ！お聞きします。「ゲッターロボ」の〝ゲッター〟の語源は？

永井 〝ポイント・ゲッター〟のゲッターです。本当にそれから採りました。

団 だから敵の親玉が〝ゴール〟なんです。

――な、なるほど！

団 でも、それよりなによりゴロ合わせの妙ですね。

――そうだったんですか？　それでリョウはサッカー部のエースになったんですね。でも、原作では空手使いになってましたが……ひょっとして石川先生はそのことを……？

永井 この間、聞いたら「いままで知らなかった」って言ってました（微笑）。

――石川先生らしいですね（微笑）。それでは、具体的な企画の発端をお聞かせ下さい。

永井 そもそもの企画の発端は、東映動画の有賀さんから「3人が合体してひとつのロボットにならないか？」という、新しい企画の相談を受けたのが始まりです。有賀さんの中には〝3人のサイボーグが合体して1台の巨大ロボットになる〟っていうイメージがあったようです。当時、『仮面ライダー』（71年）がヒットして実写の〝変身ヒーローもの〟のブームが巻き起こって、次にうちの『マジンガーZ』（72年）で〝ロボットもの〟がきて……第三の〝〇〇もの〟を模索している状況があったんです。「じゃあ、次にくるのは何かな？」っていう。そこで、「ロボット」が「変身」するっていう、〝変形・合体〟の発想が生まれたんです。その後、具体的になってきた時に、今度は「レースマシーンが合体する」っていうアイディアが出てきました。そのレースマシーンをより攻撃的なイメージにしたのが「ゲットマシン」だったんです。そのころにはもう、勝田（稔男）さんが東映動画サイドのプロデューサーを担





初期設定『チェンジ・ロボット　ゲッター3』時の、竜馬（竜之介）が変形ならぬ“変身”するゲッター3。逆3角形のフォルムが美しいゲッター1のデザインコンセプトは、すでにこの時点で提示されていた。なお、石川氏の描く原作漫画で“ゲッターウィングがしなる”のは、この初期イメージによるものと思われる

当することに決まっていて、たしか勝田さんの注文だったと思います。

団　それと同時期に、ポピー（現・バンダイ）の杉浦さんが、「ジャンボマシンダー」がひとつでこんなに売れたんだから、ひとつの番組で3体出せばもっと売れるみたいなニュアンスで、「複数のロボットを登場させてほしい」って注文してきたんです。

永井　「俺たち設計屋じゃないからな」って言いながら、それでも楽しく創っていったのを覚えてますよ。

――デザイン関係は豪先生と石川先生で進められていったんですよね。

永井　基本的には石川先生です。ただ、あの人が描くとどうしても顔が悪役になっちゃうんですよね（微笑）。

――そういえば『バトルホーク』（76年）なんかも悪役っぽかったですね。

団　あれは悪役だったんです（微笑）。

――えッ!?

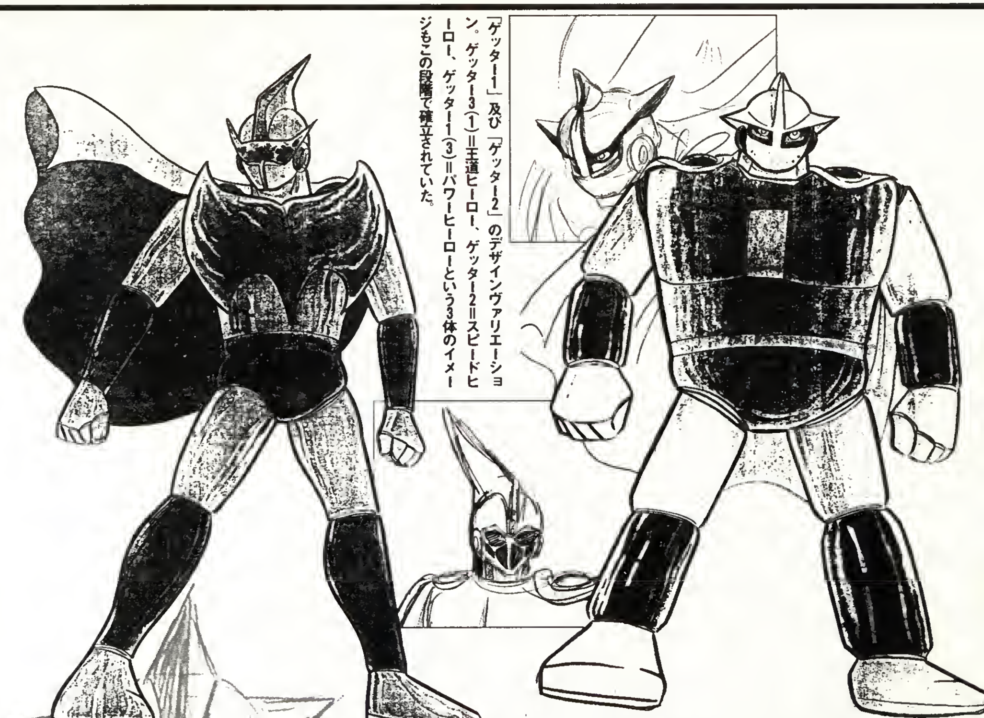
団　なにかの番組の悪役を、1回こっきりのヤラレ役じゃもったいないからと思って、とっておいたものだったんです。

――そうだったんですか！　いやはや……それではゲッター1の顔は……？

永井　あれは顔だけ豪先生です。「どうしよう」って石川先生が悩んでたんで、豪先生が創ったんです。

――従来にない画期的なデザインですが、モチーフはいったい？

団　亀の甲羅……“亀甲もよう”ですね。マジンガーが人間の顔をしてるから、



「ゲッター1」及び「ゲッター2」のデザインヴァリエーション。ゲッター3(1)=王道ヒーロー、ゲッター2=スピードヒーロー、ゲッター1(3)=パワーヒーローという3体のイメージもこの段階で確立されていた。

なにか変化をつけたいと思ってああなったみたいですね。

永井 あと、ゲッター2も基本デザインは豪先生です。石川先生が悩んでる横でさらさらっと描いちゃったみたいですね。

——それでは、設定はどのように創られていったのでしょう?

永井 基本的には、絵を見ながら決めていきました。描いてもらった絵を見て創っていくという。石川先生にしても豪先生にしても、〝西部劇世代〟ですからね。キャラクターはウェスタンもののイメージで創っていきました。そこへ泰宇先生が入って、ストーリーラインをかためていったんです。

——敵のモチーフが〝恐竜〟というのは?

団 豪先生と石川先生が幾つか描いた敵側のラフスケッチの中に、恐竜とメカを合体させたキャラクターがあったんです。それが目にとまって、みんなで「これいいね」ってことになって。

——企画が決まったのはいつぐらいだったんですか?

永井 12月の末頃から始めて……もう正月は返上でしたから(微笑)。2日か3日には出来てましたね。その頃には『ドロロンえん魔くん』の後枠ということで4月のスタートも決まってましたんで、時間は全然なかったですね。

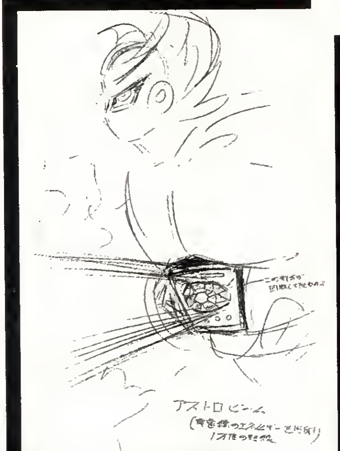
——3機合体というデザインは前例がまったくなかったわけですが、どのように創られていったのでしょう?

永井 最初に出来たのがゲッター1のデザインですね。これからマシーンを創って、組み合わせてこれを頭にすると、どうなるか?——メインの操縦者が替わる——なんのために? なぜ3体必要なのか?——陸・海・空のロボット……そんな感じで創っていきました。あとは、それぞれのシルエットに変化を持たせようっていうことになって……たとえば、〝ゲッター3はムサシのイメー

3大ゲッターの武器＆必殺技案。ゲッタービームの原形としての「アストロビーム」、ゲッターミサイルの原形としての「アストロング砲」が設定されている。「マントが変化して……」という2のブーメランに、後のフレキシブル変形の基盤を見い出すことができる……といっても、それ以前に〝変身してロボットになる〟こと自体がすでにフレキシブルだが……











ジで〝っていう具合に、操縦するキャラクターのシルエットに合わせてロボットのデザインを合わせていきました。

――そこへ、勝田さんやフジテレビの別所（孝治）さんの意見も加わってくるわけですね。

永井　そうです。そうそう、別所さんといえば〝ゲッタークイーン〟ていたじゃないですか。『マジンガーZ』（72年）のミネルバXみたいなキャラクター。あれは別所さんのアイディアなんですよ。別所さんがえらく「ミネルバX」を気に入られていたもんですから、「『ゲッター』にも出してほしい」って言われて（微笑）。

――そうだったんですか。『週刊少年サンデー』（小学館）での連載はどういった経緯で？

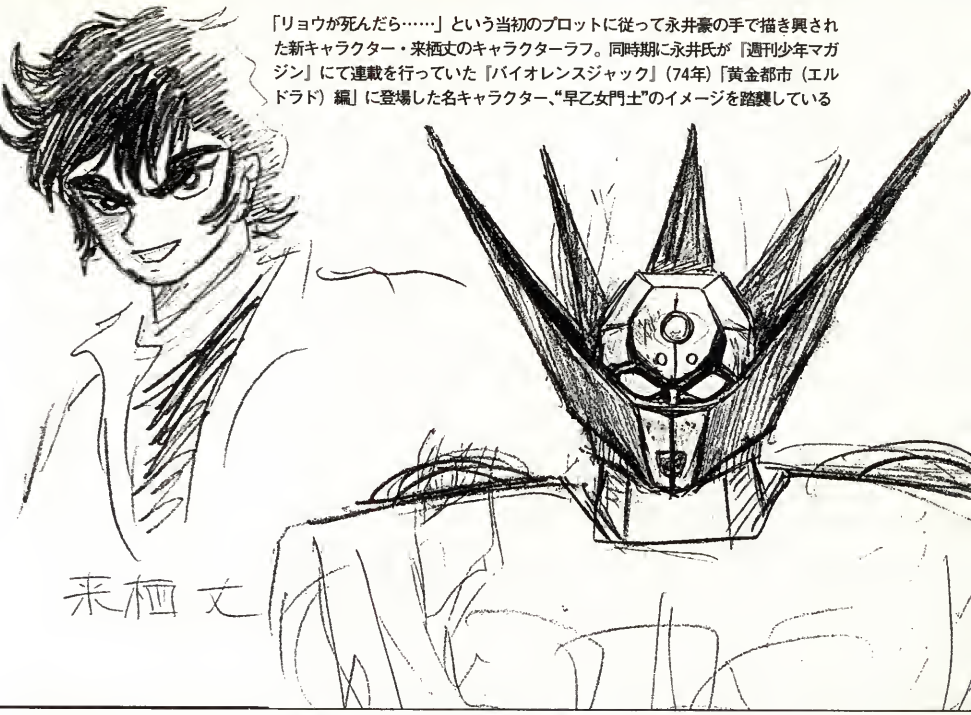
永井　日曜の夜7時の枠、つまり『マジンガー』シリーズの掲載権が講談社さんだったんで、木曜日の枠は小学館さんでいきたかったんですよ。

　というのは、ちょうどその頃豪先生が『ドロロンえん魔くん』を連載していましたから。『ゲッターロボ』自体のテレビアニメの放送枠も『えん魔くん』の後に決まりましたしね。石川先生も同時期に円谷プロの実写もの『ウルトラマンT（タロウ）』の漫画を連載していましたからつながりはあったんです。だから、もともと〝縁〟はあったんですよ。そんな次第で、12月に決定した段階ですぐ小学館に持ちこんだら、決断が早くてすぐに連載が決まりました。

団　あそこは「学年誌」があるじゃないですか。だから学年誌に載せるキャラクターがほしかったみたいですね。当時、小学館さんは『マジンガーZ』的なものをほしがっていましたから。

――漫画のほうはもう石川先生まかせで？

永井　そうですね。4月放映で決定が12月。しかも「ダイナミック企画」といっても当時は僕と団の二人しかいない。だから、完全に石川先生にまかせっきりでしたね。



「リョウが死んだら……」という当初のプロットに従って永井豪の手で描き興された新キャラクター・来栖丈のキャラクターラフ。同時期に永井氏が『週刊少年マガジン』にて連載を行っていた『バイオレンスジャック』（74年）「黄金都市（エルドラド）編」に登場した名キャラクター、"早乙女門土"のイメージを踏襲している

団　でも、漫画は好きなように描かなきゃ絶対、面白くならないと思いますね。

——アニメのスタッフとは意見調整のようなことはなさっていたんですか？

永井　お互い強制はしないでいこうっていうことにはなりました。逆に、お互いウマく使えるものは使い合おうと。ただ、双方で使えるものはあまりありませんでしたけどね。

——特にそのための会議のようなものは行われていたんでしょうか？

永井　試写を録音スタジオのタバックでやっていたんですが、それが終わった後で、みんなで簡単に意見を出し合ったくらいですかね。

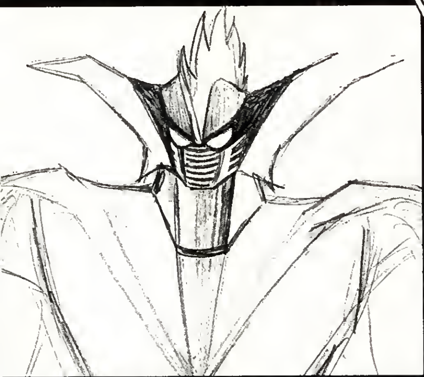
団　その回の反省点もふくめて討議してました。それくらいで、あとは特にそのためのものは用意されていませんでしたね。

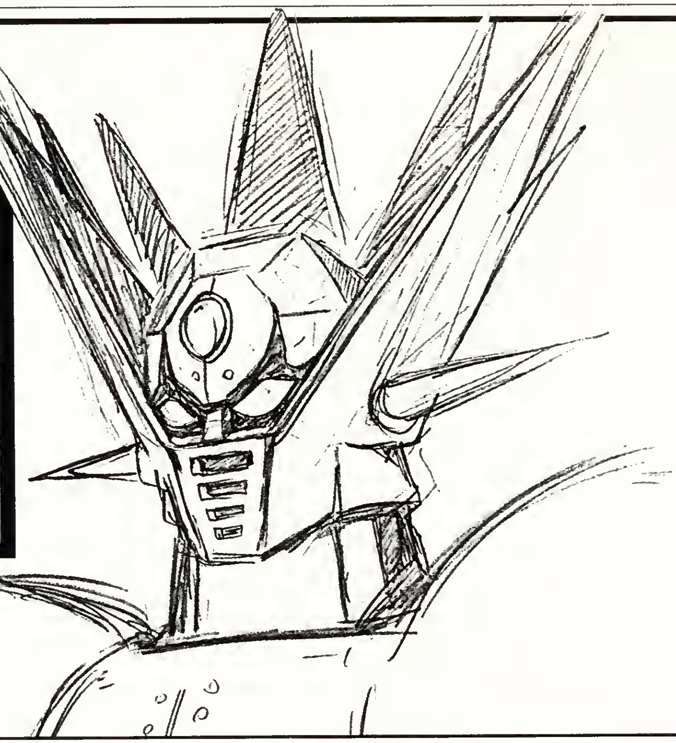
——『ゲッターロボ』から『G』に移る時点で、「リョウを殺そう」というアイディアが出たというのは本当でしょうか？

永井　ええ。テレビアニメだとリョウのキャラクターがおとなしかったじゃないですか。ちょっと優等生っぽいし。だから「最後の最後に殺しちゃおう！」ってことになったんです。なにか作品を創る時って、いままでやってないことをやらなければ意味がないじゃないですか？　人間、けっこう「自分の親は死なない」みたいに思ってるところがありますよね。でも、実際にはそんなことはないんで、「主役が死んだっておかしくないだろう……」と。まァ、『マジンガーZ』で〝もの〟をぶっ壊すのはやっちゃったんで、今度は人を……っていうのもありましたけど（微笑）。けっきょく、テレビ局側の意向として「主人公が死ぬのはよくない」ということになって、ムサシが死ぬことになっちゃいましたけどね（微笑）。

団　アニメの現場のほうでは、ハヤトが気に入られていたみたいですね。ハヤ

石川氏による新ゲッタードラゴンのイメージラフ数点。ご本人いわく「わりと簡単に描けた」とのお言葉どおり、最初から「怒髪天を突く」的、"角いっぱい"のイメージで描かれているのがようくわかる





トが主役のエピソードは特に力が入っていた気がします。

――具体的に『G』への放送延長が決まったのはいつごろでしょうか?

団 放送中の秋くらいでしたから、74年の11月か12月くらいでしょうね。基本的にはスポンサーサイドからのリクエストですね。敵を総とっかえして、主人公を変えるわけにはいかないから、ロボット3体のデザインを変えて……。

永井 "赤"とか"グリーン"って、まぁ、ゲッター1はウマくいったと思うんですけど、この手のデザインって一歩間違っちゃうともの凄いカラーリングになっちゃうものなんですよ。それに、ゲッター1って顔らしい顔じゃないじゃないですか。

――"亀甲もよう"ですしね。

永井 だから、「G」は意識して変えていきました。龍のイメージで"ドラゴン"とか。ライオンとタイガーで"ライガー"とか……そうすると"ポセイドン"が困っちゃうんだけど(微笑)。

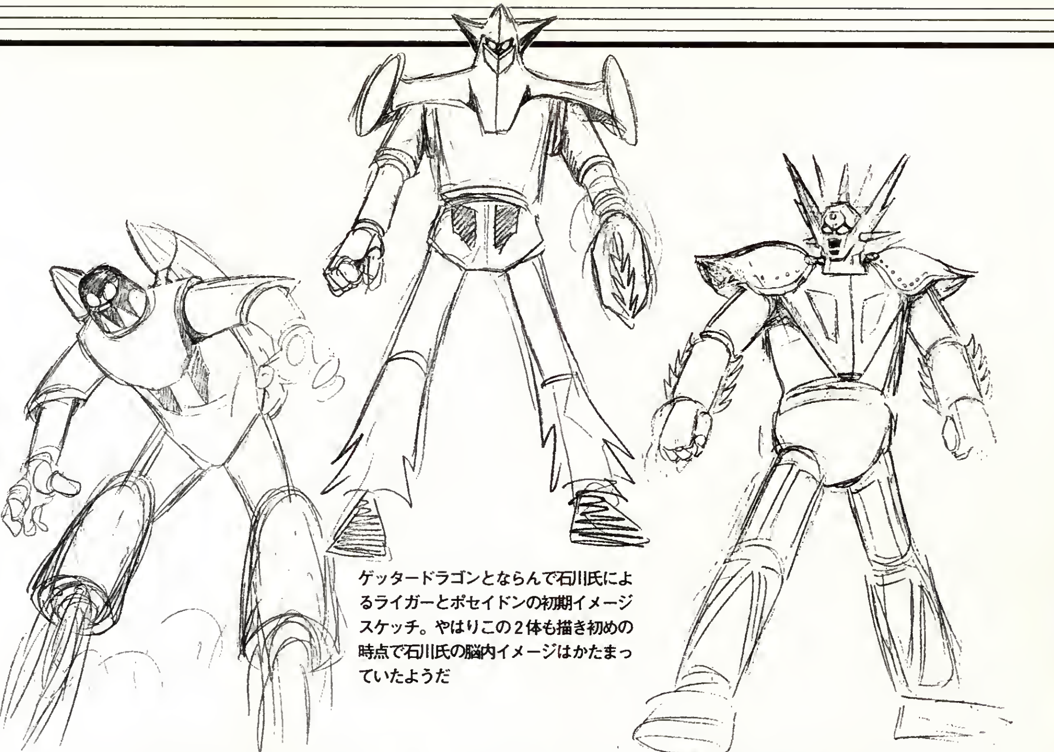
――デザインはやはり石川先生が?

永井 ほとんど石川先生がひとりでやってます。敵のデザインもふくめてね。

団 最初に「ゲッタードラゴン」のデザインを創って、それをベースに「ライガー」と「ポセイドン」のデザインを組み立てていきました。基本的には、最初のゲッターと同じです。ただ、全体的に前よりもう少しシャープに見えるよう心懸けました。

永井 だいたい石川先生のデザインは尖りが多いんだよね(微笑)。

団 最初のデザイン画では、ドラゴンの角は尖ってたんですよ。それが、スポンサーからのリクエストで鋭角をなくしたんです。「オモチャになった時に危



ゲッタードラゴンとならんで石川氏によるライガーとポセイドンの初期イメージスケッチ。やはりこの2体も描き初めの時点で石川氏の脳内イメージはかたまっていたようだ

ないから」って。

――そうだったんですか。さて、途中で原作の掲載誌が『少年サンデー』から秋田書店の『冒険王』（75年）に移っていますが、これはどういった経緯で？

永井　「学年誌を活かす」ってことだったと思うんですけどね。やっぱりこのころから、テレビの視聴者と週刊の漫画雑誌を読んでいる読者層に開きが出始めてきたんですよ。だから、もう役目は終わったということで『少年サンデー』を終了して、「学年誌」のほうは引き続き連載して頂きました。

団　そこで秋田書店さんからお声がかかったんだと思います。

――いよいよ最後に『ゲッターロボ號』について伺います。こちらの企画はどこから？

永井　スポンサーさんのほうから「なにかロボットものをやりたい」ってお声をかけて頂きまして……「じゃあうちですぐ出来そうなものを」って考えたら……『ゲッターロボ』だったんですよ。たとえば『マジンガーZ』をまた始めようとすると「旭通信社」さんという広告代理店をはじめとする関連各社に了承を得たり、根回しが大変なんですよ。だけど、『ゲッターロボ』はそういった関連会社が少なかったんです。そういう状況もあって、比較的スムーズにことが運びました。

団　ユタカの社長さんもノッてくれましたしね。「『ゲッターロボ』をやるなら、ぜひ今度は玩具でも3体合体を実現させたい！」っておっしゃって張り切って下さって。

永井　ただ、こちらが思ったほどうまくはいきませんでしたね。まァ製作費とかの問題もあったんだろうけど。でも、現場のスタッフは非常によくやってくれたと思いますよ。

――『月刊少年キャプテン』（徳間書店、現在休刊）に連載が決まったいきさ

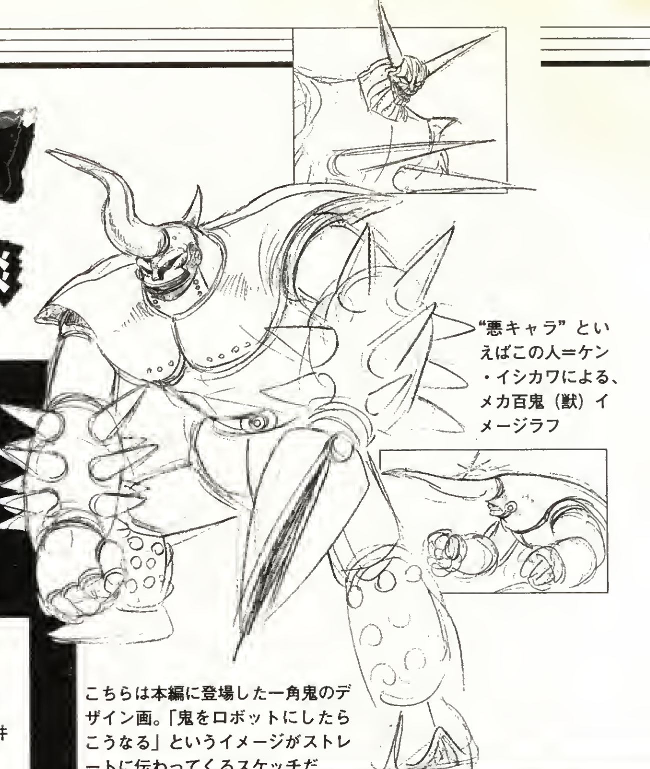
永井隆×団龍彦 対談



ながい・たかし：48年6月25日生。石川県出身。永井豪氏の実弟。高校時代より永井豪氏の仕事を手伝い、ダイナミックプロダクションの設立に参加。74年、ダイナミック企画を設立。団氏とともに、本作をはじめ『バトルホーク』（76年）などの幾多のテレビ企画を手懸ける。90年、株式会社ダイナミックプロダクション社長に就任。現在、ダイナミック企画株式会社社長兼任。



だん・たつひこ：本名・菊地忠昭。48年1月26日生。福島県出身。72年4月、ダイナミックプロダクション入社。永井隆氏とともに新たにダイナミック企画を設立。本作をはじめ『プロレスの星　アステカイザー』（76年）などの幾多のテレビ企画を手懸ける。85年4月、『ゴッドマジンガー』（角川書店刊）で小説家デビュー。近著に『マジンガー対ゲッター』（講談社）がある



"悪キャラ"といえばこの人＝ケン・イシカワによる、メカ百鬼（獣）イメージラフ

こちらは本編に登場した一角鬼のデザイン画。「鬼をロボットにしたらこうなる」というイメージがストレートに伝わってくるスケッチだ

つは？

永井　編集部のほうで「前から『ゲッターロボ』をやりたい！」と言われてはいたんです。ちょうど『スカルキラー　邪鬼王』（91年）を連載していた頃なんですが、「次はぜひ『ゲッターロボ』を！」って言われまして……そこで「今度テレビ化が決まりました」ってご報告をしたら1も2もなく「うちでやらせて下さい！」っておっしゃって下さったんで、けっこうスムーズに決まりましたね。

一応、前の縁で小学館さんにも声はおかけしていたんですけど、『週刊少年サンデー』での連載は無理だったみたいです。

——そうだったんですか。ただ、そのほうが合っていた気はしましたけどね。それでは……お二人とも本日はお忙しいところをありがとうございました。

（98年5月27日　於　東京・高田馬場）

幻の『チェンジ・ロボットゲッター3』

企画書再録

ここに掲載するのはテレビアニメ『ゲッターロボ』のベースとなった『チェンジ・ロボット　ゲッター3』の企画書及び、原作者・永井豪によるキャラクターのラフスケッチである。当時、発足したばかりのダイナミック企画が東映動画に提出した、『ゲッターロボ』に関する最初の企画書であることを鑑み、その時の状況を誌面にて再現してみたつもりだ。「合体」「変身（形）」といった『ゲッター』に絶対必要不可欠な要素がこの時点ですでに確立していたことがわかる。『ゲッター』黎明期の雰囲気を少しでも間近に感じて頂ければ幸いである。

新番組企画案
チェンジ・ロボット　ゲッター3

○ゲッター3とは……

これまでにない、全くユニークな、チェンジ・ロボットである。チェンジ・ロボット――それは、3人のサイボーグ少年が、ゲットマシンを駆って、空中でピラミッド合体をすることによって、スーパーロボットに変身するのだ。

そのピラミッド合体のバリエーション（3人の誰がピラミッドの頂点になるか）によって、それぞれ外形、戦力の異るゲッター1、ゲッター2、ゲッター3の三機のロボットにチェンジするのである。

○3人のサイボーグ少年の秘密は……

リュー（流竜之介）ハヤト（犬神隼人）ムサシ（巴武蔵）は、中学生。それぞれ、ジャンプ競技、ラグビー、柔道のチャンピオンである。ある日、彼らが尊敬する体操教師、早乙女達人が、謎の失踪をとげたことから、達人が実は、父の早乙女博士によって、サイボーグ化されていたことを知る。博士は、地底魔王ゴールの人類攻撃を予知し、それに対抗するために、達人を敢てサイボーグ化したことを語る。サイボーグ達人は、おそらく地底魔王の手で拉致されたのであろう。

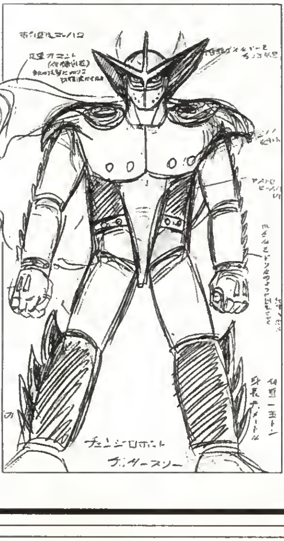
3人の少年は、博士に志願して、自らをサイボーグ化し、地球の危機に立ち上がる。

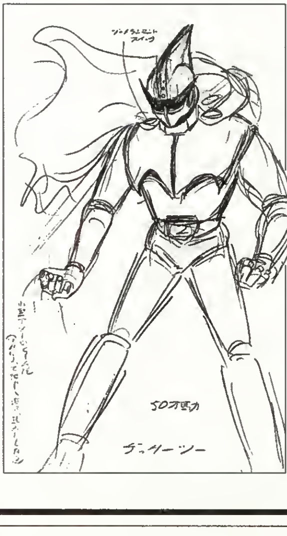
○早乙女博士の大計画は……

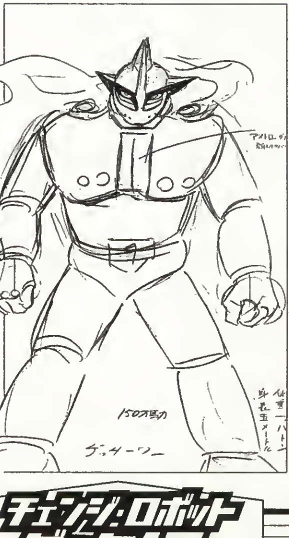
サイボーグ達人の失敗を反省した博士は、サイボーグをより強力なロボットに転換することを考えた。即ち3人のサイボーグ少年を合体させてスーパー・ロボットに変身させる。

主役メカ

ロボットというよりは「ヒーロー」的イメージが強い。ゲッター1、2、3という名称は同じ。ただし、キャラクター的に完成作品とは1と3が入れ替わっている





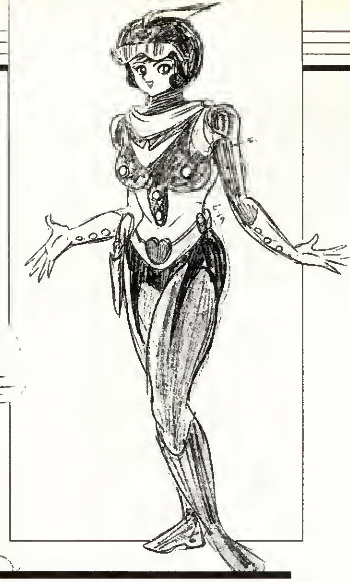


チェンジ・ロボット
ゲッター3

主人公たち

本邦初公開……かどうかは定かでないが、永井豪御大の筆による流竜之介（竜馬）、犬神隼人、巴武蔵、そして早乙女ミチル。特にミチルのカワユさは筆舌に尽くし難いので思わず大きく載せてしまいました。悪しからず





主役マシン



地底戦車のようなゲットマシン。この後、「レーシングカー」を経て「ジェットマシン」へと進化をとげる

サブキャラクター



おそらく、竜馬たちの同級生として描かれたであろうキャラクターたち。牛乳瓶底メガネの人は担任の先生？それとも……早乙女（自主規制）

敵キャラクター



地底大王ゴールと、その部下のイメージ・ラフ。ハ虫類のモチーフはまだ確定していないようだ。手下の昆虫兵士がそこはかとないラブリーさをかもし出している



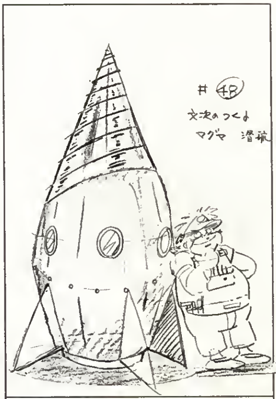
ゲッターロボ ●強化策案●

ここに掲載するのは『ゲッターロボ』2クール以降の番組強化案を記したメモである。実際の映像作品も、ほぼこのメモどおりに展開されていることがわかる。そういった意味では実に貴重な資料といえよう。しかしながら実際のところ、大魔人ユラーや大枯文次の登場が番組の強化につながったとは客観的に見てとうてい思えないのだが……。

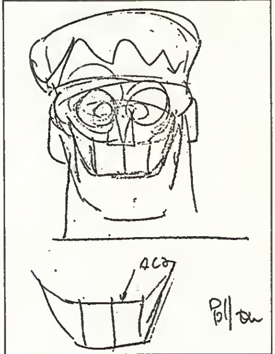
番組強化の為の新設定

A．ゲッターロボは、企画書の設定通り、早乙女研究所のゲッター計画開発と、地上征服の野望を抱く恐竜帝国との対立関係をテーマとしてスタートしましたが、もっとスケールの大きさを加える為に、早乙女研究所側にゲッター線エネルギーの平和利用開発を具体化させ、恐竜側にも管理機構と各部門を明確にすることにより、現実感とドラマ性の充実を強化することが出来ます。

B．シリーズの主人公であるリョウ、ハヤト、ムサシが、各々異なった性格でありながら、心をひとつにして行動することで、ゲッターロボ、1、2、3の合体が可能となり、アニメーションならでは表現出来ないアクションを中心にして、毎話新登場する恐竜側メカザウルスとの戦斗アクションをスペクタクルに見せて来ましたが、ゲッター1、2、3の魅力を更に強化させる為に、そのゲッターロボの内部構造メカニズムの明確化と操縦者達の内部行動を加えることで、より現実感を煽ることが出来ます。これは恐竜メカザウルスにも同時に云えることです。



C．登場キャラクターは、ゲッター側は、リョウ、ハヤト、ムサシの主人公の人間ドラマを中心に、早乙女博士、ミチル、元気と母の和子のファミリーを含めたホームドラマの挿入によって親近感を計り、それに笑いの要素として、明朗闊達なムサシと元気との喜劇的な動きに、ジョーホーという珍キャラクターをムサシの後輩として参加させギャグメーカーの役割を持たせて来ましたが、今後、大枯紋次と浅太郎ロボットを新しく登場させて、爆笑的要素を増加させることが出来ます。
恐竜側としても、現在までの組織を明確にすると共に、スケールの大きさを表現する為に、新キャラクターとして大魔人ユラーを登場させて、恐竜帝国の目的意識の明確化とドラマの発展性を図ることが出来ます。



D．このように強化することで、現在以上に、ゲッターロボの個性的なスタイリングと多様化されたファイトテクニックをポイントとして、重大使命を担ったスリリングな戦いと、憎しみと苦しみと笑いで盛り上る人間ドラマを肉付けすることが出来ます。

E．新キャラクター並びに設定組織図

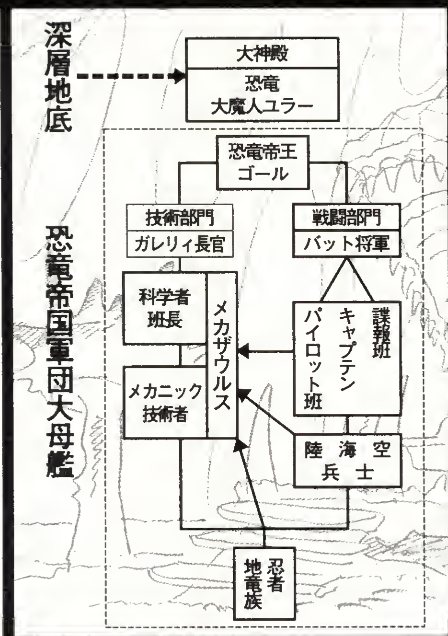
☆大魔人ユラー
　地球の地底深層部の神殿に住み、恐竜帝国の始祖神的存在で、大予言者でもある。帝王ゴールさえふるえ上がる暗黒の大魔神。当分の間はシルエット表現で登場する。

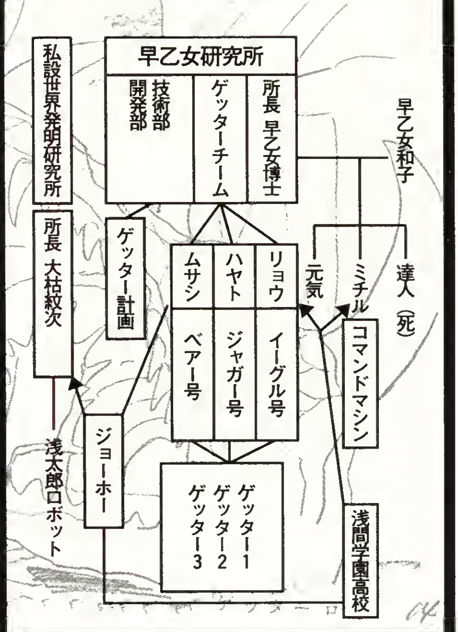
☆大枯紋次（年令20～23才位）
　私設世界発明研究所の所長。（自称、天才発明家）国定忠治の子孫で、忠治を尊敬している。無類の発明狂で、トンチンカンでコッケイで、奇想天外な発明が得意である。早乙女研究所から発進するゲットマシンの航路直下に住み、騒音公害で、ゲットマシンを目の敵にしている。だが、ミチルに対しては、自分の嫁になる女性だと思い憧れる。
三枚目のアウトロー。



☆浅太郎ロボ
紋次が作った変なロボット。（等身大）色々なアタッチメントを持ち、空も飛べるベンリな構造。
セリフも喋り、人間的な扱いをします。

☆世界発明研究所
早乙女研究所の真向かい。浅間山麓に建てられた外見は簡易プレハブ住宅様式の建物。非常につぶれ易いが、すぐ立上がるショックアブソーバーがつけられている。内部は割と古風で稚拙な作業場となっているが、笑いの要素が多い。ジョーホーがよく出入りする。





製作メモ

以下に掲載するのは『ゲッターロボG』製作上のポイントとしてスタッフ間に配られたメモである。スタッフがどの点にポイントをしぼって作品製作にのぞんでいたかがわかる貴重な資料だ。

①演出（設定構成）
②作画、美術、仕上（製作、宣伝）
③　早乙女研究所　VS　百鬼帝国
（クリーンエネルギー）　←　（公害エネルギー）
（悪の撲滅・正義の味方）　→　（人間の奴隷化）
（人間関係の明確化）　＝　（科学力と帝国主義）
↓　↓
☆ドラマ構成の押し、　性格明確
☆ゲストキャラの明確化
☆ゲッター増幅炉の説明　←　子供達のために
←　素晴らしい利用価値

美術	演出・作画	仕上	
キャラ（ゲスト含む）	色指定	性格の統一	影処理
メカニズム	研究所、要塞島、操縦席の統一		カット処理
スタイルパターン		合体、空中戦	統一
武器		統一	特効
場所	設定、早乙女家		

勝田稔男INTERVIEW

「ハヤトが自分の分身のように思えて……」

『ゲッターロボ』プロデューサー

インタビュアー／大久保一光

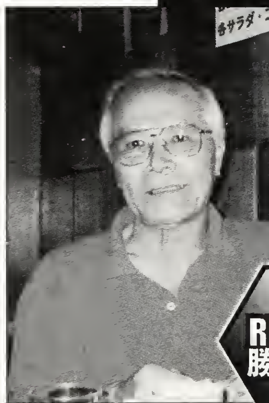
──まず、『ゲッターロボ』に関わることになった経緯を教えて頂けますか。

勝田　ぼくの場合、『キューティーハニー』(73年)を手懸けていたことが『ゲッターロボ』に関わるきっかけになりましたね。実は、ぼくは永井豪さんとは郷里が同じでして。『ハニー』で知り合ってから、わりと親しいおつき合いをしていたんです。それで『ゲッターロボ』のときにも声をかけてもらって、企画から参加することになったんです。

──"縁"があったんですね。企画中の様子などは、いかがでしたか？

勝田　先にメイン・スタッフを決めてから立ちあげることになりまして。それで、演出の勝間田さん、作画の小松原さん、美術の辻さんも引っぱりだしてね。で、みんなでアイディアをだしあって、原案を膨らませていったんです。それで紆余曲折があって、とりあえず3台のマシンがなんとか3種類に合体するぞ、というところまでこぎつけたんですよ(笑)。

──キャラクターはどうだったんでしょうか？



RESPECT 勝田稔男

勝田　ぼくはね、むしろ「主人公が3人いる」というところに魅力を感じたんですよ。毛利元就の3本の矢のように、ふつうの高校生である3人が個性を発揮し、協力して戦っていくというのは面白いんじゃないかと。ただ、最初は3人ともバラバラで、戦いの最中に言い争うくらいでもいいんじゃないかと思って、脚本の上原正三さんと話したら「それは面白い」と乗り気になってくれてね。そういった部分を強調していこうということになったんですよ。

──サブ・キャラクターも個性派がそろってましたが、モチーフや意図したところなどはあったのでしょうか？

勝田　早乙女博士はね、エリートでありながら、体制に縛られない奔放さを持っている博士にしたかったんです。高校生ぐらいのころって、謹厳実直な人間に反抗心を持ってしまうじゃないですか。だから、バンカラなキャラであればこそ、若者(リョウたち)がなついていけるんじゃないかと思ったんです。ミチルは完全にマドンナです。リョウたちが可愛い女の子の気を引こうと、しゃかりきになるようなシチュエーションもほしかったので必要不可欠なキャラでしたね。

──失礼ですが、高校時代の実体験が反映されているようにも思えますが？

勝田　(笑)かなり反映してますね。ハヤトなんか自分の分身のように思えて……、だから彼が一番好きですよ。

──やっぱりハヤトなんですね、スタッフの間でも人気が高い(笑)。敵キャラクターはどうでしょう？

勝田　恐竜帝国は描写が難しくて悩まされました。「未知の世界のハ虫類」という設定でしたから、感情ひとつをとってみてもなかなか理解できませんからね。その点、百鬼帝国のほうが人間に近かったので、キャラクター描写はやりやすかったですよ。だから、百人衆もハッキリ個性を持ったキャラクター創りができたように思いますね。

──それでは『G』のほうに話を移しまして。企画があがったのはいつ頃だったんでしょうか？

勝田　3クール終わったころかな。スポンサーから「グレードアップして続けてくれないか？」という

話がきたんです。それじゃあ、もっとスピード感とシャープなイメージを持たせようということになって、それまではわりと高年齢層を意識した創りをしていたんですが、あらためて低年齢層も意識した作品創りを心懸けました。それで、途中から大枯文次たちが登場してくるわけです。

――キャラクター交代に関しては？

勝田　最初は「リョウを殺そう」とか「3人とも死なせよう」とかいう案もでたんですが、ぼくが反対したんです。まったくの別物にしてはいけないだろう、と。それでけっきょく、縁の下の力持ちだったムサシにおハチが回ってしまったんですよ。でも予想以上に、彼のファンから怒られてしまいましてね（苦笑）、『ゲッター』はファンクラブがありましたから。

――お話を伺っていると、スタッフ間のディスカッションも活発だったように思えますが？

勝田　各セクションのチーフと集まって、よくアイディアをだしあったり、ディスカッションしましたよ。熱くなって、石川賢さんと口論したこともあったな（微笑）。でも、あのころはそれが当たり前のことだったんです。原作者もスタッフも、みんな熱意を持って作品にとりくんでいましたから。熱意がないと完成したフィルムが活きてこないんですよ。だから、自由にやらせてくれましたしね。

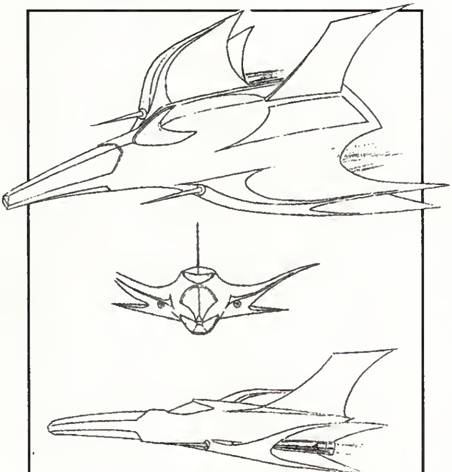
――最後に『ゲッターロボ』が終了したときの気持ちをお聞かせ下さい。

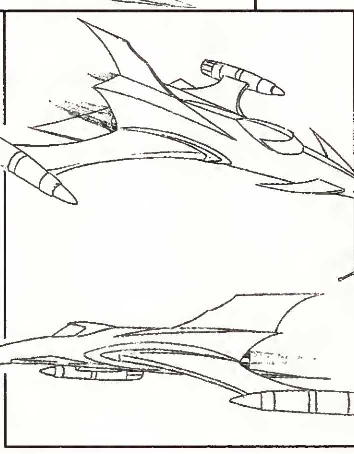
勝田　満足感がありましたね。あとは、勇気や友情。フィルムにこめられた我々のメッセージが、少しでも子供たちに届いてくれればいいなと思いました。

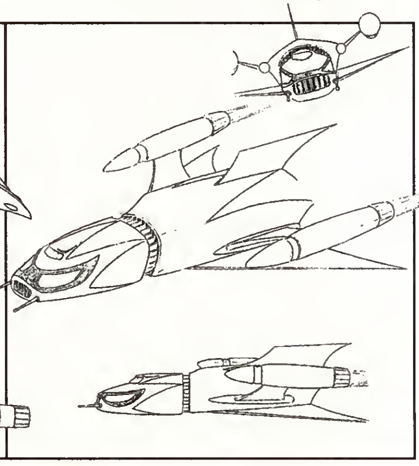
――それは、しっかり伝わっていると思います。本日はありがとうございました。

（98年8月8日　於　東京・練馬区喫茶店「花房」）

かつた・としお：31年1月5日生。石川県出身。58年に東映に入社。アニメーター、演出を経てプロデューサーとして活躍。代表作は『UFOロボ　グレンダイザー』（75年）、『SF西遊記スタージンガー』（78年）など枚挙に暇がない。







ここに掲載した3点はドラゴン、ライガー、ポセイドン号のNGデザイン。尖ったアンテナの形状が印象的。残念ながらライガー号のみ正面の設定が入手できませんでした。悪しからず

勝間田具治INTERVIEW

『ゲッターロボ』演出

「みんなでのびのびと創っていました」

インタビュアー／大久保一光

――はじめに『ゲッターロボ』に関わることになったいきさつを教えて頂けますか?

勝間田　当時、私は韓国のほうに行ってたんですよ。向こうで『魔法のマコちゃん』(70年)や『ドロロンえん魔くん』(73年)などを製作して、12月に日本に帰ってきたんです。すぐに豪さんのダイナミックプロに呼び出されましてね。「今度こういうのをやるから、第1話をやってくれませんか?」と持ちかけられたんです。それが『ゲッターロボ』だったんですよ。年末に休みなしでコンテを作成して、1月にパイロットがあがって、4月から放送スタート。第1話に入りました。

――なかなかハイペースな進行状況だったんですね。『ゲッターロボ』という作品に携わって、特に印象に残っていることはありますか?

勝間田　そうですね。合体して3種類のロボットになるという設定を、初めて知らされた時にビックリしたのが強く印象に残ってますね。「え? こんなことできるの。それってどうやって映像表現したらいいの!?」って(笑)。パイロットで、この課題をなんとか形にできたので、あとはいままでどおりのドラマ創りに徹することができたんですが。



――パイロットで、すでに合体パターンは完成していたというわけですか。

勝間田　フォーマットだけはできていました。あのころはあんまり(動画)枚数に対してうるさくなかったので、バンク(流用カット)に頼らず、その後で作画を担当したスタッフも考えたりして、合体や分離のカットにバリエーションが増えていったんです。「オレならこうやる!」という感じで競っていたのかもしれませんね。

――なるほど。ほかに演出で特に気を遣った点というのはありましたか。

勝間田　気を遣った……というのとはちょっと違いますけど、ローテーションで担当が決まっている現在とは違って、みんな(ほかの演出スタッフの方々)で話しあって自分の担当する回を決めてたんですよ。コメディタッチのがやりたいから「僕はこっちを」とか「じゃあ俺はシリアスな脚本を」とかね。

――当時の製作現場の雰囲気が伺えるエピソードですね。

勝間田　みんなでのびのびと創っていましたからね。あとはアングルには凝りましたね。「ここは片足をなめてまわりこんで」とか、かっこいいアングルを考えたりしてね。画面創りは、今のほうがレイアウトも絵もキレイなんだけれども、「流れの中の迫力」っていうのは、あのころのほうがあったように思えますね。ぼくのスタイルっていうのもあるかもしれないけど。

――勝間田さんは実写のほうの演出や絵コンテも経験されていたんですよね?

勝間田　そうです。だから、スタイルとしてカメラを振り回すような感じになっちゃうんですよ。空間と役者、その目線とファインダーの位置を頭に描いて、レイアウトやカット割りを組むんです。僕はそれが自然に身についていて、ごく当たり前のことだと思っていたんですけどね。でも、当時、関わっていた若いスタッフにはわかってもらえなくて、キャラがここにいてバックにこれがあって、ここにファ

インダーがきて次のカットでこっちに回りこむ、っていうのをスケッチや身ぶり手ぶりで伝えたりしてね（笑）。

――頭の中に空間を創造するというのも、なかなか難しいと思うんですが（笑）。話は戻りますが、勝間田さんご自身が気に入っていたキャラクターというのは誰でしょうか？

勝間田 ヒーローが3人いるっていうのも画期的でしたね。熱血漢のリーダーがいて、ニヒルなやつがいて、太ったコミカルなキャラがいて……っていうバランスも見事でしたし。後々の作品に与えた影響も大きかったし……うーん。ぼくは、クールなハヤトが好きだったかな。彼は、ぼくに合っていたみたいで演出しやすかったんですよ。小松原くんのデザインもシャープで当時としては、あか抜けててよかったしね。小湊くん（『ゲッターロボ』では演出に参加した小湊洋市氏）なんかは、コミカルな話をやりたいといって、ムサシがメインになっていた脚本を持っていってたんじゃなかったかな（笑）。

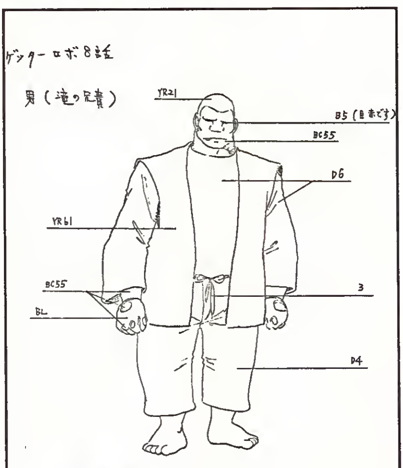
――小松原さんもそうですが、永井豪先生や石川賢先生の作品には特に縁が深いように感じるんですが。

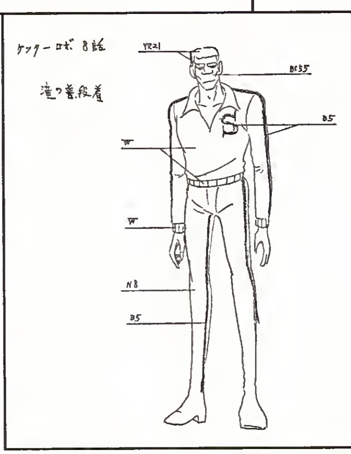
勝間田 そうですね。豪さんたち原作の東映（動画）作品には、ほとんど関わってるんじゃないかな。豪さんのところ（ダイナミックプロ）の作品は不思議とやりやすかったんですよ。でも、ぼくは長編映画に組みこまれることも多かったんで、途中で抜けざるをえなくなってしまって。たしか『ゲッターロボ』の時にも劇場作品にとりかかるんで途中からぬけてしまったんですよ。最後までやりたかったんですが……。

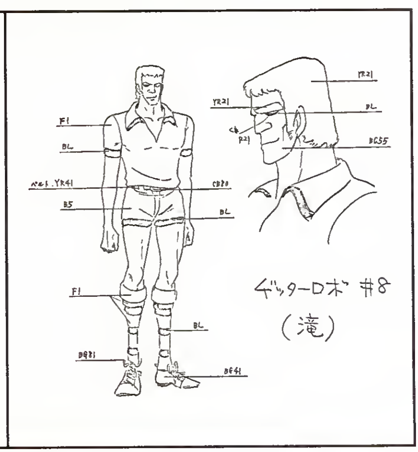
――お忙しいところ、ありがとうございました。

（98年8月4日　於・東京　東映動画・大泉スタジオ）

かつまた・ともはる：38年2月4日生。静岡県出身。60年、東映入社。京都撮影所で助監督を経験した後、東映動画に出向。演出を担当する。代表作『キューティーハニー』（73年）『宇宙戦艦ヤマト』（74年）などあまりにも多数。







滝兄弟
勝間田演出が冴える第8話に登場したリョウのライバル・滝とその兄の設定。キャラクターの掘り下げも勝間田演出の特徴のひとつ。どうでもいいがこの兄弟、とても高校生には見えん……

小松原一男INTERVIEW

「リョウのイメージは西城秀樹を狙いました」

『ゲッターロボ』キャラクターデザイン

インタビュアー／大久保一光

——小松原さんが、作品に関わることになった経緯から教えて頂けますか？

小松原　以前に、永井豪さんの『デビルマン』（72年）のキャラクターデザインと作画監督をやっていたので、その流れからお話がきたんです。勝田さんや勝間田さんと一緒にダイナミックプロに呼ばれて、メカやキャラクター、合体方法なんかをみんなでかためていったんです。

——特にデザインで心懸けられていたことはあったのでしょうか？

小松原　リアリズムかな。現実に近づけるように、パンタロンとか長髪とか、当時の流行に合わせたりしてたんですよ。イメージとしては西城秀樹を狙った部分もあったんです。原作からはイメージが離れちゃいましたが（微笑）、アニメーターサイドである程度、自由に描かせてもらいましたね。

——『G』になってからはどうでしょうか。イメージの変更点とか？

小松原　全体的にシャープな感じでデザインしています。オープニングや戦闘シーンの作画はスピード感も持たせるようにしてましたね。

——やはりオープニングも小松原さんが？

小松原　そうです。『G』のときは葛西さん（演出家の葛西治さん）と、最初のオープニングは小湊さんと一緒にああしよう、こうしようと話し合って絵コンテを作ったんですよ。実際の作画では、ぼくに「おまかせ」っていう感じだったんで、ここでもかなり自由にやらせてもらいましたね（笑）。



画・小松原一男

RESPECT
小松原一男

——作画監督、またアニメーターのひとりとして気を使った点はありましたか。

小松原　自分のデザインしたキャラクターでしたから、特に神経は使いませんでしたね。ただ、直し（原画修正）を入れるとき、ほかの原画マンの絵に引っ張られちゃうことがあるんです。とはいえ一から描き直しちゃうと原画マンの絵が活きてこない。ですから動きのタイミングとか、個人の感性がでてくる部分をなるべく活かせるようにしたかったんです。タイミングをつかむというのは大変で、特にあの頃はフィルムが仕上がってくるまで分からなかったから。

——そうすると、試写のときはドキドキしながら観ていたのでは？

小松原　そう、みんなドキドキしてたと思いますよ（笑）。私も含めて、原画マンは動きのタイミングを観るためにいろいろと実験もしていましたからね。

——小松原さんご自身が気に入っていたキャラクターは誰だったんでしょう？

小松原　ぼくはハヤトかな。リョウは真面目すぎて動かし（描き）づらかったんですよ。その点、ちょっと不良ぶった雰囲気のあるハヤトやズッコケキャラのムサシ、ベンケイなんかのほうが動かしやすかったね。

――ご自身が気に入っていたエピソードなんかはありますか？

小松原　うーん。そうですね、エピソードとは違うけど金田くん（言わずと知れた次世代アニメーターの旗手、金田伊功さん）が凄かったよね。彼はアクション・スターだからな（微笑）。

――（笑）そうですね。小松原さんは劇場版も手懸けていらっしゃいましたが、あちらはどうでしたか？　時期的にはテレビシリーズと重なって大変だったのでは？

小松原　尺（時間）が短めの中編だったから、TVと両方やれたんだと思うけど。テレビとはフレームが変わっちゃうし、（動画）枚数とか描き方も変わってきちゃいますからね。それに「グレートマジンガー」は、ぼくのデザインしたキャラじゃなかったから、それなりに苦心しました。でも、逆に違った動きをさせてみたいという欲求もでてきますからね。そういったところでは結構、楽しんでやってましたよ。劇場版のスタッフはみんなそうだったんじゃないかな（笑）。

――やっぱり現場は活気があったんでしょうね。

小松原　当時の現場は、みんな活気がありましたよ、いろいろやったしね（苦笑）。

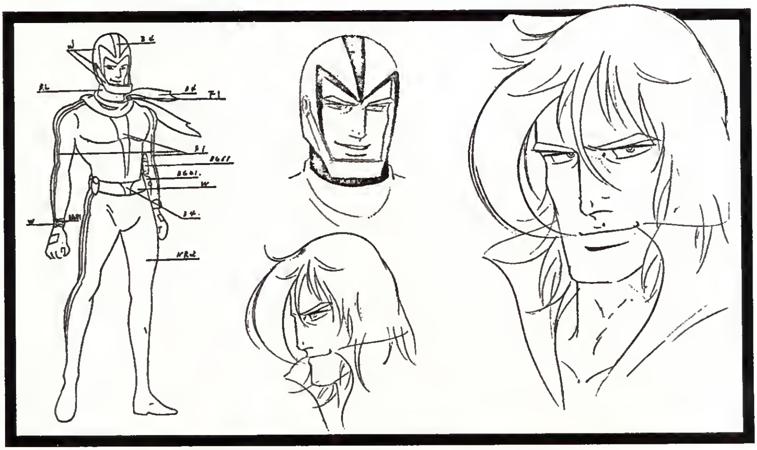
――なんだか意味深ですね（笑）。では、最後になりますが、『ゲッターロボ』を手懸けたことで得られたものや影響を与えられたものはありましたか？

小松原　作品全体の演出に関われたこと、企画から『G』の終了まで通して全力で参加できたことですね。途中で抜けることなく、最後まで一本の作品を手懸けられる状況が在ったことそのものが大きかったと思っています。その分、思い入れや思い出も残りますから。だからいまでもオープニング集とか見ていると、「あの時はこうだった」、「この時はああだったな」とか思いだしますよ。

――本日はお忙しい中、ありがとうございました。

（98年8月6日　於　東京・荻窪　喫茶店「葉山」）

こまつばら・かずお：43年12月24日生。神奈川県出身。チルドレンズ・コーナーに入社し、『狼少年ケン』で動画デビュー。70年にオープロダクション設立に携わり現在、役員。代表作は『マグネロボ　ガ★キーン』（76年）、『宇宙海賊キャプテン・ハーロック』（78年）など、あまりにも多数。



やはり小松原氏もお気に入りというハヤト。一見、クールでドライながら実はマザコンというキャラクター設計も実にGOO！でした

『ゲッターロボ』
『ゲッターロボG』脚本　上原正三 INTERVIEW

RESPECT 上原正三

「僕はムサシが面白かったですね」

インタビュアー／岩佐陽一

――上原さんが『ゲッターロボ』に関わられたのは、『ドロロンえん魔くん』(73年)の流れからですよね?

上原　そうです。『えん魔くん』の前に『ロボット刑事』(73年)という実写の特撮番組を書いていたんですが、その時にプロデューサーの別所(孝治)さんと知り合って、『ロボット刑事』が終わるころに「次に『えん魔くん』っていうアニメをやるんだけど、アニメを書いてみる気はありませんか?」ってお誘いを受けまして……ぼくはそれまでアニメーション番組っていうものを書いたことがなかったんですよ。だから、一大決心とまでは言わなくても、ちょっとした冒険のつもりでしたね。実写の『がんばれ!!ロボコン』(74年)のお話を頂いた時にもそう思いましたが。

――別所さんはいまは映画部にいらっしゃるんですよね?

上原　そうそう。先日も勝田(稔男)さんの退職記念パーティーでお会いしましたよ。いまだにお元気でねェ。会うなり「いま、なにをなさってますか?」って聞かれたんで、「たまに『ウルトラマンティガ』(97年)とか書いてますよ」って答えたら「へぇ~! がんばってますねぇ!! でも、もっともっとがんばって下さい!」って激励されちゃいましたよ(微笑)。その時には、釣りにも誘われたな(微笑)。

――別所さんは釣りがご趣味なんですか?

上原　そう。もう大変な釣り好きでね。

――上原さんはされないんですか?

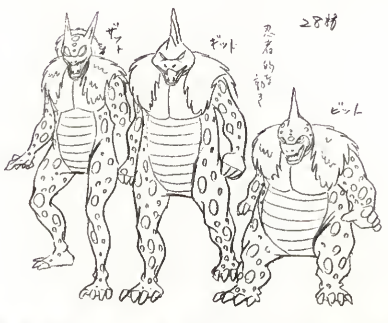
上原　ぼくもたまにやりますけど、もっぱら川釣りですね。沖へ出てっていうのがダメだから。

――ダメ!?……というのは?

上原　ぼくね、船酔いする体質なんですよ。

――え!? それじゃあ、お若いころに沖縄からこちらへ来られる時は大変だったでしょう?

上原　そう。いまみたいに直行便なんてないしね。



第28話登場の地竜族三人衆、ギット、ザット、ビットの設定より。服なしヴァージョンを掲載。恐竜帝国内での被差別階層である地竜族は、いかにも上原脚本らしいキャラクターだ

それ以前にまだ外国だったんですから。船だと東京まで2泊3日もかかるんですよね。その間、喰うと吐くからね、なんにも喰わなかったですよ。それがまた不思議なもんでね。着いたとたんにシャキッとして食欲がわくんですよ。だから、〝船酔い〟っていうのはなにか特殊なもんだと思うんだけど。

――そうですね。自動車酔いともまた違うと思いますし（と、本題からかなりハズれていることに気がつき）……あ、そ、それで『ゲッターロボ』に話を戻しますが――。

上原　どうぞ（微笑）。

――『えん魔くん』からスライドした形ですから、当然、企画段階から参加されてらっしゃるわけですよね。

上原　よくは憶えていませんが、たぶんそうだと思います。あれは高久（進）さんも書いてらっしゃいますよね？

――ええ。ただ、高久さんは『G』になってからですけど。

上原　そうですか。いや、彼もノリにノッて書いてましたよ。この前、藤川（桂介）さんのベストセラー、『宇宙皇子』が完結したんで、それを記念したパーティーが開かれたんですよ。その時に彼とも話してたんですが、ぼくらはね、ホンと、いい時代を生きてきたと思いますよ。こういったアニメ番組でも、いまみたいにスポンサーがいろいろ口出しすることもなかったし、スタッフみんながノッてましたからね。原作者の永井豪さん自身もいちばんノリにノッてた時期だったんじゃないですか？

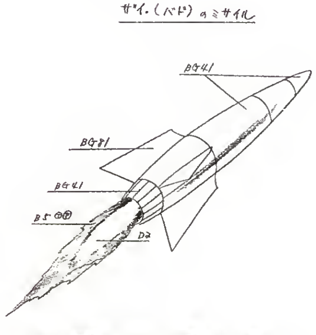
――それは、ブラウン管を通して我々視聴者にも伝わってきていましたよ。

上原　そうでしょう？　東映の本社のほうでは平山（亨）さんががんばって『仮面ライダー』（72年）や『ロボコン』なんかで一時代を築いてらっしゃいましたしね。

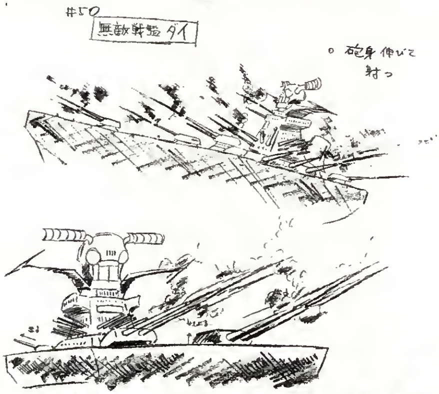
――そう、実写もアニメも花盛りだったんですよね。さて、『ゲッターロボ』に関する思い出話等がありましたら、お聞かせ願えます？

上原　僕はね、ムサシが面白かったですよ。書いてて。豪放磊落で、一本調子で……ちょっとハズれてて。ヒーローっていうのは、たいてい冷静でクレバーで、マスクもキッとしていて……っていうのがパターンじゃないですか。ムサシは見事に緩んでるんだよね。そういった意味じゃ、ぼく向きのキャラクターでしたね。左脳で理解するんじゃなくって右脳で理解するキャラクターっていうか……。

　現代は〝絶対的なヒーロー〟っていうのがいなくなっちゃったじゃないですか。天皇陛下だっているんだかいないんだかわからないような状況だし、学校の先生だって当たらず障らずだし……そんな時代には、むしろムサシみたいなヒーローが必要なのかもしれませんね。



▲上原氏が脚本を担当した第1＆2話より。メカザウルス・ザイ＆バドの発射したミサイルの設定。貴重なので思わず載っけてしまいました



▲上原氏渾身の執筆である『ゲッター』編最終回2部作、第50、51話に登場の無敵戦艦ダイより、その砲身の設定。これもめったに掲載される機会の少ない貴重な1枚といえる

――上原さんがよく口にされる〝癒し〟のヒーローですね。

上原　そう。人の心を癒してくれるヒーロー像ね。純朴で素直で……一本筋が通っているっていう。みんながみんなギスギス生きている時代には、ムサシみたいな実に人間らしいキャラクターが求められているのかもしれませんね。

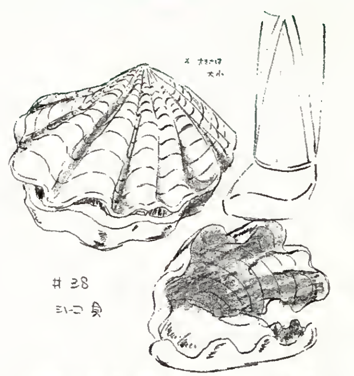
――まったく同感です。今日はお忙しいところをどうもありがとうございました。

（98年7月18日　於　東京・すずかけ台）

うえはら・しょうぞう…脚本家。2月6日生。沖縄出身。『ウルトラQ』（66年）で脚本家デビュー。『怪奇大作戦』（68年）『帰ってきたウルトラマン』（71年）『がんばれ!!ロボコン』（74年）『バトルフィーバーJ』（79年）「宇宙刑事シリーズ」など代表作あまりにも多数。



▲こちらは上原氏お気に入りのムサシの設定。柔道着ヴァージョンを掲載。氏がおっしゃるとおり、たしかに癒されるキャラクターには違いない



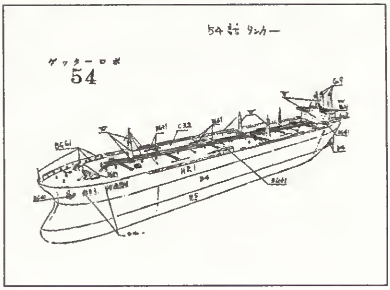
▲▼上原脚本の第38話「魔の海からの脱出!!」に登場した大海獣2匹の設定。我らがゲッターの行く手を阻んだ巨大イソギンチャクと巨大シャコ貝。隠れた名バイプレイヤーです



ゲッターロボG プロット集

ここに掲載するのは、東映動画に現存する「ゲッターロボG」のプロット案である。念のために説明を加えれば、“プロット”とは脚本家が執筆に入る前に、プロデューサーに、提出する検討用のストーリー案のことである。ある意味、そのエピソードに託した作家の思いがストレートに描出されている資料であることを鑑み、今回、再録した次第である。

「悪の罠！空飛ぶ船団」（第3話）

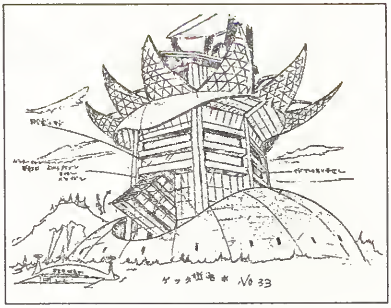


太平洋航行中の石油タンカーが、次々と消えてゆく。ゲッターロボチームは調査したが原因は摑めない。しかし、やはりそれは……。

ゲッターロボ基地に大空襲をかけて来た百鬼帝国の戦略は、タンカーを改造した空飛ぶ船団であった。彼等は、ゲッター基地附近にタンカーを落下して、焼払い作戦を行ったのだ。大山火事に逃げまどう動物達を救助しようとするベンケイ。敵を攻撃するのが先決だと主張するリョウとハヤト。ゲッターチームの対立の中で、救助した動物達まで殺してしまう敵機を見て怒るベンケイ。ゲッターチームは立ち上がって、三人一体となり敵のメカロボットを倒す。そして、大量の消化剤によって無事、大山火事も消し止めたのであった。

スペクタクルな画面と、動物愛護の心を盛り込んだ物語です。

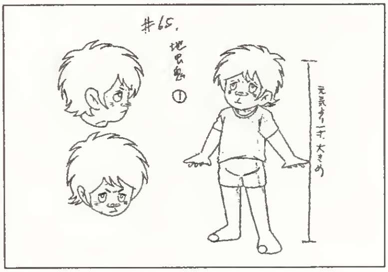
「SOS！ゲッターロボ応答せよ」（第9話）



嵐の夜、百鬼メカロボットが出現した。迎撃に出動したゲッターロボは、敵を撃退したものの、その時、レーダーや通信機が狂ってしまった。有視界飛行でようやく基地にたどりついたが、基地内は無人と化していたのだ。その基地こそ、敵が作り上げた偽基地であった。基地とゲッターロボもろとも爆破しようという大がかりな罠だったのだ。だが、それが偽基地だと察知したのは、早乙女博士の子供ゲンキがつけていたテルテル坊主人形と、リョウが発見した時限爆弾装置の発見であった。間一髪、爆風を利用して脱出したゲッターロボは、敵メカロボットも倒して、心配している本当の基地に無事帰還することが出来たのである。

敵の大がかりな仕掛けと、冷静なチームメンバーのチームワークをミステリアスな運びで描く物語です。

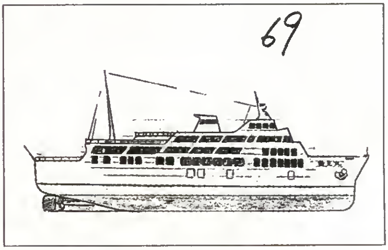
「友達は風になった」（第14話）



或る日、奇妙な少年が基地に現われたが、早乙女博士の子供ゲンキと仲良しになってしまった。少年は、敵スパイだったが、優しい家族の暖かい心にふれて、自分の任務であるゲッター基地の海底陥没作戦を忘れてしまい、百鬼帝国に引きもどされてしまった。敵の作戦を知ったゲッターロボは、地底深く潜入して敵メカロボットを爆破して、基地を無事救うことは出来た。だが、ゲンキは敵の少年スパイとの再会の約束を信じて、いつまでも待っていた。少年の運命は風のみが知っている。

子供の心暖まる友情と、人間愛を夏の風物詩にたとえた悲しい物語です。

「早乙女博士を救出せよ」（第19話）



百鬼帝国の攻撃に対する秘密国防会議が、南海上の或る島で開かれ早乙女博士も出席した。だが、いち早くそれを知った敵は、メカロボットを出撃させて、島を占領し人々を捕虜にしてしまった。緊急出動したゲッターロボも、人質を楯にされては手も出せない。しかし、ゲッターチームはミチルを囮にして、隠密作戦をとり、チームプレーで連行寸前の早乙女博士を救出すると共に、人質全員を避難させることに成功。敵メカロボットも、苦戦の末に爆破することが出来たのだ。

太平洋上の小島を舞台に、ゲッターロボチームの智慧と勇気を描いた物語です。

ゲッターロボG

●番組強化案●

ここに掲載するのは『ゲッターロボ』の延長にあたっての番組強化案である。"G"の文字が外に出ているあたりが、いかにも強化案っぽくてよい。内容を読む限り、『ゲッターロボG』の事実上の企画設定書と考えてよいだろう。なお、資料の稀少性を尊重してよほどでない限り誤字・脱字もそのままで掲載する。

『ゲッターロボ』G（番組強化案）

5月3週以降新キャラ
東映動画株式会社

ゲッターロボに関する番組強化の為の新設定

A、ゲッターロボ・シリーズの一年間は、早乙女研究所を中心とするゲッター線エネルギーの開発と宇宙計画の推進に対して、地球征服の野望を抱きゲッター線エネルギーの使用を阻止せんとする地底の恐竜帝国との対立関係を、テーマとしてドラマ化してきましたが、マンネリ化を防ぐ為の新強化策として、恐竜帝国を滅亡させて、新しく百鬼帝国を登場させます。そして、早乙女研究所がゲッター宇宙計画をより推進する為に、新しく開発した従来の10倍のエネルギーを作り出すゲッター線増幅炉をめぐって、世界秘密結社の影の首魁である百鬼帝国との対立関係が、新設定のテーマとなります。特に、敵側が地底の爬虫人類であったのを、新設定は現実の人間に変更することで、より以上に現実性のある充実したドラマを展開することが出来ます。

B、百鬼帝国とは、世界の秘密結社を影で操る犯罪組織で、百鬼大帝ゴースのテレパシー指令によって統率され、百鬼一族百人衆の手によって、人間の頭に角を移植されると、テレパシーの脳波コントロールで思うまゝに動かすことが出来るのだ。そして、死体蘇生術も可能な科学力を持ち、その拠点は各都市の高層ビルの中にあり、表向きは普通だが、実はビル全体が戦斗能力を持つ要塞でもあり、ロボット鬼団の基地でもあるのだ。彼等の野望は地球世界の乗っ取りであって、百鬼帝国の科学力も及ばないゲ線エネルギーの秘密を握って利用する為に早乙女研究所を狙ったのだ。

C、早乙女研究所の三人の若者とゲットマシーンは、アニメーションならでは表現出来得ない華麗なアクションですから、三体のゲッターロボにチェンジする基本的なスタイルは変更しません。しかし、敵側の新設定に対応して三台のゲットマシーンのスタイリングは一新し、同時にゲッターロボも新しくモデルチェンジをします。そして、三人の若者のうち、巴武蔵（ムサシ）を、より蛮カラで三枚目的要素を加える為に、新しい若者、車　弁慶（ベンケイ）に交代し、三人のチームを今よりも感情と行動を個性的に強化させます。更に早乙女一家と三人の若者のホームドラマに暖かさと愉快さを強調し、大枯叔次一家のジョーホーと浅太郎ロボの喜劇チームとのからみをギャグ仕立てに盛上げてコメディギャグの要素を強化させます。

D、以上の新設定を投入強化することによって、ゲッターロボ・シリーズは、現在以上に個性的で娯楽性の高い要素と、スケールの大きいアクションとドラマの意外性が強調され、より面白い番組となります。

E、新登場キャラクター

☆ゲッタードラゴン＝流　竜馬（リョウ）
☆ゲッターライガー＝神　隼人（ハヤト）
☆ゲッターポセイドン＝車　弁慶（ベンケイ）
☆車　弁慶（18才）
　ポセイドン号に搭乗する。野球部のキャッチャーで主将。乱暴で粗野だが、剛胆さを持っている。但し、かなりの粗忽者で三枚目。
☆百鬼大帝ブライ（原文ママ）
百鬼帝国の帝王。人間の姿をしているが頭の角でテレパシー指令をする。
☆ヒドラー元帥
　百鬼帝国の作戦本部参謀長。
☆グラー博士
　百鬼帝国の科学本部長官。

F、新ゲッターロボの能力と武器

1、ゲッタードラゴン
○ゲッタービーム砲＝小型増幅装置によって、より強力になり、額から照射される。
○ダブルトマホーク＝両刃の斧が肩から出て、柄が長く伸びる。
○マッハウイング＝後肩から翼が伸びて超高速で空を飛ぶ。

2、ゲッターライガー
○チェンジアーム＝両腕の下膊が前後に動くと、ドリルやゲッター機関砲などに変化する。
○脚力＝地上をマッハ2で走りジャンプ力は約50メートル。

3、ゲッターポセイドン
○ゲッターストロング砲＝背中からゲッターストロングミサイルが発射する。
○腕力＝百万馬力の力がある。
○水中力＝一万メートルの海底の水圧に耐え、水中を自由に行動できる。

梗概

爬虫人類の恐竜帝国が滅亡し、日本にも平和が蘇った。早乙女研究所もゲッター宇宙計画の開発研究を再開し、先ず潰滅状態となったゲッターロボを、新しく製作し始めた。又、リョウ、ハヤト、ミチルの三人はゲッターチームの一員だった今は亡きムサシの後釜を探し求めたが、テストに合格する者は誰一人としていなかった。やがて、新しいゲットマシーンが完成した日、或一人の若者が傍若無人に研究所に入り込

んで来て、勝手にポセイドン号に乗り込んできたのだ。その妙な若者が、車 弁慶（ベンケイ）である。そして、ゲッターチームは全員そろった。彼等のゲッターチェンジ訓練も終わる頃、早乙女博士は念願のゲッター線増幅装置の設計図が完成したのだ。この装置とは、従来のゲッター線の集積量を10倍のエネルギーに増幅することの出来る素晴らしい発明である。この装置を完成させればゲッター宇宙計画のほとんどが、完成したも同然なのだ。早乙女研究所のプロジェクトチームは早速に増幅炉の製造に着手した。だが、その背後から黒い悪魔の手が伸びていようとは、誰も知らなかった。それは、百鬼帝国と名乗る恐るべき秘密結社であった。帝国は超能力者であるゴース大帝の下に統率され、ヒドラー元帥とグラー博士を中心に、百人衆が組織員として日本各地に支部をかまえていた。指令はゴース大帝やヒドラーとグラーの角から発するテレパシーによって伝えられ、百人衆も角によって受信発信が出来る。そして、彼等の手によって、普通の人間でも角を移植されたが最後、百人衆の命令に逆らうことが出来ないのだ。百鬼帝国の目的は世界中の人間に、この角を移植して思うままに脳波コントロールすることで、地球を乗っ取る計画なのである。その為に、無限のエネルギーであるゲッターエネルギーに着目し、テレパシー増強は勿論のこと、ロボット鬼団や、彼等の科学力にも大いに利用できるゲッター線エネルギー装置は、のどから手が出るほど欲しいものであった。かくして、百鬼帝国はゲッター線エネルギー増幅装置をつけ狙うに至ったのだ。百鬼帝国の科学力は、かなり秀れたもので、各支部のあるビル内には百人衆のそれぞれの容姿に似た、鋼鉄ロボットを持ち、攻撃力として使い、迎撃力としては、その支部全体が要塞化されているのだ。彼等は早乙女研究所を襲い、或はその周辺の町の人々を百鬼族にしたりして、ゲッターロボとの戦いが開始された。

☆早乙女家、学校、町

A、早乙女家は町はずれにある。以前より、町と学校を早乙女家に近ずける。

B、リョウ、ハヤト、ベンケイの三人は早乙女家に寄宿し、徒歩で通学することになる。（故に、オートバイは不要となるが、話によって使用してもよいし、ジープなど使ってもよい）

C、小学校も浅間学園に隣接し、元気は三人と通学しても良い。

☆流 竜馬（リョウ）

現在より、もっと情熱的で生一本な性質を加味する（ムサシ的な要素をプラス）

☆神 隼人（ハヤト）

ニヒルな性格を出すためセリフを少なめに。

☆車 弁慶（ベンケイ）

野球部捕手主将。北海道生まれ。大食漢で陽気。茫洋としていて野放図。豪胆であるが、細かいことによく気がつき、子供達に人気がある。元気に対しては特に仲良く、兄貴分の気持ちである。指先が意外と器用である。父親はジャンボジェット機のパイロット。

☆ゲッターロボの能力と武器

ゲッターマシンがパワーアップされた為、ゲッターロボに合体した場合、以前よりエネルギーの消費が激しいのでエネルギー補給が必要となる状態が発生します。

A、ゲッタードラゴン

（チェンジ　ドラゴン　スイッチオン）

○ゲッタービーム＝額から瞬間照射して、連発方式となる。

○ダブルトマホーク＝両刃の斧が肩から出て柄が長く伸びる。ブーメラン方式も可。

○マッハウイング＝後肩から翼が伸びて超高速で空を飛ぶ。

○スピンカッター＝腕の鋸の刃が廻転して、鋼鉄を切断することが出来る。

空を飛ぶ場合、下肢から垂直尾翼が出る。

B、ゲッターライガー

（チェンジ　ライガー　スイッチオン）

○マッハスリー＝地上をマッハ3で走る。

○ライガージャンプ＝地上50メートルジャンプする。

○チェンジアーム

△右腕＝ドリルアーム＝手が上下に動いて、ドリルに変る。

△左腕＝チェンジアタック＝4本爪が鎖分銅となって飛ぶ。

＝ライガーミサイル＝4本爪が傘のように開き、中心から小型ミサイルが発射される。

C、ゲッターポセイドン

（チェンジ　ポセイドン　スイッチオン）

○ストロングミサイル＝背肩からストロングミサイルを発射する。

○ゲッターサイクロン＝胸が開いて、逆噴射を起こす。

○フィンガーネット＝指から投網が飛び出す。

○キャピタラ・オン＝下肢が倒れてキャピタラとなる。

両眼がサーチライトとして使用できる。

D＝レディ　コマンド

○従来の役目に補給の仕事をプラスされた為、大型となり、名前も変更する。

百鬼帝国

☆本部は科学要塞島にある。

司令部は主にヒドラー元帥とグラー長官が詰めているが、ヒドラー元帥は実戦司令官として出陣する場合もありうる。

☆百人衆はそれぞれ名前を持ち、それぞれがロボットを所有している場合が多い。

名称は　例　一角鬼→メカ一角鬼

独眼鬼→メカ独眼鬼

総称は百鬼ロボットとする。

☆日本及世界各地に百鬼帝国支部があり、それぞれに百人衆が配置されている。

だが、その場所は不明であり、例えば或るビルか、工場か、施設かにひそんでいる。そして、密かに人間を使って、戦斗ロボットを製造しているのだ。

SPECIAL対談：永井豪×石川賢

永井「人間関係でお悩みの方に観てもらいたいですね」
石川「最初のころは無我夢中でしたね」

進行・構成／岩佐陽一



RESPECT
永井豪
&
石川賢

——企画の発端自体は永井隆さんと団（龍彦）さんが「ダイナミック企画」で立ち上げられたということですが、豪先生と石川先生のお二人が企画に直接タッチされるようになったのはいつごろからだったんでしょうか？

石川　正月休みに田舎に帰ってるところに（ダイナミックプロのほうから）急に呼び出しがかかって、「なんだろう？」って慌てて行ってみたら「正月中にデザインも内容もつめなくちゃいけない！」って言われたのが『ゲッターロボ』で……。大塚の喫茶店で、隆さんや菊地（団）さん、それに豪ちゃんや東映動画の勝田さん、勝間田さんなんかと「ああでもないこうでもない」って打ち合わせしたのを覚えてるなぁ。

永井　最初は企画書にくっつける用のラフスケッチから始めたんだよね。それはまだ『ドロロンえん魔くん』やってるころだから73年の秋……11月くらいかな。それはもういっぱい描きましたよ。そのころはなかなか（企画自体が）決まらなくてね。いったん解散して、決まりそうになってまた駄目になって……ってしばらくそんなことを繰り返してましたね。それが73年の暮れも押し迫ったころになってようやく決まりそうになって……隆のほうから「作画監督に渡す絵がほしいからすぐにデザインを創ってくれ」って言われて。それが正月の3日か4日ごろの話で、テレビアニメが4月スタートだったから、よっぽどギリギリだったんでしょうね。

石川　だから実際に要した時間はわずか数時間ですね。

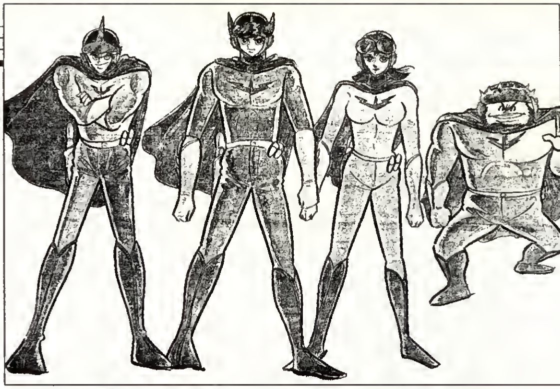
——数時間!!

永井　それまでず～っと「ああでもないこうでもない」ってやってきたことはいったいなんだったんだっていう（微笑）。

石川　決まる時は早かったですよ。

永井　正月に休みたい一心だったんじゃないの？





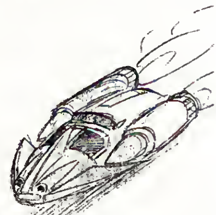
こちらは石川氏描くところの『チェンジ・ロボット　ゲッター3』のキャラクターデザイン。リョウの名前の表記が"竜之介"から"竜馬"に変わっている事実から推察するに、23ページに掲載した永井氏のスケッチより後に描かれたものと思われる。オフィシャルなMOOKでこういうことを書くのはいささか気がひけるが、石川氏ご本人も「女の子を描くのは苦手」とおっしゃっているとおり、ミチルに関しては永井氏のデザインのほうが格段に可愛い気がする（石川先生、すみません！）



こちらは永井豪&石川賢によるほぼ完成体に近づいた段階でのイーグル号、2&ジャガー号、3&ベアー号のラフスケッチ。まさに、対談中にあるように「サラサラっと描いた」のが手に取るようにわかる「ゲッター2」と「ゲッター3」のデザイン画。いかに時間的にタイトだったからとはいえ、このような美しいフォルムを短時間のうちに創造し得てしまう永井豪の天才ぶりにはいまさらながらに感服させられてしまう







石川　それはあったかもね（微笑）。

——なにせ前例のまったくないロボットものですからねぇ。デザイン面ではそうとう苦労されたようですが……？

石川　"3機が合体する"っていうイメージがまったく浮かばなかったですね。「どうしたらいいんだろう?」って頭抱えちゃいましたよ。あとで決まってからも「金属がこんなに変形しちゃっていいのかな?」という疑問は絶えずつきまとってましたけど（微笑）。ゲッター1の顔の亀甲もようだけはわりと簡単に決まったんですけどね。

——あれは従来にない素晴らしい発想でしたね。ふつうは眼があって鼻があって口が……という具合に人間の顔のパーツで組み立てようとするじゃないですか。「マジンガーZ」だってそうですし。

石川　うん。逆にその前に「マジンガーZ」があったからよかったんでしょうね。とにかく「マジンガーZ」があまりにも偉大だったから、なんとかそれとは違うものを創ろうと思ってね。豪ちゃんがマジンガーのキャラクターを創ってた時に横で見てたから、そのノウハウを活かしつつまったく別のラインを創ろうと。

永井　その中の1枚に亀甲もようがあったんだよね。それで「これ、いいんじゃない?」っていうことになって。

石川　それで、1が決まったのはいいけど、今度は2と3がどうしても描けなくて苦しんでたんですよ。根が真面目なもんで真剣に考えちゃってたんですよね。そしたら豪ちゃんが横へ来て「なにをいつまで悩んでるんだ。こんなものこうやって創ればいいんだ」ってサラサラって描いてくれたんですよ。「飛行機のケツに飛行機が"ドスーン!"って突き刺さりゃいいんだ」って（微笑）。

——突き刺さりゃいいわけですね（微笑）。たしかにそういう合体になりましたね。





こちらは石川御大によるメカザウルスのラフスケッチ数点。まだ、敵側のイメージが確定する前に、石川氏がランダムに描き起こしたスケッチの数々。左上のデザインが永井御大をはじめ永井隆&団両氏の目にとまった結果、"恐竜＋メカ"というモチーフが画期的な"メカザウルス"の設定が誕生したという



永井御大による地底魔王（テレビでは"恐竜帝王"）ゴールのデザイン画。コブラのような頭を持ったゴールのデザインは永井氏もお気に入りとか

永井　ゲッター2と3をぼくがデザインしたらしいんですよね。全部石川ちゃんだとばっかり思ってたから、ついこの間そう聞いて驚いちゃったんですよ。

——え！　でも80年に発売された『ロマンアルバム㉜ゲッターロボ』（徳間書店）には、「ぼくがデザインした」って書いてありましたよ。

永井　すっかり忘れてました（微笑）。

石川　俺はけっこう真面目に考えてたんですよ。あの「合体」っていうのを。それを豪ちゃんが横へ来ていとも簡単に描いちゃったもんだから、「ああ、こんないい加減でいいのか」って、眼から鱗が落ちたね。いや、よい意味でですけど。

　でもあの合体も、いま観るとアニメ向けでよかったよね。実写では絶対に実現不可能な。

——でもいまだったら逆にCGとかで凄い絵が創れそうですけど。

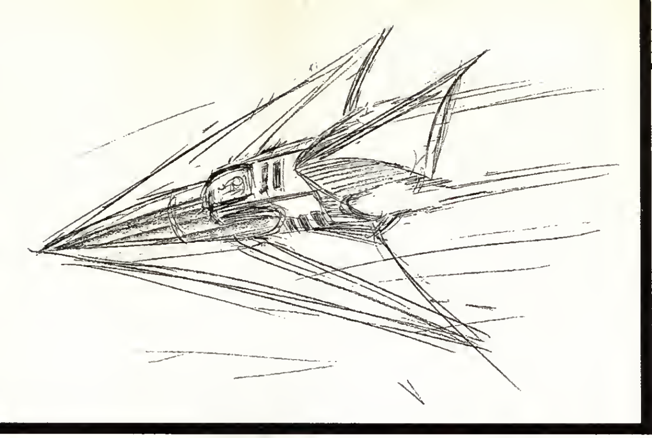
石川　あ、CGね。それはたしかに観たいなぁ（微笑）。

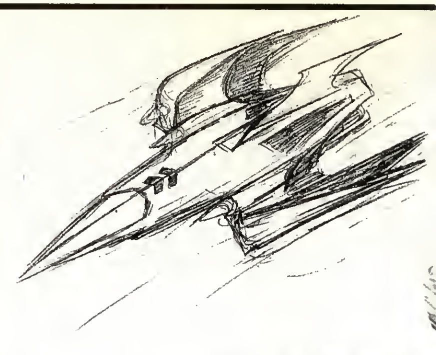
——人間側のキャラクターについてはどう創られていったのでしょう？

永井　ロボットのキャラを創りながら、逆にそのイメージというか、シルエットに合わせて人間のキャラクターを創っていきました。あくまでも「はじめにロボットありき」ですね。

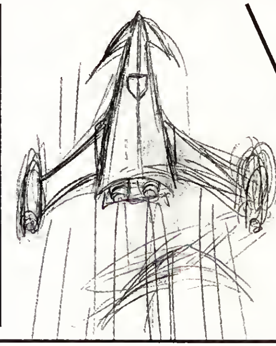
——敵のキャラクターについてはいかがですか？『マジンガーZ』の時には、桜多（吾作）さんや蛭田（充）さんなんかを交えてみなさんでワイワイガヤガヤ言いながら創られていったようですが？

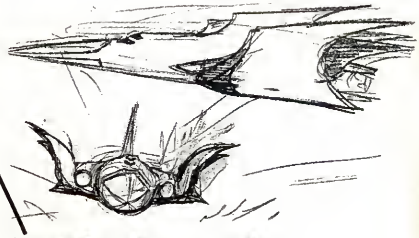
永井　『ゲッター』の時は桜多君も蛭田君も参加していなかったんじゃないかな？











『G』用に描き興された新ゲットマシン3機のラフスケッチ数点。左上の「ドラゴン号」は、『グレートマジンガー』（74年）の「ブレーンコンドル」を彷彿とさせる

石川　そうだね。

永井　『鋼鉄ジーグ』（75年）をやった安田達矢（夫）とかが入って創ってた気がするな。あのころは、アニメ用の敵キャラクターのデザインっていうのは、漫画家のアルバイトみたいなところがありましてねぇ。

石川　「誰が創ってもいい」みたいな風潮があったんですよ。でも、それが逆によかったですね。ひとりでやってるとどうしてもアイディアがつきてきちゃいますし、どうしてもイメージが似かよってきちゃうんですよ。同じ人間が描いてたらそれは仕様がないことなんですけど。でも、何人かで集まると〝対抗意識〟みたいなものが生まれますからね。「あいつがこんな変なの描くんだったら俺はもっと凄いの描いてやろう」みたいなね。そんなところが「ダイナミックプロ」の〝もの創り〟のよさかもしれませんね。

——敵の幹部なんかはどなたが？

永井　帝王ゴールは俺が創ったかもしれないね。

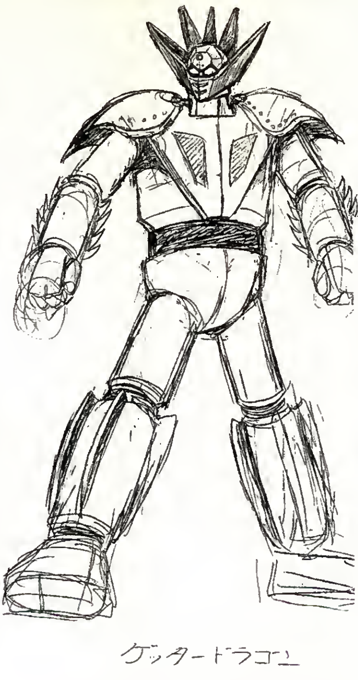
石川　うん、たしか豪ちゃんだよ。

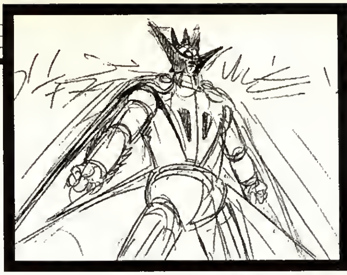
永井　あとは石川ちゃんですね。

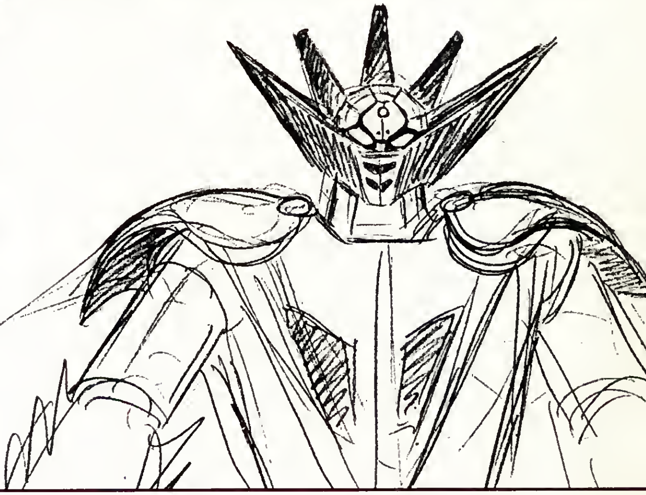
——敵のモチーフが〝恐竜〟というのは斬新でしたが、そのあたりの発想はどこから……？

永井　うちのロボットは「激しくやっつける」っていうのがセオリーだったから、ふつうのヤツじゃ駄目だろうと。〝完全なお化け〟をやっつけたほうがいいかな？——と。そこで「ハ虫類だったらいくら殺しても構わないだろう」ということになって（一同爆笑！）。

大越淳二　（同席したダイナミックプロのマネジャー氏、見かねて）「動物愛護協会」からクレームがきますよ。







こちらは石川賢による「ゲッタードラゴン」のヴァリエーション数点。決定デザイン以上にシャープな雰囲気が漂う。これはこれで捨て難い

永井　〝ハ虫類〟じゃなくて〝ハ虫人類〟だからいいんだよ（微笑）。まぁ、そういうコンセプトで敵を創ったんですよ。でもあれはよかったですね。しいたげられて地底に追いやられた先住民族が、やっと地上に出てきたと思ったらまたやられちゃうっていう……なんかその辺りの哀愁漂う雰囲気がよかったですね。それに、（石川氏を指して）この人がまたハ虫類とか恐竜が大好きでね。

石川　ハイ、大好きです（微笑）。

永井　ハ虫類描かせときゃ悦んでるっていう（微笑）。

――『G』になってからの〝鬼〟というのは？

永井　あれはそれ以前に僕が描いていた漫画で『ズバ蛮』（70年）というのがありまして、そこに〝百鬼一族〟というのが出てくるんです。それをそのまま使っちゃいました。これもやっぱり「人間じゃなきゃいいだろう」って発想ですね。

――ブライ大帝やヒドラー元帥といったキャラクターはどなたが？

石川　う〜ん。たしか俺だったと思うけど。あのころは、ぼくの（漫画の）線が豪ちゃんにいちばん似てたころで、いまそのころのラフとか見てもどっちが描いてるのかわからないのもあるんだよね。だいたい「ダイナミック」ってところは、みんな豪ちゃんに「右へ習え」で、豪ちゃんが新しい描き方とか始めるとみんなそれをマネちゃうんですよ。

――原作漫画についてお聞きしたいと思うのですが、これについては石川先生がおひとりで？

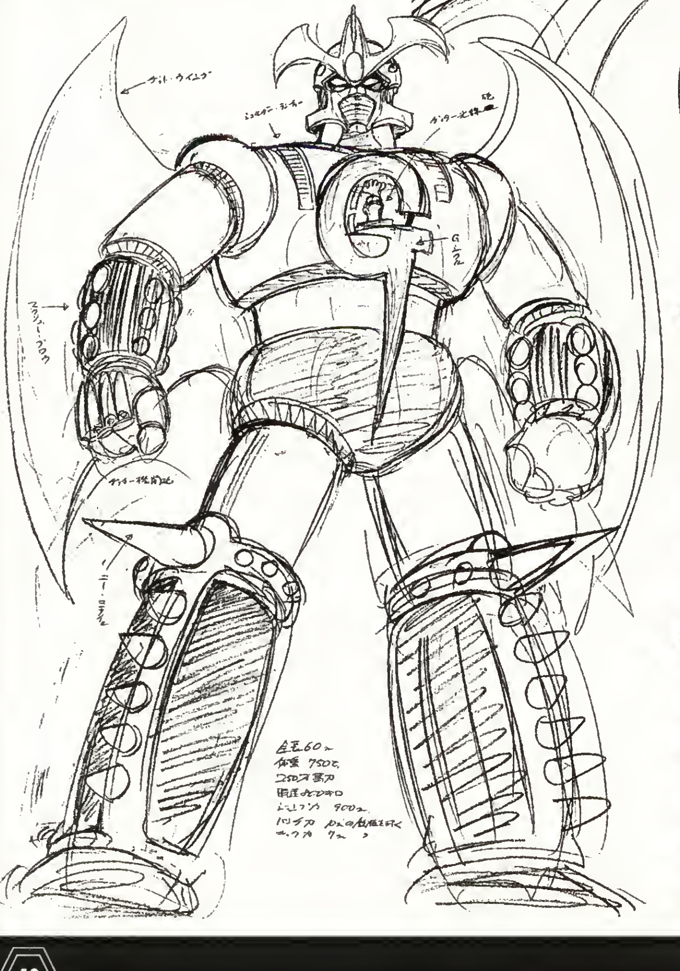
永井　漫画については僕はもう全然タッチしてなかったですね。もちろん、大まかな設定の部分とか主要なキャラクターとかではちょこっとアドバイスはしてましたけど。

本邦初公開!!

コレが永井版「ゲッターロボG」だ!?

正体不明の「ゲッターロボG」のデザイン画２点。胸のシンボルマークが“G”の形をしているのが印象的。筆線から察するに、永井御大のデザインだがご本人に覚えはないという。また、永井隆＆団両氏にもこのデザイン画に関する記憶はなく、現在のところ誕生背景不明のスケッチとなっている。ご存知の方は編集部＆ダイナミックプロまでご一報を！　それにしても、これでは合体できないのでは……？





GETTER ROBOT G Ver. GO NAGAI!?





永井御大による『G』編の新キャラクター、ベンケイのデザイン画。決定デザインよりフランクで快活な雰囲気が漂っている



魑魅魍魎を描かせたら日本一！　つまり、宇宙一!!の、石川御大が描く百鬼百人衆のイメージラフ。後の石川作品に登場する悪役キャラクターたちの表情が幾つかうかがえる

石川　もう描いてる時は無我夢中で、思い入れもなにもないですね。『號』になってから自分がなに描いてるのかようやく見えてきたっていう……。

――へぇ、そんなもんですか。やっぱり創り手と受け手の認識には差があるんですねぇ。当時の「サンデーコミックス」版の『ゲッターロボG』の著者の言葉を読むと『G』へはわりと簡単に入っていけたようなことをおっしゃってるんですが。

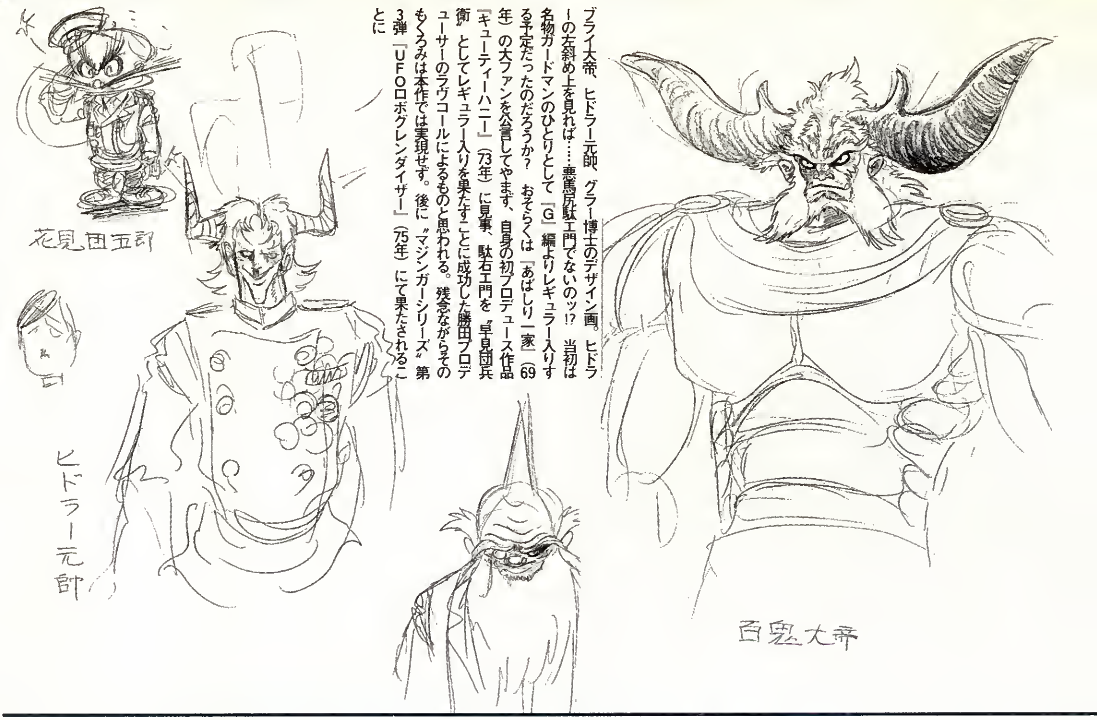
石川　そうですね。デザインもふくめてわりとすんなり入っていけたほうですね。テレビのほうでリョウの替わりにムサシが死ぬことになって、その後にベンケイを出すっていうのも簡単に決まりましたしね。

永井　あのキャラクターも〝武蔵坊弁慶〟から採ったんですよね。「ムサシが死んだから次はベンケイだろう」っていう（微笑）。

――途中で連載が『週刊少年サンデー』（小学館）から『冒険王』（秋田書店）に移行しますが、この辺りのいきさつは？

永井　詳しくは覚えてないんですが、あのころからもう「少年週刊誌」はテレビとのタイアップ企画に乗り気じゃなくなってましたからね。けっきょくテレビの視聴者と週刊の漫画誌を読んでる層が結びつかなくなってきてたんですよ。だから、「ぼくが他の漫画を連載する替わりに」っていう売りこみ方もあったと思いますよ。交換条件みたいにね。約1年半くらいで終わったんですよね？　そんな事情で、編集部のほうとしては「もう役目は終わった」みたいなところがあったんじゃないでしょうか？　あるいは最初から1年半っていう約束だったのか。
それとは対照的に『冒険王』は、マスコミのキャラクターを載せることで売り上げを伸ばしていきましたからね。『ゲッター』ということで飛びついてくれたんじゃないでしょうか？

――たぶんそうでしょうね。それでは、『號』の時のお話を伺わせて頂けますか？



ブライ大帝、ヒドラー元帥、グラー博士のデザイン画。ヒドラーの左斜め上を見れば……悪馬尻駄エ門でないのッ!? 当初は名物ガードマンのひとりとして『G』編よりレギュラー入りする予定だったのだろうか? おそらくは『あばしり一家』(69年)の大ファンを公言してやまず、自身の初プロデュース作品『キューティーハニー』(73年)に見事、駄右エ門を〝早見団兵衛〟としてレギュラー入りを果たすことに成功した勝田プロデューサーのラヴコールによるものと思われる。残念ながらそのもくろみは本作では実現せず。後に〝マジンガーシリーズ〟第3弾『UFOロボグレンダイザー』(75年)にて果たされることに

永井　企画が立ち上がったいちばん最初のころには、ぼくが「ゲッター號」のデザインを描いてたんです。けっこう描きましたよ。まだ残ってると思いますけど。

——えッ!? それは凄いですね。いずれぜひ掲載させて頂きたいものです。

永井　ただあれは、玩具メーカーが主導権をにぎっていた作品だったこともあって、デザインはあちらから提出されたものにこちらが修整を加えるという形で進めていったものなので、僕のはほとんど反映されませんでしたね。それにやっぱり『ゲッター』は石川ちゃんのものだから、彼のデザインが生きたほうがいいかな? と、思って石川ちゃんに渡しちゃったんです。

——石川先生にお伺いしたいのですが、『號』の原作を『月刊少年キャプテン』(徳間書店)に描くにあたって、テレビのほうからの規制のようなものはあったんでしょうか?

石川　特になかったですね。さっき話にあがったロボのデザインくらいで。あとは好き放題やらせてもらいましたよ。特に「アラスカ戦線」なんかはいろんな冒険が出来たっていうか。

永井　『キャプテン』の連載の第一回目でさ、ゲッターが合体に失敗するじゃない。あの辺、なかなかリアリティがあってよかったよね。全然話は変わるけど、前の「ゲッター」も1体は女のキャラクターにしとけばよかったね。

石川　でも、豪ちゃんと違って俺は女の娘描くのが苦手なんでできれば避けたいんだよね。女の子出すのは。敵のキャラクターとかだったらまだいいんだけど、かわいい女の子描けって言われたら困っちゃうんだよね。だから、女の子だけでも豪ちゃんに描いてもらえればよかったんだけど……豪ちゃん忙しいからね(微笑)。

——それでは最後に、熱烈な「ゲッターロボ」ファンに、造物主であるお二人

SPECIAL 永井豪×石川賢 対談



ながい・ごう：本名・永井潔。45年9月6日生。石川県出身。67年、『目明しポリ吉』でデビュー。『ハレンチ学園』(68年)『あばしり一家』(69年)『ガクエン退屈男』(70年)『デビルマン』(72年)『マジンガーZ』(72年)『キューティーハニー』(73年)『おいら女蛮』(74年)……など代表作の枚挙に暇がない。まさに我が国を代表するコミック・クリエイターといえよう。



いしかわ・けん：本名・石川賢一。48年6月28日生。栃木県出身。69年、ダイナミックプロ入社。翌70年、『それゆけコンバット』でデビュー。本作『ゲッターロボ』は、現在もストーリー展開が続くロング・サーガとなった。ほか『快傑シャッフル』(76年)『バトルホーク』(77年)『聖魔伝』(77年)『魔獣戦線』(76年)などやはり代表作は枚挙に暇がない。中断中の『極道兵器』(95年)の一刻も早い連載再開が待たれる。



こちらはテレビアニメの第1＆2話に登場した一角鬼＆独眼鬼のラフスケッチ。“マント”がいかにも石川デザインらしい

からメッセージをお願いします。

石川　俺、苦手だから豪ちゃん頼むよ。

永井　『ゲッター』のよさっていうのは、チームワークの面白さですよね。全然性格の違うキャラクターたちが、さまざまな事件にぶつかるなかで、しだいに心の絆を深めていくという……そういった人間関係の面白さが魅力だと思うんです。だから、学校や会社で人間関係にお悩みの方がいらっしゃいましたら、ぜひ『ゲッターロボ』をご覧になって勉強して頂きたいなと――。

石川　うまい！　これ以上のコメントはないね。

――本日はお忙しいところをどうもありがとうございました。

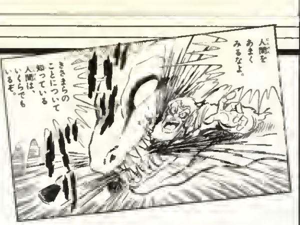
（98年8月3日　於　東京・高田馬場　ダイナミックプロ）

GETTER ROBOT



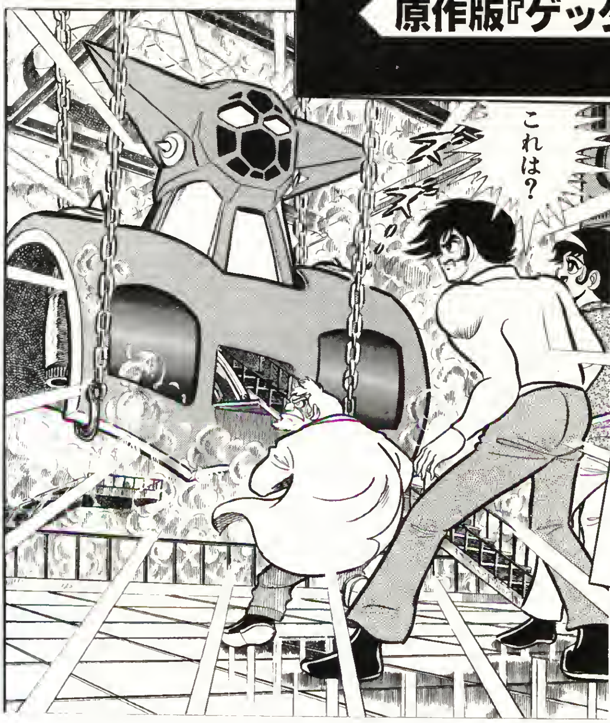
ゲッター１登場！

原作版ゲッターロボの世界



無敵！原作版ゲッターロボ発進

原作版『ゲッターロボ』の世界



印象的なゲッター1（イーグル号）の初登場シーン。未完成なところが泣かせる



一撃でトロフィーを粉砕するリョウ。とても人間技とは思えない

『ゲッターロボ』挽歌

岩佐陽一

まず最初にあえて断言しておきたい。『ゲッターロボ』は――少なくとも原作版『ゲッターロボ』は、〝流竜馬〟の物語であると。ここまでで、店頭にて本書を手にした99％のゲッターファンの方が憤慨に耐えかねて、本書を書店の床にたたきつけていることを予見しつつ……流竜馬ことリョウの〝狂気〟なくして、本作がある意味、『マジンガーZ』（72年）以上に潜在的なカルト人気を誇る作品になり得たかどうかははなはだ疑問である。

もう一度断言しよう。

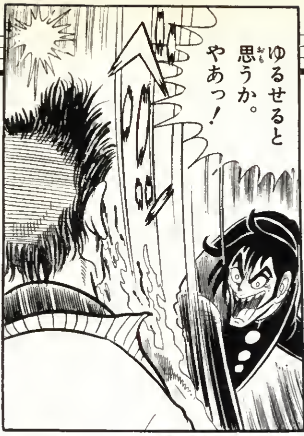
原作版『ゲッターロボ』は流竜馬ことリョウというひとりの男の〝狂気〟が火星へ翔び立つまでを描いた物語である――と。

× × ×

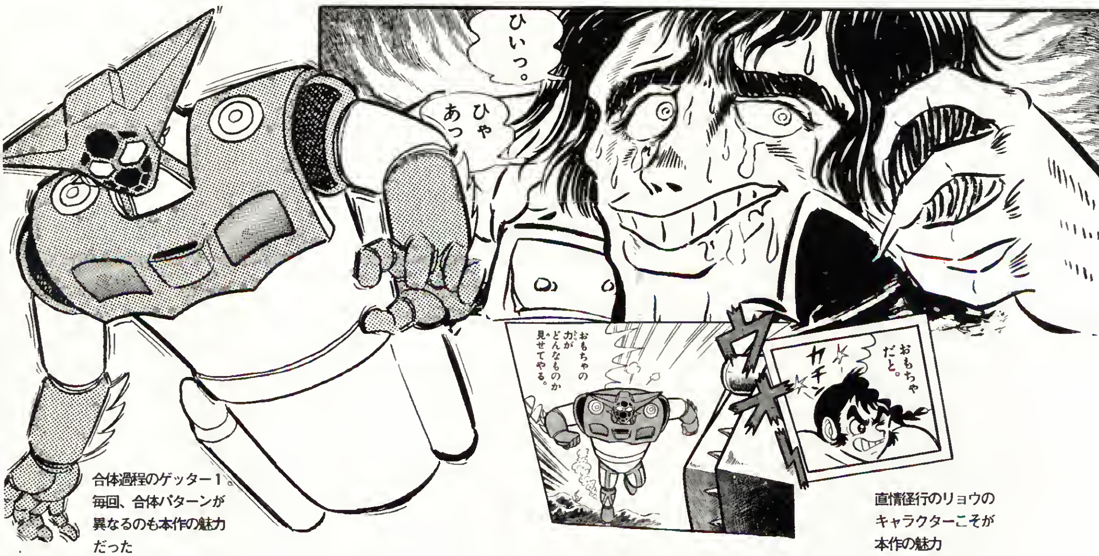
74年3月29日――から遅れること数日。少年は偶然にも、ふだんはあまり読まない『週刊少年サンデー』（小学館）を手にする機会にめぐまれた。当時、小学1年生だった者の認識として、〝週刊漫画雑誌＝中学生以上が読むもの〟という暗黙の了解が厳然と存在していた。では、小学生はなにを読めばいいのか？　半ば当然のごとく小学館の『学年誌』。秋田書店の『冒険王』。そして――『TVマガジン』（講談社）『テレビランド』（徳間書店）といった児童向けのTV雑誌。特に、『テレマガ』『テレラン』という愛称で児童間に絶大なる支持を得ていたこの2誌



一撃で犬の首をちぎるリョウ、かつてないダーティーなイメージが凄絶！



初登場時のハヤトは、『號』のハヤトとはまるで別人だった



直情径行のリョウのキャラクターこそが本作の魅力

合体過程のゲッター1。毎回、合体パターンが異なるのも本作の魅力だった

は、70年代前半〜中盤の我が国の児童文化には絶対不可欠な、「仮面ライダー」「マジンガーZ」という2大マスコミキャラクターを扱ったことで、驚異的な部数増を記録していた。そこには60年代後半と違い、この種のマスコミキャラクターの対象年齢がより低年齢層化に拍車がかかっていった時代の趨勢が確実に存在していた。

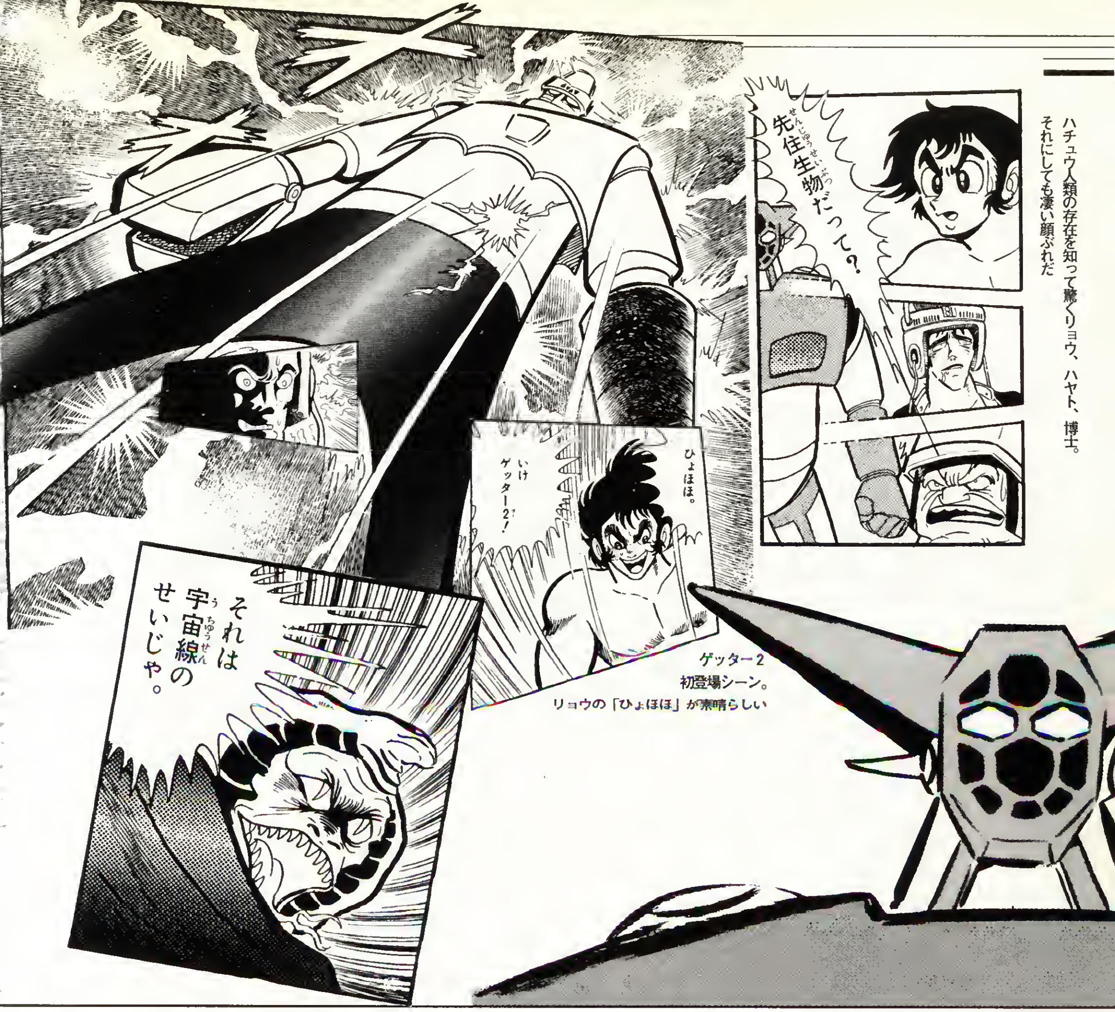
その結果——「仮面ライダー」「マジンガーZ」は、当初雑誌連載が展開された『週刊少年マガジン』（講談社）及び『週刊少年ジャンプ』（集英社）といった少年向け週刊雑誌よりもむしろ、より低年齢層をターゲットにすえた『テレマガ』『テレラン』といった児童向けTV雑誌においてその本領を発揮することとなる。

そして、この2大キャラクターのどちらをも獲得できなかった小学館の忸怩たるものは実に想像に難くない。よって〝学年誌のために〟『ゲッターロボ』を獲得したという小学館の意向は手に取るようにわかるというもの。

そういった政治的事情を内在させながらも『週刊少年サンデー』で連載がスタートした『ゲッターロボ』は、かつてない斬新な英雄像を子供たちの眼前に繰り広げていった。

ここで話は冒頭に戻る。74年3月29日——それは記念すべき『ゲッターロボ』の予告編漫画が『週刊少年サンデー』誌上に掲載された年月日だった。ふだんは『テレマガ』『テレラン』しか読まないその少年が日の当たりにしたそれは——あまりにも衝撃的でピカレスクな魅力に満ち溢れていた。

それまで『少年サンデー』を読んでいなかったその少年は、翌週よりいそいそと本屋の軒で、店のオ



ハチュウ人類の存在を知って驚くリョウ、ハヤト、博士。それにしても凄い顔ぶれだ

ゲッター2初登場シーン。リョウの「ひょほほ」が素晴らしい

ヤジの矢のような視線を浴びながら『少年サンデー』を立ち読みするようになった……。

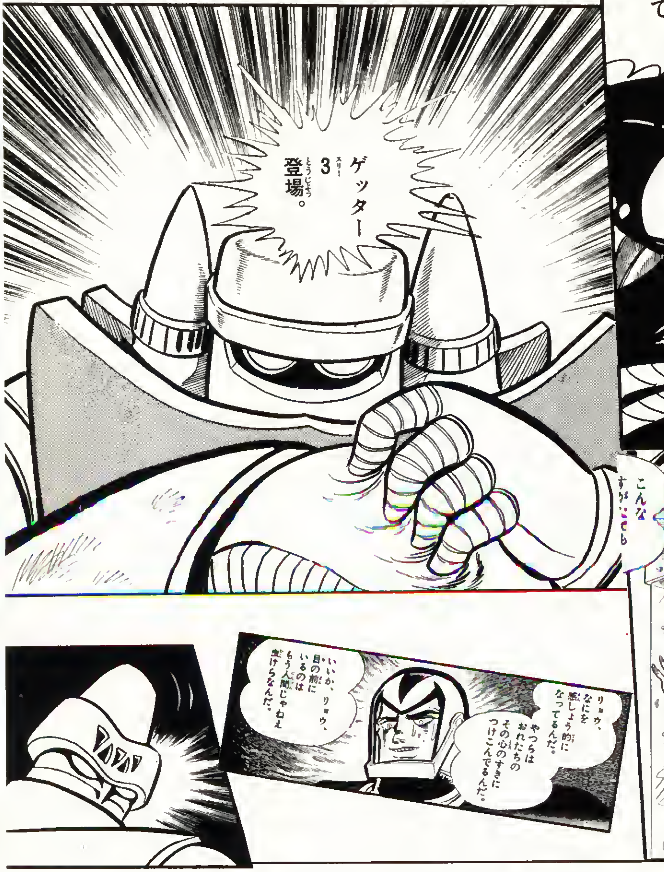
そして——待ちに待った第1回。読み終えた直後に脳裏を貫いたひと言を24年を経たいまも忘れられない。

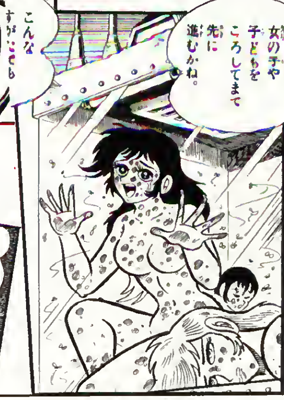
「これのどこがロボット漫画やねん!?」。

以来、「ゲッター1」が登場するまで通算10号、ページ数にして162ページ……毎週毎週「今週こそは……!」と、ただひたすらゲッターロボの登場を待ち焦がれた当時の少年たちの気持ちがおわかり頂けようか？ 特に、記念すべき『ゲッターロボ』初の単行本の栄冠に輝いた「てんとう虫コミックス」第1巻など、ページ数の関係上、ゲッター1が登場したとたんに終了となってしまっている壮絶さだ。だが、その〝じらしぶり〟こそが嫌が応にも「ゲッターロボ」という新たなるスーパーロボットの誕生を我々の脳裏に鮮烈に焼きつけることとなったのだった。

さて——衝撃のスタートを切った『ゲッターロボ』第1回は、あまりにも衝撃的な〝次回へのひき〟で幕を閉じる。父の復讐を晴らすべく武道会荒らしを行ったリョウ——そんな彼に目をつけた早乙女のキ○ガイじじい（リョウ談。なお、現在大都社より発売中の単行本では〝早乙女のじじい〟に修整）は、その腕を試すべく〝近くの所員〟を召集した……のはいいが、この〝近くの所員〟というのが凄い！ 黒人、ナイフ投げ、剣客……おそらく、この3人をはじめとするその場その場の〝近くの所員〟たちに、早乙女博士が試した349人の若者たちの命は……!? 続く「ハヤトの校舎」の巻冒頭で、リョウは犬の首をいともたやすく切断。そのあまりある狂パワー







ムサシ及びゲッター3は「大雪山に地獄を見た」にて初登場。なんといってもこの章では、〝人間ぎゃくさつ研究所〟がインパクト強し

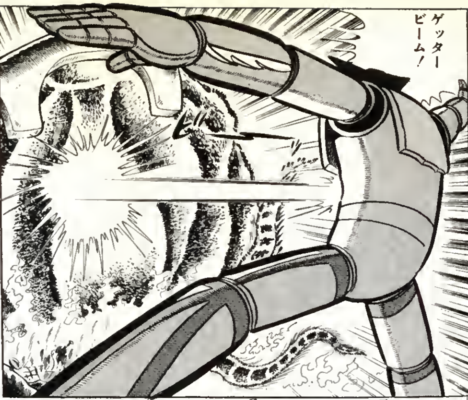
を読者に見せつけつつ、続いて登場するゲッター第2の男・神隼人ことハヤトは、それ以上のインパクトをもって我々の前に姿を現わした。幽気漂う殺人鬼という風貌で登場したハヤトは、遊び半分で組織に参画した後輩の——顔の皮をはぎ、両目をつぶし、鼻をひきちぎり……「ひ、ヒドい！」のひと言!! リョウ、ハヤト——ここまでダーティーなヒーローイメージは、同じダイナミックプロ出身で〝不良〟と言われた不動明（『デビルマン』）、兜甲児（『マジンガーZ』）を凌駕してあまりある凄絶さを誌面いっぱいに湛えていた。

この二人に、「ゲッターロボ」にとりつかれたゲッター第3の男・巴武蔵ことムサシの狂気が加わって三位一体となった結果——〝狂気のロボット漫画〟が誕生したのだった。そして——この3つの狂気を引っ張っていたのが本編最大の〝狂える魂〟＝流竜馬をおいて他にないのである……。

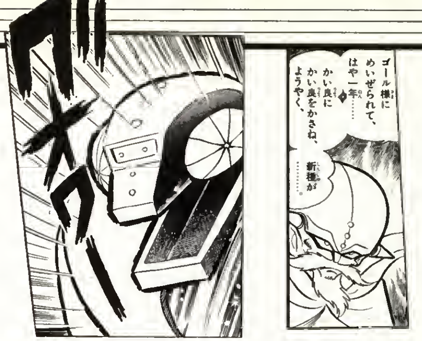
と——まァ、かように自らの思いのたけをいちいち挙げつらって書きつづっていきたいところだが、商業誌は時間と金とページの闘い。個人的な思い入れはこれくらいにしておこう。

あとは読者諸兄個人個人の思い入れに委ねることとして、以降はDATA的な部分を補完していこうと思う。

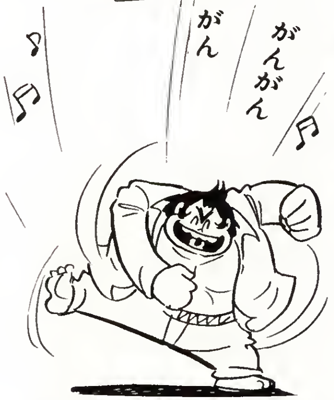
『ゲッターロボ』タイトルでの連載は『週刊少年サンデー』74年15号〜75年21号まで。通算56回。75年6号より「待望の第二部 好調に開始!!」と扉ページのコピーに銘打って第二部がスタート。展開的には、ちょうど単行本における「百鬼帝国の陰謀」編以降がそれにあたる。テレビより先駆けること早3か月……ゲッタードラゴンがシルエットで登場。



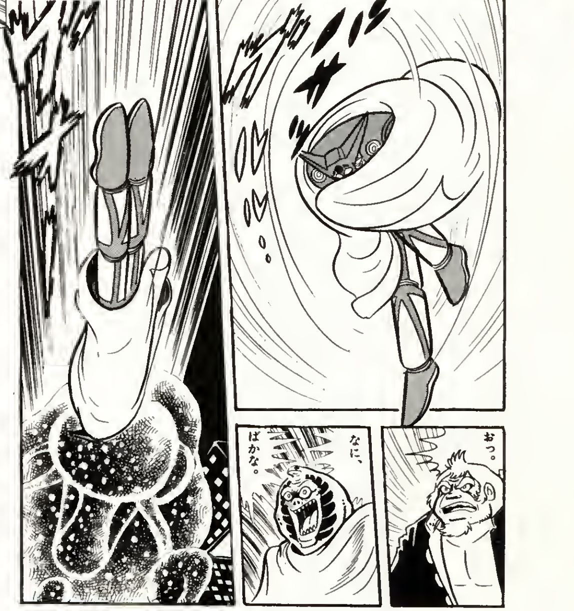
ポーズのカッコよさも原作版の魅力のひとつ。このゲッタービーム発射のポーズに何十、何百万人もの小学生男児がシビれたことか!?







束の間の平和、ムサシの熱唱シーン



翌週にはグラー博士も姿を現している。

リアルタイムで体感していた読者には、『テレマガ』の「マジンガーズクラブ」の会員証で初のお目見えとなった「グレートマジンガー」に匹敵するほどのインパクトを与えられることとなった。

ここで、単行本収録時に改編が加えられた箇所について現在、確認されている範囲で記述してみよう。

●「プロローグ　過去よりの侵略」。この章は『ゲッターロボ』初の単行本レーベル「てんとう虫コミックス」収録時のまるまる描き下ろし。名もなき巨大ハ虫類に噛み砕かれながらも啖呵をきる姿が最高にカッコいい〝風巻博士〟は、石川賢の持ちキャラのひとり。

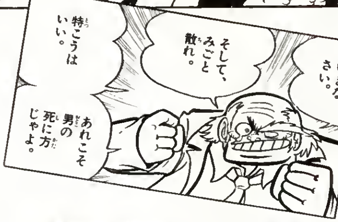
●「ゲッター1登場」。ゲッター1VSメカザウルス（アニメ版では〝ギギ〟として登場）の死闘の際、ゲッタートマホークでメカザウルスを切り裂くゲッター1の見開きページが加筆された。

●「地底魔王ゴール」。メカザウルスの触手に動きを封じられたゲッター1が、ゲッター2にチェンジして窮地を脱するシーンがまるまる加筆。『週刊少年サンデー』連載時は、分離してそのままゲッター1に合体！　ゲッタービームでとどめを刺すシーンへとつながる。

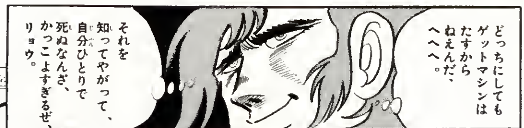
●「恐怖のゲッターロボ壊滅作戦」。連載時は、博士になりすましてベアー号を操縦するムサシが「ゲッター3でいくでえ」と叫んで「つづく」。次号の扉でいま一度「ゲッター3、ゆくぞー!!」と叫んで





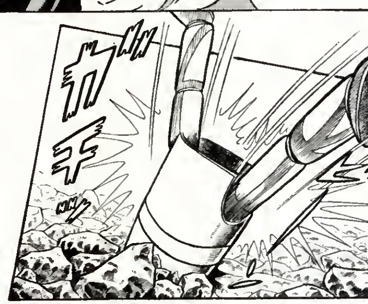


一部（？）マニアにやたら人気の高い敷島博士。彼も真・ゲッター暴走時にゲッター線を浴びて"超人類"に進化してしまったのだろうか？　だとしたら……





しいたげられし者の哀愁を感じさせるキャプテン・ニオン。しかし、その夢もゲッターの偉大なる力の前にはかなく消える……







いるのだが、さすがにくどいと思ったのか、単行本収録時にはカット。

●同じく「恐怖のゲッターロボ壊滅作戦」。連載時、VSクラゲの特攻戦にて、ゲッター1が「ゲッターウィング！」と叫んだところで「つづく」。次号の扉でもう一度「ゲッターウィング!!」と叫んでいるのだが、さすがにくどいと思ったのか、単行本収録時にはカット。

●「恐怖の大タツマキ」。ゲッター1VSゴール要塞（？）のシーン中、ゲッター1がメカザウルスモバにゲッタービームを放つ見開きがまるまるカット。連載時、このシーン"扉"扱いだったので、本著のページに掲載されている。ご確認されたし。

以上が『ゲッターロボ』編における単行本収録時の改編ポイントである。現在発売中の大都社版の単行本もこの「てんとう虫コミックス」版に準拠しているため改編ポイントは同じままとなっている。

と——ここまでご覧頂いてすでにお気づきの方も多いと思うが……そう、本稿ではいささか強引とは思いながらも『ゲッターロボ』編の終了を、第一部——つまり「恐怖の大タツマキ」とさせて頂いた。従って、「百鬼帝国の陰謀」以降については111ページからの「ゲッタードラゴン登場！」にて解説させて頂く。

最後に——『ゲッターロボ』編の原作とアニメの相違点をピックアップしよう——と思ったのだが、あまりにも違いすぎるため、それだけで1冊の本が出来てしまう危険性すらはらんでいることに気がつ







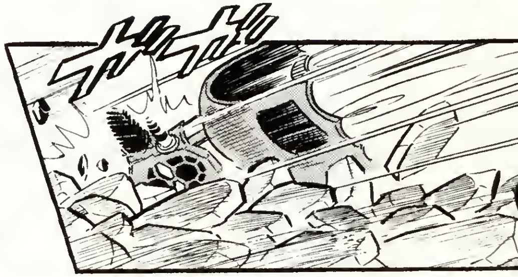


本作には珍しいラブコメっぽいシーン。なお、当時の『サンデー』の扉絵横の柱には「ミチルをめぐってライバル同士のリョウとムサシ。はたして、この勝負は……？」とあったが、なんか違うような……

ダイナミックプロ側の考えとしては、これで「リョウ一巻の終わり」となるはずだったが……







き、やめにした。そこで逆に、アニメ版との数少ないミッシングリンクを幾つか箇条書きにして本稿の終了とさせて頂く。

キャラクターについて

●ミチルの兄・達人の死。その経緯は大いに異なるものの、いずれもハ虫人類（恐竜帝国）の手で惨殺される。え？　原作は〝早乙女博士の手〟でだって？　細かいこと言わないの！

●ムサシの死。やはりその経緯は大いに違うが、共にリョウ、ハヤトに人類の未来を託してひと足先に逝く。ただ、アニメ版のムサシの死に関しては、多分に偶発的な要素が大きい。

●バット将軍。原作の「地底魔王ゴール」編にて、ゴールの右横にひかえる幾多の幹部達のいちばんバックにシルエットで登場。これが原作版における初登場シーン。以降「恐怖のゲッターロボ壊滅作戦」に1コマのみ出演。「地リュウ一族」にて初めてセリフをもらえた。それ以降のカッコよさについてはご承知のとおり。

●ガレリィ長官。このキャラクターと早乙女元気のみ、ほぼアニメ版と同じ性格づけをなされていた。ただし原作版ではバット同様、死亡は確認されていない。

●地リュウ族。原作にもアニメにも登場。ただし、キャプテン・ニオンに該当するキャラクターはアニメには登場せず。





連載当時、『ゲッター』を愛していた誰もが衝撃を受けたこのシーン。暗雲たちこめる早乙女研究所の未来に、勉強も手につかない子供も多かったとか？

原作版『ゲッターロボ』COMICリスト

章	サブタイトル	登場メカザウルス＆恐竜	登場キャプテン
プロローグ	過去よりの挑戦	三ツ首恐竜	
PART 1	人間狩り		
PART 2	イモリ地獄の恐怖	イモリ軍団、プテラノドン３匹、大海ヘビ	
PART 3	ハヤトの校舎		トカゲ型２体、カメレオン型１体
PART 4	ゲッター１登場	メカザウルス（名称不明）	〃　〃
PART 5	地底魔王ゴール	ゴール戦艦、メカザウルスジガ	名称不明キャプテン軍団
PART 6	大雪山に地獄を見た	メカザウルスドバ、ギロ、バル、ボア	キャプテンランバ
PART 7	恐怖のゲッターロボ壊滅作戦	クラゲ、クラゲ収納メカザウルス	
PART 8	地リュウ一族	メカザウルスラド	キャプテンニオン、デラ、ガロ、名称不明２体
PART 9	恐怖の大タツマキ	メカザウルスモバ、ゴール要塞、メカ・タイフーン	

ゲッターロボについて

●ゲッター1の顔の〝亀甲もよう〟、〝布のようにしなる〟ゲッターウィング以外は、原作もアニメもほぼ同じ。

早乙女研究所

●デザインも設備もほぼ同じ。〝バリヤー〟も〝ナバロン砲〟も装備されている。

メカザウルスについて

●〝メカザウルス〟という呼称は同じ。原作版とアニメ版共通のメカザウルスは、ギロ、ギラ、ギギ、ブル、ゴダの5体。特にギギは、記念すべき原作版におけるメカザウルス第1号の栄冠に輝いた。それぞれデザインは微妙に異なる。名前が同じなのは〝ギロ〟のみ。原作版では、ギギは名前は登場せず。ゴダは〝ジガ〟、ブルは〝バル〟、ギラは〝ラド〟。

展開について

●百鬼帝国の登場。これは『ゲッターロボ』が〝メディアミックス〟という顔を持ち併せている関係上、仕方がない。

だいたい大まかに分ければこんな感じか。他にもまだ探せば出てくるとは思うが、残りは各自、発売中の単行本でご確認されたし。

『ゲッターロボ』『ゲッターロボG』『ゲッターロボ號』

全単行本一覧

記念すべき単行本第1弾「てんとう虫コミックス」から現在絶賛発売中の「St comics」まで、『ゲッター』シリーズの単行本を総ざらえ。『デビルマン』『マジンガーZ』ほどのヴァリエーションはないにせよ、ひとつの作品が連綿と店頭に並び続けているのはやはり偉大なことである

ALL COMICS LIST OF GETTER ROBOT

てんとう虫コミックス

「ゲッターロボ」が、「ドラえもん」「てんとう虫の歌」と並ぶ小学館「てんとう虫コミックス」の記念すべき第1回刊行分のラインナップのひとつであった事実はあまり知られていない。他の2作品に比べるとやはり異色ではあった。装丁デザインが素晴らしいので、ぜひ完全復刻をお願いしたいところだ



第1巻　74年10月1日初版



第2巻　74年11月1日初版



第3巻　75年1月1日初版



第4巻　75年8月1日初版

STAR COMICS

てんとう虫コミックスとサンデーコミックスが書店の棚から姿を消したころに刊行されてファンを狂喜させたのが大都社「St COMICS」だ。『ゲッターロボ』の統一タイトルで両作品を一挙に収録している



第1巻　85年9月30日初版



第2巻　85年9月30日初版



第3巻　85年10月30日初版



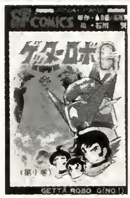
第4巻　85年10月30日初版



第5巻　85年11月30日初版

サンデーコミックス

住み分け的に刊行された秋田書店「サンデーコミックス」の『ゲッターロボG』全3巻。てんとう虫コミックスの5巻目以降が発売されずに悶々としていた少年たちの眼前に燦然と現れた待望の刊行だった



第1巻　75年12月30日初版



第2巻　76年2月15日初版



第3巻　76年6月25日初版

St comics

そして、現在発売中のレーベルが大都社「StCOMICS」の新装版『ゲッターロボ（&G）』全3巻と、『ゲッターロボ號』全4巻だ。もう10年以上も『ゲッターロボ』をフォローし続けてくれている大都社さんに多謝だ



第1巻　90年7月10日初版


第2巻　90年7月10日初版


第3巻　90年8月10日初版


第1巻　96年10月10日初版


第2巻　96年10月10日初版


第3巻　96年11月10日初版


第4巻　96年11月10日初版

SC COMICS

「もう『ゲッター』の続きは読めない」と諦めていた矢先に登場した『ゲッターロボ號』の単行本は、徳間書店「少年キャプテンコミックス」から発売された。カヴァー絵の半分近くを飾っているのが「真・ゲッター」であるあたり思わずニヤリとさせられる


第1巻　91年7月15日初版


第2巻　91年12月20日初版


第3巻　92年3月20日初版


第4巻　92年10月20日初版


第5巻　93年2月20日初版

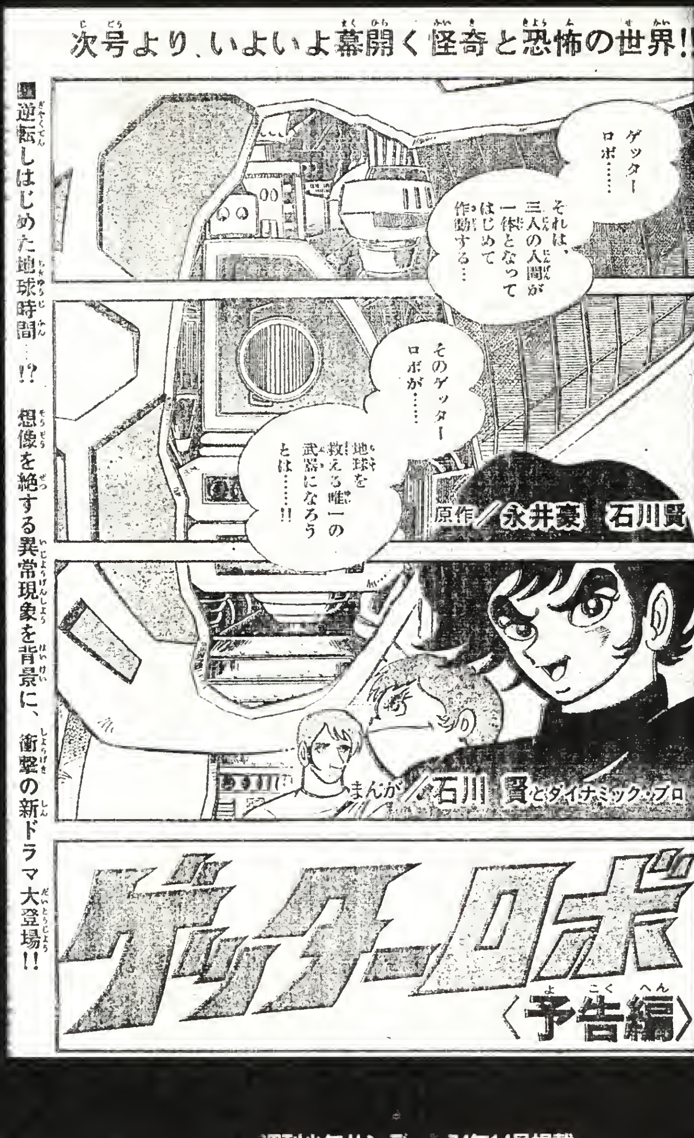

第6巻　93年4月20日初版


第7巻　93年6月20日初版

幻の予告編COMIC再録!!

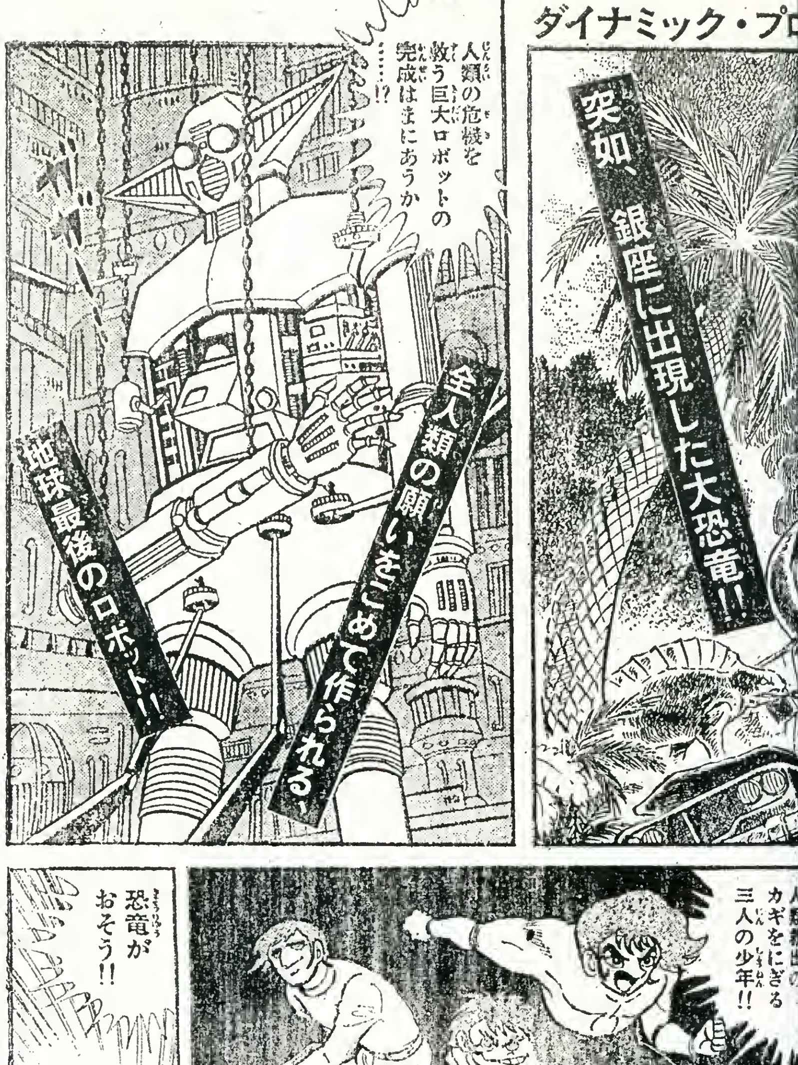
MABOROSHI

以下に再録する4ページの漫画は『ゲッターロボ』連載開始の1週間前に、『週刊少年サンデー』誌上に掲載された「予告編」漫画である。実際の作品とは微妙に雰囲気が違っていて面白い。原稿が未発見に終わり、印刷物よりの復刻となったため一部見辛い箇所もあると思うが、掲載時の雰囲気を堪能して頂ければ幸いである。



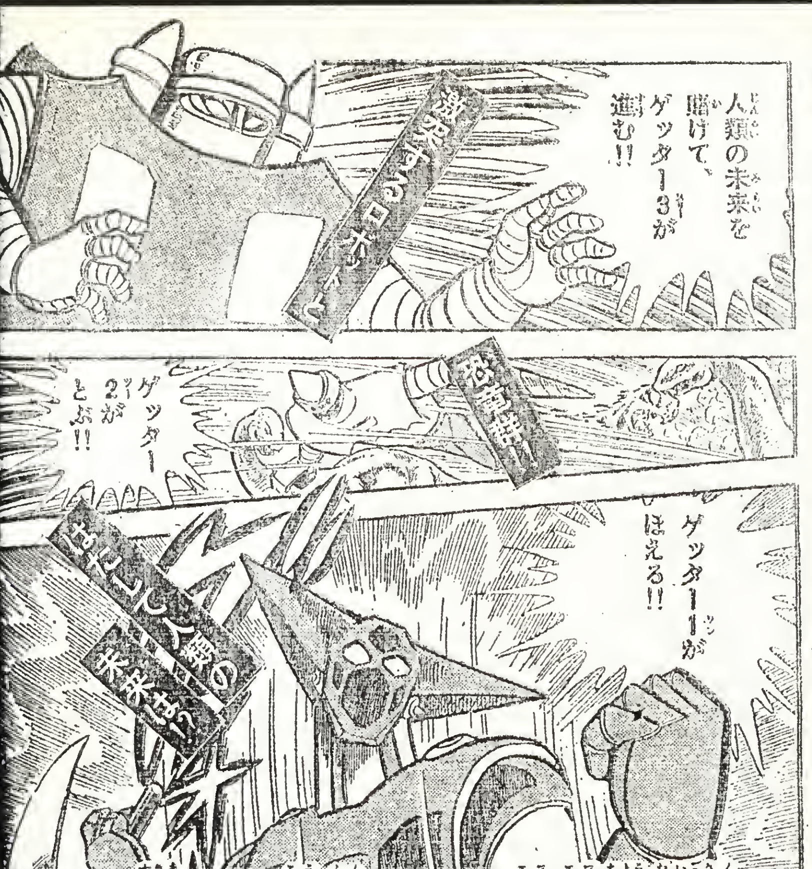
『週刊少年サンデー』74年14号掲載


が総力をあげて贈るＳＦ超大作!!
逆転しはじめた地球時間！地球は太古へ!!
気候も!!
植物も!!
大衝撃!!
日本をおそった異常気象!!
このままゆけば、人類は絶滅する!!
▲人類絶滅を予言する狂気の科学者 早乙女博士!
地球にしのびよる侵略の影……!!
人類は絶滅するのか!?



■『ゲッターロボ』は、4月4日（木）夜7時よりフジテレビ系にて放映されます。

■話題のSF超大作、いよいよ来週より登場!!『ゲッターロボ』にご期待ください!!



幻の扉ページ再録！ PART-1

MABOROSHI

以下に再録する『ゲッターロボ』の扉ページは、『週刊少年サンデー』誌上に連載されていた時のものである。一部単行本に収録されているものもあるが、その大半は未収録のままいまや遅しと陽の目を見る機会を待ち続けているのが現状だ。そこで今回、連載時の興奮を呼び覚ますなによりの資料として、それら扉絵を一堂に会して復刻掲載する。連載当時の熱気を思い出す“引き金”になれば幸いである。



74年15号



74年19号



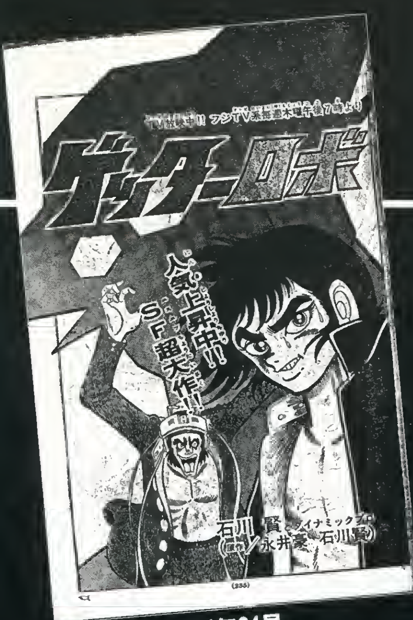
74年18号



74年17号



74年16号



74年24号



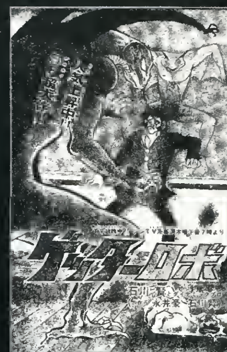
74年21号



74年20号



74年25号



74年22/23号



74年28号



74年27号



74年30号



74年29号



74年26号



74年33号



74年31号



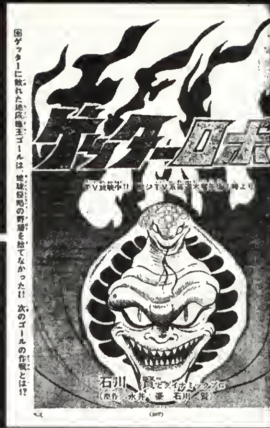
74年34号



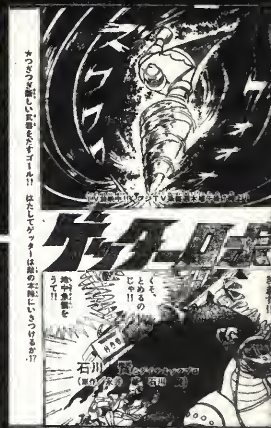
74年32号



74年39号



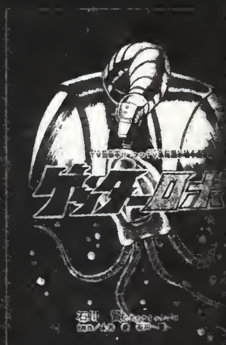
74年36号



74年35号



74年38号



74年37号



74年42号



74年41号



74年40号



74年47号



74年43号



74年44号



74年46号



74年45号



74年48号



75年 1 号



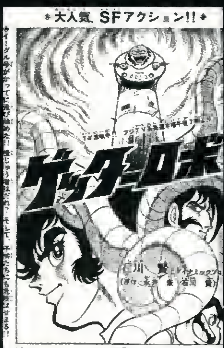
74年50号



74年49号



75年 2 号



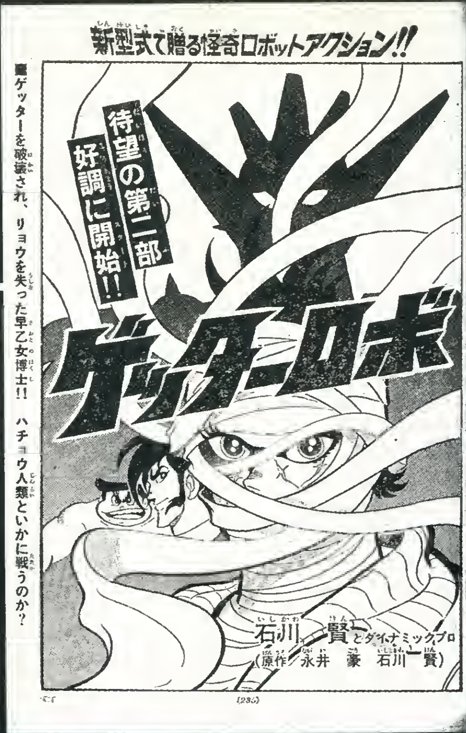
74年52号



74年51号



74年53号



75年６号



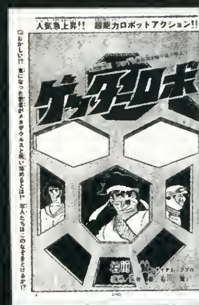
75年８号



75年７号



75年10号



75年９号



75年12号



75年11号



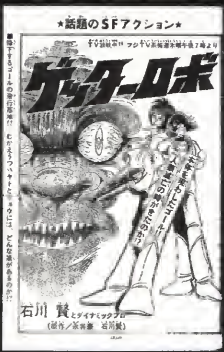
75年14号



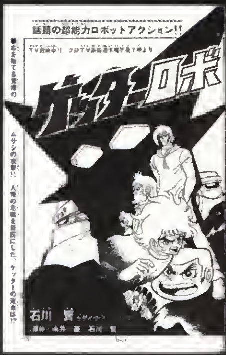
75年13号



75年16号



75年17号



75年15号



75年20号



75年19号



75年18号

スーパーロボット大戦コミックの世界

NOW ON GETTER ROBOT 1

大久保一光

ゲームソフトで広く、熱烈な支持を受けた“スパロボ”。そのアンソロジー・コミックとして双葉社より出版されたのが「スーパーロボット大戦コミック」（以下、“スパロボ・コミック”と略させて頂く）である。「第4次S」のコミカライズを皮切りにゲームソフトの発売から少しのインターバルを置く形で順次発売され、現在までに計4冊が刊行されている。中でも、原作者である石川賢自ら描き下ろした新作『ゲッターロボ』の存在は見のがせない！　ファンなら血沸き肉踊り、歓喜にむせぶ展開に魅了されてやまないことだろう（ほか著名漫画家たちの入魂の描き下ろしも素晴らしいのだが）。ここでは、“スパロボ・コミック”シリーズで展開された“新ゲッターロボ・ワールド”から、「真ゲッター」の始動と活躍を描いた4部作を紹介することにしよう。

●ゲッターロボvsゲッターロボG

復活したゲッターの記念すべき第1作は、往年の「劇場版マジンガー・シリーズ」を彷彿とさせる旧ゲッターvsゲッターG、夢の対決で幕を開けた。

恐竜帝国の生き残り、特殊部隊がゲッターGを奪い去り、ゲッターチームに迫る。リョウ、ハヤト、ベンケイの3人は博物館に保管されていた旧ゲッターで、迫りくるGに立ち向かった……！

（96年8月1日初版）



●真ゲッターロボ　新たなる戦い

「ゲッター！」史上で空白となっていた「真ゲッター」の初陣が描かれた記念すべき作品。冒頭のゲッター1&ドラゴンの新武装もさることながら、ゲットマシンに分離する真ゲッターなどなど、ファンの興味をそそるシーンが盛り沢山だ。

地球に迫る謎の巨大隕石群。それは未知なる者の手によって、復活を果たしたブライ大帝と百鬼獣軍団であった。これに唯一対抗し得るもの、それは完成したばかりの真ゲッターだけなのだ！

（97年6月28日初版）



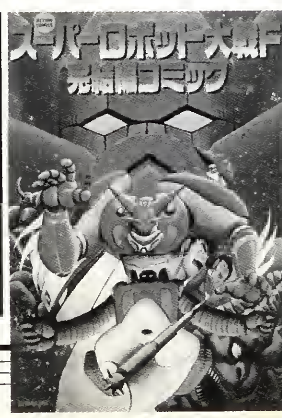
●真ゲッターロボ・ファーストコンタクト

物語は前回から引き続き、今回はついに新たな敵が登場し、本格的なストーリー展開を魅せる……！

宇宙の彼方から飛来し、地球人に警告する未知の生命体。意志を持ち、巨大なメカ昆虫のごとき姿をした敵を迎撃するため、大空に翔び立つ真ゲッター！　しかし、敵はゲッターのいない早乙女研究所を襲撃してきた。敵の正体は？　そしてその目的は何か……!?

（98年1月15日初版）





●真ゲッターロボ・ファーストコンタクトactII

“スパロボ・コミック”も「F完結編」をもってとりあえず終了（?）。気になる「真ゲッター!シリーズ」のラストは!?

セミのような形態の敵&尖兵を撃破した真ゲッター。だが、その前に巨大な亜空間が出現する！　その空間に突入した真ゲッターは侵略者の正体を見た！　そして、研究所を守るためドラゴンの増幅機を暴走させたベンケイの運命は……!?

（98年9月8日初版）

いささか駆け足で“スパロボ・コミック”の紹介をさせて頂いたが、詳細はぜひとも一読してあなた自身の目で確かめてほしい。ゲームと共にとりあえずの完結となった“スパロボ・コミック”。なんらかの新たな展開はあるのだろうか!?　そして、真ゲッターの運命やいかに……？

アクションフィギュアワールド

浪曼堂

アクションストーンの世界

スーパーロボットのフルアクションフィギュアにこだわりを見せる浪曼堂。マニアックなラインナップと自社生産の複合素材・ポリストーンを使用した「アクションストーン」シリーズで注目を集め、ゲッターロボはその主力作品となっている。これはボディーパーツにボールジョイントをはめこむだけでOK！　という塗装済み半完成品で、お手軽さといわゆる1／144サイズ、オモチャ感覚、重量感が魅力的だ。

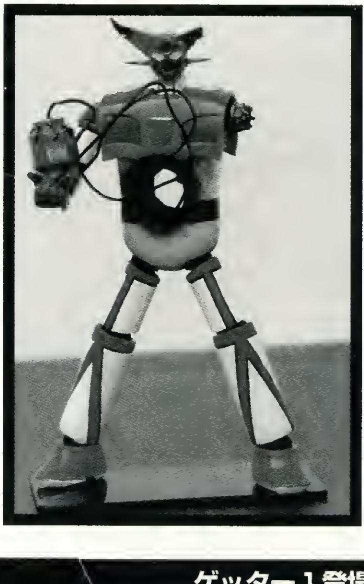
連絡先
〒341－0044
埼玉県三郷市戸ヶ崎1－165
浪曼堂
TEL 0489-52-8314



■アクションストーンNo.1「原作版ゲッター1」¥6.300
ゲッタートマホーク、ゲッターウイング　付属
原作ファンが狂喜したという、フルアクション・シリーズの記念すべき第一作。残念ながら現在、品切中



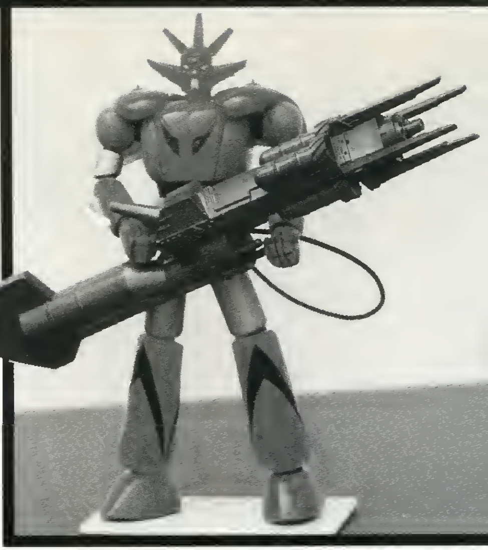
■アクションストーンNo.2「TV版ゲッター1」¥6.500
ゲッタートマホーク、ゲッターウイング　付属
こちらはTVアニメ版のゲッター1。ちなみに塗り替えで、イベント限定として「プロト・ゲッター1」（第1話に登場した）が販売された。プロト・タイプは絶版だが、ノーマル版は現在も取扱中



■アクションストーンNo.4「ラスト・ゲッター」¥8、800
ゲッタートマホーク、ゲッターウイング、ゲッター線反応炉、ジャベリンロケット頭部、同・ブースター、破損パーツ、動力パイプ　付属
ムサシが多数のメカザウルスを道連れに自爆した、原作の名場面を再現したファン感涙のクラッシュ・バージョン。現在も取扱中



■アクションストーンNo.7「真・ゲッター1」¥9、800
ウイング、真・ゲッタートマホーク　付属
とにかくボリュームがスゴイ！　原作版ゲッター1より二回り以上もデカイ!!　このデキでフルアクションてのは驚きだ。アクションストーン・シリーズでは最新作、現在も取扱中



■アクションストーンNo.5「ゲッタードラゴン」¥9.800
ダブルトマホーク、マッハウイング、ゲッターレーザーキャノン、動力チューブ、ドラゴン号機首　付属
合体途中の再現ができるドラゴン号機首、また双葉社『新スーパーロボット大戦コミック』に登場したレーザーキャノンつきという凝った内容には脱帽。こちらも好評発売中



■キャストキット「真・ゲッター2」¥7、000
未塗装、未加工プラキャスト製品
こちらは夏のイベントで先行発売されたフルアクション・キャストキット。ドリルが凄くカッチョイイっす。好評ならアクションストーン・シリーズに加えてくれるそうなので、みんなでリクエストしよう！　（ところで原作版のゲッター2、3も欲しいんですが……）



■人類の足跡「早乙女ゲッター線研究所」¥8.800
塗装済みキット、インジェクションパーツ多数、ミニ・ゲットマシン　付属



■胸像シリーズ
「早乙女博士」未発売
胸像シリーズ第三弾として用意されていたもの。あの髪型をダイナミック企画と相談して完成させたという至上の逸品！……ながら、惜しくも現在のところ発売の予定はない

夢工房宝島

ガレージキットの世界



■原作版ゲッターロボ「一閃」¥6.800
原型：殿手　東
原作「恐怖のゲッターロボ撃滅作戦」の1コマをモティーフにしたモデル。在庫少数

ゲッター・アイテムに関しては、原作コミックを重視したフィギュアが目白押しの『夢工房宝島』。完全固定のキャストモデルでそろえられたラインナップで、中でも「魔王鬼の挑戦」や「一撃」などは原作ファンにはトリハダものの迫力だ！

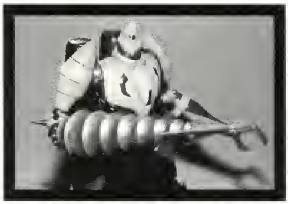
連絡先
〒565　大阪府吹田市長野西14－3
夢工房　宝島
TEL　06－877－8823
火曜定休



■原作版ゲッターロボⅡ「一撃」¥6.500
原型：殿手　東
ゲッター2vsギロというシブさの際だった作品。こちらも在庫少数



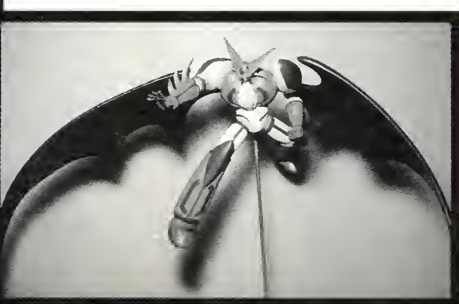
■原作版ゲッターロボ「魔王鬼の挑戦」¥13.500
原型：時田喬次
魔王鬼と同スケールのクラッシュ・ドラゴン＆ライガー付属。魔王鬼vsゲッターロボGを完全再現！在庫少数



■石川賢描き下ろし版「真ゲッター2」
¥9.800　原型：時田喬次
目つきと憮然とした雰囲気が激似！　在庫少数とのこと



■原作版ゲッターポセイドン
原型：時田喬次
なんとコレは「魔王鬼の挑戦」のおまけモデルなのだ。ドラゴン、ライガーと同スケールで通販購入者のみの特典商品!!



■アニメ版「真ゲッター1」¥8、000
原型：田中　雷
最新作はO、V、A版設定でいち早く立体化した真ゲッター1だ！

ステルス

田中雷 工房

こちらは『夢工房宝島』の原型師、田中雷氏の個人サークル。田中氏の作品は、まずこちらで販売し、人気モデルは『夢工房宝島』で増量生産されるとのことである。

〒566　大阪府摂津市正雀3－19－17
ステルス　田中雷工房
TEL　06－382－9117

GETTER ROBOT



地底魔王ゴール

アニメ版ゲッターロボの世界

テレビアニメ版ゲッターロボの世界

岩佐陽一

1974年4月4日――本邦ロボットアニメは新たなステップを迎えた。キーワードは「合体・変形」である。

72年、フジテレビ系にてオンエアがスタートした『マジンガーZ』が、隆盛を極めていた〝実写変身ヒーローもの〟に替わる形で児童層に浸透。その人気がピークに達していた74年――「人が操縦して動かす巨大ロボット」というマジンガーZのコンセプトをさらに一歩……どころか二歩も三歩も押し進めた1機の――否、3機のスーパーロボットが我々の前に現れた。その名は「ゲッターロボ」。

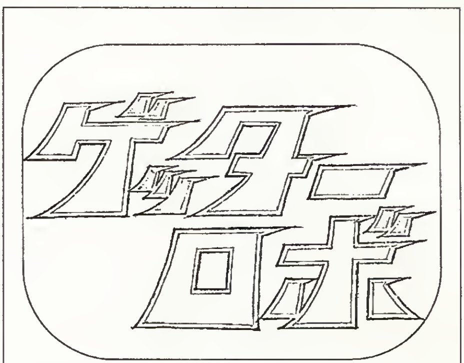
〝3機の戦闘マシーンが「合体・変形」して空・陸・海、3タイプのスーパーロボットが誕生する〟という画期的なアイディアを引っさげて鬼神のごとく登場したその勇姿を目の当たりにした瞬間、ブラウン管の前の我々の体をはかり知れぬ〝衝撃〟が貫いた――それが〝ゲッター〟だった。

『マジンガーZ』にて打ち出された〝(操縦塔である)ホバー(ジェット)パイルダーがZに「合体」する〟というコンセプトの発展型ともとらえられるその斬新なアイディアは、しかし、いきなり第2段、3段以上の飛躍をみることとなった。「3機による合体・変形」――そのコンセプトがあまりにも画期的すぎたゆえに、いまだそれを超えるアイディアを有するロボットが生み出され得ぬ事態を招いてしまったほどだ。

さて――本作の準備期間は決して潤沢なものではなかったという。永井（隆）氏と団氏の対談内容でもおわかり頂けることと思うが、事実上の製作スタートが74年の1月初頭。わずか3か月後には完パケ（テレビオンエア用完成フィルム）に仕上げなくてはならない――いまでもアニメーションの製作現場はゆとりあるものではないが、それでもキャラクター創りからスタートするとなるとかなりタイトなスケジュールであったことは想像に難くない。とはいえ、東映動画的にもかなり力が入れられた企画である本作は、強力なスタッフ布陣が組まれることとなった。

プロデューサーを担当した勝田（稔男）氏は、同じ永井豪&ダイナミックプロ原作作品『キューティーハニー』（73年）でプロデューサーデビュー。自他共に認める〝永井豪ファン〟でもある氏は、ダイナミック作品のツボのおさえ方には定評があり、本作でもその手腕をいかんなく発揮。それは『UFOロボ　グレンダイザー』（75年）へと受け継がれていく。

演出は初期のみ勝間田（具治）氏が担当。小湊洋一氏がその後を受け継ぐ形となった。企画段階で勝間田氏が提示した作品世界を、小湊氏が見事に昇華していった。

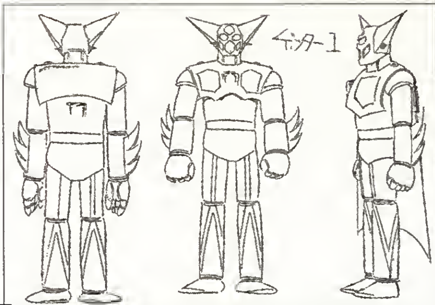


『ゲッターロボ』のタイトルロゴ。このロゴを目にした瞬間、頭の中に“菊池節”が高鳴る方も多いはず

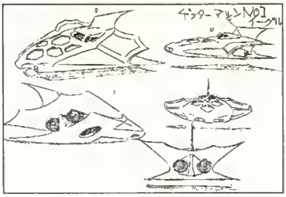
第1話の脚本は、アニメ作品としてはこれが2作目となる上原正三氏が担当。円谷プロの『ウルトラ』シリーズや『柔道一直線』（69年）などで〝若者たちのドラマ〟を描いた直後だけに、その資質は本作の世界観に見事にマッチ。あくまでも「ロボットアニメ」の世界観を崩すことなく、主人公3人の〝青春グラフィティ〟を描破することに成功した。

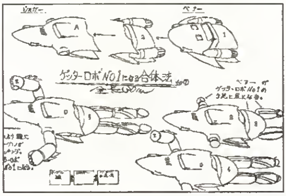
その跡を継ぐ形で参加したベテラン中のベテラン、雪室俊一氏、田村多津夫氏らもその世界観を損なうことなく――どころか、さらなる世界観の飛躍をはかった――幾多の傑作を輩出していった。特に田村氏の活躍は目覚ましく、氏は次作『ゲッターロボG』にて事実上のメインライターの役割を担うようになる。やがて、原作漫画も『週刊少年サンデー』（小学館）誌上で連載されることが決まり、急転直下の製作ではあったものの、本作は順風満帆なスタート

ゲッター1



全長38メートル。重量220トン。格闘バランスの優れた空中戦タイプ。ゲッタートマホークとゲッタービームが武器

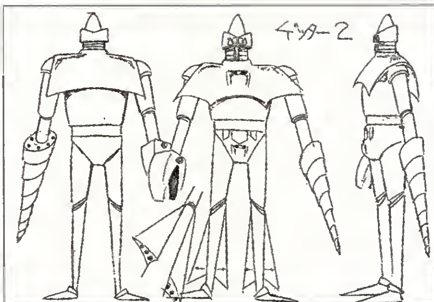




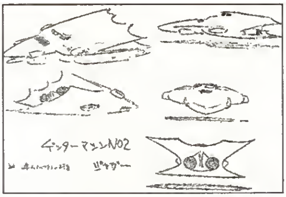
イーグル号
全長13メートル。重量80トン。運動性の高い機体

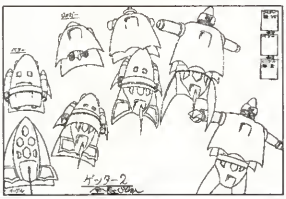
変形
耳のツノが起きあがるカットが印象的だった

ゲッター2



全長38メートル。重量200トン。機動性に優れた陸戦タイプ。ゲッタービジョン、ゲッタードリルなどが武器

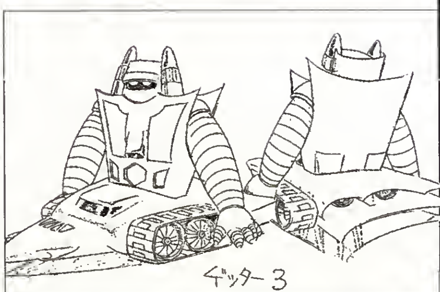




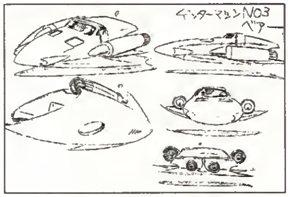
ジャガー号
全長15メートル。重量80トン。空力性に優れる

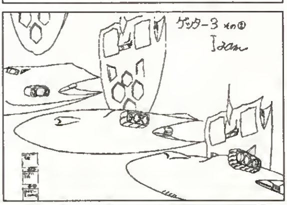
変形
1、3に比べ、シャープなフォルムで描かれている

ゲッター3



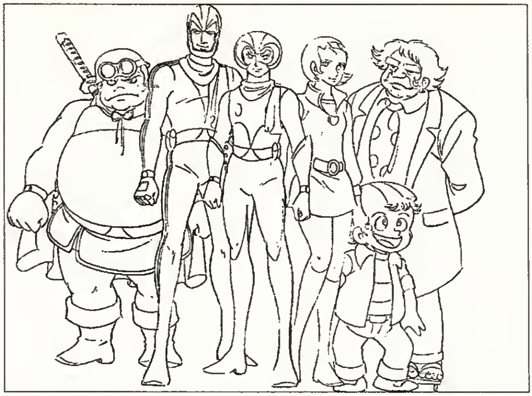
全長20メートル。重量250トン。パワーに秀でた海戦タイプ。武器は両肩のゲッターミサイルと必殺の「大雪山おろし」





ベアー号
全長12メートル。重量90トン。安定感のある機体

変形
1、2の変形とはひと味違う変形パターンを有する



『ゲッターロボ』のキャラクター対比図。余談だが、スーツはリョウ（とミチル）のみが研究所のものを着用

を切ることができた。

原作とアニメーションのいちばんの相違点は、主役メカである「ゲッターロボ」の誕生背景であろう。原作では〝純粋にハ虫人類と戦うために創られた戦闘マシーン〟であったのに対し、テレビアニメでは〝本来は「宇宙開発用」に製作されたものの、偶然そこに恐竜帝国が攻めてきたためにやむなく戦闘用に改造〟――という設定にアレンジされ、その戦いが〝不本意な〟ものであることを印象づけた。テレビというメディアを鑑みた場合、当然のアレンジではあるが、そのことが逆にアニメ作品に〝独自のカラー〟を与えることとなった。それはすなわち、作品全体に漂う〝反戦作品としてのムード〟である。スタッフ全体の意識にもそれは統一がはかられていたようで、ある意味『マジンガーZ』以上に〝戦争もの〟としての色合いが濃くなっている。

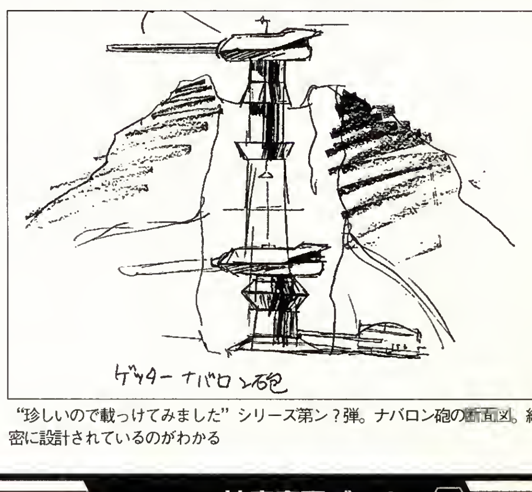
その結果――戦いを通じて育まれた〝心の絆〟が、戦いによって踏みにじられるまでを描いた第9話「栄光のキャプテンラドラ」や、早乙女博士の妻・和子が自身の戦争体験を語る第20話「大空襲！突然の恐怖」など、印象的なエピソードを輩出するに至った。特に、第20話は勝田氏が「戦争を知る者として、その悲惨さを作品を通じて子供たちに伝える義務がある」とのポリシーから「終戦記念日」に合わせて製作されたという背景をもっており、当時のアニメ製作スタッフたちの志の高さがうかがえる逸話となっている。

なお、勝田氏は後の『惑星ロボ　ダンガードA』（77年）でも同様の試みを実践。やはり富田耕生氏演じる大江戸博士に戦争体験を語らせていた。

ストーリー的には、初期1クールを費やしてリョウ、ハヤト、ムサシ3人のキャラクターを描きこんだ後、次のステップとして今度は主役3人とゲストキャラクターの〝からみ〟が生むドラマを追及。前述のキャプテンラドラをはじめ、女竜戦士ユンケ、メカザウルスウル、キャプテンザンキ、ゲッターQ（クイーン）、地竜一族、氷竜一族etc．といった印象的なキャラクターを次々に輩出していった。なかでも白眉は、アメリカからやって来たロボット・テキサスマックであろう。たった1回の登場ながら根強い人気を誇る本キャラクターは、ファミコンゲーム「スーパーロボット大戦」にも堂々の参戦を果たすこととなった。

そして2クール目に突入した段階で、番組の〝強化案〟が提示された。新キャラクターである大枯文次及び大魔人ユラーの登場である。完成作品でも実践されたそれは、しかし、番組のステップUPにつながったとは言い難い。

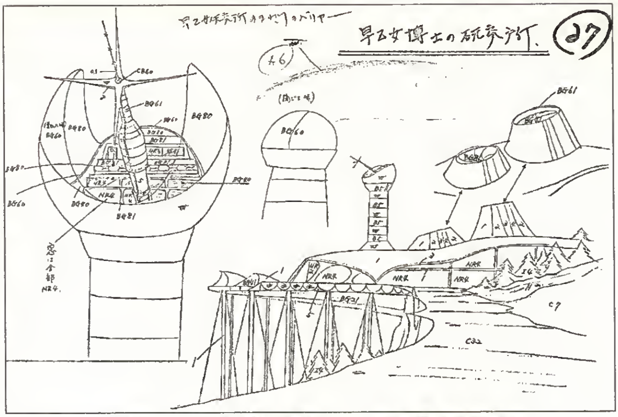
スポンサーであるポピー（現・バンダイ）から発売された「超合金」をはじめとする関連アイテムの売り上げも好調。マーチャンダイズ的にも成功をおさめ、視聴率も平均16％台と好成績をキープ。数字的な実績を築き挙げた本作は、資本主義の論理にのっとり半ば当然のごとく――約1年と1か月のオンエアをまっとうした後、衝撃的な最終回を経て次なる局面へと突入することとなったのである。



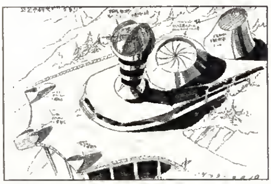
“珍しいので載っけてみました”シリーズ第ン？弾。ナバロン砲の断面図。綿密に設計されているのがわかる

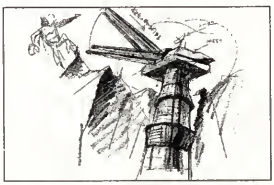
これが早乙女研究所のすべてだ!!

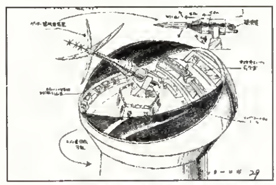
早乙女博士がゲッター線を研究、開発するために建設したものである。博士は長年の研究成果のひとつとして、ゲッター線を利用した惑星開発用ロボット・ゲッターロボを開発。しかし、ゲッター線を苦手とする恐竜帝国の攻撃を受け、研究所はやむなく恐竜帝国との激しい戦いに身をさらすこととなる。それまで民間施設であった早乙女研究所には、当初これといった武装は施されておらず、実戦を重ねながらバリヤーやナバロン砲などを増設していった。



エンディングでお馴染みの研究所・側面全景とゲッター線収集塔の設定画

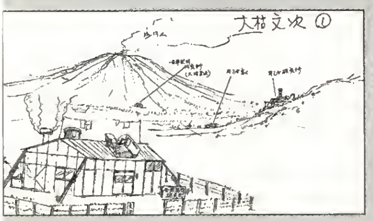

研究所・俯瞰。中央に位置しているのがコマンドマシンの発進口だ。ときとして、ゲットマシンも着陸に使用する

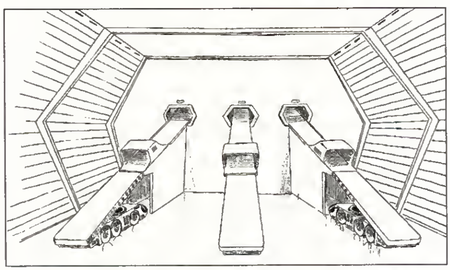

ゲッター・ナバロン砲。研究所の攻撃の要として第34話より登場。地下からの攻撃には意外にもろい

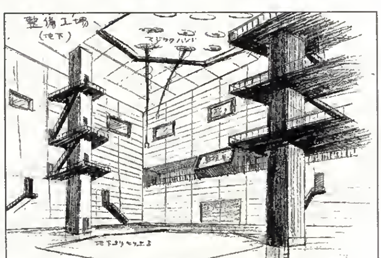

ゲッター線収集装置。途中で、収集性能の向上した改良型に換装された。バリヤー発生装置も設置されている

これが世界発明研究所だ!

自称天才発明家・大枯文次の研究所兼自宅。文次の発明品はすべて、この研究所内で製作されている。文次が尊敬する国定忠治からご先祖様が譲り受けたという、由緒正しき土地に建てられているのだが、早乙女研究所の真向かいあたりに位置しているため、ゲットマシンの出動や訓練、またメカザウルスの早乙女研究所襲撃といった際に、とばっちりをくって倒壊するなど日常茶飯事となっている。



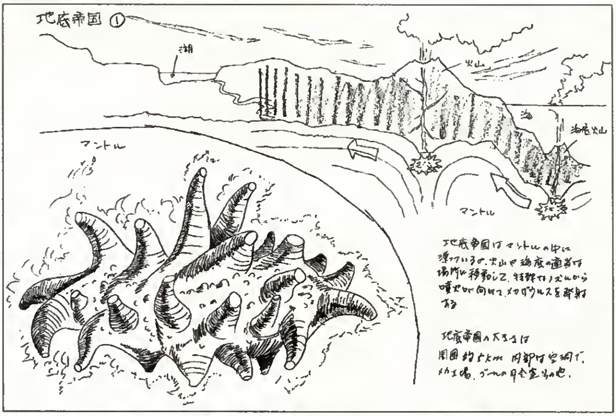




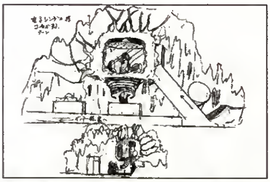
上段はゲットマシン格納庫。実際の画面ではあまり見られないアングルだ。下段は整備工場。戦いで損傷したゲッターを修理するためのもので、合体したままでも格納できる巨大な工場だ

これが恐竜帝国のすべてだ!!

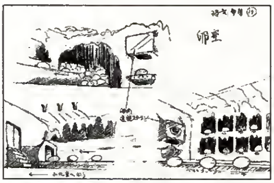
地中へと逃れたハ虫人類が築きあげたマシーンランド。彼らが未開の地・マグマ層での生活及び地上覇権の奪還を目的として建造した5キロメートルに及ぶ巨大基地である。マグマにもびくともしない外壁を有し、マグマ層を自由に移動することができる。このおかげで、幾度となくゲッターチームの探索の目をあざむき、恐竜帝国は本拠地を悟られることなく長期にわたる戦いを展開できたのである。また第48話では、もうひとつ新しいマシーンランドが登場しているが、まったく同一規格のものであった。



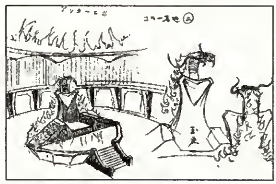
マシーンランド外観とマグマ層移動図解。第20話ではかなりの長距離航行もしている



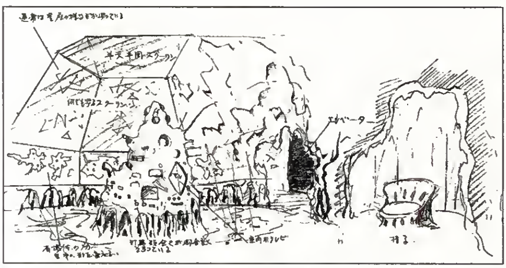
孵化室。ベルトコンベアーで流れてきた恐竜の卵は、特殊な光線を浴びて一瞬で孵化、成長させることができる



第18話で登場した卵室。メカザウルスの素体となる恐竜の卵を管理している部屋で、孵化室と隣接している

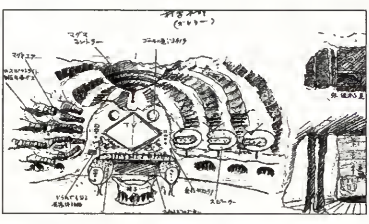


第27話より登場した大魔人ユラー。その部屋は帝国の奥深くに位置しており、エレベーターなどを乗り継いでいく





マシーンランド内部図。作戦室と攻撃本部の間取り設定だ。ゴールの玉座など細かいものの配置も、おわかり頂けるだろうか？　また、外壁から伸びている無数の触手のようなものが、メカザウルス発進用ノズルである。地上の活火山や死火山、海底火山にマシーンランドを接地させ、このノズルを噴火口につなげるようにしてメカザウルスや戦闘機などを射出。地上に送りこむシステムとなっている



上段は攻撃本部。おもにバット将軍が攻撃指示を与えるための作戦司令室である。下段は、第48話で明らかとなったマグマ・コントロール・ルーム。マシーンランドのマグマ層航行を制御、操舵するためのものだ

ゲッターロボ主要キャラクター名鑑

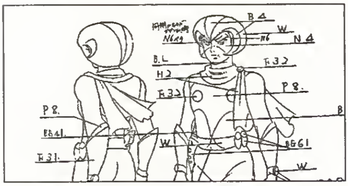
流竜馬



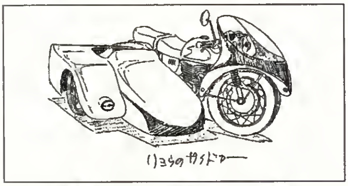
イーグル号及びゲッター１の操縦者。愛称はリョウ。18歳。浅間学園に通う高校生である。浅間学園サッカー部のキャプテンである彼は、ゲッターチームでもリーダーを務めるようになる。責任感が強く、一本気で真面目な性格なため、悩みを抱えてしまうことも多かった。実家は九州にあり、剣道の師範代である父・流竜作が流一刀流道場を開いている。母親も健在のようだが、第19話で病に伏せっていた後の動きは明らかにされていない。また、彼にはジュンという妹がいたが、中学一年の時、彼の目の前で交通事故に遭って亡くなってしまった。そんな悲しい過去も背負っている。



リョウの使っているヘルメットは達人のものと同型だ

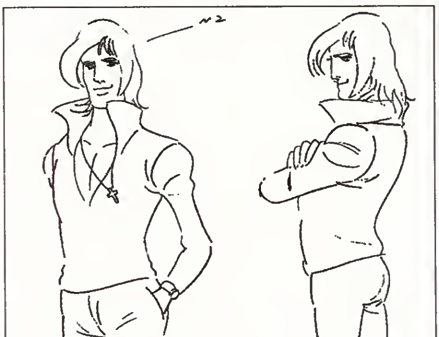


スーツも達人たちプロトゲッター操縦者と同タイプ



いくども破壊されたが、その勇姿は『G』でも健在だった

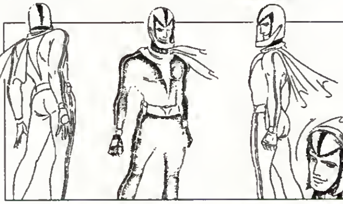
神隼人



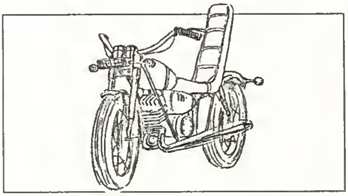
ジャガー号及びゲッター2の操縦者。愛称はハヤト。18歳。浅間学園に通う。クールでキザ、思慮深いためか、人一倍勘の鋭いところもある。運動神経も抜群で、なんでもこなすタイプだが、それゆえに自信過剰。何に対しても醒めた態度をとり、他人を信用しない性分のためリョウたちと衝突、ピンチを招いてしまうこともあった。それというのも母の死に際に、父・大造が仕事に没頭して帰ってこなかったところに要因があるようで、彼は父を恨んでさえいる。そんなハヤトが唯一、素直に接することができる存在に明日香という姉がいる。時として彼女に見せる優しさこそが、彼の素顔ではないだろうか。



もっともハヤトらしいといえるニヒルな背面設定



ハヤトは自前のライディング・スーツを着用する

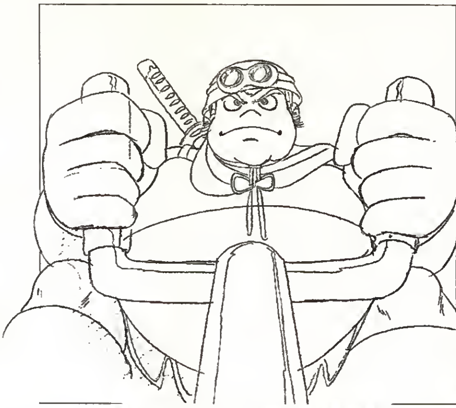


リョウとは対照的なハヤトのオフロード・バイク

巴 武蔵



ベアー号及びゲッター3の操縦者。愛称はムサシ。18歳。浅間学園柔道部主将の腕前。男気があり、後輩たちの面倒見もよい。おおらかで明るい性格。しかし、美人にはめっぽう弱く、特にミチルにはベタ惚れで、彼女のためなら死んでもいいと言ったほど。ゲッターの操縦技術はリョウたちに比べると幾分低く、そこを敵に突かれピンチに陥ったり、仲間たちと衝突することもあった。当初は自転車にさえ乗れなかったが、努力のかいあって第26話でバイクを運転した。リョウとは同じクラス、同じ寮の同じ部屋で生活する親友同士。第33話では、ムサシがリョウに柔道を教えている。故郷にタケという母がいる。

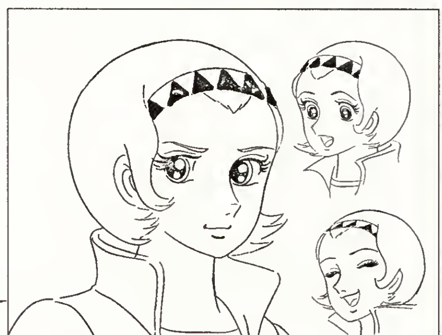


凛々しいムサシのベアー号内の作画参考用設定

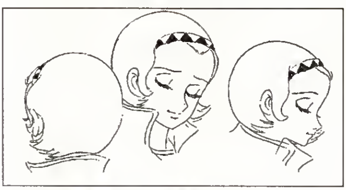


リョウたちに比べて表情の豊かさが魅力だったムサシ

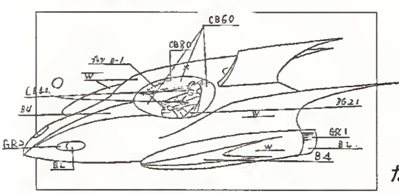
早乙女ミチル



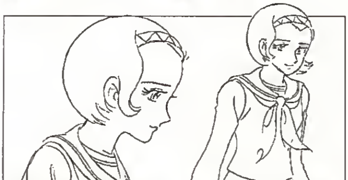
早乙女博士の娘。リョウたちと同じ浅間学園に通う。兄・達人がコーチするサッカー部によく顔を出していたようだ。浅間学園のモナリザと呼ばれ、リョウたちにとってはマドンナ的な存在。意外にプライドが高く、美人の登場にヤキモチを焼くこともあった。実際、かなりのオテンバで、博士たちをヒヤヒヤさせることもしょっちゅうだが、女性らしい優しさも合わせ持ち、母親のような雰囲気を持っているのが学園での人気の理由だろう。父のゲッター線開発を兄とともに助けてきた彼女は恐竜帝国出現後、偵察・探索などの情報能力に長けたコマンドマシンでゲッターロボを好サポートした。



ミチルの私服は同デザインで黄色いタイプもあった

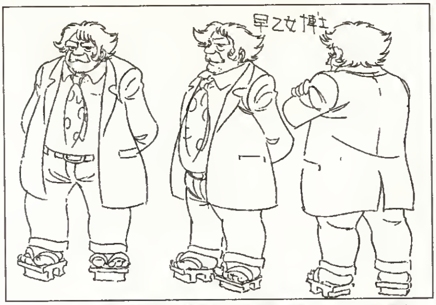


最終回においてはムサシが操縦し、ダイに特攻した



ミチルの制服姿。私服とは別の黄色いヘアバンドを着用

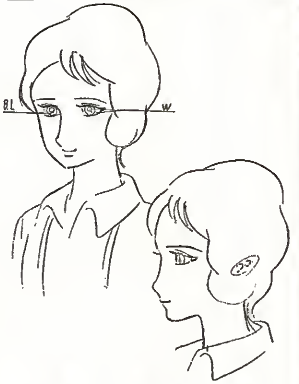




早乙女博士

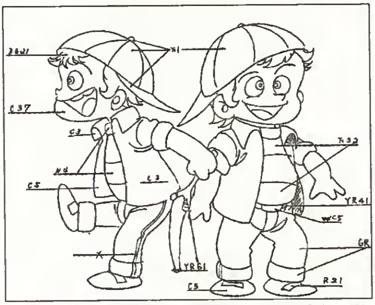
戦いにはシビアに接し、窮地に追いこまれるほど冷静に状況を判断。的確な指示でゲッターのピンチを幾度となく救った

ゲッター線開発の権威。部屋は散らかり放題。いつもゲタばき、不精ヒゲという冴えない格好であるが、日本屈指の科学者でその能力は世界的に認められている。ゲッターチームの頼れる指導者。悩むと頭を抱えるクセがある。名前は未だに不明。



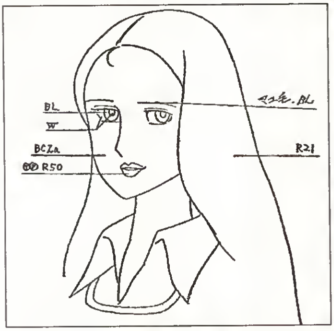
早乙女和子

母として妻として、戦いに身を投じる博士やミチルを常に心配している。また、親元を離れて暮らすリョウたちの母親代わりでもある



早乙女元気

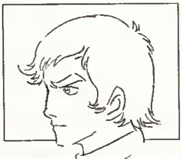
早乙女家の次男。小学生。わんぱくを絵に描いたような少年。敵に捕らえられてしまうこともあったが、逆に彼の目撃証言から敵の侵略作戦を察知することも多く、ゲッターチームに少なからず貢献していた。



神 明日香

ハヤトの姉。恐竜帝国に利用され、百鬼帝国にフィアンセを殺害され、父の研究所を破壊され、自らもその攻撃に傷ついたこともある薄幸の美女。一時、パリに留学していた。

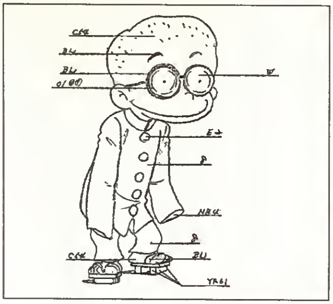


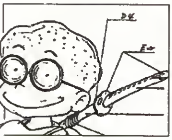


早乙女達人

早乙女家の長男。浅間学園サッカー部のコーチをしていた。父の研究に助力したが、プロト・ゲッターの合体訓練中に恐竜帝国に襲われて死亡してしまう。

ジョーホー





ムサシを心の底から慕う柔道部の後輩。体力はまるでないが、頭脳は明晰。ムサシの知恵袋、また相談役として彼を助ける。「しぇんぱあ〜ぃ」という言い回しが印象的。

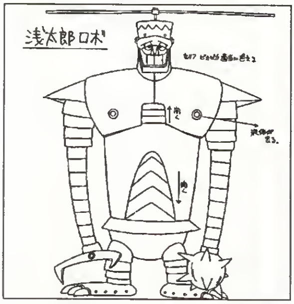
流竜作

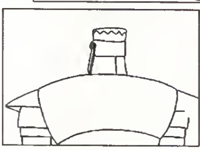




リョウの父で、流一刀流免許皆伝の腕前。自ら道場を持ち、リョウにも幼少から剣の道を厳しく教えていた。かなりの頑固者である。

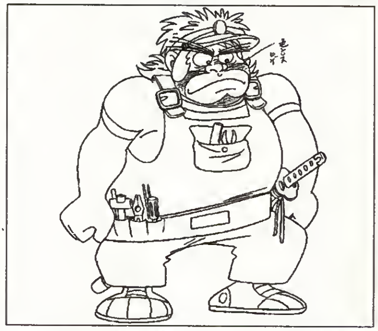
浅太郎





文次が造りあげた万能ロボットで、彼に忠実に仕える。第23話でバラバラになった後、手首をマイナーチェンジして復活。

大枯文次



自称、天才発明家にして「世界発明研究所」の所長。地底タンクやトリロボット、ネバネバ弾など、見かけによらず高性能な発明品を製作。ミチルにゾッコン惚れこんでおり、彼女を「ミチル姫」と呼ぶ。

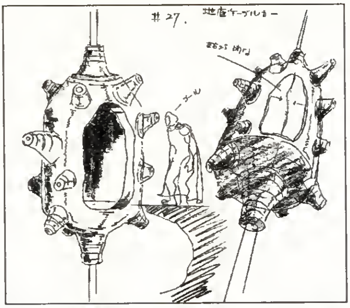
所員



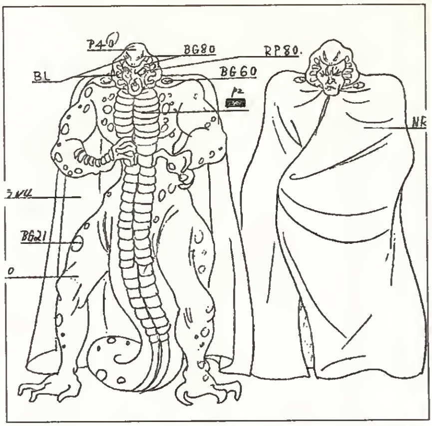


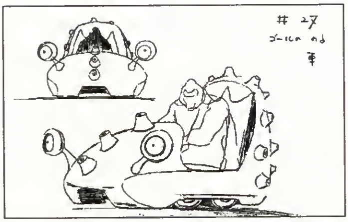
早乙女研究所・所員。左図設定左より辻、大野、勝田、伊藤。名称からお分かり戴けることと思うが、4人とも本作スタッフがモデルとなっている。

帝王ゴール



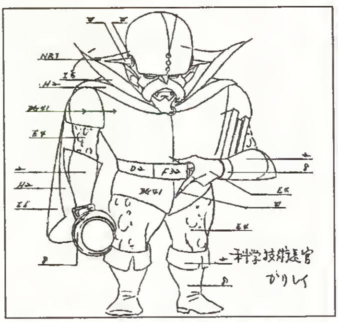
時として人間的なしぐさやリアクションをかいま見せるゴール。そんな彼には、どこかぬけた憎みきれない浪花節的悪玉の雰囲気も漂っている



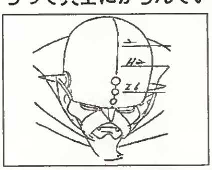


身長2メートル、体重120キロという巨体。バット将軍、ガレリィ長官、そして多数のハ虫人類を率いる恐竜帝国の王だ。性格は冷酷にして残忍、作戦に失敗したキャプテンをマグマの中に放りだして処刑するほどである。そんな彼にも、第22話に登場したゴーラという愛娘がいた。人の心を持つゴーラは父のやり方に悩みつつ散っていく。恐竜帝国の掟にのっとり彼なりに娘を可愛がっていたゴールにとって愛娘の死は、深い哀しみとそれまで以上の人類への憎悪をもたらしたに違いない。

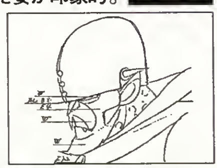
ガレリィ長官



恐竜帝国の科学技術長官。幾多のメカザウルスや新兵器を開発するもバットやザンキ、シックなどに欠点を突かれることもしばしば。最終回で酔っぱらって兵士にからんでいた姿が印象的。

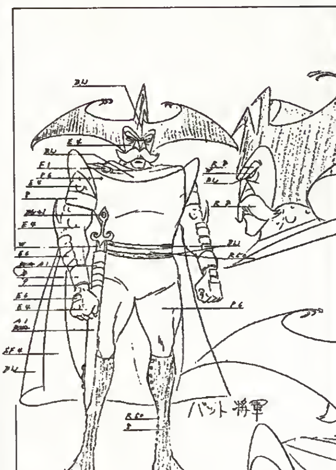


額の半球体から映像を投射する



側面の突起が映写機のスイッチ

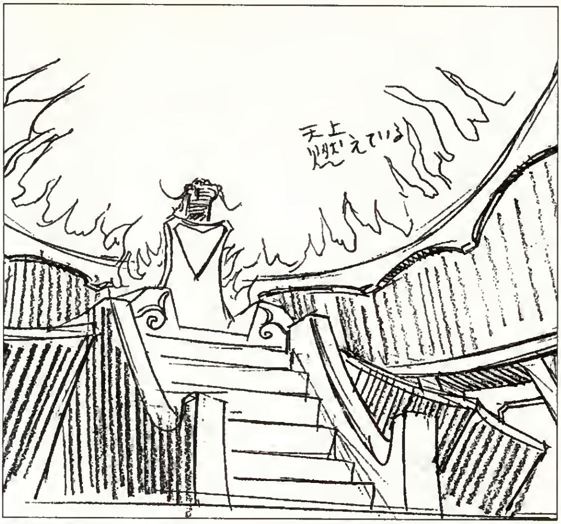
バット将軍



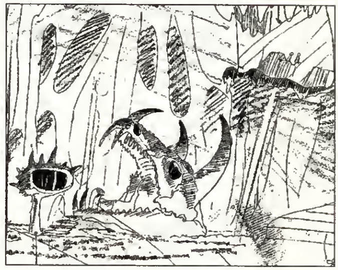
恐竜帝国のキャプテンたちを統括する歴戦の勇士。意外にも身体が弱く、右胸にもうひとつ心臓を移植していたり、床に伏せっていたり……。甥であるザンキに刺されたこともあった。

大魔人ユラー

第27話より登場した恐竜帝国の真の支配者。その実在を知るものは少なく、帝国では〝神〟として崇められていた。イラだちからあげた唸り声でマシーンランドを震撼させた。神というだけあって、容易に火山新島や巨大シャコ貝を出現させる創造の力や、あらゆる事柄を察知する予知能力も持っている。その力で早乙女博士のゲッター線研究を阻み、ゲッターロボを窮地に陥れた。



登場から最終回近くまでずっとマシーンランドの奥深くにある自室に閉じこもっていた。部屋は幾重もの扉に閉ざされ、高層エレベーターとエアカーを使って行かなければならない。なお、残念ながらユラーの設定画は現存していない。お持ちの方はご一報を！

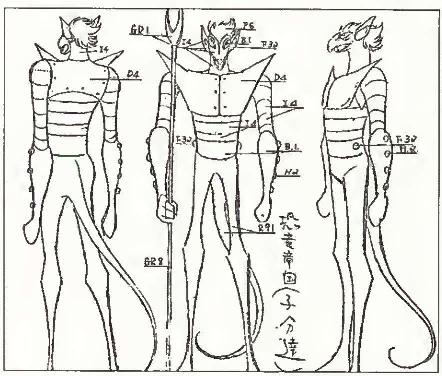


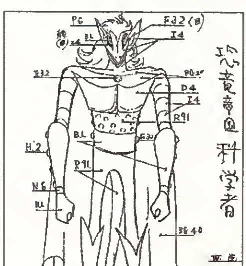
恐竜兵士

恐竜帝国の一般兵士。見張りや偵察、科学者、またメカザウルスの操縦をこなすものまでおり、人間に化けて早乙女研究所に潜入するものもいた。掲載した設定画のポピュラーな一般兵のほか、女性やまったく違う形態を持つ地上工作員などもいる。



第18話登場の卵室・室長。ザンキに命じられ、ゼン2号の素体となる卵を孵化させた。18話には他にも様々なハ虫人類が登場した





ゲッターロボ 全エピソード・ガイド

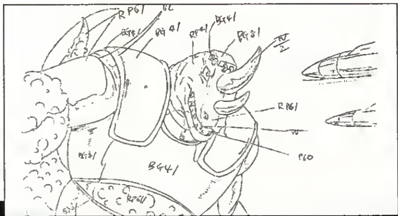


GETTER-ROBOT ALL EPISODE GUIDE

本章にて掲載する図版は基本的にはそのエピソードに登場するゲストキャラクターorゲストメカである。それに該当するものがない場合は――①内容に添った形での稀少価値の高い基本設定、②その前後のエピソードに登場するキャラクターorメカ――の順で掲載した。いささか苦しいものもあるが、どうかご了承頂きたい。

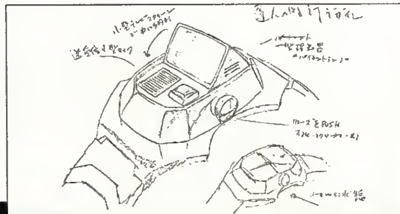
1「無敵！ゲッターロボ発進」

一億四千年の昔、絶滅したと思われた恐竜たちは地底に逃げ延び、帝国を築きあげていた。その名を恐竜帝国。その帝王であるゴールは再び地上の覇権を取りもどすべく侵略を開始。時を同じく、早乙女博士はゲッター線を研究、利用したチェンジロボット・ゲッターロボを完成させた。しかし、これに気づいたゴールは、自分たちの弱点であるゲッター線の開発を中止させるため、先兵としてメカザウルス・サキを送りこむ。合体訓練中、思わぬ敵に遭遇したゲッターロボはあえなく破壊されてしまう。博士はパイロットであった長男・達人をも失ってしまった。博士の娘・ミチルの友人であるリョウは、この現場に居合わせ、もうひとつの武装されたゲッターロボがあることを知る。リョウと、その呼びかけに応えたハヤト、ムサシの三人はゲットマシンで出撃！　メカザウルス・サキに敢然と立ちむかった。ゲッター１に合体し、からくもサキを葬りさったリョウたちであったが……。



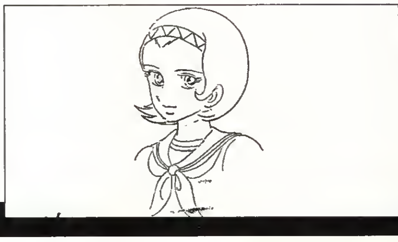
2「決戦！三大メカザウルス」

メカザウルス・サキを倒したゲッターロボ。しかし、その前に新たなメカザウルス、ザイ、ズー、バドが姿を現す。3対1の戦いに苦戦を強いられるゲッター。さらに爬虫類恐怖症であったムサシが、メカザウルスとの戦いに我慢しきれずに合体を解除してしまった。事態は悪化。ゲッターの損傷ばかりか早乙女研究所も被害を受け、コマンドマシンで応援に駆けつけたミチルまでも負傷させてしまった。そのことに責任を感じながらも恐怖症を克服できずに悩むムサシ。ハヤトは、そんなムサシに荒療治を仕掛けた。カエルやヘビ、トカゲなど、多数の爬虫類がひしめく倉庫にムサシを閉じこめたのだ。そんな時、三大メカザウルスが再び侵攻を開始！　一大決心したムサシはリョウ、ハヤトとともにゲッターで出撃する。そして、ゲッター２がザイを、ゲッター１がバドを、ゲッター３がズーを撃破する！ハヤトの手荒い治療に助けられ、ムサシは恐怖症を克服したのだった。



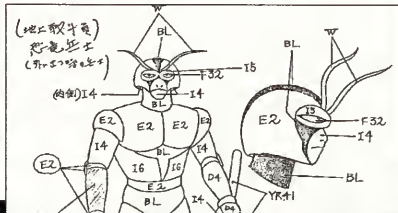
3「恐竜帝国レインボー作戦」

メカザウルス・バジの完成を待ち、ゴールは「レインボー作戦」を実行。ゴールの放った七色のバルーンからは塗料が散布されるが、さして被害はもたらされなかった。その頃、リョウは合体訓練中の急降下で意識を失ってしまった。原因は高所恐怖症。軽度のものであったため、本人も自覚していなかったのだ。研究所を飛び出したリョウは恐怖症を克服するため、急流でバンジージャンプの特訓をかさねる。一方、街ではバルーンの撒いた塗料を目印に、バジが建物を食らいはじめた。リョウはハヤトたちと合流して現場に急行。ゲッター１で応戦するが、攻撃のたびに分裂をくり返していくバジに手がつけられなくなる。しかし、早乙女博士の冷静な判断から、バジの弱点である目を攻撃すると、バジは元どおりの一体に合体した。バジと空中戦にもつれこんだゲッター１。高所恐怖症を克服したリョウは、急降下を利用してバジを地面に叩きつけ、ゲッタービームでトドメをさした。



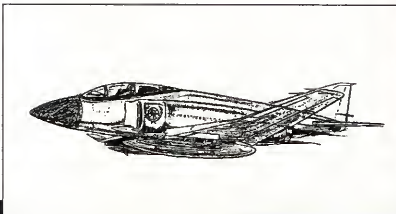
4「燃ゆる血潮の南十字星」

平和な南の島・ウーロン島の住民が、一夜にして全滅するという怪事件が起こった。早乙女博士は恐竜帝国の仕業だと推測する。現地調査に向かったミチルは、ウーロン島に潜んでいたメカザウルス・ゴルに襲われてしまう。緊急召集にもかかわらず姿を見せないハヤトをおいて、リョウとムサシはミチルの救助に出撃する。ウーロン島でゴルと対峙したゲッター１！　しかし、ハヤトのいないゲッターはパワーが半減。痛恨の一撃をくらい、撤退を余儀なくされてしまう。傷ついたゲッターの修理中、ようやく姿を現したハヤトは責任を感じ、黙ってミチル救出に飛び立つ。ゴルの不意打ちにあったジャガー号は墜落、ハヤトも足を負傷してしまった。一方、ハヤトが母親の墓参りで集合に遅れたことを知ったリョウとムサシが、ハヤト救援に駆けつける。危機一髪のところを救われたハヤトはゲッター２でゴルに逆襲！　ゴルに捕らわれていたミチルを救出し、ゴルを倒した。



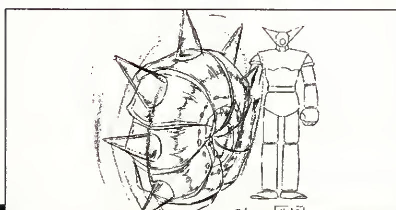
5「闇をつらぬけゲッターチーム」

自転車に乗る練習をするムサシ。だが、なかなか上達しないムサシに、コーチをしていた元気はいう、「よくゲッターチームをクビにならないね」。元気の言葉を気にしたムサシは、ベアー号に乗る達人の幽霊を目撃し、さらに動揺してしまう。そんな時、メカザウルス・ギガが現れた。すぐさま出撃するゲッターチーム。しかし、ムサシが合体の時にもたつくことを見抜いたゴールの作戦で、思うように戦うことができない。退却したリョウたちに、博士が喝を飛ばす。バラバラのチームワークに悩んでいたリョウは、ふとしたことからシミュレーターで自主訓練するミチルを見つける。ミチルは、いつでもリョウたちの代わりができるようにと考えていたのだ。ムサシが見た達人の正体もミチルだった。そこにギガが再び出現。迷いを振り切ったムサシは見事に合体。狭いトンネル内に潜むギガにゲッター３が立ち向かう！　トドメのゲッターミサイルが放たれ、ギガは吹きとんだ。



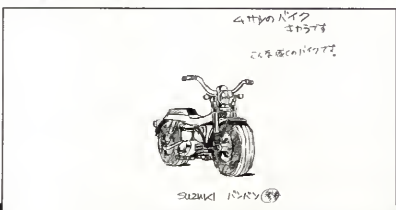
6「恐竜！東京ジャック作戦」

関東各地で地震や地割れが多発し、甚大な被害をもたらしていた。早乙女博士は、これを恐竜帝国のしわざと判断。コマンドマシンで調査に向かったミチルは、メカザウルス・リボの攻撃を受けて負傷してしまう。敵の動きから、狙いが東京を孤立させることにあると察知した博士は、ゲッターチームを出動させる。リョウたちは間もなくリボに遭遇、地に潜って逃げるリボをゲッター２で追う。その頃ゴールは、多数の恐竜兵士を乗せた恐竜艇を東京に向けて発進させる。恐竜兵士で東京を制圧しようというのだ。ゴールの真の狙いに気づかず、リボと戦うゲッター。だが、そこに元気から通信が入った。ミチルの代わりにコマンドマシンで飛びだし、偶然にも海中を進む恐竜艇を発見したのだ。小さな援軍からの通報により、敵の真意を悟ったリョウたちはゲッター３にチェンジ！　大雪山おろしで投げとばされたリボは恐竜艇に命中！　ともに大爆発を起こした。



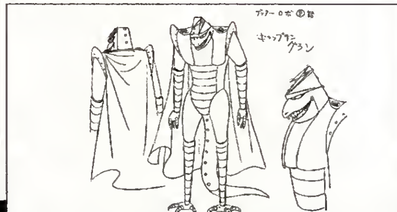
7「悪を許すな突撃ラッパ」

ミチルの気を引くため、バイクに乗ることを夢みるムサシ。そこで彼を慕う後輩・ジョーホーは、補助輪付きのバイクをムサシにプレゼントする。後輩の思いやりに感動しつつ、夢にまで見たバイクに乗るムサシ。しかし、それもつかの間、バイクはすぐに壊れてしまった。さらに、ミチルがハヤトのハーモニカに聴きほれるのを見たムサシは、楽器に挑戦すべくジョーホーに相談。進軍ラッパを借り受けるが、これも上手くいかず、ミチルに豆腐屋と間違われる始末だった。ムサシがガッカリしていた頃、メカザウルス・ベラが出現した。ベラの磁気嵐にはゲットマシンでさえ通信不能に陥ってしまう。通信できなければ合体のタイミングも計れない！　リョウの提案で、ゲットマシンに合体サインを示すランプを取りつける。だが、敵にも合体のタイミングを知られてしまい、合体不可能かと思われたその時、ムサシがラッパを取りだした。ラッパの合図で見事に合体、ベラを倒すのだった。



8 「危機一髪ゲッター2」

浅間学園サッカー部と白樺高校の試合は、タイムアップぎりぎりで放ったリョウのシュートが決まり、浅間学園が逆転勝利を収めた。最後のシュートをミスしたため、結果に納得のいかない白樺校キャプテンの滝。滝は、リョウに1対1の勝負を挑むが、「サッカーは11人でするものだ」と、リョウに勝負を断られてしまう。腹をたてた滝はミチルを誘拐、人質にしてリョウに挑戦状を送りつける。偶然から滝の挑戦状を手にしたハヤトは、県大会を控えるリョウを気遣い、代わりに滝と対決する。滝を必殺シュートで倒したハヤトに、今度は拳法使いの滝の兄が襲いかかる！
ミチルを救出し、苦しい勝負に勝利をおさめたハヤトを待っていたのは、メカザウルスとのさらなる激戦だった！
キャプテン・ブランが操るメカザウルス・ギロの驚異的スピードと猛攻に苦戦を強いられるゲッター2。しかし、ハヤトが滝の兄との戦いで見いだした戦法で、この危機を乗り越えるのだった。



9 「栄光のキャプテンラドラ」

日本各地で噴火が相次ぐ事件が起こった。どれも、普通の山や平地で突然に発生する奇妙な噴火だった。早速、コマンドマシンが調査に向かうが、そこにメカザウルス・シグが出現。ゲッターも現場に急行する。ゲッター1はシグを倒し、脱出したキャプテン・ラドラをも追いつめた。しかし、リョウにはラドラを殺すことができず、見逃してしまう。仲間たちに謝るリョウ。だが、仲間たちも博士もリョウの行動を間違っているとは思っていなかった。そこに、改造強化したシグが再び出現。死角を狙い、隙をつく巧みなラドラの攻撃にゲッターは大苦戦する。徐々に追いこまれ、ゲッター1はついに戦闘不能に陥ってしまう。死を覚悟したリョウたちはせめて街を救おうと、流れでる溶岩をゲッターでくい止めようとする。そんな彼らの姿に心打たれたラドラは、溶岩をせき止めてゲッターを助けてしまう。ゴールの怒りをかったラドラは、シグの自爆装置で処刑されるのだった。



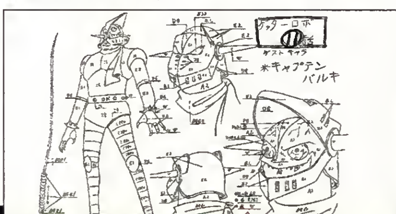
10 「急降下！ゲッター3は行く」

柔道部の練習にはりきるムサシの前に、元気の描いたゲッター1の絵が飛んできた。ムサシは「なぜゲッター3じゃないの」と聞くが、元気は「ゲッター3じゃ絵になんない」と答える。ショックを受けたムサシは、リョウにゲッター1の操縦を代われと持ちかけたり、博士にゲッターの持ち回り制を頼みこんだりと奔走する。だが、リョウとはケンカになり、怒った博士には投げ飛ばされる始末。それでも懲りずにゲッター3を飛ばそうと考えたムサシは、ジョーホーの協力を得て秘密兵器をベアー号に設置する。一方、日本の制空権を掌握せんとするメカザウルス・バズが出現。現場に急行したゲッターは、1と2でバズを追いこんだ。そして、ついにゲッター3の出番がきた。バズを大雪山おろしで谷底に投げ飛ばすと、ムサシはゲッター3で谷底にダイビング！　意気揚々と秘密兵器のパラシュートを使い、凄まじい体当たりでバズにトドメをさすのだった。



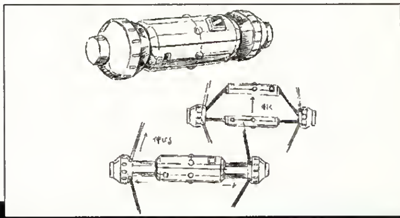
11 「激突！ドリル対ドリル」

ゲッターロボ打倒に燃える帝王ゴール。そこに恐竜帝国の猛者キャプテン・バルキが現れた。半ば無理矢理に出撃許可をとったバルキは、兵士を連れて発進する。一方、突然、噴火した浅間山の調査にやって来たコマンドマシンは、怪しい火の玉を発見。応援にきたジャガー号、ベアー号とともに追跡を始める。だが、手薄になった研究所をメカザウルス・ギリが襲った。これこそがバルキの陽動作戦だったのだ。運良く、遅れて到着したリョウがイーグル号で発進。ハヤトたちが戻るまでの時間稼ぎにかかる。ようやく研究所に戻ったジャガーとベアーは、イーグルと合体！　ギリに猛攻を浴びせ、返り討ちにしたかに見えた。しかしその夜、登山者に化けた兵士が研究所に潜入。ゲット・マシンに工作しようとするが、寸前でハヤトに撃退される。ギリが未だ健在なのだと察知したリョウたちは、再び姿を現したギリとゲッター2で対決。ドリル対ドリルの戦いに勝利を収めるのだった。



12「吠える！不死身のウル」

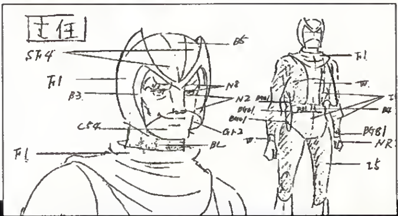
ある夜、東京に不気味な飛行船が出現した。飛行船の降ろした巨大なコンテナから現れたメカが合体。メカザウルス・ウルとなり、次々と発電所を襲った。ウルを撃退すべく発進したゲッターロボ。しかし、新合金で身をかため、強靱な牙を武器とするウルを前に撤退を余儀なくされてしまう。早乙女博士の考案により、ボール爆弾でウルを体内から爆破することになった。実行者に選ばれたリョウはハヤトのキック力を買い、独断でハヤトに爆弾を蹴らせるが、爆弾がスライスしたために作戦は失敗。ハヤトも大けがを負ってしまう。三度、出撃したゲッターはオート・ジャッキでウルの口をこじ開けようとするが、ジャッキが作動せずピンチに陥いる。リョウは決死の覚悟でウルに飛びつき、ジャッキを手動で動かした。最後のチャンスに、ハヤトは渾身の力をこめてシュートを放つ！　ボール爆弾は見事、ウルの口に命中！　ウルは体内から大爆発を起こし、吹き飛んでいった。



13「一本勝負！大雪山おろし」

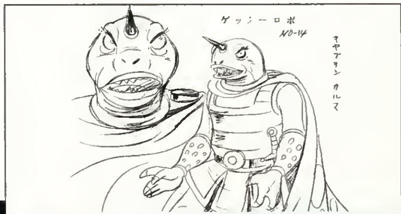
北校柔道部主将・岩倉大次郎が浅間学園へ道場やぶりに来た。ムサシは岩倉の挑戦を受けて組み合うが、緊急出動がかかったために勝負は県大会へと持ちこすこととなる。海底爆発の調査に向かったムサシたちはメカザウルスと遭遇。ゲッター３で撤退させるが、その後も各地で海底爆発や船舶襲撃事件が続出する。度重なるスクランブルに悩まされるムサシは、優勝と岩倉の打倒を賭けた県大会の練習に集中したいと申し出る。仲間たちや博士のはからいから、ムサシは猛練習にはげみ、県大会に臨んだ。順調に勝ち進んだムサシは岩倉との決勝に意気込むが、肝心のリョウたちの姿が観客席に見あたらない。まさか出動したのでは？

ムサシの予感は的中。メカザウルス・メサとの海中戦にリョウたちは大苦戦していたのだ。ムサシはリョウたちのもとに急行、大雪山おろしが唸りをあげてメサに逆転勝利した。決勝試合を放棄してまで駆けつけたムサシに、元気と仲間たちが表彰状を贈る。



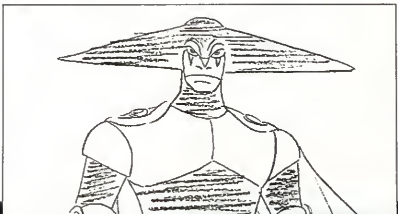
14「紅の空に命を賭けろ!!」

恐竜帝国ではバット将軍、ガレリィ長官を迎え、ゲッターロボ打倒作戦が練られていた。一方、リョウたちも恐竜帝国との戦いに備え、トレーニングに励む。と、そこにメカザウルス出現の警報が鳴り響く！　緊急発進するゲッターチーム。スピード戦を得意とするメカザウルス・ギイがゲットマシン合体の瞬間を狙う。しかも、ムサシがトレーニング中に腕を負傷していたため、思うように合体することができない。紙一重で難を逃れたリョウたちは、各々のスタイルでギイ攻略法を考える。「それぞれの特徴を活かせば必ず勝てる！」同じ思いを胸に秘め、３人は再び姿を現したギイに立ち向かった。ギイのスピードとマグマ攻撃に苦しむゲッターロボ。しかし、ギイの旋回能力の低さをついて、ゲッター２が背面ジャンプでギイにとびつく。続いてゲッター３がプロペラを破壊！　減速したギイに、すかさずゲッター１がビームを放ち、ギイを空の塵と変えた。



15「悠子に捧げるバラード」

元気の友達、悠子は心臓が弱く、友達と遊ぶ機会も少なかった。沈みがちな彼女を元気は慰める。そんな二人に恐竜帝国の魔の手が迫る。元気と悠子を人質に取ったゴールは、早乙女研究所にゲットマシン発進を要求。手出しのできないリョウたちをメカザウルス・シバに攻撃させた。リョウとハヤトはスモークを使ってゴールの目をごまかすが、ムサシは撃墜されて左腕を骨折してしまった。リョウたちのカモフラージュに気づいたゴールは、心臓発作を起こして危篤状態に陥った悠子をたてに、さらにリョウ、ハヤト、ムサシの身柄を要求してきた。ゴールの要求に応じたリョウたちは悠子と元気を救出するが、代わりにリョウとハヤトが視力を一時的に失ってしまう。そこにタイミングを見はからい、シバが出現。ボロボロの体で出撃するゲッターチーム。だが、視神経麻痺を逃れたムサシが、リョウとハヤトを誘導してゲッター３に合体！　不利な戦況から見事に勝利を収めるのだった。



16「恐竜帝国の謎を追え」

早乙女博士は念願であったG（ゲッター）計画を実行、G－１ロケット打ち上げに成功する。これを察知したゴールはG計画を阻止しようとメカザウルス・ゲルを差し向けるが、研究所は新開発のゲッター線バリヤーで防御されていた。作戦に失敗した搭乗者、キャプテン・クックを処刑、業を煮やしたゴールはマシンランド最下層に追いやっていた忍者集団・地竜一族のシックを呼び寄せる。シックはハヤトの姉・明日香を催眠術で操り、まんまとG計画の設計図を入手。ゲルで計画の中枢となる宇宙ステーション破壊に成功する。姉を利用する汚いやり口に怒りを燃やすハヤト。その前に再びゲルは姿を現した。駆けつけたリョウたち、そしてジャガー号に飛び乗ったハヤトはゲッター１に合体！　ゲルと熾烈な空中戦を展開する。岩場を利用したリョウの戦法に傷ついたシックは、恐竜帝国に引きこんで決着をつけようとする。だが、シックはゴールに裏切られ、マグマの中に消えていった。



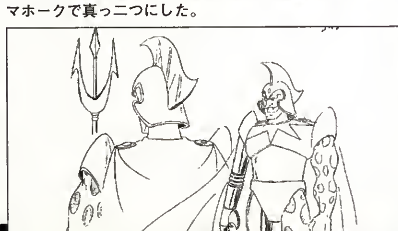
17「狙われた設計図」

突如、横浜港にメカザウルス・ジガが出現した。パニックに陥る横浜に向かったミチルは、逃げ遅れた少女・ルミ子を助けようとコマンドマシンで奮戦する。追って駆けつけたゲッターの活躍によりジガは逃げだし、ミチルとルミ子も無事、救出された。ケガが治るまで研究所に滞在することとなった美しき少女、ルミ子に引かれていくムサシたち。翌日、リョウたちは早乙女博士に召集される。博士は研究室に侵入者が入ったというのだ。誰にも気づかれずに忍びこんだプロのスパイ!?　警戒にあたったリョウとハヤトは、研究室に忍びこむルミ子を目撃する。ルミ子は恐竜帝国のキャプテン・ルーガだったのだ。ゲッターロボの設計図をカメラに収めたルーガは、リョウたちをはね除けて脱出、ジガに乗りこんだ。一方、事情を聞いたムサシはショックを受けながらもリョウ、ハヤトとともにゲットマシンで追撃！　美しくも残酷なスパイ、ルーガをジガもろとも粉砕する。



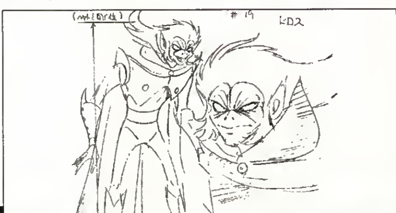
18「恐竜帝国のすごい奴」

バット将軍の甥、キャプテン・ザンキが武者修行の旅から帰ってきた。腕比べで、いとも簡単に三人のキャプテンを倒したザンキは、その実力を認められてメカザウルス・ゼン１号のパイロットに選ばれる。しかし、ゼン１号の性能に満足しないザンキは、独自の構想に基づき、ゼン２号の開発に取りかかる。そして、ザンキは亡き達人の親友・右京哲に化けて早乙女研究所に潜入。イーグル号にミクロ時限爆弾を取りつけ、バリア発生装置と研究所破壊にも成功した。この働きにより昇格したザンキであったが、それだけではあきたらず、ザンキは将軍の地位を狙って実の叔父であるバット将軍暗殺をはかる。将軍暗殺に失敗したザンキを謀反の罪で処刑したゴールは、ゼン２号に出撃命令を下す。リョウは、ハヤトとムサシの身を案じて単身で出撃し、ゼンと戦いながら爆弾の除去に成功。ハヤトとムサシもゲッターに搭乗して反撃を開始！　強敵ゼン２号をトマホークで真っ二つにした。



19「リョウ最後の出撃！」

早乙女研究所で新たに開発された「人工衛星・ゲッター線キャッチャー」。従来の数十倍ものゲッター線収集能力を誇る衛星打ち上げ準備に追われ、慌ただしい研究所。そんなある日、リョウの父親がリョウを連れ戻すために九州からやって来た。博士の説得も聞き入れられず、リョウは九州へ帰ることになった。ゲッター線キャッチャーを搭載したロケットを狙って現れるであろうメカザウルスの襲撃に備え、警戒も厳重にカウントダウンが始まる。ついに打ち上げられたロケット。しかし、順調に高度を上げていたロケットは突然、大爆発を起こしてしまう。金に目のくらんだ開発主任が、恐竜帝国のスパイをしていたのだ。ニュースで事故を知り、研究所へ戻ったリョウは主任の正体を見破る。リョウの帰還を喜ぶハヤトたち。勢いに乗って出撃したゲッターはメカザウルス・ドドを撃破！　父の理解を得たリョウは夕日を見つめ、近い日の帰郷を誓うのだった……。



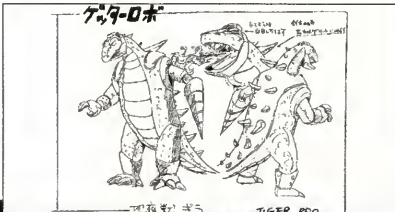
20「大空襲！突然の恐怖」

夏休みを利用して元気、ミチル、そして博士に頼まれて同行するリョウとともに里帰りした和子。和子は、小学生の時に起こった戦争の空襲で両親を失っていたのだ。和子は両親の墓参りをしながら願う、「二度とあんな悲劇が起こらないように……」と。それは誰もが思う、心からの願いであった。しかし、そんな願いも虚しく、再び街は炎に包まれた。メカザウルス・ヨグと小型爆撃機による恐竜帝国の大空襲部隊！　ゴールは、この地を前線基地にしようと密かに企てていたのだ。楽しいはずの家族旅行は一転して惨劇の再現に。難を逃れたリョウたちは研究所に連絡、岬の洞窟へ街の人々とともに避難した。逃げ遅れた少女を助けるべく飛びだしたリョウを、機銃掃射が襲う！　危機一髪で駆けつけたハヤトとムサシに救われたリョウは、イーグル号に乗りこみ、ゲッター１に合体。爆撃機をなぎ払い、ヨグを空の藻屑とした。平和の戻った青空にゲットマシンが映える。



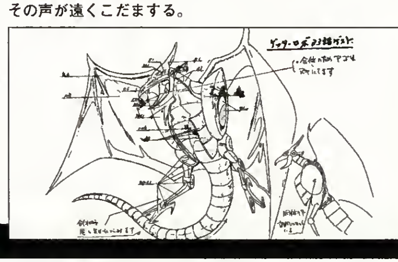
21「アメリカから来たロボット」

アメリカのキング博士が開発したロボット・テキサスマックが早乙女研究所に来訪した。操縦者はジャックとメリー、キング博士の実子である。挑発的な態度をとるジャックとゲッターチームは衝突、腕を競い合う。その最中、メカザウルス・ゴルが出現した。リョウたちがゲッター１で挑むが、ゴルの溶解液でウイングを溶かされてしまう。テキサスマックに窮地を救われたゲッターチームは、恐竜帝国が浅間山頂に建造する大要塞を殲滅するため、ゲッター２で再び出撃！　しかし、またもゴルの溶解液の餌食にされてしまう。ゲッター１、２が戦闘不能の今がチャンスとばかり、ゴルが研究所を襲撃。迎え撃ったテキサスマックまでも湖に沈められてしまった。ミチルの発案により、飛行用ロケットを装備したゲッター３が発進！　ゴルを得意の水中戦に引きこみ、ゲッターミサイルで粉砕する。和解したゲッターチームとジャック。日米の雄は、手に手を取り合うのだった……。



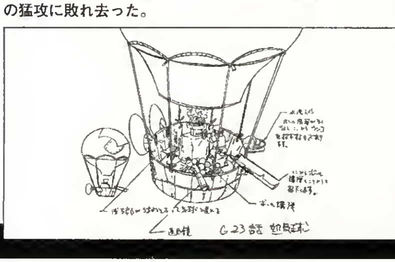
22「悲劇のゲッターQ（クイーン）」

５年前に蒸発した早乙女ミユキが帰ってきた。博士が、雪の降る夜に現れた幼い少女を引き取り、我が子同様に育てたのがミユキだった。ミユキの帰宅に華やぐ早乙女研究所。しかし数日後、ミユキは再び失踪してしまう。その身を案じる博士やリョウたち。と、そこにメカザウルス・ギンが現れた。ギンはその強大なパワーでゲッターを追いつめるが、なぜか退却してしまう。その翌日、今度はゲッターＱが出現した。パイロットはゴールの娘・恐竜女王ゴーラ。５年前にゲッターＱ設計図を盗み出し、今またミユキを殺したというゴーラにリョウたちの怒りが爆発！　ゲッター１で猛攻を浴びせるが、救援に現れたギンによって窮地に追いこまれてしまう。このピンチを救ったのは意外にもゴーラであった。ゴーラこそがミユキ本人だったのだ。傷ついた彼女は二人の父に別れを告げ、ギンとともに爆死した。「なぜ生き物同士で争わなければならないの……」その声が遠くこだまする。



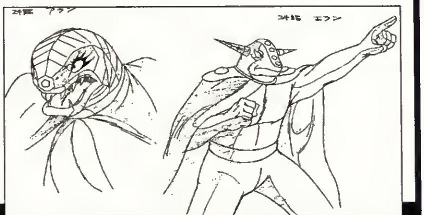
23「浅間山の大発明狂」

早乙女研究所付近に妙な小屋を構える自称、大発明家・大枯文次。奇抜なアイディアマン文次の才能が、ムサシのために活かせると見こんだジョーホーは文次に弟子入り。研究所から被害をこうむったという、文次の殴りこみにつき合わされる。が、文次の無茶苦茶な要求がのまれるはずもなく、文次らは早乙女研究所で一暴れした後に退散する。そこにガレリィの自信作、怪鳥型と地底獣型、二体のメカザウルス・ギラが現れた。立ち向かったゲッターは、二体の突風と炎が作り出す「火炎渦巻き」に苦戦！　さらに合体して襲いくるギラに追いつめられていく。一方、研究所も勘違いした文次の空襲を受け、壊滅の危機を迎えていた。そこにゲッターを追ってきたギラが文次の気球に衝突、文次はゲッターに危ういところを救われる。その時、文次自慢の万能ロボット・浅太郎はギラにしがみつき、その翼をかじり始めた！　片翼を失ったギラは、逆襲するゲッターの猛攻に敗れ去った。



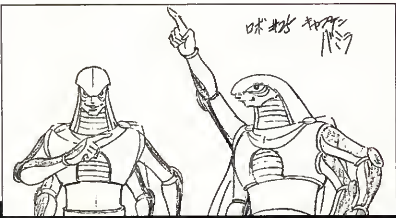
24「大要塞に向かって撃て」

空の大要塞、メカザウルス・ギギが早乙女研究所に向かってきた。これを迎撃するためゲットマシンとコマンドマシンが発進。だが、ムサシの姿が見あたらない。ムサシはベアー号を駆り、文次のところへ仕返しにいっていたのだ。文次との小競り合いの末、ムサシが到着した頃には時すでに遅く、研究所は大打撃を受け、ミチルはギギに飲みこまれた後だった。ゴールは案の定、ミチルを人質に降伏を要求。しかし、博士はこれをはね除ける。再び襲撃してきたギギにゲッターで立ち向かうが、リョウたちに攻撃することはできなかった。そこにジョーホーがトリ・ロボットで飛来、ムサシに受け渡す。それは、ムサシにミチルを救出させるため、ジョーホーが文次をうまく騙して造らせた対抗兵器だった。ムサシはトリ・ロボットでギギに突入！　兵士を投げ飛ばし、ミチルを救出。ギギの爆破にも成功する。脱出した小型ギギをゲッター１で追撃、これを粉砕した。ジョーホーに感謝するムサシ。



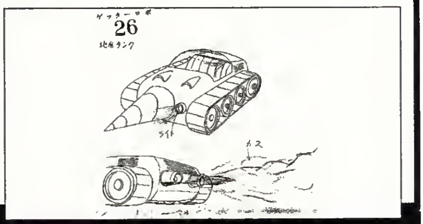
25「合体！風速100メートル」

リョウたちはミチル主催の食事会を楽しんでいた。と、そこに突然、突風が吹き荒れた。原因不明の突風はさらに猛威をふるう。不審に感じたリョウたちは、ゲットマシンで調査に向かう。突風の先にあるもの、それはメカザウルス・バムであった。凄まじい突風の中をゲッター２がゲッターストームで切り抜け、風を起こすフィンを破壊。バムを撃退する。一方、バムの突風で家ごと吹き飛ばされた文次は、またも早乙女研究所のせいと思いこんで殴りこみをかけるが、そこで自分の理想的女性ミチルと出会う。ミチルに一目惚れした文次はそそくさと自宅兼研究所に戻り、ミチルにいいところを見せようと対メカザウルス用兵器の製作にかかる。そこに再びバムが現れた。改良強化したフィンに歯が立たぬゲッターを横目に、文次は体当たりロケットでバムに突き進んでいく。文次を救うべくゲッター３で突撃！　フィンを破壊。ゲッター１がゲッタービームでトドメをさした。



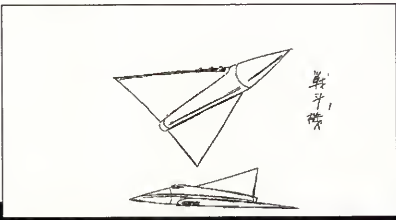
26「帝王ゴール大噴火作戦」

ミチルにベタ惚れした文次はプロポーズを決意。手始めに、新婚旅行は地底探検にいきたいというミチルの望みを叶えるため、地底タンクを造りあげる。だが、タンクはジョーホーの協力によりムサシの手に渡り、ムサシがミチルとともに地底探検にいってしまう。建国記念日に早乙女研究所を火山で吹き飛ばそうと考えた恐竜帝国が、作業を進行しているど真ん中に出てしまったムサシとミチル。命からがらに早乙女研究所に連絡したものの、二人は捕獲されてしまった。焦ったゴールは強引に作戦を実行させるが、危機一髪のところでゲッター２が作戦を阻止。ムサシとミチルも救出する。ゲッターに搭乗したムサシは、早速ゲッター３にチェンジ！　ガレリィ長官の操るメカザウルス・メガを粉砕。続いてバット将軍が駆るメカザウルス・バリをゲッター１が撃破した。怒り狂うゴール。そんなゴールを身震いさせる、恐ろしい唸り声が恐竜帝国に響く……その正体は!?



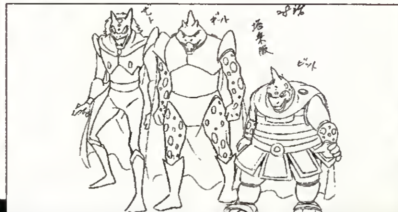
27「大魔人ユラーの怒り」

恐竜帝国を震撼させる唸り声。ゴールも恐れるその正体は、帝国で神とも崇められる大魔人ユラーであった。地球征服が一向に進まないゴールに対し、ついにユラーが怒りだしてしまったのだ。そこでゴールは、名誉挽回するため、ゲッターロボの長所を取り入れたメカザウルス・バボを出撃させる。訓練からの帰還途中、おいてきぼりを食ったムサシは恐竜帝国の戦闘機に襲撃されてベアー号を破損させてしまう。そこを狙ってバボが研究所を襲撃、ゲッターが出撃できないことを知ると街に向かっていった。バボの攻撃で火の海となった街に取り残された子供たちを救出すべく、修理を終えたゲットマシンが飛び立つ！　ゲッター１がバボの気を引いている隙にミチル、文次らが子供たちを救出した。一方、ゲッターはバボの放った戦闘機と対決。博士が新たに装備してくれたゲットマシンのバルカン砲でこれを撃墜。再び合体し、ゲッター２でバボにトドメをさした。



28「襲撃!!地竜族三人衆」

早乙女博士は、電子工学のエキスパート・勝田博士の協力を得て、ゲッター線発電所の建設を進めていた。しかし、この動きを察知したゴールが送りこんだ、地竜族三人衆に設計図を奪取されてしまう。リョウたちの活躍により設計図は奪い返したものの、三人衆が操るメカザウルス・ゴドのシッポ金縛りでゲッター3は腕を引きちぎられ、戦闘不能になってしまう。守りの手薄となった研究所をゴドと戦車隊が襲撃。設計図を死守すべく、リョウたちはバイクで戦車隊に突撃。ミチルがコマンドマシンに勝田と設計図を乗せて、発電所建設地に向かう。だが、後をつけてきた三人衆の手にかかり、設計図を守ろうとした勝田が殺害され、建設途中の発電所もゴドに破壊されてしまった。怒りに燃えたリョウたちは、修理を終えたゲッターでゴドと対決！　強敵ゴドの意外な弱点に気づいたゲッターは逆転勝利を収めた。勝田の死を無駄にしないよう、博士は再び発電所建設に臨む……。



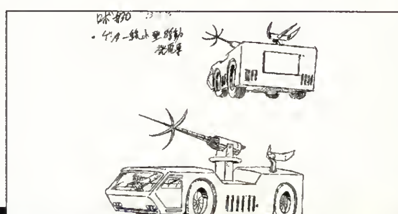
29「洪水地獄の死闘」

ゲッター線発電所計画を潰すため、ゴールが放ったメカザウルス・バルの襲撃を受けた早乙女研究所。博士は、建築中の第二発電所に最後の部品を運ぶよう、リョウたちに命令する。それは発電所の心臓部、ゲッター線集積装置だった。自動操縦のゲッター1でバルの気を引きつけるが、すぐにオトリだと見抜かれてしまう。部品を運搬する車両に気づいたバルの攻撃を受けてミチルが負傷。通りがかりの少年・浩一に案内され、村の診療所で手当を受ける。しかし、そこに執拗に追ってきたバルが現れ、村を攻撃。浩一が巻き添えとなり、負傷してしまった。さらにダムを破壊して洪水を起こそうとしたバルは、ダムの底に発電所を発見、これを破壊する。一方、リョウは集積装置を組み立ててゲッター1に装着、大量のゲッター線放射で洪水をくい止める。そして、ゲッターはバルに逆襲！　バルは空のチリとなった。勝利を収めたリョウたちは、ゲッター1で浩一の見舞いに訪れる。



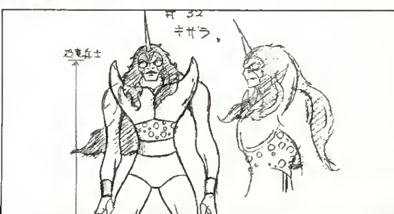
30「不死鳥の甦る時」

ゲッターロボがモニター操縦であると推測したガレリィ長官は、モニターを狂わす妨害電波を開発。メカザウルス・ダグに搭載する。満を持してダグで出撃したバット将軍は、ゲッターと対戦。妨害電波を使いこなし、ゲッター3、ゲッター2のモニター機能を麻痺させた。必死に戦うゲッター1であったが、ついには妨害電波を浴びせられ、ダグの猛襲にズタボロにされてしまう。早乙女研究所をも壊滅させたバット将軍に、ゴールは帰還して休息するように命令する。一方、早乙女博士は残された機材と物資を駆使し、ゲッターロボの修理、改造に全力を尽くす。朝日が昇る頃、再びダグが出現。これを察知したリョウたちも改造を終えたゲッター1を起動させる。ダグと対決するゲッターは、ゲッター線強化ガラスに覆われた有視界操縦となっていた。まさしく不死鳥のように甦ったゲッターロボはダグの攻撃にびくともせず、ゲッター1が怨敵ダグをうち倒す！



31「危機！ハヤトよ立ち上がれ」

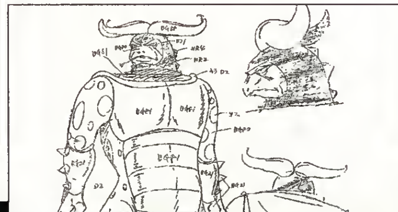
とある山中、密かに建造されたゲッター線貯蔵庫で突然、原因不明の爆発事故が発生。警護に当たっていたリョウたちは係員とともに応急処置に回る。その最中、ハヤトは炎の中に倒れていた係員を救出。しかし、自らも負傷してしまった。この事故を察知したユラーは、原因が放射能によるゲッター線の変質にあると見抜いた。ゴールは早速、放射能を利用したウランスパークを武器に持つメカザウルス・ヤバを出撃させる。ヤバ出現の警報に、ハヤトは傷をおしてゲット・マシンで発進する。その頃、ハヤトに救出された係員が死亡。早乙女博士も無公害エネルギー・ゲッター線の意外な弱点に気づき、また、ハヤトも放射能に蝕まれていることを知る。ハヤトはフラフラになりながらも撤退を拒否。ゲッター2でヤバのウランスパークを破壊する。力つきたハヤトに代わり、リョウがゲッター1でヤバを撃破！　戦いの後、ハヤトは博士の作った中和光線で一命を取り留めるのだった。



32「恐怖！赤い霧の罠」

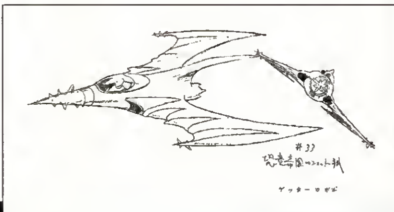
人類全滅をはかる恐竜帝国のレッドシャドウ作戦が開始された。強力な毒ガスとなるウラン液を散布するメカザウルス・ブル。通りかかったリョウたちもガスにやられてしまう。ハヤトひとりが影響を受けなかったことから、博士は前回の中和光線が解毒剤になると判断。これを応用した中和剤をジャガー号で街に散布した。しかも、中和剤は爬虫人類にとっては猛毒となるのだ。苦しみだす兵士たち。たまらず撤退したブルであったが、これに対応する中和剤と新たなウラン液をガレリィが開発、ブルに搭載して出撃させた。毒ガスに苦しむ人々、頼みの綱の中和剤も効かない。またもガスを吸ってしまったリョウたちは、ゲッター1ごと海に落ちてしまった。しかし、偶然にも海水が中和剤となり、息を吹き返したリョウたちは再びブルと対峙！

ゲッター2のスピードで翻弄し、ひるんだところをゲッター1で撃破した。海水散布により、街の人々も息を吹き返すのだった。



33「果てしなき大空に誓う」

恐竜帝国の恐竜ジェット機が、大編隊で早乙女研究所を襲撃。リョウたちは分散して、ゲットマシンで敵ジェット機隊を次々と撃墜していく。しかし、裏手から回りこんできたジェット機隊が研究所に迫る。合体してこれを阻もうとするリョウであったが、ハヤトは無視して単独で撃墜に向かう。だが、最後の二機は火を噴きながらも、研究所のバリヤー発生装置に特攻！　真の目的は装置破壊だったのだ。命令を無視したハヤトの自信過剰さが危険だと感じたリョウは、ハヤトと殴り合いで決着をつけることとなる。そこに、強力な放射能を生むスーパーウラニウム爆弾を搭載したメカザウルス・ガルが襲来。二人は決着を預け、研究所でしびれを切らしていたムサシとともに出撃する。難なくガルを爆弾ごと宇宙で葬ったゲッターは、さらに手薄の研究所を襲撃しようとしたジェット機隊をも殲滅する。戦い終わったリョウとハヤトは、互いを理解しあっていた……。



34「女竜戦士ユンケの涙」

早乙女博士は、研究所を守る要塞・ゲッターナバロン砲を完成させる。そんなある日、リョウは負傷した少女・片桐ジュンと出会う。ジュンに亡くした妹の面影を見たリョウは、ジュンを献身的に介護する。しかし、ジュンこそは恐竜帝国の女竜戦士ユンケだったのだ。ユンケの策にはまったリョウは催眠術をかけられ、メカザウルス・ウビとの戦闘で、自らゲッターナバロン砲を破壊してしまう。リョウの異変を察知したムサシたちは、飛び出していったリョウを尾行、ジュンの正体を暴く。ジュンの正体を知ったリョウは、悲しみを胸にユンケ、ウビに立ち向かう。強敵ユンケの前にゲッターはマグマに落とされ、溶解の危機に瀕する。溶けかかるゲッターを救ったのは、なんとユンケであった。優しく介護するリョウの姿を思い出し、見殺しにできなくなったのだ。だが、このことで裏切り者と見なされたユンケは、ゴールの放ったメカザウルス・アローと刺し違え、絶命してしまうのだった……。



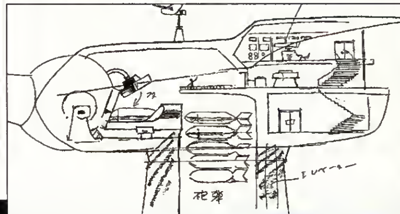
35「ムサシ！男はつらい」

再び完成したゲッターナバロン砲。博士はナバロンの砲撃手を文次に任せようとするが、文次はこれを承知しない。その頃、五つの海底火山を噴火させ、関東大震災を誘発させようと企んだゴールは、メカザウルス・ザリを出撃させる。ザリの活動により、海底火山は次々と噴火し、津波などの二次災害も広がっていく。調査に出動したゲッターチームは、神出鬼没のザリをやっとの思いで発見。その活動を阻止しようとする。そんな時、ムサシが許嫁の写真だと偽って送ったミチルの写真を手に、ムサシの母・タケが東京へ向かっていた。ムサシは母を巻きこまないようにと奮闘するが、裏腹にザリは五つ目の海底火山にビームを撃ちこもうとする。これで最後かと思われた瞬間、ザリは大爆発を起こした！　ジョーホーの説得で文次がナバロンを使い、ザリを撃ち抜いたのだ。一件落着、母との再会を喜ぶムサシであったが、写真のことがばれてしまい、文次に追い回されるのだった。



36「要塞撃滅！トロイ作戦」

研究所を襲ったメカザウルス・ダダを難なく仕留めたナバロン砲。勝利に酔いしれる文次を博士たちは誉めるが、出番を奪われぎみのリョウたちにはあまり面白い話ではなかった。翌日、続いて襲来したメカザウルス・モギも、またナバロン砲が撃破する。だが、これこそが無敵要塞ナバロンの攻略作戦だった。モギは吹き飛んだパーツを合体して再生。バット将軍らが身を潜ませる砲弾型カプセルをナバロンの格納庫に忍ばせる。朝を待ち、モギは研究所を襲撃。ナバロンが砲撃準備にかかると、砲身に装填された弾頭からバット将軍たちが飛び出し、コントロールルームを占拠した。しびれを切らして出撃したリョウたちは、そうとは知らずナバロンの砲撃を受けてしまう。消し飛ぶゲッター1の右腕！　しかし、ナバロンに忍びこんだミチルが文次たちを解放し、バット将軍に逆襲！　これを退けた。ナバロンの砲撃が止んだところで、すかさずゲッター1はビームを放ち、モギを撃破した。



37「悪の指令！博士を狙え」

世界エネルギー会議に出席することになった早乙女博士。そのことを大々的に新聞に取り上げられてしまう。心配するリョウたちの護衛を拒否し、博士はミチルの運転する車で会議に向かう。リョウたちの不安は的中、ドライブ・インに寄った博士たちはキャプテン・マンダに襲われる。その頃、リョウたちは研究所に攻めてきた恐竜帝国の戦闘機と戦っていた。敵の陽動作戦、それに気がついたリョウたちは急ぎ研究所に引き返す。博士の護衛に向かった文次は、倒れていたミチルを発見。博士が拉致されたことを知り、改造車でマンダを追跡。博士の捕らわれた恐竜戦車を見つけた文次は改造車で突撃する。ジョーホーから連絡を受け、現場に駆けつけたゲッターは、強力な電磁波を放つメカザウルス・マグを相手に苦戦する。一度、マグの攻撃から逃れたゲッター2は文次たちと合流、協力して博士の救出に成功する。再びマグと対峙したゲッターは、ゲット・アタックでマグを粉砕する。



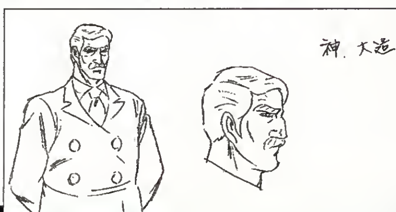
38「魔の海からの脱出!!」

突然、サルガッソー海に新火山が誕生した。不審に感じたゲッターチームは、魔の海と呼ばれるサルガッソー海域へと調査に向かう。だが、その火山島はユラーの作り出した罠であった。火山島に降り立ったゲッター1は巨大シャコ貝に捕まり、身動きとれなくなってしまう。トマホークもミサイルも受けつけないシャコ貝を破壊するため、ミチルはナバロン砲弾を取りに研究所へと引き返す。しかし、研究所もメカザウルス・ナダの襲撃を受けていたのだ。ナバロン砲もナダのすばやい攻撃の前に使用不能となり、研究所は倒壊の危機に陥ってしまう。ミチルはナバロン砲弾を積みこむと、リョウたちのもとへと急いだ。ユラーの力で沈み始めた火山島。リョウたちはゴールの放ったサメの大群を逃れて砲弾をセット。ようやくシャコ貝を破壊し、研究所へ急行した。ゲッターはナダのスピードと鋭いカマに苦戦するが、リョウの必殺・ゲッタートマホーク二刀流がナダを真っ二つにする！



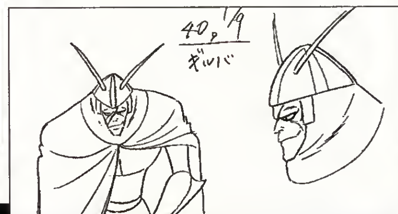
39「悲しみは流れ星の彼方に」

調査のため、大星山に向かったハヤトは、さおりという少女とその祖父に出会う。さおりは、不治の病に侵されながらも、残された時間で亡き父の好きだった山に登りたいという。しかし、登山中に祖父は転落死してしまい、さおりもハヤトの知らぬ間に恐竜帝国に改造されてしまう。サイボーグとなり、永遠の命を手に入れたさおりへの代償は、研究所・司令室の爆破、そしてハヤトの抹殺だった。さおりは命令通り司令室を爆破。すると、研究所を恐竜帝国の新兵器マグマ弾とメカザウルス・ドゲが襲った。出撃しようとするハヤトの前に現れたさおり。だが、彼女にはハヤトを殺すことができず、全てをうち明ける。出撃したゲッターは速攻でドゲを撃破。そして、ハヤト怒りのゲッタードリルがマグマ弾と前線基地を粉砕する！　さおりのもとに急ぐハヤト。しかし、さおりは裏切り者として恐竜帝国に殺されてしまった。さおりの最後の願いに応え、ハヤトは山でハーモニカを吹くのだった。



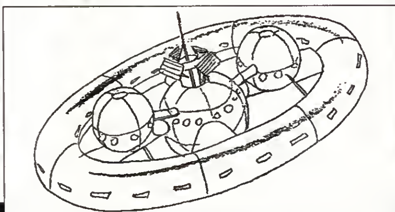
40「日本列島凍結作戦！」

地震によって、氷河の中から目覚めたキャプテン・ギルバが恐竜帝国に帰還した。一年前、氷河探索に出たまま行方不明となっていた男である。ギルバは早速、日本列島凍結作戦を提案。ゴールの許可を受けると、メカザウルス・ベドを使い、寒気団を操って日本へ直撃させた。凄まじい猛威をふるう寒気によって、日本は次第に雪に閉ざされていく。列島凍結の危機！　この異常現象を恐竜帝国のしわざだと睨んだ博士は、ゲッターロボを出撃させるが、その寒気の前にゲッターさえも氷づけにされてしまう。だが、ゴールの無茶な命令によって形勢は逆転。ゲッター１がベドを打ち砕く！　生き残ったギルバはゲッターチームのリーダー、リョウに一騎打ちの勝負を挑む。ムサシの日本刀を借り、勝負を受けたリョウはギルバと火花を散らす！　一瞬の隙をつきリョウの刀は見事、ギルバを仕留める。辛くも勝利したリョウは、ギルバを戦士として讃えるのだった。



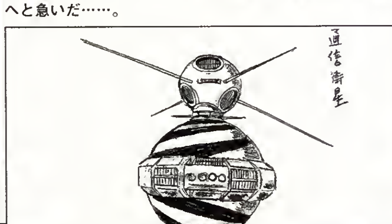
41「姿なき恐竜空爆隊」

一月の寒空に突如として発生した積乱雲。積乱雲から降り注ぐ雨、霰の爆撃を受けて研究所は大きな被害をこうむった。姿なき空襲にゲットマシンが飛び立つ。雲の向こうから次々と現れる恐竜戦闘機。リョウたちは、華麗な空中殺法で敵機を撃墜していく！　その最中、ミチルのコマンド・マシンが行方不明になってしまった。雲に秘密ありと推測し、その解析に全力を注ぐ博士のもとにバット将軍からの通信が届く。ミチルはバットの指揮する空母、メカザウルス・グダに捕らわれていたのだ。日本総攻撃をもくろむバットの脅迫に屈せず、博士はゲッターチームに出撃を命じる。博士が開発した雲拡散カプセルによって姿を現したグダ。リョウたちは賢明にミチルを救出しようとする。一方、自力で脱出を試みるミチルは、グダのエネルギータンクを爆破！　体勢を崩したグダの口から、ゲッター２がミチルを救出した。グダはゲッター１からトドメの一撃をくらって撃墜される。



42「北極に進路をとれ！」

ある夜、東京に強烈な放射能ガスを放つ隕石が落下した。この隕石を放っておけば、人類が滅亡する危険性さえあるのだ。ガスはゲッタービームさえ照射すれば、普通の酸素へと変化するが、その際に高熱を発して大爆発する可能性もあるのだ。早乙女博士がはじき出した答え。それは、隕石をゲッターロボで北極に運び、そこでゲッタービームを照射することだった。隕石のガスと熱を防ぐカプセルは２時間しか持たない！　しかも、メカザウルス・ゾリと恐竜ジェット機の大群が現れ、リョウたちの行く手を阻む。ゲッター１は腕を損傷、隕石を街の上空で落としてしまった。間一髪、隕石を拾い上げたゲッターは一路、北極を目指して飛んだ。やっとのことで北極に到着したゲッターは、ゾリの放つマグマを受けながらもゲッタービームを発射！　タイムリミットぎりぎりで隕石を処理して逆襲。ゾリを倒した。疲れきったリョウたちは、暖かい夕食の待つ研究所へと急いだ……。



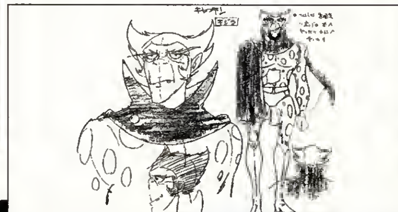
43「奪われたゲッターロボ」

イースター島に建造中のゲッター線レーダー基地が襲われた。研究所はただちにゲッターチームを現地へ派遣。イースター島に到着したリョウたちは、早速メカザウルス・ガモの手荒い歓迎を受ける。やはり恐竜帝国のしわざ。リョウたちはゲッター３に合体して対抗するが、ガモには逃げられてしまう。そこに、先に島へ降りたミチルからＳＯＳが入る！　イースター島へ降り立ったリョウたちは、巨大な石像に襲われた。それこそが恐竜帝国の作戦だった。リョウたちが離れた隙にキャプテン・イザナ、ロナン、ハガチの三人がゲットマシンを奪い去る。さらに彼らは、拉致したミチルを催眠装置にかけてゲッターロボの合体方法を聞きだし、研究所襲撃に向かった。一足遅れてミチルを救出したリョウたちは、敵戦闘機を奪ってイザナたちの後を追う！　空中からゲッター１に飛び移ったリョウたちは、それぞれ三人のキャプテンと対決！　ゲッター奪還に成功し、ゲッター３でガモも撃破した。



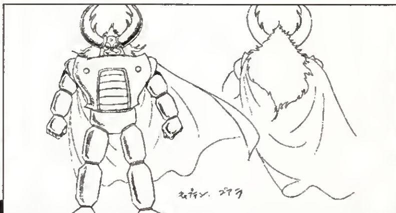
44「ムサシ！怒りの海底」

突然に現れては忽然と消えていく恐竜ジェット機。頻繁に現れる敵機追跡に疲れ気味のリョウたち。そんな時、元気に遊園地へと連れ出されたムサシは、ひょんなことから弘という少年に出会う。ムサシと元気は、近日完成予定のスーパージェットコースターに乗る約束をして弘と別れた。弘と仲良くなった元気は、弘からもらったという銃と鉱石を博士たちに見せる。だが、それは明らかに恐竜帝国のものだった。まさか遊園地が前線基地!? 遊園地へ急行したリョウたちは、カモフラージュをはがして姿を現すメカザウルス・ガダと遭遇する。しかし、ガダの装甲は硬く、ビームもドリルもまったく通じない。ゲッターのピンチ！ 博士は元気の持ってきた鉱石、即ちガダの装甲を解析し、弱点が水であることを突き止めた。が、ゲッターに連絡するまでもなく、ガダはすでにムサシが倒した後だった。ムサシは自慢げに言う、ナメクジの仲間なら海水に弱いと思ったのさ、と……。



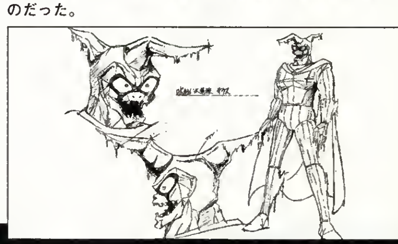
45「脱出！宇宙の墓場」

世界各地を襲う、突然のミサイル攻撃。その弾道の先にあるのは通信衛星だった。衛星の持ち主からの依頼で調査することになったゲッターチーム。依頼主は、なんとハヤトの父・大造だった。母親が死んだ一件で父を恨んでいたハヤトは出撃を拒否するが、ミチルに説得され、ジャガー号で発進する。ハヤトと合流したリョウたちは、合体して宇宙へと飛び出すが、隕石群に襲われて宇宙の墓場へと迷いこんでしまう。そんな時、研究所からのＳＯＳが！ ゲッターは空域のコアとなっている隕石を粉砕して脱出。研究所に急行する。だが、リョウたちが駆けつけた時、研究所はメカザウルス・ゴアの攻撃によって跡形もなく消し飛んでいたのだ。恐竜帝国に激しい怒りを燃やしたリョウたちは、ゲッターでゴアを完膚なきまでに叩きのめす！ 途方に暮れるリョウたちの前に、難を逃れた博士たちが姿を現す。そして、大造の援助で研究所は復興され、ハヤトも父と和解するのだった。



46「恐るべき氷竜族の侵略」

帝王ゴールは氷竜一族のキャプテン・サウスとスノウを呼び寄せた。恐竜族の中でも特に異質な風貌を持つ彼らを使い、ゲッター線を世間的に抹殺しようと企んだのだ。サウスは円盤で国連本部へ乗りこむと、自分を宇宙人だと偽り、もっともらしいことを並べ立ててゲッター線開発とその使用を中止するよう人間たちに警告。そうして息絶えたサウスを宇宙人と信じて疑わない国連本部は、正式にゲッター線の開発、及び使用中止命令を早乙女研究所に通達する。ゲッター線収集装置がとり外されたと同時にメカザウルス・グマが襲撃。エネルギー供給を失った研究所は、容易に破壊されてしまう。重傷を負った博士を目の前にして、意を決したリョウたちはエネルギーの残り少ないゲッターで出撃！ 敵戦闘機を叩き落とし、ゲッタービーム・フルパワーをぶちこんでグマを粉砕した。と、同時に、ゲッターの活躍を知った早乙女博士は、奇跡的に命を取り留めたのだった。



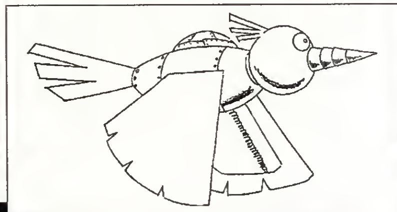
47「帝王ゴール地上に現わる」

地上に姿を現した帝王ゴール。素晴らしき地上の環境に地上制覇の夢を膨らませたゴールは、次なる作戦を実行に移す。偶然にもこれを目撃した青年・早田信一。早田は山で遭難していたところを、調査に来たミチルに救助される。早田の証言から、恐竜帝国の影を追うゲッターチーム。しかし、ミチルの手厚い看護を受ける早田にヤキモチを焼くムサシは、ちょっとした誤解から二人が結婚すると思いこみ、戦意喪失してしまった。そんな時、街が火の海になったという知らせが入る。ミチルの励ましで俄然、張り切りだしたムサシはリョウたちと出撃。ゲッター２が街に噴きだしたマグマの流れを変え、マグマを誘導してきたメカザウルス・ゾンにゲッター３がトドメをさす！ そして、空に待機していたメカザウルス・バンを、ゲッター１が撃破した。研究所に戻ったムサシは、信一にフィアンセがいることを知り、ホッと胸をなで下ろすのだった……。



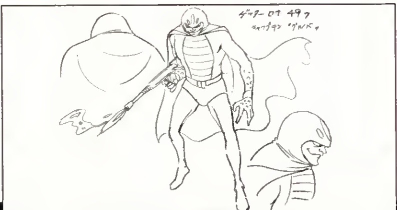
48「マグマの恐竜帝国へ突入！」

早乙女博士が新たに開発したゲッター線レントゲン装置。それは遥かな地底、マグマ層を地上から透視できるというものだった。この装置を使い、博士たちはついに恐竜帝国基地、マシーンランドの所在を突きとめる。磁力皮膜装置で防護したゲッター２でマシンランドを目指すリョウたち。だが、メカザウルス・ヤモの妨害で一時撤退することとなってしまった。博士に新兵器・ゲッター線銃を搭載してもらったリョウたちは、再びゲッター２でマシンランドへ向かう。邪魔するヤモをゲッター線銃で倒し、リョウたちはマシーンランドに突入した。しかし、中はもぬけの殻。ゲッターの動きを察知したゴールは、すでに別のマシーンランドへ移動していたのだ。ゴールの置きみやげ、時限爆弾が作動する！　脱出を急ぐリョウたちは土壇場で妙案を思いついた。マシーンランドを浮上させて地上に生還したリョウたちは、レントゲン装置を破壊するメカザウルス・ゾルを粉砕する。



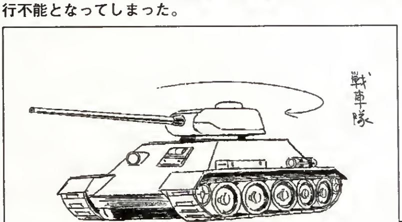
49「大爆発！くたばれ恐竜帝国」

レントゲン装置を破壊された早乙女研究所は、これに代わるゲッター線ソナーを急遽、開発。コマンド・マシンに装備して、マシーンランドを捜索する。やがてマシーンランド発見の報が入り、リョウたちが出撃。ゲッター２でマシーンランド追撃に向かう。焦るゴールはメカザウルス・ヌメを発進させた。不覚にもヌメに捕獲されるゲッターであったが、リョウたちは逆にヌメを奪取。マシーンランドへの潜入に成功した。さらにリョウたちは、早乙女研究所を目指して移動しようとするマシーンランド操縦室を占拠。ゴールたちの目をうまくごまかし、まんまとマシーンランドを海上へと引きずり出した。ゲッター線を直接浴びたマシーンランドに亀裂が走る！　リョウたちは、自動操縦で脱出させておいたゲットマシンに乗りこみ、ゲッター１に合体！　残されたありったけのエネルギーで、ゲッタービームを照射！　ついに恐竜帝国基地、マシーンランドを爆破するのだった。



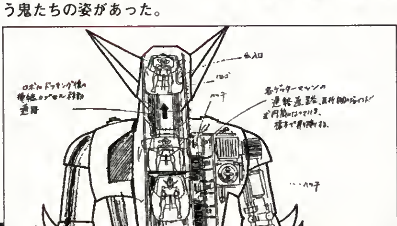
50「帝王ゴール決死の猛反撃」

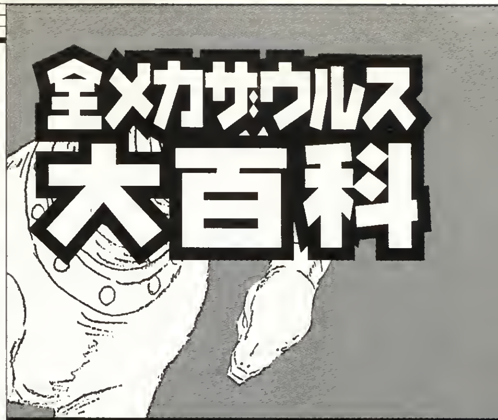
間一髪のところをユラーに助けられたゴールたちは、早乙女研究所に対して正真正銘、最後の総力戦を挑む。研究所を襲った恐竜戦闘機を追撃するリョウたちであったが、ゲッターの離れた隙に研究所は大爆撃を受けて全壊。さらに、待ちかまえていた海の大要塞、無敵戦艦ダイの砲撃をくらい、ミチルが危篤状態となってしまう。緻密な作戦と多数の強力な兵器の前に、満身創痍となった早乙女研究所。そこにメカザウルス・ガイがゲッター追撃に現れた。ガイをゲッター１でしとめたリョウたちは博士の指示に従い、敵の新鋭機スーパーコンドルを新兵器ゲッタースパイラルで一網打尽にする。そして、ゲッター３にチェンジ、海底からダイを攻略しようとする。だが、強敵バット将軍の操るメカザウルス・ゴダに行く手を阻まれてしまう。一か八か、からみつくゴダにゲッターミサイルを連発！　ゴダを粉砕するゲッター。しかし、無茶な戦闘からゲッターも飛行不能となってしまった。



51「恐竜帝国のほろびる日」

飛行不能となったゲッター１を、無敵戦艦ダイとメカザウルス・ザロ、モバが取り囲む。必死にウイングの修理を終わらせたゲッターは勇んでダイに立ち向かうが、ダイには歯が立たず、今のリョウたちには逃げることが精一杯だった。景気づいた恐竜帝国は、瞬く間に東京を征服。前線基地を完成させると、ゴールたちはユラーを讃え、勝利の宴に酔いしれる。一方、唯一のダイ対抗策が口への直接攻撃だと判断した博士は、三段式ゲッターロケット弾によるダイ攻略作戦を決行！　リョウたちはゲッターロケット弾を装備したゲットマシンでダイに突撃する！　しかし、ムサシのミスで作戦は失敗。ゲットマシンは撃破され、リョウとハヤトも重傷を負ってしまった。残された手段はただ一つ。ムサシは、高性能ミサイルを積んだコマンドマシンでダイに特攻！　ダイもろとも恐竜帝国を全滅させた。戦いは終わったかに見えた……だが、恐竜帝国滅亡の影に笑う鬼たちの姿があった。



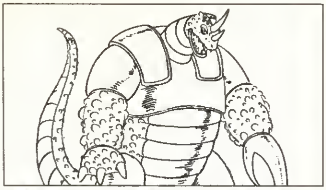


全メカザウルス大百科

DESTROY ALL MECHANIC DINOSAURS

サキ

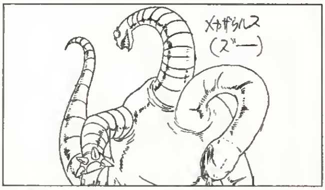
#1



恐竜帝国にとって邪魔なゲッター線を研究する、早乙女研究所破壊の使命を帯びて出撃したメカザウルス第1号。口から吐く炎と鼻先のツノミサイル、強靭な尻尾を武器に戦う。初陣では、プロトゲッターロボを破壊した実績をもつ。次に研究所も攻撃した際に、ゲッター１と対戦。得意の炎でゲッタービームをはじき、炎と尻尾ツノミサイルでゲッター１を攻め立てたが、トマホークで頭をぶった切られ、ゲッターキックを受けて絶命する。

ズー

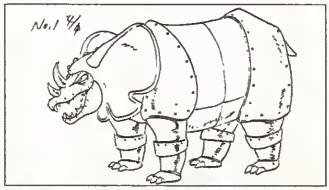
#1・#2



恐竜帝国の先兵、三大メカザウルスのうちの１匹。２つの首が特徴で、その口から炎を吐き、海から東京を襲撃した。サキ戦の直後にザイ、バドと共に、ゲッターロボに襲いかかり、その長い首と尻尾を武器に戦った。２回戦目でも長い尻尾でゲッター１を締めつけたが、ゲッタートマホークで尻尾をぶった切られてしまう。そして、ゲッター３の大雪山おろしでぶん投げられ、ゲッターミサイルを口の中に撃ちこまれて絶命する。

ザイ

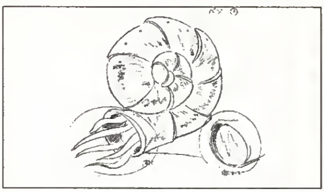
#1・#2



恐竜帝国の先兵として東京を襲撃した、三大メカザウルスの１匹。頭の角を回して穴を掘り、陸から襲った。サキ戦直後に、角から発射するミサイルと突進攻撃でゲッター１を苦しめた。しかしゲッター２との対戦には、ゲッタービジョンで翻弄され、地中へ逃げるもゲッタードリルで穴を開けられ絶命。ゲッタービームをはね返すほどの突進も、ゲッター２のスピードには勝てなかった。ちなみに三大メカザウルスなのにＯＰには未登場である。

バジ

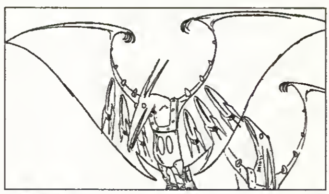
#3



「レインボー作戦」を実行する、カタツムリ型メカザウルス。東京に降り注がれた七色のペイントを目標に、口から吐く黄色い溶解液で建物を溶かして、ガリガリ食べてしまう。得意攻撃は、ヤリ貝型に変形してドリル回転式の体当たり。また特殊な体質で、切られてもその体の一部から再生できる。そのため、ゲッター１のトマホークでぶった切られても何匹にも分裂した。頭部が司令塔らしくトマホークで頭を切られ、ビーム→トマホークで絶命。

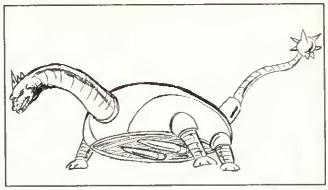
バド

#1・#2



恐竜帝国の先兵、三大メカザウルスとして、空から東京を空襲した翼竜型。武器は、翼に装備された６門の空爆ミサイルのみで、サキ戦直後にゲッターを襲う際もこれで攻撃した。空戦専門なので、２回戦目でもゲッター１と対戦。唯一のミサイルをゲッタービームで打ち消され、ゲッタートマホークで真っ二つにされて絶命する。ＯＰでのゲッター２にゲッタードリルを口の中につっこまれるという残酷な殺され方が印象的だ。

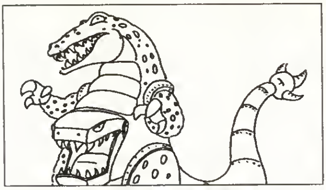
ゴル



産出されるウランを狙い、帝国の基地を建設するため、南の島ウーロン島を襲撃する。口から吐く炎、尻尾の先の鉄球、頭を引っ込めて出す巨大ドリルが武器。島の探索に来たミチル＆コマンドマシンを捕らえ、それをいいことにゲッターを苦しめた。しかしゲッター２のストーム→ドリル連係攻撃を食らい、その間にミチルを救出されてしまう。そしてゲッター２のドリル逆回転→ゲッター３のパンチでお手玉状態にされ、ゲッタービームで絶命する。

＃４

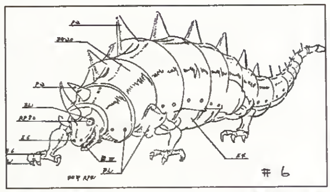
ギガ



トンネルから現れて列車や車を襲撃するという、目的が地味なメカザウルス。武器も地味で、顔の口、腹部の口から吐く炎、尻尾の先の鉄球の３つ。腕力とタフさに秀でているようで、最初に出撃した際、ゲッター２のドリルアーム、ドリルストームにビクともしなかった。しかし２回戦目では、ゲッター３と組み合い、そのバカ力に押されてしまう。水が弱点で、ゲッターミサイルで辺りの岩場を崩され、大量の地下水を浴びて爆死する。

＃５

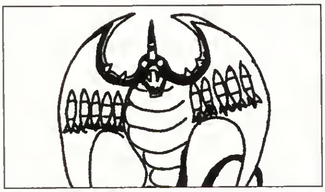
リボ



鉄道や工場といった、生活ラインを襲撃し、東京を孤立させて乗っ取るという作戦に参加。武器らしいものはなく、体を丸めてタイヤ型回転で突進する攻撃しかしてこない。地中を突き進むため、なかなか発見されなかったが、ゲッター２にドリルで頭を攻撃され指令装置が狂い、凶暴化。ゲッタービーム、トマホーク、ゲッター３の体当たりにもビクともしなかった。しかし大雪山おろしで海まで投げ飛ばされ、帝国の潜水艦に激突、爆死する。

＃６

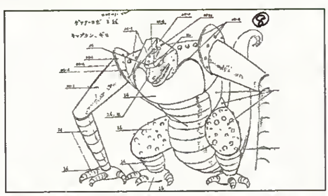
ベラ



日本中の通信網をマヒさせる目的で、宇宙通信基地や電電公社のマイクロウェーブ中継所などを襲撃したメカザウルス。武器は口から吐く炎と長い尻尾、空中体当たり。また、頭の角から磁気嵐の雷雲を発生させることができ、ゲットマシンの通信機能を狂わせた。飛行型なので、ゲッターキックをかわすくらいの敏捷性はあるようだ。トマホークで翼を攻撃され、炎を吐いて応戦するが、ゲッタービームに押されてしまい、絶命する。

＃７

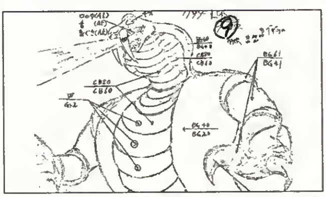
ギロ



原子力発電所を乗っ取り、帝国の地上基地にしようとする作戦に参加する予定だったメカザウルス。打倒ゲッターロボに固執するキャプテングランが搭乗した。肩から放つミサイル、額から打ち出すチェーン、伸びる腕が武器。マッハのスピードで走る俊足の持ち主で、ドリルストームやドリルアームが歯が立たなかった。チェーンでゲッター２をからめて振り回し善戦したが、ドリルを土手っ腹に食らい、右手のアームで首をもぎ取られて爆死。

＃８

シグザウルス



キャプテンラドラが搭乗する、マグマ中での戦闘が得意なメカザウルス。無差別にマグマを噴火させ、その溶岩で人々を殺そうとした。武器は、口から吐く緑のビームと、目から発するビーム、頭部・蛇部分を伸ばしての締めつけ攻撃。一度ゲッター１に敗れてしまうが、腕部に翼を取りつけた改良型で再戦。ゲッター１のエネルギーがなくなるまで善戦するが、ラドラの裏切りに怒ったゴールの手によって、自爆させられてしまう。

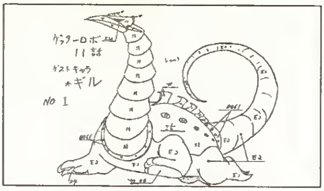
＃９

バズ #10



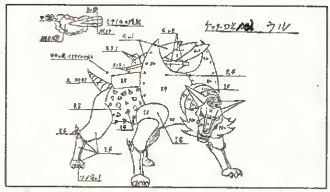
日本の空を混乱させて制空権を握る目的で出撃した、恐竜博士製のメカザウルス。岩陰に隠れて、頭から無数のノコギリ手裏剣を飛ばして、日本上空を飛ぶジェット機を撃墜していた。接近戦では、長い尻尾を振り回し、腹のノコギリを回して攻撃する。ゲッター２と１には善戦したが、ゲッター３の大雪山おろしで崖下にブン投げられてしまう。そしてパラソルで飛行する３の急降下をまともに食らい、その下敷きになって絶命する。

ギリ #11



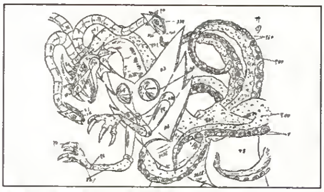
キャプテンバルキが搭乗するメカザウルス。浅間山を噴火させ、そのマグマをまとったジェット機を飛ばし、これをオトリにゲッターロボをおびき出し、研究所を襲撃した。口の中に第２頭部があり、カマクビを切られても再び胴体と合体できる。得意攻撃は、カマクビ全体をドリル回転させての突進と、口から吐く赤い溶解液。見た目より身軽でゲッター２と互角に渡り合ったが、ドリルアームとの正面対決に敗れ、真っ二つになって絶命する。

ウル #12



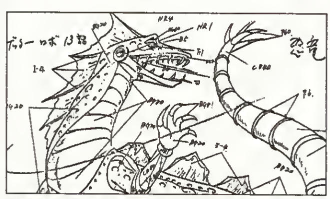
東京中の発電所を襲撃し、その電力を根絶やしにする目的で出撃した、凶暴な狼型のメカザウルス。強力な磁場を帯びており、額と背中から放つミサイルと牙を武器に暴れまわった。新合金製の上に、非常に敏捷性が高いため、ゲッターの武器がことごとく通用しなかった。しかしさすがに口の中を攻撃されるのは弱いようで、オートジャッキで無理に口をこじ開けられ、ゲッター２のサッカーキックでボール型バクダンを放りこまれ、爆死する。

メサ #13



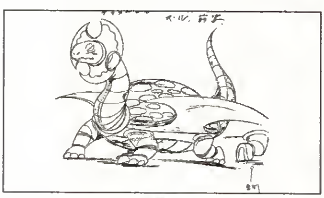
房総沖に建設中の海底基地を悟られないための陽動作戦に参加。ゲッターロボを翻弄するため、日本中の海で船舶を襲撃していた。武器は、無数のタコのような足と、口と腹から放つミサイル。２度ほどゲッターと戦ったが、主にタコ足ではがいじめにして、海溝に引きずりこもうとしていた。得意の海底戦でゲッター１をいいところまで追い詰めたが、ゲッター３のゲッターアタック→大雪山おろし→ゲッターミサイルで絶命する。

名もなきメカザウルス #13



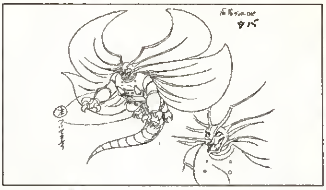
海底基地建設を悟られないための陽動作戦に参加。基地から遠ざけるために、房総沖でゲッター３を迎え撃つ。ゲッターミサイルに対して口から放つミサイルで応戦するが、大雪山おろし→ゲッターミサイルで尻尾を破壊される。この時点では逃げ帰ってしまい、その死亡が確認されていない。メサと同時に行動しているシーンがないので、尻尾を破壊された後、タコ足などをつけてメサに改良されたと考えるのが有力。でも真実は不明だ。

ギイ #14



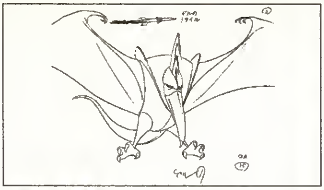
キャプテンガルマが搭乗するメカザウルス。ゲットマシンが合体する瞬間に、攻撃して倒す作戦に参加する。首のプロペラカッターを回転させての飛襲と、口から吐く炎が武器。２度ゲットマシンを襲うが、２回戦目では、目から幻影を映写して、マシンを後方から攻撃した。ゲッタービームをも弾くプロペラだが、ゲッター２に後ろを取られ、３のパンチで破壊されてしまう。その後トマホークで首を切られ、ゲッタービームを食らって絶命する。

シバ #15



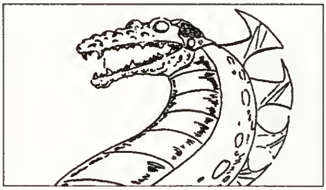
子供を人質にとって、ゲッターロボと対決するために作られたメカザウルス。武器は角から放つビーム、胸から発射する爆撃ミサイル、後ろの羽をあわせて発する大型レーザー。バット将軍が搭乗して出撃した1回戦目では、見事ゲットマシンを撃墜する。しかし人質を奪取されてしまい、2回戦目（バットは搭乗せず）ではゲッター3の猛攻を受けてしまう。ジャンプした3に背中にのしかかられ、大雪山おろし→ゲッターミサイルで絶命する。

ゲル #16



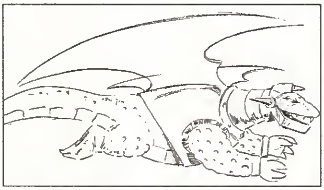
研究所を襲撃する目的で、キャプテンクックが搭乗して出撃したが、研究所のゲッター線バリアにぶつかり翼を負傷してしまう。次に地竜族のシックが搭乗者に任命され、翼を2倍の大きさにし、首を2m長く改良。武器は、口から吐く炎、肩口から放つミサイル、翼でまき起こす突風。翼は切られても、補助翼が生えてきて飛行することが可能。ゲッターに追い立てられ、帝国に逃げようとするが、ゴールに見放されて地底のマグマで絶命する。

ジガ #17



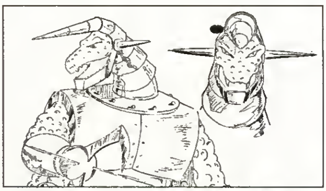
キャプテンルーガが搭乗する、胴の長いメカザウルス。武器は口から吐くマグマと、長い胴での締めつけ攻撃。ジガが横浜を襲った際に、ルーガはケガした少女ルミのフリをして研究所に潜入し、ゲットマシンの設計図を盗みだそうとする。火山のマグマの中に逃げ込むが、ゲッター2にドリルを突き刺され、地上に引きずり出されてしまう。口から吐くマグマの熱源が尻尾の先にあり、それをトマホークでぶった切られ、ゲッタービームで絶命する。

ゼン1号 #18



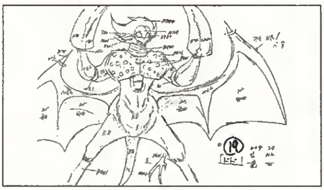
3年の武者修行から帰って来た、バット将軍の甥、キャプテンザンキが搭乗するメカザウルス。ゲッターロボと研究所の仕組みを知る目的、そしてゼンを犠牲にしてゲッターチームの油断を誘う目的で研究所を襲撃する。ごつい体に翼を取りつけた勇猛なモデルだが、その割りには武器は、額から放つミサイルのみ。ゲッター1と戦ったが、ゲッタートマホークで翼を切られ、ゲッタービームで絶命。その後ザンキは口から脱出する。

ゼン2号 #18



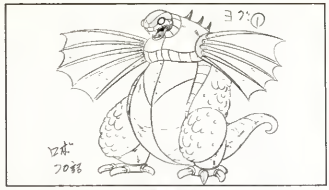
ザンキが独自に科学技術庁に依頼して製作した、ゼンの2号モデル。暴君竜と剣竜を掛け合わせた恐竜を基にしており、陸戦に適している。しかしザンキがバット暗殺計画に失敗して処刑されたため、オートマで東京を襲撃する。武器は、額から放つミサイルと、右腕のハンドソードの回転攻撃。ザンキがゲットマシンに仕掛けた高性能ミクロ爆弾をリョウに投げつけられ、額を破壊されて形勢逆転。ゲッタートマホークで真っ二つにされて絶命する。

ドド #19



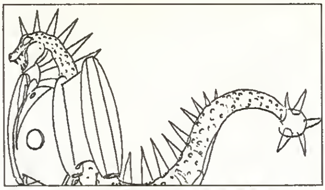
キャプテンドロスが搭乗するメカザウルス。早乙女研究所の、人工衛星「ゲッター線キャッチャー」打ち上げ計画を邪魔するのが目的。恐竜帝国のスパイとして暗躍していた、研究所主任によって、ロケットは爆破され、その後研究所を襲う。武器は両腕の鋭いツメのみ。急降下するゲッター1に翻られ、ゲッタートマホークで頭をぶった斬られてしまう。次にトマホークブーメランで胸のコックピットを攻撃され、ゲッタービームで絶命する。

ヨグ #20



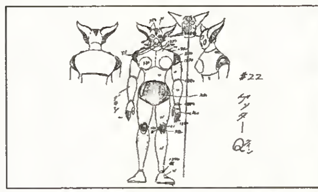
キャプテンヨギラが搭乗するメカザウルス。日本海沿岸に帝国の前線基地を造るため、ここを空襲する。雲を吐きその身を隠して、口から大量の小型爆撃機を発進させる。武器は胸から発射するミサイルと、口から放つ火炎弾。爆撃機軍団によるゲットマシン撃墜の実績を持つが、ゲッター1にトマホークブーメランで指令電波を出す触覚を切られてしまう。その後ゲッター2にドリルアームでコックピットを破壊され、ゲッタービームで絶命する。

ゴラ #21



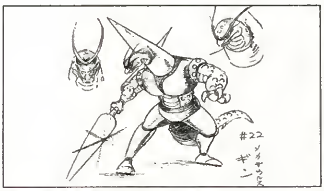
燃え盛る炎に包まれて、研究所を襲撃したメカザウルス。浅間山山頂に建設する帝国の大要塞の護衛が目的。武器は、胸から発射する2門のミサイル、尻尾の先の鉄球、胸から放つ電磁ネット、そして口から噴射する霧状の溶解液。かなり善戦したモデルで、強力な溶解液でゲッター1のウィング、2のドリルを溶かし、ネットでテキサスマックをも湖に沈めてしまう。しかし空飛ぶゲッター3に湖へおびき出されて、ゲッターミサイルで絶命する。

ゲッタークイーン #22



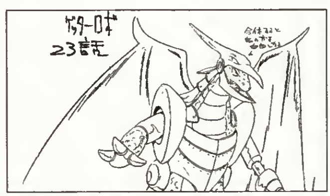
ゴールの娘、恐竜王女ゴーラが5年前早乙女研究所から盗んだ設計図を基に製作されたロボット。ゴーラの20歳の誕生日、皆既日食の日を迎える際に、ゲッターロボを倒すために完成された。人類に対して情をもったゴーラが死を覚悟して出撃したため、ただただゲッター1になぶられまくって、何の武器も出さなかった。ゲッター1を攻め立てるメカザウルス・ギンの前に割り込んで、ギンのブーメランを腹に食らって、ギンを道連れに爆死する。

ギン #22



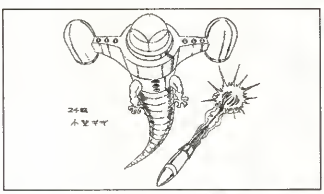
研究所を襲撃する目的で出撃した、ゲッタービームをも跳ね返すバリアを装備したメカザウルス。武器は、頭の巨大な角と、額のブーメラン。ゲッター1を相手に、額のブーメランで善戦したが、ゴーラの決心により一度撤退する。そして次には、ゲッター1になすがままのゲッタークイーンを助けるために、ゴールの命令により出撃。ゲッター1をブーメランで倒そうとしたが、クイーンに割りこまれ、クイーンの爆発に巻きこまれて絶命する。

ギラ #23



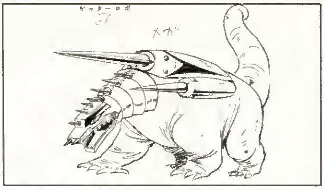
怪鳥ギラと地底獣ギラの2体に分離する、合体メカザウルス。怪鳥の武器は翼から起こす突風で、地底獣は口から吐く炎と左腕のドリルを武器に戦う。またギラ最大の攻撃は、突風と炎によって巻き起こす「火炎渦巻き」で、打倒ゲッターを目的に出撃した。浅太郎に翼をかじられているスキに、ゲッター1にトマホークで翼を切り取られてしまう。そこにゲッタービームを食らって怪鳥が絶命、地底獣もゲッター2のドリルアームで絶命する。

ギギ #24



キャプテンアラン、エランが搭乗する、二首のメカザウルス。1万発のミサイルを搭載している空の大要塞で、早乙女研究所を破壊する目的で出撃。ミチルを人質に捕らえて、大攻勢を仕掛けた。しかしムサシが操縦するトリ・メカの特攻でミチルを助け出されてしまい、しかもメカの爆弾で胴体を爆破されてしまう。コックピット部（武器は翼部から放つミサイル）のみ逃げようとしたが、ゲッター1のトマホーク→ゲッタービームで絶命する。

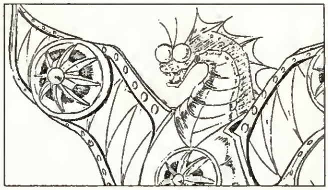
メガ



恐竜帝国の建国記念日に地球征服をするべく、ガレリィが搭乗した地底戦タイプのメカザウルス。帝王ゴール自らが考えた、浅間山のマグマの流れを変えて、早乙女研究所の下まで流す「大噴火作戦」に参加。バリがゲッターチームの注意をそらしているスキに、地中を掘り進んでいた。武器は、背中から放つミサイルと長く太い尻尾。ゲッターロボをバリと共同で攻撃したが、ゲッター3にボコボコに殴られ、投げ飛ばされて絶命する。

#26

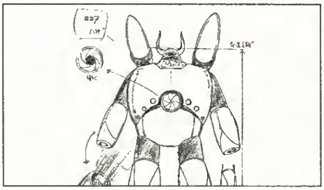
バム



キャプテンバミラが搭乗。腹と両の羽にある回転翼から、人工台風を発生させて研究所を襲う「タイフーン作戦」に参加するが、ゲッター2のドリルで腹の回転翼を壊されてしまう。そこで回転翼を吸収回転に改造、真空帯を作って腹の中にゲッターを吸い込もうとした。しかしゲットマシンが破壊した高圧電線を回転翼の羽に巻き込んでしまい、そこにゲッター3の体当たりを食らい、腹を破壊されてしまう。結局ゲッタービームで絶命する。

#25

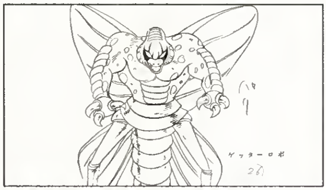
バボ



キャプテンギバラが搭乗するメカザウルス。陸海空どこでもフルに戦える重量型で、ゲッターロボを倒す目的で出撃する。武器は、両腕から放つミサイル、頭の角から放つ放電攻撃。また、腹の穴から竜巻を起こして、同じ穴から小型ジェット機を発進させてゲットマシンを襲った。ゲッター3にゲッターミサイルで頭の角をふっとばされ、1にトマホークブーメランで背中のジェットを切られ、2のドリルパンチを食らって絶命する。

#27

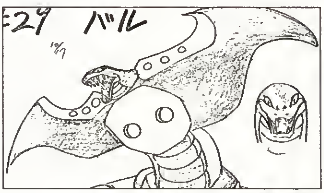
バリ



恐竜帝国が建設記念を迎える記念すべき日に、地上を制圧すべく、バット将軍が搭乗した空戦タイプのメカザウルス。帝王ゴールが直々に考え出した「大噴火作戦」に参加し、上空から空襲して、ゲッターチームの注意をそらすのが任務。バッタのような敏捷性で敵を翻弄し、口から放つミサイル、尻尾から放つミサイルを武器に戦う。メガと共にゲッターを挟み撃ちにしたが、ゲッター1にトマホークで足、羽を切られ、ゲッタービームで絶命する。

#26

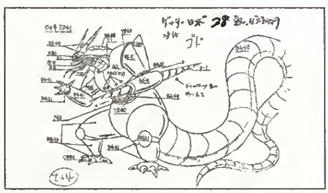
バル



キャプテンビクトが搭乗する、やけに胴の長いメカザウルス。ゲッター線第二発電所計画を阻止する目的で出撃した。武器は、首の腹部から放つ爆撃ミサイル、首の羽部から発射する機銃、手に持つ大鎌。首部分は独立したジェット機となることができる。ゲッターをおびき出すために村を襲い、ダムを決壊させるなどの非道ぶりが痛快だが、ゲッター2のドリルアームで胴体を破壊されてしまう。頭部もゲットマシン3体のロケット弾で絶命する。

#29

ゴド

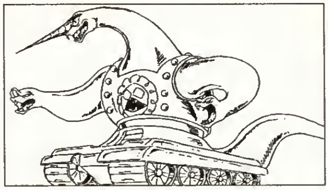


ギット、ザット、ビットの地竜族3人衆が搭乗するメカザウルス。研究所で行われていたゲッター線発電所計画を暴きだし、これを妨害するのが目的。武器は口から放つミサイルと左腕のドリル。最大の攻撃は、独立したコックピットから操作する、尻尾で敵を締めつける「尻尾金縛り」だ。戦車部隊と共同で戦線を張り、見事に発電所の破壊には成功。しかし、弱点である尻尾の付け根をムサシにバズーカで破壊され、ゲッタービームで絶命する。

#28

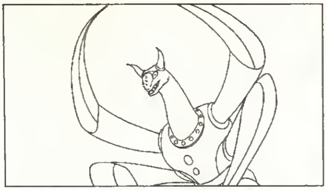
※メカザウルス・アローに関しては設定画が現存していません。お持ちの方は編集部までご一報を

ダグ #30



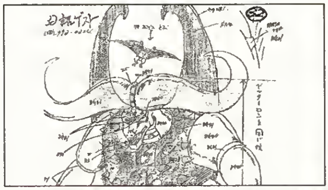
バット将軍が搭乗する、三首のメカザウルス。ゲッターロボのモニターテレビを妨害電波でマヒさせる、打倒ゲッター作戦に参加する。武器は、中央の首の口から放つ妨害電波の他、左右の首の口から放つミサイルと炎、中央の首の鼻ドリル。しかも戦車型なのに、飛行することも可能だ。1回戦目では、ゲッター1をズタズタにするという、大勝利を収めた。しかし、有視界操縦の改良ゲッター1のゲッタービーム→トマホークを食らい絶命する。

ヤバ #31



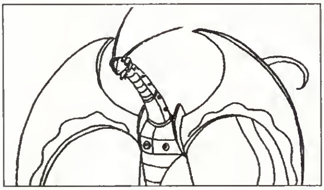
キャプテンギラオが操縦する、4本腕のメカザウルス。ゲッター線をウランの放射能に反応させて、人間にとって有害なものに変える計画に参加、ゲッター線貯蔵庫を襲撃した。武器は、上の両手の鎌を合わせて放つ、放射性を帯びているビーム「ウランスパーク」と、下の手の刀を振り回してのバズソー攻撃。放射能を振り撒くため、名前どおりヤバい奴だが、ゲッター1にトマホークで鎌を切られ、ゲッタービームで絶命する。

ブル #32



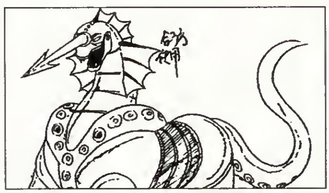
ウラン液の霧を町中にばらまいて、地上を襲撃する「レッドシャドー作戦」に参加するメカザウルス。ウラン液以外の武器は、額から放つミサイル、手の爪から放つミサイル。1回戦目では、キャプテンギザラが搭乗したが、中和剤を浴びてしまい、作戦は失敗する。ギザラは処刑され、代わって次は地竜族のゼオラが搭乗。中和剤をも中和する「新ウラン液」を搭載し、町中にばらまいた。結局ゲッター1のトマホークブーメランで絶命する。

ガル #33



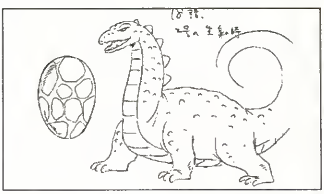
キャプテンマグマが搭乗するメカザウルス。胸から小型の恐竜ジェット機を飛ばし、研究所に特攻させる作戦に参加する。スーパーウラニウム爆弾を搭載し、他に目から放つビーム、翼型の鎌を武器に戦う。頭部だけ切り離すことができ、ゲッター1ともども大気圏外で自爆しようとしたが、失敗。一方の胴体部分からはジェット機部隊が出撃し、研究所を襲撃したが、これもゲッター1のゲッタートマホークやゲッタービームで全滅する。

ウビ #34



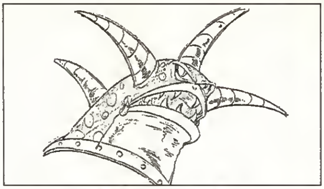
女竜戦士ユンケが搭乗するメカザウルス。ナバロン砲要塞計画を妨害する目的で出撃。ユンケの吹く笛で出撃し、巨大化したユンケを背に乗せて戦う。武器は、口から吐く炎と、胸から放つミサイル、頭の角から放つミサイル。ゲッター3や2を翻弄した強敵で、ゲッター1をも火山口に放りこんでしまう。しかし、リョウに情が移ってしまったユンケが、ゲッターを助けてしまう。その後アローの矢を受けて、火山口に落ちてユンケともども絶命する。

アロー #34



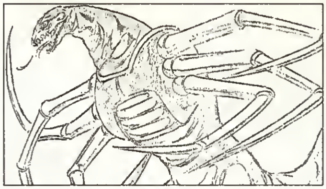
ウビ＆ユンケがゲッターロボにトドメをささずに助けてしまったので、ゲッターを倒すために出撃。文字通り矢が武器で、ゲッター1に襲いかかったが、ウビに邪魔されてしまい、ウビの頭の角のミサイルを食らって絶命する。その実力は不明だが、武器がそのまんまアローって名前になってる時点で、多分とりあえず製作された程度のメカザウルスなんだろう（恐竜のパーツも使われてないし）。ちなみにアローはガレリィ製だが、ウビはガレリィ製ではない。

ダダ #36



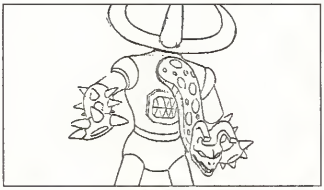
ナバロン砲を破壊するために出撃したメカザウルス。つむじ風を巻き起こして研究所に接近し、コマンドマシン＆ミチルを人質に取って、ナバロン砲の破壊をせまった。しかし何の武器も出さないまま、ナバロン砲の一撃で絶命してしまう。本当の作戦の目的は、ナバロン砲の実力を知るために出撃しただけなのだが、メカザウルスから声が聞こえたので、だれかキャプテンが乗っていたと思われる。しかし彼の名前は不明である。

ザリ #35



キャプテンギランが搭乗するメカザウルス。口から吐くマグマビームで５つの海底火山を噴火させて、関東一帯に大地震を起こす作戦に参加する。武器はマグマビームの他に、目から放つ怪光線。水中戦タイプだが、羽が生えて空を飛行することも可能だ。４つの火山を噴火させることに成功したが、５つ目の火山を噴火させる直前でゲッター３に阻止されてしまう。ゲッタービームもトマホークも怪光線ではねかえしたが、ナバロン砲で絶命する。

マグ #37



キャプテンマンダが搭乗する、頭に大きな磁石を装備したメカザウルス。世界エネルギー会議に出席する早乙女博士を誘拐して人質に取って、ゲッターロボ及び研究所を破壊する作戦に参加する。武器は、背中の３本の角から発射する磁力光線と、頭の磁石から放つビーム。ゲッターを磁力で引きつける羽交い絞め攻撃で攻め立てたが、ゲッター１のトマホークブーメランで背中の角を、トマホークで首を破壊され、ゲッタービームで絶命する。

モギ #36



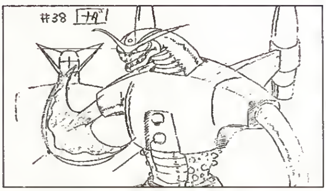
敵をいったん油断させて、ナバロン砲要塞に侵入してこれを占領する「トロイ作戦」に参加する。武器は腹から放つ爆撃ミサイル、口から発射する魚型ミサイル、かみつき攻撃、背ビレカッターを回転させる体当たり攻撃。１回戦目はナバロン砲にわざとやられたが、夜中に再生して、武器庫にニセ爆弾をセット、爆弾内に潜んでいたバット将軍が要塞を占領する。背ビレカッターをメインにゲッター１相手に善戦したが、ゲッタービームで絶命する。

ドゲ #39



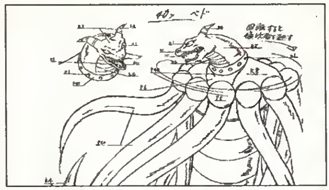
大星山に建設した「マグマ砲」からマグマ弾を発射して、研究所を砲撃する「マグマ砲作戦」に参加する。登山に来ていた少女サオリを改造したサイボーグ1226が、研究所の司令室を破壊。そしてドゲが、マグマ砲から発射されるマグマ弾を、翼で起こす突風で狙いを定めて砲撃した。マグマ弾を処理するゲッター１に、強力な羽交い締め攻撃で邪魔していたが、ゲッタービーム→トマホークブーメランで真っ二つにされて絶命する。武器はなし。

ナダ #38



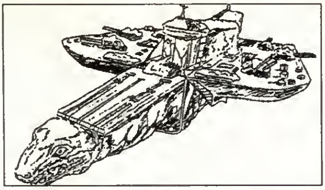
ユラーが作り出した謎の火山島でゲッターロボを捕らえている間に、研究所＆ナバロン砲要塞を襲う目的で参加する。武器は口から吐く炎、腹から発射するミサイル、そしてロッド伸縮式の両腕のナタ。ゲッターが留守のスキにナバロン砲の砲身をナタで切り、研究所を襲撃した。ゲッタートマホーク二刀流のゲッター１に、ブーメランで肩を切られ、もう一つのトマホークで胴体を真っ二つにされて絶命する。ナタを武器に持つから「ナダ」。

ベド #40



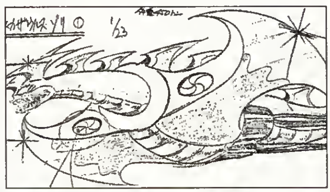
1年前氷河探検に行って行方不明となっていた、キャプテンギルバが搭乗するメカザウルス。触手のような足を回転させて猛吹雪を起こすだけなのだが、その吹雪で関東一円を完全にマヒさせ、研究所もゲッターロボも凍結させてしまう。しかしギルバが、ゲッター破壊を優先させる帝王の命令と、自分の作戦の完璧さとの間でジレンマにあい、結局吹雪を止めてしまう。そのために氷が溶けたゲッター1に逆転され、ゲッタービームで絶命する。

グダ #41



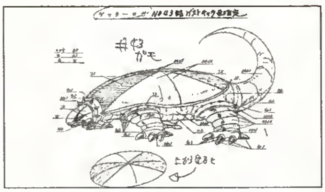
背中に巨大な空母を装備する、空戦型のメカザウルス。積乱雲に紛れて、カタパルトから無数の恐竜ジェット機を発進させ、日本中を無差別に空襲する。武器は、空母部分の大砲、艦橋のビーム砲、胴体を回転させて起こす突風。コマンドマシンを人質にしたが、ゲッター2にドリルで首を攻撃され、助け出されてしまう。そしてエネルギータンクを破壊され、ドリルで胴体に穴を空けられてしまう。ゲッター1のトマホークブーメランで絶命する。

ゾリ #42



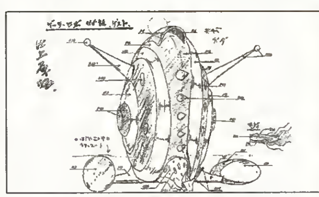
放射能反応のある隕石を、北極へ運ぶゲッターロボを襲撃する目的で出撃した、バット将軍搭乗のメカザウルス。足を体内に収納し、ジェット化して飛行し、翼から恐竜ジェット機を発進させる。武器は、口から吐くマグマと、キリモミ回転して巻き起こす竜巻。抵抗できないのをいいことに、好き放題ゲッターロボを攻め立て、マグマでゲッターをドロドロ寸前にするほど優勢だった。結局ゲッター1のゲッタービームを食らって絶命する。

ガモ #43



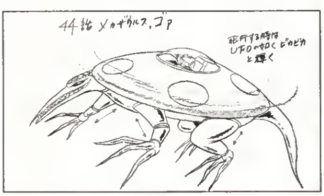
キャプテンイザナ、ロナン、ハガチの3人が、イースター島におびき出されたゲッターチームのゲットマシンを奪う「00435作戦」に参加。亀型メカザウルスで、背中の甲羅からカタパルトを出し、恐竜ジェット機を発進させる。武器は口から放つ対空ミサイルと、尻尾から打ち出す煙幕弾。イザナたちの乗るゲッターロボと東京襲撃に向かう途中、ゲッターチームにゲットマシンを奪回されてしまう。ゲッター3の大雪山おろし→ゲッターミサイルで絶命する。

ガダ #44



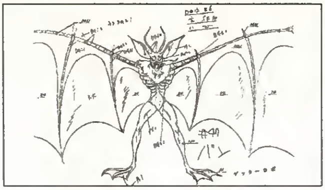
キャプテンギギラが搭乗するカタツムリ型のメカザウルス。帝国の地上への秘密ルート作りが目的で、遊園地のジェットコースターの工事現場にカムフラージュして配備された。背中の貝殻から恐竜ジェット機を発進させ、ゲッターロボの目をそらすために東京を爆撃した。武器は口から吐く炎。固い殻で身を守って粘ったが、ゲッター3の大雪山おろしを食らって海に投げ飛ばされ、パンチの連打で殻にヒビが。そこへゲッターミサイルを受けて絶命する。

モア #45



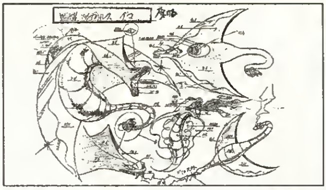
キャプテンゴアラが搭乗するメカザウルス。通信用人工衛星をミサイル爆撃衛星に改造し、ゲッターがこれを撃破しようとして宇宙に上がったその間に研究所を襲撃した。武器は、口から放つ電磁波を拡散させる金属板、口から発射するミサイル、体を回転させるスピンアタック。恐竜帝国の卑劣な作戦にゲッターチームの怒りが爆発したため、1のトマホーク、2のドリルアーム、3の柔道技でボコボコにされその間何も反撃できなかった。ゲッターミサイルで絶命。

バグ #47



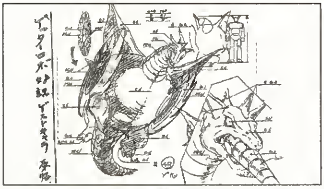
コウモリ型のメカザウルスで、恐竜帝国のマシーンランドの地上進出作戦に参加する。口から吐くマグマで、その浮上ポイントの南アルプス一体の野山を焼き払った。そして次にマシーンランドが浮上するポイント、東京一帯も空からマグマで焼き払う。ゲッターが到着した途端、一度逃げると見せかけたが、ゾンが破壊されて、ゲッター3に襲いかかる。しかしベアー号の体当たりで左翼を潰され、ゲッター1のゲッタービームで絶命する。

グマ #46



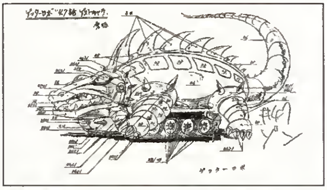
氷竜族のキャプテンサウス、スノーが指揮する作戦に参加。まずサウスが氷竜ＵＦＯに乗り国連本部に移動。宇宙人と偽って、ゲッター線開発の中止を国連に求めた。しかしその中止がないので、ＵＦＯは世界各国を、スノーの乗るグマは研究所を襲撃した。武器は、口から吐く炎とビーム、腹から発射するミサイル。ゲッター2のドリルアームを口の中にぶちこまれ、更に1のゲッタービームが口から体を貫通するという残酷な殺され方をする。

ゾル #48



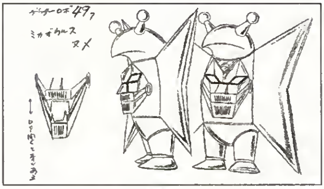
マグマの中にゲッター線を放出する、ゲッター線レントゲン装置を破壊する目的で出撃する。武器は胴体の両側にあるノコギリ手裏剣と、口からドリルを出しての体当たり攻撃。ゲッター2が恐竜帝国に潜入している間に、ゲッター線レントゲン装置を破壊してしまう。しかしなんとか地上に戻って来たゲッターロボに鉢合わせ。ゲッター1のトマホークダブルブーメランでバズソーを壊され、ゲッタービームを2度食らって絶命する。

ゾン #47



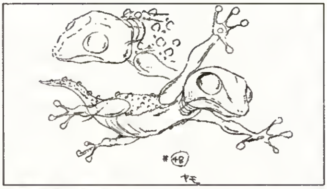
恐竜帝国のマシーンランドが地上に進出する作戦に参加したメカザウルス。地中に穴を掘り進み、マグマの流れを作って、南アルプスの浮上ポイントまで穴を掘っていた。更に次のマシーンランド浮上ポイント、東京にまで穴を掘っていたが、ゲッター2にマグマの流れを変えられてしまい、ゲッター2を追って地上へとおびき出されてしまう。そして背中の砲門から放出するマグマで応戦するも、ゲッター3の大雪山おろしで東京タワーにぶちあてられて絶命する。

ヌメ #49



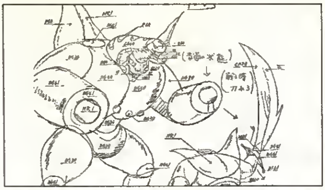
キャプテングルバが搭乗するメカザウルス。富士山麓地下を移動中のマシーンランドに潜入しようとする、ゲッター2を逆に捕らえる作戦に参加。武器は目から放つ超音波のみ。ドリルアームで突っ込んでくるゲッター2を、腹の口を開いて内部に捕捉、マグマで固めてしまう。しかしゲッターチームにヌメをのっとられてしまい、そしてマシーンランドに到着した途端に、フルオートのゲッター2に内部から頭をドリルでぶちぬかれて絶命する。

ヤモ #48



恐竜帝国に潜り込もうとするゲッター2の足止めをするために出撃した、ヤモリ型のメカザウルス。足の吸盤を生かしてゲッター2にとりつき、マグマの渦を巻き起こし、その中で葬ろうとするが、逆にドリルアームで破壊されてしまう。しかし再生能力があり、復活後の2回戦目もゲッターの恐竜帝国潜入作戦の足止めのために出撃。しかしゲッター2の新武器、ゲッター線銃でゲッター線を浴びてしまい、あっという間に絶命する。

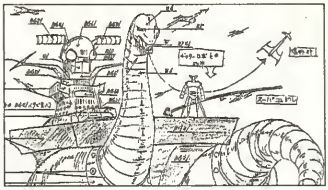
ガイ



#50

恐竜帝国最後の総攻撃の先鋒として、戦略爆撃機部隊と共に出撃した、蛇形の頭をしたメカザウルス。1回戦目に早乙女研究所をボロボロにするという輝かしい戦果を収めたが、再び研究所を襲撃した際にゲッターロボと対戦。武器は両腕の穴から出す巨大な剣のみで、飛襲してゲッター1のゲッタートマホークを折ってしまう。しかしダブルトマホークのブーメランで両腕をぶった切られて、ゲッタービームを食らって絶命する。

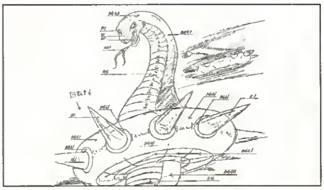
無敵戦艦ダイ



#50・#51

4体のメカザウルス、戦略爆撃機200機、キャプテンズマラ、ガロガ、ギソラ、ガルンの搭乗する新型戦闘機「スーパーコンドル」4機を搭載し、更に無数の大砲とバリアを装備している難攻不落の巨大戦艦。ゲッターロボの武器を全てはじき返し、圧倒的な火力で東京を襲撃して占領してしまう。東京に建設された恐竜帝国の基地での大宴会の最中、ムサシの乗るコマンドマシンの特攻で動力部を破壊され、狂って暴れまわったあげくに爆死する。

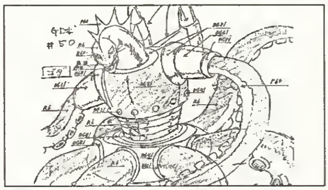
ザロ



#50・#51

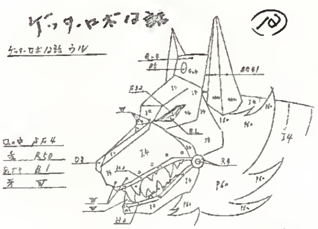
研究所に戻る途中、ウィングが故障してしまい、墜落したゲッター1に、ダイ、モバと共に襲いかかった。腹にトゲつきのコマを装備したメカザウルスで、コマを回転しての体当たりが得意攻撃である。これ以外に武器が全然装備されていない一芸野郎のため、あまり活躍していない。そのくせ4体の中で最後まで生き残り、ムサシの特攻の際にまで出撃する。動力部を破壊されて暴れまわるダイに噛み砕かれるという、けっこう情けない死に方をする。

ゴダ

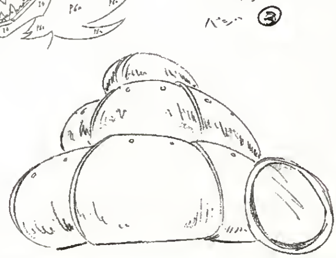


#50

海の中からダイを攻撃しようとするゲッター3を倒すために出撃した、タコ足のメカザウルス。妨害電波を放射し、口から吐く煙幕で目くらましして、タコ足でゲッター3を羽交い絞めにして海溝にひきずりおろそうとする。バット将軍が搭乗していて、海溝に落ちる寸前に脱出する予定だったが、至近距離からゲッターミサイルをぶちこまれて脱出不能になる。ゲッターミサイルをもう1回食らって、海溝に沈んで絶命する。なおバットも絶命。

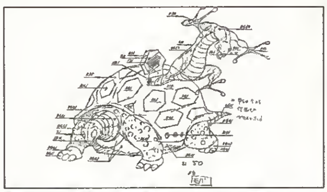


第12話に登場するウルの色指定



第3話に登場のメカザウルスバジの体引っこめヴァージョン

モバ



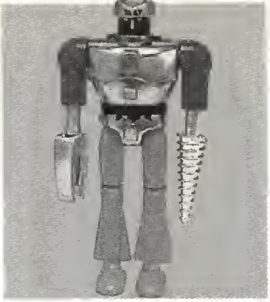
#50・#51

早乙女研究所へと帰還しようとする途中で、ウィングが故障したゲッター1を襲った、亀型のメカザウルス。次に、ゲットマシンがゲッターロケット弾をダイの口にぶちこむ作戦を阻止する際にも出撃する。しかし背中からヤモリ型のメカを発射する以外に、何の武器も得意攻撃もなく、そのヤモリメカをゲットマシンに全機破壊されてしまう。その上、よりによってゲットマシンのミサイル一斉射撃ごときに絶命してしまう。弱すぎだ、お前！

大雪山にアイテムを見た①
『ゲッターロボ』編

さすがは『マジンガーZ』の大ヒット直後、しかも「合体ロボット」のパイオニアとして彗星のごとく登場しただけあって、『ゲッターロボ』の関連アイテムも『マジンガーZ』に負けず劣らず多岐に渡って展開されている。ここではそのほんのごく一部を紹介しよう。

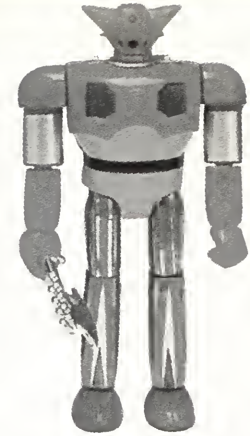
超合金



超合金・ゲッター2



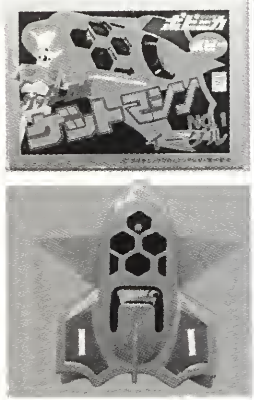
超合金・ゲッター3



超合金・ゲッター1

『マジンガーZ』のライン上に存在する作品だけあって半ば当然のごとく「ゲッターロボ」もスポンサーであるポピー（現・バンダイ）のレーベル「超合金」の商品展開が行われた。そして、やはり当然のごとくゲッター1、2、3は別売りとなった

ポピニカ



ポピニカ・イーグル号



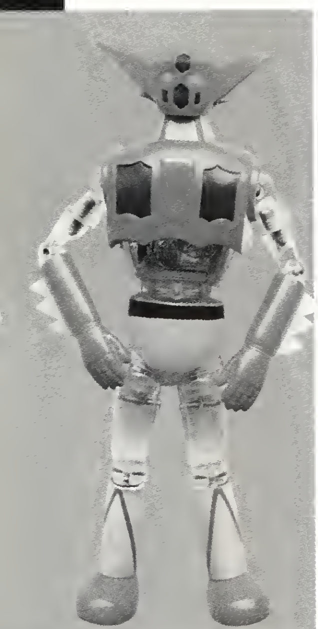
ポピニカ・ジャガー号



ポピニカ・ベアー号

「3機のマシンが合体して1台のロボットが誕生する」という設定上、「ポピー」ブランドのキャラクターミニカーシリーズである「ポピニカ」よりゲットマシン及びミチルの操縦する「コマンドマシン」が発売されることとなった。また、そのライン上の一商品として「早乙女研究所」も商品化されている

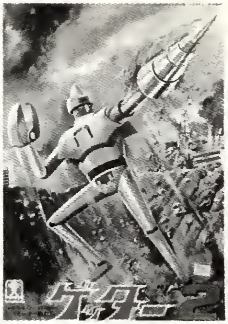
変身サイボーグ

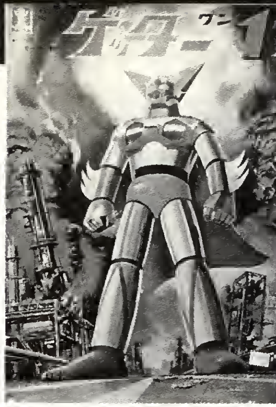


タカラから発売されていた男の子向けの着せ替え人形「変身サイボーグ」。そのシリーズ末期のラインナップのひとつとして「ゲッター1」のみが発売された。プロポーション的にちょっと無理があった

プラスチックモデル


プラスチックモデル・ゲッター3

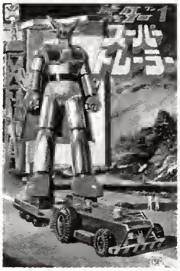

プラスチックモデル・ゲッター2


プラスチックモデル・ゲッター1


プラスチックモデル・イーグル号


プラスチックモデル・ベアー号


プラスチックモデル・ジャガー号


ゲッター1　スーパートレーラー



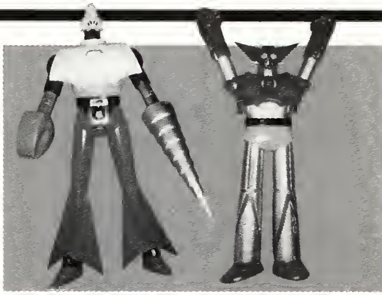
ゲッターロボ　秘密基地

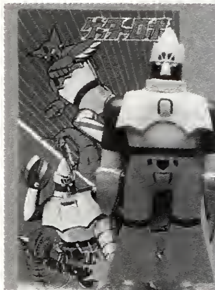
バンダイからは積極的にプラスチックモデルの商品展開が行われた。ゲッター1、2、3はもちろんイーグル、ジャガー、ベアー号。さらには建造中のゲッター1をジオラマ風に再現した「秘密基地」、ゲッター1の移動風景をやはりジオラマ風に表現した「ゲッター1　スーパートレーラー」といったオリジナル商品。いまも連綿と『機動戦士ガンダム』(79年)のプラモデルにノウハウが受け継がれている、透明パーツによる内部図解を表現したクリスタルモデルなど、実に多岐に渡って展開されている

ソフトビニール人形



ミニサイズのソフビ人形、3体を1パックにした「ゲッターロボ合体セット」。こちらは「ポピー」レーベルより発売


90年にバンダイから発売された「スーパーロボット大作戦」。往年のテレビアニメの名作ロボットをリアルなプロポーションのソフトビニール人形化して次々に発売していくというコンセプトのもとに展開された本シリーズは、実に企画が10年早かったとしか言いようがない。3は未発売に終わった


こちらはオンエア当時に同社より発売されていたゲッター2のソフビ人形。もちろん1と3もある

カルタ&えあわせ

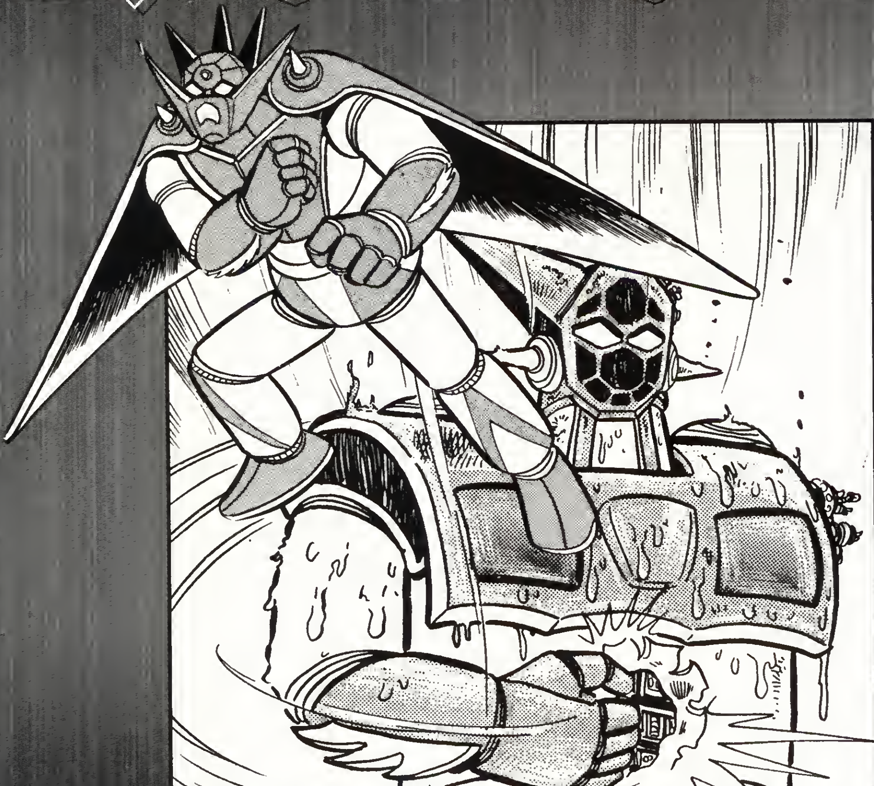




我が国の伝統文化でもある「かるた」は、この種の"子供向け番組"には欠かせぬアイテム。いまなお正月ともなれば、さまざまなヒーローのかるたが文具売り場をにぎわせている。我らが『ゲッターロボ』の"かるた"は「セイカノート」より発売。絵の出来はなかなかよい。

いまはもうほとんど"死語"と化してしまった感のある「えあわせ」は、「こいで」より発売。たしかにいまの子供が遊んでも面白くないだろうとは思う

GETTER ROBOT

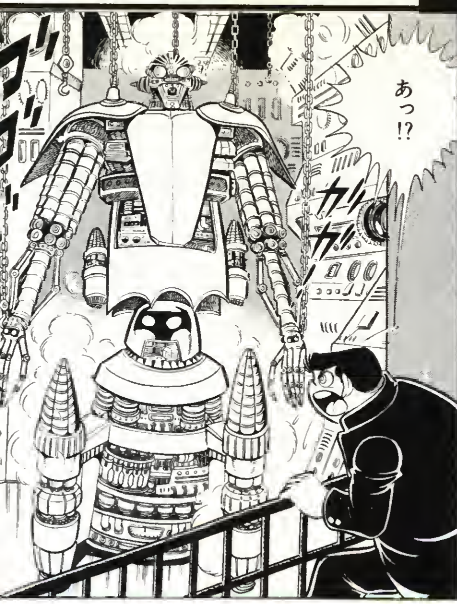


ゲッタードラゴン登場！

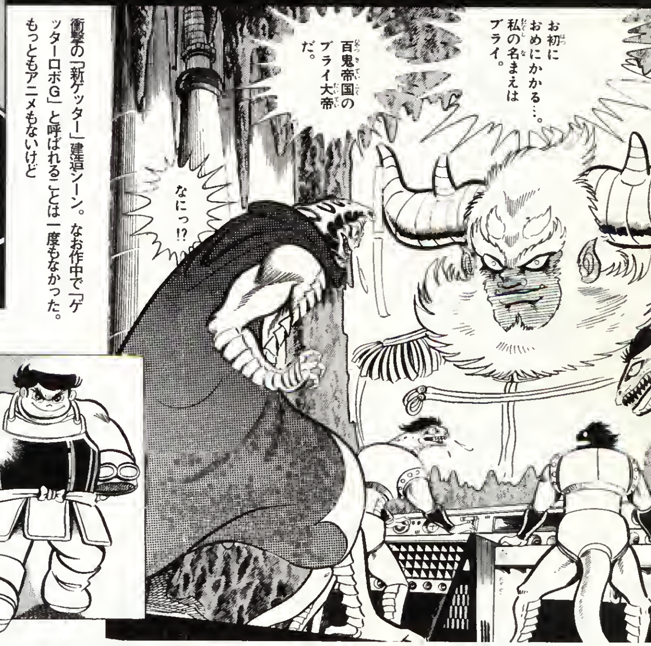
原作版ゲッターロボGの世界

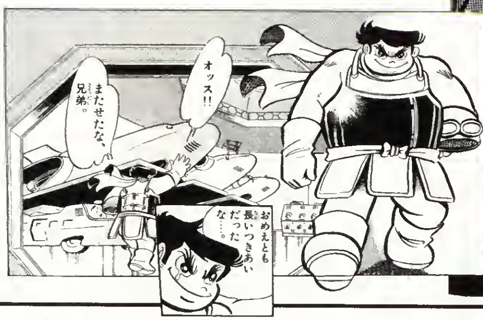
蘇れ 原作版 ゲッターロボG

原作版『ゲッターロボG』の世界



衝撃の「新ゲッター」建造シーン。なお作中で「ゲッターロボG」と呼ばれることは一度もなかった。もっともアニメもないけど





「長いつきあいだったな……」って、そうでもない気がするんですが……

『ゲッターロボG』ラプソディ

岩佐陽一

巻き起こる大爆発！　行方不明の主人公・我らがリョウの運命は――!?

衝撃的な展開をまざまざ見せつけつつ、『週刊少年サンデー』に連載されていた『ゲッターロボ』は、75年2号をもって第一部の終了をみた。その4週後、6号よりのスタートとなった〝第二部〟は、息をもつかせぬスピードで、新設定、新キャラクター、そして急転直下の展開を我々読者の目に焼きつけ、矢継ぎ早にド胆を抜いていった。

ここでのインパクトは、6号の扉絵にて包帯グルグル巻きのリョウのバックにシルエットで描かれている「ゲッタードラゴン」だ。いまでこそ〝ゲッタードラゴン」だ〟などと、まるで当たり前のように書いているが、当時は敵（だってシルエットだけじゃそう見えてもおかしくないですぜ）か味方かもわからない。怪物系かロボットかすらも不明――とにかく、熱心な『ゲッターロボ』ファンの読者の間でそうとうの物議をかもしたことだけはたしかだった。

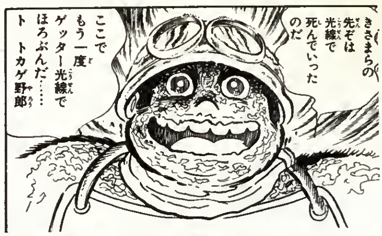
この「つかみはOK！」的な戦略は見事に功を奏し、我々読者は『ゲッターロボ』最終章にグイグイと引きこまれていくこととなる。

そして――運命の第11号、ラストページ。劇中の登場人物であるムサシともども、我々はついに建造途中の「新ゲッターロボ」を目の当たりにする。

それはまさに〝驚異〟以外のなにものでもなかっ



「ハヤトの校舎」の設定を活かしたエピソード「魔王鬼の挑戦」は、『ゲッターロボG』の中でも特にファンに人気の高いエピソード。無数のサイボーグが合体して誕生する魔王鬼のアイディアも素晴らしかった



ドロドロ顔が印象的なムサシの最期。まさに「ゲッター」に捧げた命だった



この瞬間だけ、当時、これを読んでいたすべての読者がゴールの味方となった……！



た。同時に我々の全身を〝ある種のデジャヴ感〟が走った。これと同じ驚きをいつか……!? そうか！ ゲッター1（の頭～胸部）を初めて自らの視界にキャッチした時と同じ衝撃なんだ!!——最初のキャラクターに勝るとも劣らない、いや、ヘタをすればそれ以上の興奮が得られる同一線上のキャラクターなどそうはお目にかかれない。波に乗っていた永井豪&ダイナミック一派は、映画『マジンガーZ対暗黒大将軍』における「グレートマジンガー」の初登場シーンに続き、いとも簡単にそれを為し得てしまったのだ。

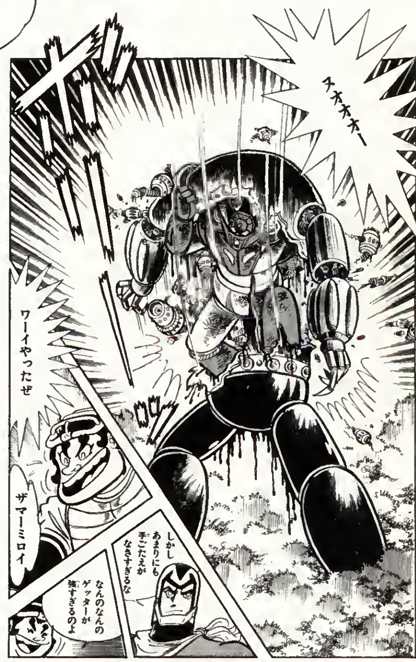
そんな新たなる希望＝新ゲッターロボに、当代随一の百獣の王作家である石川賢は、自ら過酷な運命を課した。希望を絶望に変えないため、たったひとり勝ち目のない闘いに身を投じるムサシの姿に当時どれほど多くの少年たちが胸を熱く焦がしたことか!!

全身からゲッター線を放射して辺りが灼熱地獄と化している中、腹からゲッターエネルギー・タンクを取り出すゲッター1！ そのあまりにも強大なエネルギーがゆえに、じょじょに全身が焼けただれていくムサシの姿——は、リアルタイムでそれを体感したものにとっては、ある種〝トラウマ的〟なイメージを伴って脳裏に深く刻みこまれることとなった。

と……まァ、ファン心理としては、My favorite positionをつらつらと書き連ねたいところだが、かなり間をすっ飛ばして「ゲッター最後の戦い」へと至る。『G』編最大のクライマックスである本章の白眉は、偉大なるアトランティス帝国の遺産・ウザーラ……ではなく、シャインスパークを放つゲッタードラゴン……でもなく、日本国を蹂躙した百鬼帝国に対し、猛反撃を開始した際の我らがリョウの表



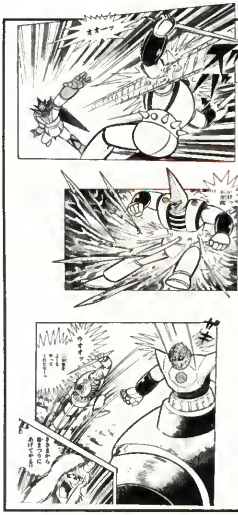
163ページの扉にも使ってますが、やはりこれは載っけざるを得ないでしょうに！



敵メカの腹に特攻！　力技で内部から突き破るドラゴンの戦法は、いまだそれを凌駕するものの出てこないほど画期的な描写だった。巨雷鬼を倒す捨て身の戦法もGOO！

百鬼コラムの陰謀〜一本鬼の謎

まず黙ってここに掲載した3つのコマに描かれている一本鬼に注目してほしい。コマは上から時系列を追って掲載してある。なにかお気づきになられぬだろうか？　そう、上のコマでは左腕が切断され、次のコマでは元どおり。さらにその次では右腕が切断されている……勘違いしないでほしい。決して揚げ足をとっているわけではないのだ。それどころか「この〝大らかさ〟こそが石川賢作品の魅力である！」——と、声を大にして言いたいのだ。



情とセリフであろう。
「今、日本国民が味わっている恐怖感をきさまにも味あわせてやる……ゲッターの恐ろしさをな〜!!」
　やはりここで断言してしまおう。『ゲッターロボ』及び『G』の魅力のすべては、リョウのこのサディズム溢れる〝狂気〟に集約されてしまう——と。さらにそれは、宇宙空間に運ばれてなお負け戦を認めないプライが、あくまでも徹底交戦の意思表示を行った時に頂点に達する。
「おもしれえやったろうじゃねえか。てめえはおれの手で殺されてえんだな!!」——まさにヤクザそのもの！　リョウのそんなキャラクター性は、原作者である石川賢の近作『極道兵器』（96年）の主人公・岩鬼将造の中に脈々と息づいている。
　正義の名のもとに〝暴力〟や〝破壊衝動〟を正当化してしまうヒーロー像……それこそが永井豪&ダイナミックプロ作品の魅力であり、最大のセールスポイントでもある。リョウはまさにその頂点に立つキャラクターといえるのではないだろうか？
　さて、私見はこれくらいにして、以下でDATA的な部分の補完を行なうとしよう。
『ゲッターロボG』タイトルでの連載は『週刊少年サンデー』75年22号〜75年34号まで。通算、13回。ここでいったん本作は終了をみる。それまでも、漫画に限らずドラマ、実写ヒーロー、アニメ作品などでも〝終わらずに終わる〟という唐突な結末を幾つも突きつけられて、それなりに免疫が出来てはいたものの——やはり、テレビアニメは続いているのに原作だけ、しかも百鬼との決着もつかぬまま大好きな『ゲッター』の連載が打ち切られてしまうというのは子供心にもショックだった。



最高にカッコいいゲッタードラゴンの逆襲シーン。なお、この一連のシーンでは『冒険王』75年8月号に掲載された予告編COMICが一部転用されている。各自、お確かめあれ

「使ってくれて嬉しかった」「いや、原作版では使うべきじゃなかった！」——『ゲッターロボG』、最後の最後にドラゴンが「シャインスパーク」を使用したことについては、23年を経たいまもディープなファンの間で物議をかもしているとか

そんな失意の我々の前に突如救世主のごとく現れたのが秋田書店の『冒険王』。〝きんきゅうテレビ情報〟と銘打たれ、75年9月号に掲載された予告編漫画に、当時『サンデー』の連載終了に肩を落としていた少年たちの多くが、どれほど〝生きる希望〟を与えられたことだろう！　かくして——『冒険王』にて新たなるスタートを切った『ゲッターロボG』は、同年10月号から翌76年4月号まで、通算7回に渡って連載が続けられた。

そんな事情から単行本は、ムサシが死ぬまでの展開を収録したものが『ゲッターロボ』タイトルで「てんとう虫コミックス」（小学館）より全4巻。待望の「新ゲッター」を手にしたリョウたちの恐竜帝国への逆襲から、百鬼帝国の滅亡——つまりラストシーンまでを収録したものが『ゲッターロボG』タイトルで「サンデーコミックス」（秋田書店）より全3巻で発売されるという変則的事態を招くこととなった。『ゲッターロボG』第1巻の冒頭は、ある程度ストーリーの流れがわかるよう『ゲッターロボ』第4巻のラストシーン——つまり、「これがムサシの最期だ」を重複して収録しているのだが、その際、かなりの修正が加えられている。

その最大のポイントは、メカザウルスの流れ弾からリョウを救ったミチルの死——である。「てんとう虫コミックス」版には連載時のまま収録されたその一編は、「サンデーコミックス」版収録時には問題が生じてしまった。なぜならこの後の「魔王鬼の挑戦」にてミチルは〝なにごともなかったかのごとく〟復活を果たしてしまうからだ。そこで『ゲッターロボG』第1巻ではミチルの死ぬシーンはカット。その亡骸を抱くリョウのカットにはすべて修

正が施された。ページの順番も微妙に入れ替わっている。これでつじつまが合うというわけだ。

今回、本稿執筆にあたって現在発売中の「Stcomics」（大都社）版を改めて読み直したのだが——あら不思議。ミチルが死ぬ2ページ分が復活しているでないの？ その割に他のページは「サンデーコミックス」に準拠しているし……？？？ 結論。ミチルは死んだのではなく、〝気絶しただけ〟だったのだ——ということで。

以下、『ゲッターロボG』で単行本収録時に改編が加えられた箇所について現在、確認されている範囲で記述してみよう。

●「これがムサシの最期だ」。「てんとう虫コミックス」版『ゲッターロボ』第4巻のラストページ、ゴールが高笑いを浮かべる1ページがまるまる加筆。だが、サンデーコミックス版『ゲッターロボG』第1巻、Stcomics版第2巻には収録されていない。

いよいよ新ゲッターも完成し、ゴールへの反撃に転じるリョウたち。出現したゲッター1を幻だと思いこもうとしたゴールの眼前で、トマホークが要塞に突き刺さった！ その瞬間、悲鳴をあげるゴールの顔のアップが描かれた1ページ——これは連載時には扉絵もかねていたので——まず「ムサシは死にゲッターはふっとんだ!!」というキャッチコピーが削られた。もう1点。扉絵時には下のほうに描かれていた、マシーンランドの浮上カットが塗りつぶされている。

●「魔王鬼の挑戦」。竜二に殴られた直後のハヤトのシーンがまるまるカット。これは連載時は見開きで、その右2／3ページが扉絵をかねていたため。

●「ブライ帝王怒る」。『サンデー』連載時のラストページ。ブライが全軍に総攻撃指令を下す見開きが、Stcomics収録時にはカット。サンデーコミックス版『ゲッターロボG』第2巻には収録されている。

以上が『ゲッターロボG』編における単行本収録時の改編ポイントである。

最後に——『G』編における原作とアニメの数少ないミッシングリンクを幾つか箇条書きにして本稿の終了とさせて頂く。

●キャラクターについて
ブライ大帝、ヒドラー元帥、グラー博士のイメージはほぼ同じ。死に方は3人共アニメとまるで異なる。

●ゲッターロボGについて
ほぼ同じ。最後の最後にドラゴンが「シャインスパーク」を使用したのには、ド胆を抜かれた。

●早乙女研究所
デザインも設備もほぼ同じ。ただし「フォーダムG」という呼称はアニメ同様出てこない。

●メカ百鬼について
呼称からして異なる。原作では〝百鬼獣〟。アニメ版との共通のものは巨雷鬼（狂角鬼）くらいか。

だいたい大まかに分ければこんな感じか。他にもまだ探せば出てくるとは思うが、残りは各自、発売中の単行本でご確認されたし。

原作版『ゲッターロボG』COMICリスト

章	サブタイトル	登場メカ百鬼獣	登場百人衆	登場メカザウルス
PART10	百鬼帝国の陰謀	なし	百人衆5人（名称不明）	メカザウルス(名称不明) 2体
PART11	復活！新ゲッターロボ	なし		メカザウルス軍団(約294体)
PART12	これがムサシの最期だ	巨大百鬼獣	5人（名称不明）	メカザウルス軍団(約294体)
PART13	魔王鬼の挑戦	魔王鬼	神竜二軍団（革新派）	
PART14	ブライ帝王怒る	巨獣鬼、百鬼獣1体（名称不明）	十方鬼（ブライの息子）	
PART15	恐怖の細菌爆弾	黒竜鬼、百鬼獣4体（名称不明）、巨雷鬼、ジェット要塞ジェロニガン	11人（名称不明）	
PART16	ゲッター最後の戦い！	一本鬼、二本鬼、五本鬼、百鬼獣軍団(約105体)	一本鬼、二本鬼、五本鬼、名称不明約105人	

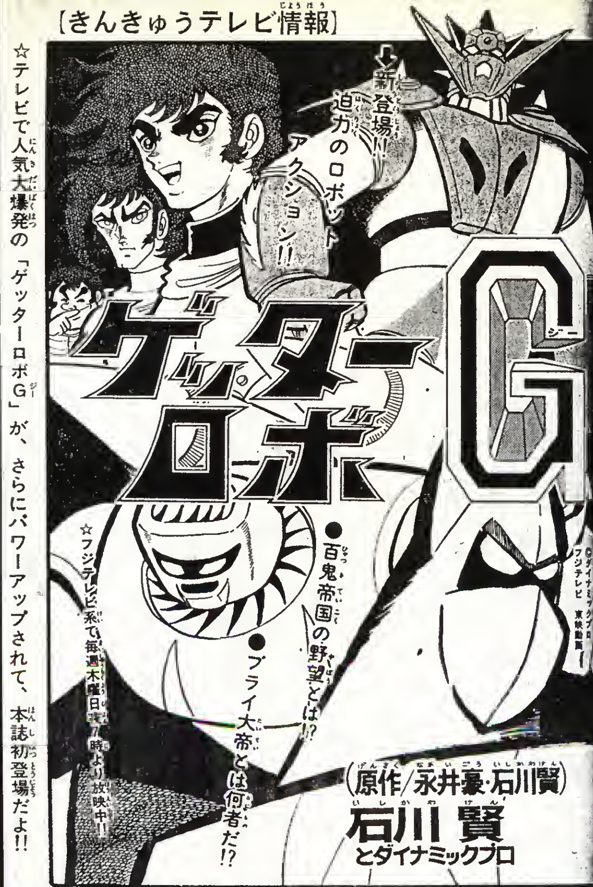
※すでにご存知の方も多いことと思うが、『ゲッターロボ（G）』の第14章の正式なサブタイトルは「ブライ帝王怒る」である。そう、“大帝”ではなく“帝王”と表記されているのだ。お気づきの方も多いと思うが、原作版ではブライは“帝王”と呼称されている。たしかに初登場時にゴールに自己紹介したときは“大帝”を名乗っていたが、十方鬼の話で完全に“帝王”として定着する。それに準拠する形で「サンデーコミックス」収録時に「ブライ帝王怒る！」と表記。現在発売中の大都社版もそれに従って「ブライ帝王怒る（！は外れた）」。よって——それにオマージュを捧げた本著第6章のタイトルも「ブライ帝王怒る！」とさせて頂いた。偏屈な“ゲッターマニア”の無意味なこだわりと思ってどうかお許し頂きたい。

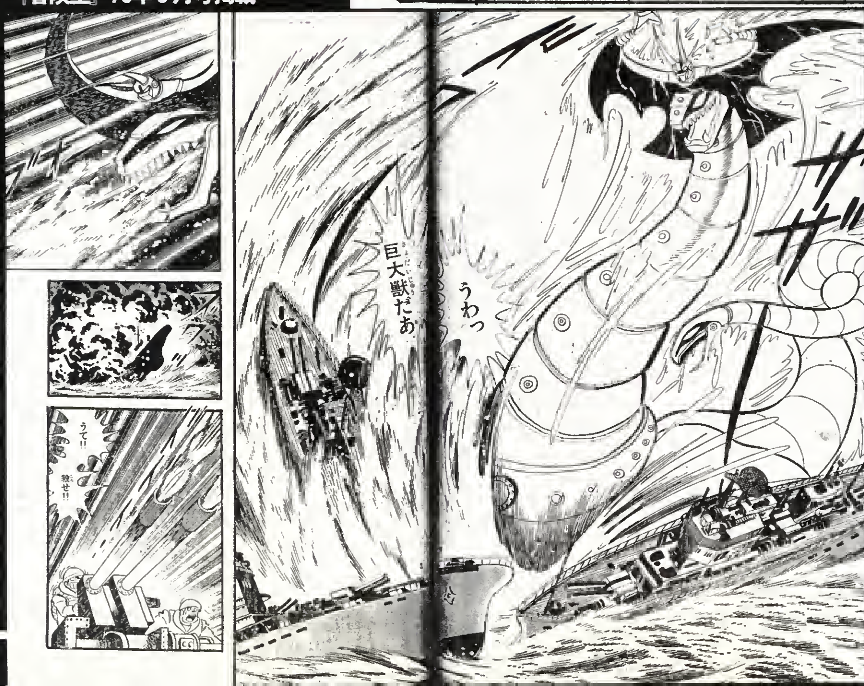
MABOROSHI

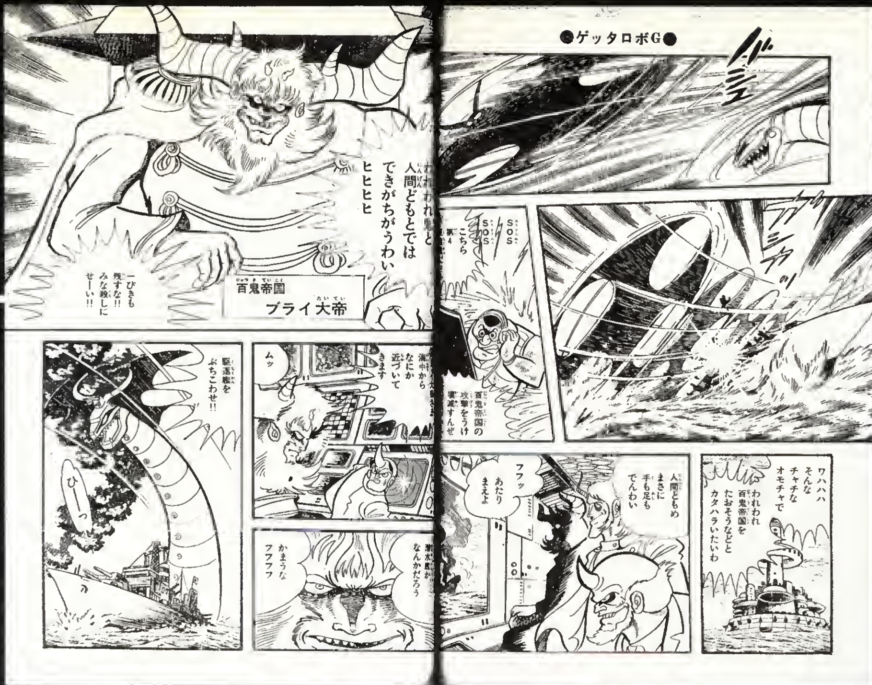
幻の予告編COMIC再録!! G

以下に再録する15ページの漫画は『ゲッターロボG』連載開始の1か月前に、『冒険王』誌上に掲載された「予告編」漫画である。テレビアニメのオンエア途中、しかも『少年サンデー』からの連載移行ということもあって、実際の作品との差異は見受けられないものの、15ページに渡って展開されたそれは「連載第1回」といっていいほどの満腹感を読む者に与えてくれている。原稿が未発見に終わったため印刷物よりの復刻となり一部見辛い箇所もあると思うが、逆に掲載時の雰囲気を堪能して頂ければ幸いである。

『冒険王』75年8月号掲載






●ゲッタロボG●
SOS SOS こちら 第4
百鬼帝国の 攻撃をうけ 壊滅すんぜ
ワハハハ そんな チャチな オモチャで われわれ 百鬼帝国を たおそうなどと カタハラいたいわ
人間どもめ まさに 手も足も でんわい
フフッ あたり まえよ
人間どもとでは できがちがうわい ヒヒヒヒ
百鬼帝国 ブライ大帝
一ぴきも 残すな!! みな殺しに せーい!!
海中から なにか 近づいて きます
ムッ
潜水艦か なんかだろう
かまうな フフフフ
駆逐艦を ぶちこわせ!!
ひーっ


?
ギギ
ゲッター ポセイドン 推参!!
ザザ
ぎやあー!!
ザザ
ワハハハ
百鬼大帝め ゲッターロボを わすれたか!!

☆石川賢先生に、はげましのおたよりを出そう。

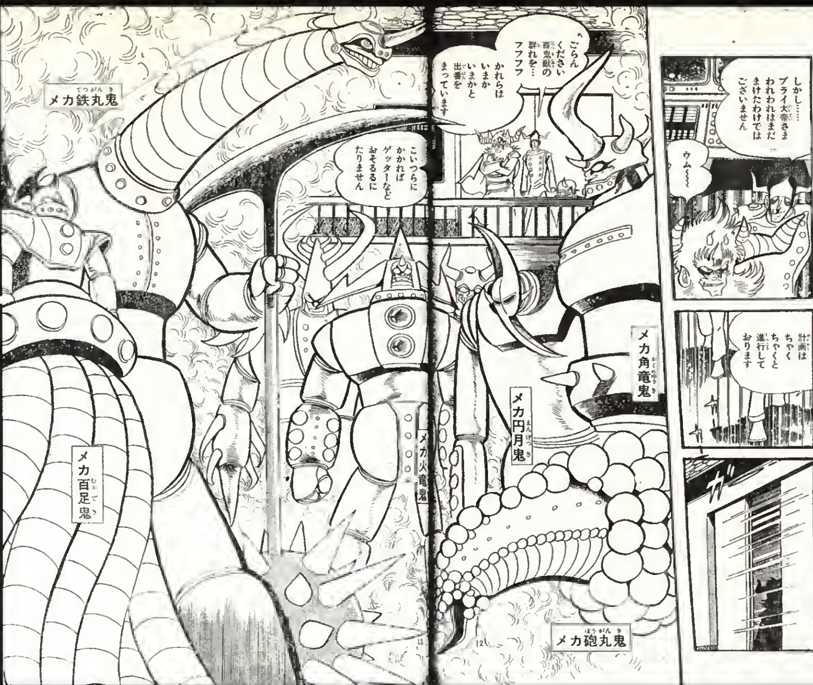


☆「ゲッターロボG」は、フジテレビ系で毎週木曜日午後7時より放映中!!

☆放映テレビ局＝フジテレビ、北海道文化放送、秋田テレビ、仙台放送、テレビ静岡、長野放送。

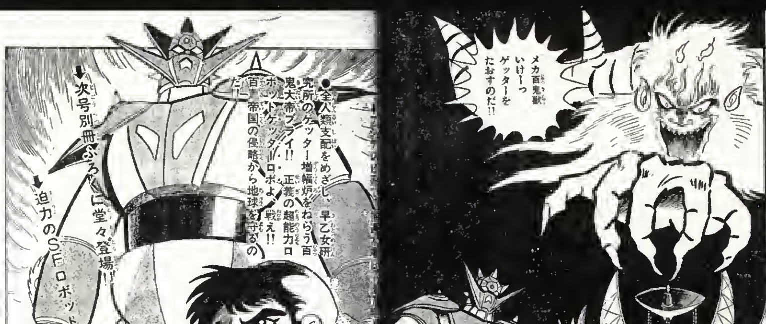


☆放映テレビ局＝東海テレビ、富山テレビ、石川テレビ、福井テレビ、関西テレビ。



☆放映テレビ局＝山陰中央テレビ、広島テレビ、テレビ西日本、佐賀テレビ、テレビ長崎、沖縄テレビ。

☆「ゲッターロボG」の感想文を送ってください。



☆来月号別冊ふろくより、迫力連載開始の「ゲッターロボG」に御期待ください!!

MABOROSHI

幻の別冊付録記事再録！

『週刊少年サンデー』から『冒険王』へ——

ここに掲載するのは、『ゲッターロボG』の連載が『週刊少年サンデー』から『冒険王』に移っての、記念すべき第１回にあたる75年10月号の別冊付録——その表紙と、表２に掲載されていた記事である。『ゲッターロボG』連載当時の永井＆石川両氏及びダイナミックプロの雰囲気が伝わってくる貴重な資料といえよう。それにしても石川先生ってホンと、五エ門に似てたのね……（逆だって！）。





幻の扉ページ再録！ PART-2

MABOROSHI

以下に再録する『ゲッターロボG』の扉ページは、『週刊少年サンデー』及び『冒険王』誌上に連載されていた時のものである。一部単行本に収録されているものもあるが、その大半は未収録のままいまや遅しと陽の目を見る機会を待ち続けているのが現状だ。そこで今回、連載時の興奮を呼び覚ますなによりの資料として、それら扉絵を一堂に会して復刻掲載する。各人各様の、連載当時の熱気を思い出す“引き金”になれば幸いである。



75年24号



75年22号



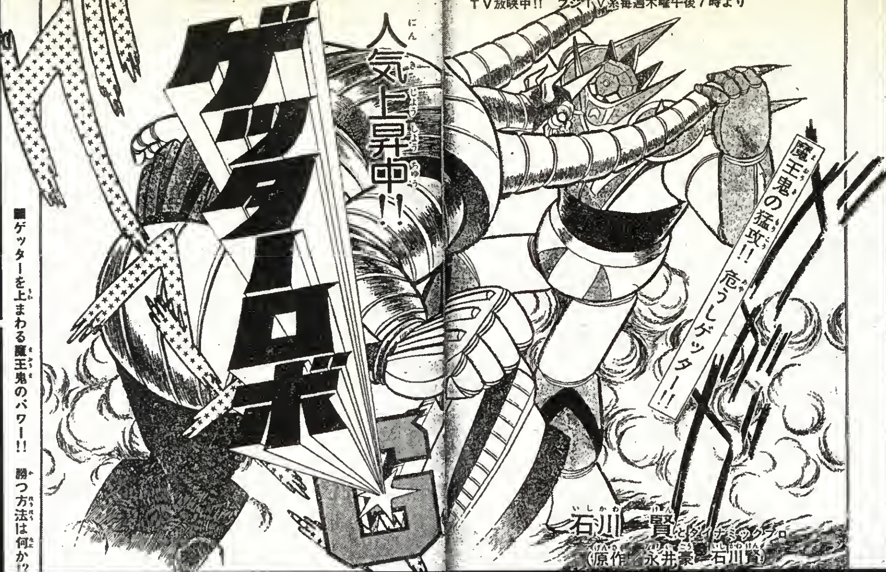
75年25号



75年23号



75年21号



75年27号



75年26号



75年29号



75年28号



75年33号



75年31号



75年30号



75年32号



75年10月号（本号より『冒険王』掲載）



75年34号



75年11月号



75年12月号



76年１月号



76年２月号



75年11月号



76年１月号



76年４月号



76年３月号

『週刊少年サンデー』75年21号〜75年34号掲載
『冒険王』75年10月号〜76年４月号掲載

石川賢 INTERVIEW

石川 賢、『ゲッター』を語る。

インタビュアー／大和 光

—『週刊少年サンデー』に連載されていた原作COMICについてお聞きしたいと思うのですが。

石川　担当さんから「原作はテレビと同じにする必要はありません」って言われたんで、好き勝手自由にやらせてもらいましたね。

—『ゲッター』最大の魅力である「変形」についてはどうお考えですか？

石川　正直、「金属がこんなに変形しちゃっていいのかなァ?」っていうのはありましたね（微笑）。でも、あそこでゲッターの変形をきっちりとしたものにしておかなかったから、いまの『ゲッター』（『スーパーロボット大戦COMIC』）があると思います。あんなふうに、ある意味いい加減に描いてたから、世界観に広がりが持てたと思うんですよ。

—〝いろいろなものを採りこむ〟っていうアイディアは『魔獣戦線』（75年）で始まって『スカルキラー　邪鬼王』（90年）、そして『ゲッターロボ號』に至るまで連綿と受け継がれていく先生独自のテーマでしたね。

石川　そうですね。ゲッターの変形を決めておかなかったお陰で「機械も生命に進化するんじゃないかな?」って思えるようになりましたからね（微笑）。

—細かいことで申しわけない次第ですが、「これがムサシの最期だ」でミチルはリョウをかばっていったん死んでるんですよね。でも、その後の「魔王鬼の挑戦」でなにごともなかったかのように復活している。これは……?

石川　全ッ然、憶えてないですね（微笑）。殺しちゃったことも生き返ったことも。あんまり考えてなかったんじゃないかな（微笑）?

—それでは、あれは〝気絶しただけ〟ということですか?

石川　そうですね。そういうことにしておいて下さい（微笑）。

—今後、オフィシャルな見解として〝ミチルは気絶しただけ〟ということで（かなり強引）。

石川　でもそれなんかまだいいほうで、『ゲッターロボ號』の時にもっとひどいことがありましたよ。

—〝ひどいこと〟……というと?

石川　前の晩に原稿をずっと描いててね、半分までいったところでいったん描きやめたんですよ。それからしばらくして残り半分を描いたんですが、前半とまるで違うの（微笑）!　つながらないんですよ、全然。「これはダメだ」と思ってね。慌てて描き直



現在、大都社より発売中の「St COMICS」には収録されていない、「てんとう虫コミックス」版『ゲッターロボ』第4巻のラストページ。勝ち誇るゴールが実に憎々しげだ

して……その時、没になった後半の原稿はまだあるけどね。

――え！　あるんですか!?　ぜ、ぜひ、再録をお願いしますよ！

石川　たぶん……あるとは……思うんですけどね。どこにあるのかなぁ？

――話を『ゲッターロボ』に戻しますと、ファン共通の〝想い〟として、〝ムサシの最期〟には最高に燃えましたが。

石川　そうですか。あれはでも、テレビでも殺すからっていうんで漫画でも殺しただけなんだけどね。最初はハヤトを殺すことになっていたんだけど……。

――え……通説では、「リョウが死ぬことになっていた」とお聞きしていますが……？

石川　え、そうなの？　ハヤトじゃないの？

――ええ、リョウだって……。

石川　じゃ、リョウだ（微笑）。でもあれ、どうなんだろう。リョウを殺しておいたほうが面白かったのかなァ？　でも、さすがに主役を殺すわけにはいかないもんねぇ。

――でも、それはそれで面白くなったとは思うんですが。

石川　う～ん、そうかもしれませんね。

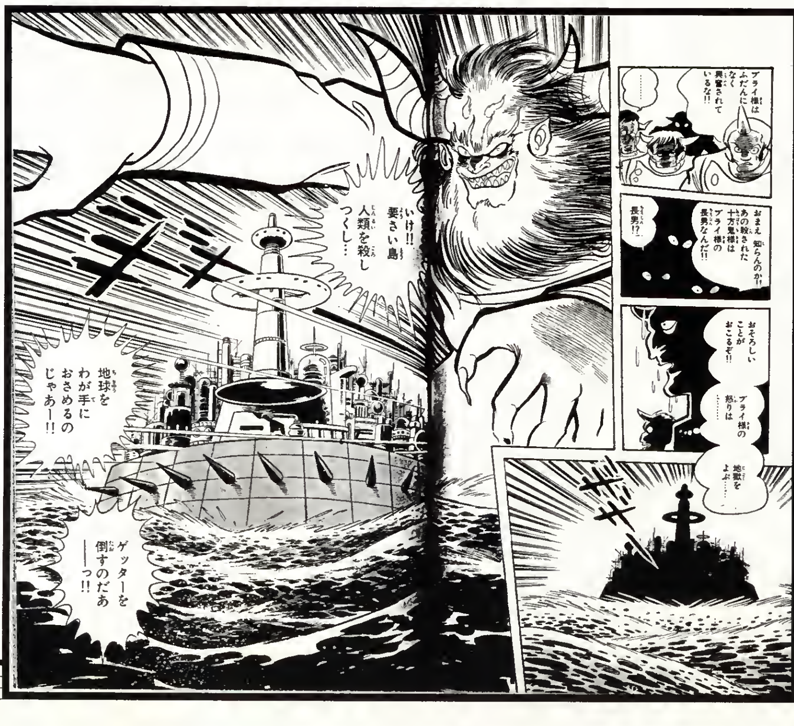
――先生ご自身としては、『ゲッターロボ』全編を通じて会心のアイディアとかシーン、キャラクターなんかはありますか？

石川　あの……各国の連合軍が出てくるやつ。『ゲッター号』の。

――え！「アラスカ戦線」ですか？

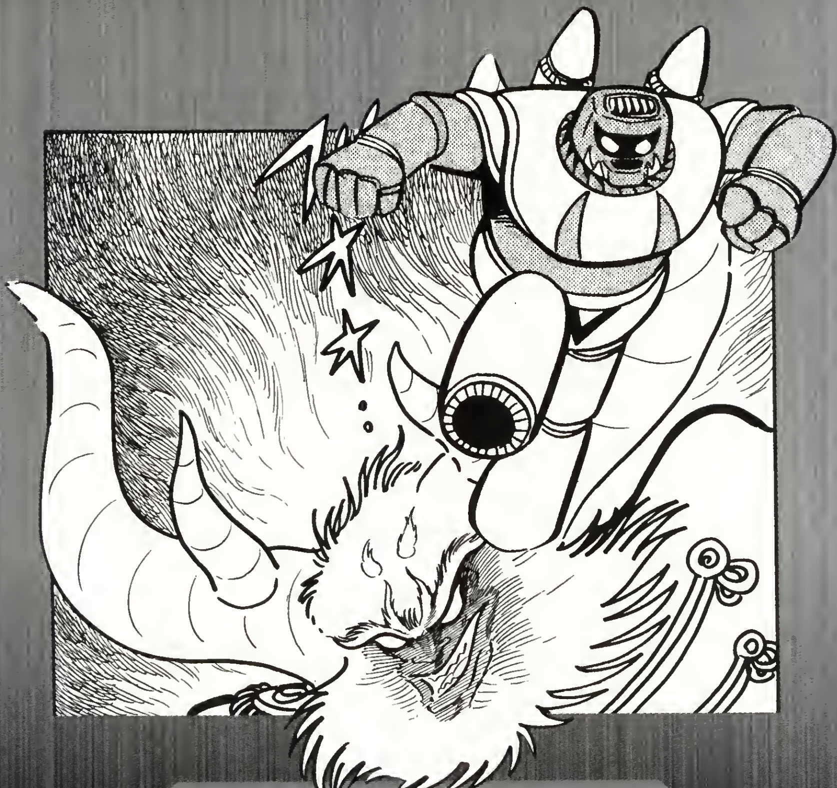
石川　そうそう。あれは描いてて楽しかったね。それまでず～っと『ゲッター』を描いてきてね、ようやくそこで「あ、こう描けばいいんだ」っていうのがわかった気がしますよ。それまではもう、無我夢中でしたからね。

（と、いうところで199ページからの「石川賢、『ゲッター』を語る。」②に話は続く）



現在、大都社より発売中の「StCOMICS」には収録されていない、「サンデーコミックス」版『ゲッターロボG』第2巻の「魔王鬼の挑戦」編ラストの見開き。なお、これは『週刊少年サンデー』連載時における最終シーンでもある。これで終わっちゃったらやっぱりショックでしょう？

GETTER ROBOT



ブライ帝王怒る！

アニメ版ゲッターロボGの世界

テレビアニメ版 ゲッターロボGの世界

岩佐陽一

ゲッターロボすら蟻のように見えてしまう巨大恐竜戦艦ダイに大東京は蹂躙されてしまった。逆転の望みを託したゲッターチーム最後の攻撃も水泡に帰し、人類は絶望の淵に立たされる。その時、たったひとり出撃しようとしたミチルをムサシの純情がとめた。愛する者を死なせたくない—ムサシのその熱く淡い想いが、恐竜戦艦ダイもろとも恐竜帝国を崩壊に導いた。だが、ムサシ自身も……。

ムサシの凄絶な死から1週間後の5月15日、『ゲッターロボ』の第2部ともいうべき『ゲッターロボG』がスタートした。

死亡したムサシに替わって現れた新メンバー・車弁慶をチームに加え、ゲットマシン及びゲッターロボ、さらには早乙女研究所をはじめとするサブメカニック関連のデザインを一新。

そして敵は、前シリーズのハ虫人類による恐竜帝国に替わり、鬼の一族による百鬼帝国が出現。主要レギュラーメンバー以外のほとんどが入れ替わってのリニューアルスタートを切ることとなった。それにも関わらず、その世界観をまったく損なうことなくさらなる前進を遂げることに成功したのは、〝合体ロボットアニメのパイオニア〟としての本作を築きあげたスタッフたちの、1年間の実績に裏打ちされた成果に他ならない。

さて、話は少し前に遡って——当初、次なるステップのための礎として、また、「キャラクター的におとなしすぎる」との理由から一度は主人公・流竜馬が、前シリーズの最終回にて死ぬ運命に立たされていた事実があったことは、永井（隆）氏らスタッフの証言にあるとおり。だが、テレビ番組の倫理がその画期的なチャレンジスピリットを許してはくれず、けっきょく、コメディ・リリーフになっていたムサシにそのおハチが回ってしまったこともご存知のとおり。

ただ……少なくともテレビアニメに関して言うなら、この決断は正しかったように思う。神谷明氏による武器の連呼——いわゆる〝神谷叫び〟がなかったら、テレビアニメ版『ゲッターロボ』及び『G』がここまで我々の脳裏に強烈に焼きつくような作品になり得たか……それは本作第72話「大決戦！シャインスパーク」に登場する新必殺武器「シャインスパーク」によって頂点に達するといっても過言ではないだろう。

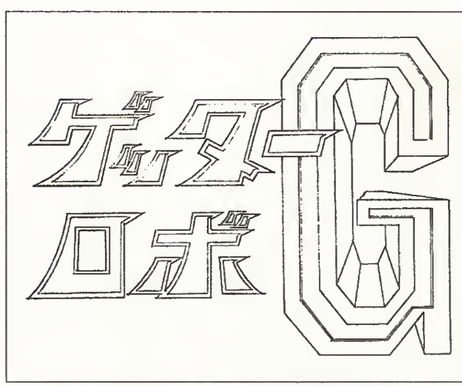
『ゲッターロボ』及び『G』を語る時、この事実は私個人の思いこみではなく、テレビアニメ『ゲッターロボ』（&『G』）を愛する者すべての統一見解であることを信じてやまない。

さて——スタッフ陣は〝シリーズの延長〟という本作の性質上、ほぼ前シリーズより移行する形となった。そのため、新シリーズといっても前シリーズスタート時のようにバタつくこともなく、よどみのない製作態勢で進行していった。

そんな中でも多少のスタッフの移動が行われたわけだが、なにより特筆すべきは脚本陣における高久進、馬嶋満両氏、作画陣における金田伊功氏の参画であろう。

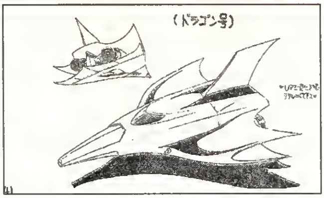
どちらかというと『マジンガー』シリーズのほうが印象の強い高久氏だが、意外なことに『ゲッターロボG』の初期編のエピソードのほとんどは彼の筆によるもの。とりわけベンケイのキャラクター面における方向性などは、氏が決めたといっても過言ではない。また、本作にて本格デビューを果たした馬嶋氏は、その後勝田プロデューサーと組んで『グレンダイザー』『ダンガードA』などで幾多の傑作エピソードを輩出していくことになる。

前シリーズ後半よりの参加となった金田氏は、

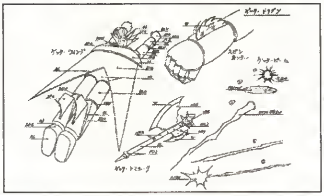


『ゲッターロボG』のタイトルロゴ。ドラゴン号の先端部分が「G」の文字に変化するオープニングは素晴らしいの一語につきる

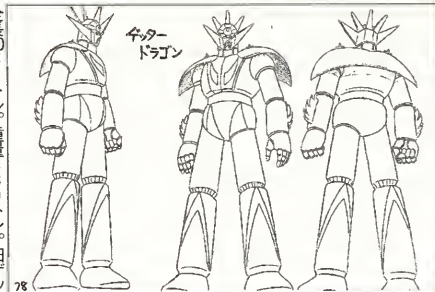
ゲッタードラゴン



全長17メートル。重量110トン。最高速度マッハ1

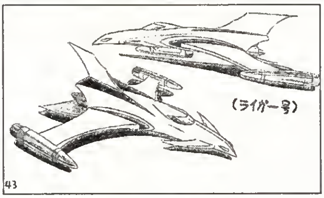


伸縮可能となったダブルトマホークなどを装備する

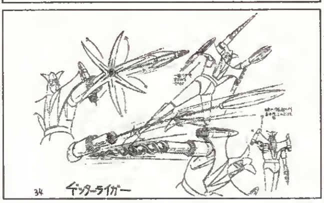


全長50メートル。重量330トン。旧ゲッターの10倍のパワーを持ち、追加装備された"シャインスパーク"は威力絶大

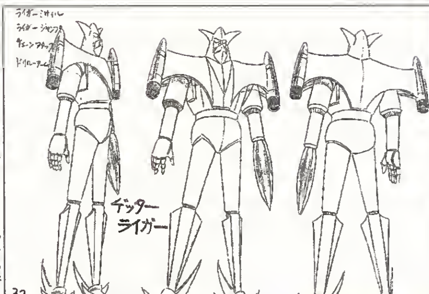
ゲッターライガー



全長18メートル。重量100トン。最高速度マッハ1

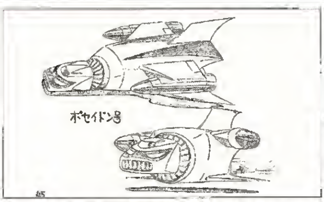


新たにライガーミサイルとチェーンアタックを装備

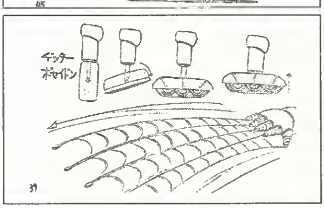


全長50メートル。重量330トン。両腕が内装式になり、ドリルや五指のマニピュレーターを状況に応じて使用する

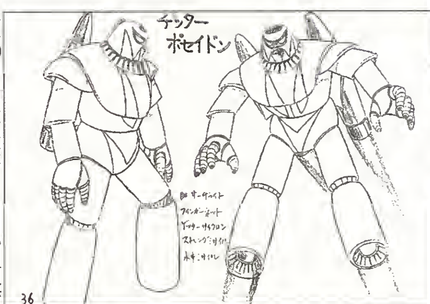
ゲッターポセイドン



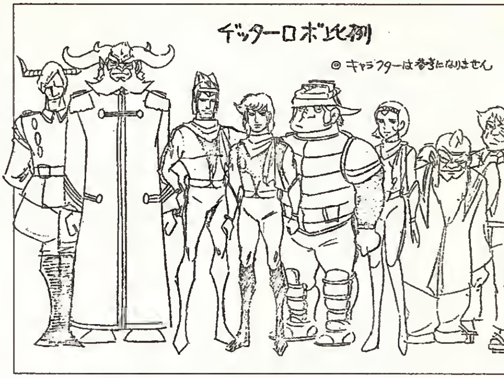
全長17メートル。重量120トン。最高速度マッハ1



ストロングネット及び足の変形ギミックの設定



全長40メートル。重量330トン。二足歩行タイプとなったのが大きな特徴。両足が転回してキャタピラ走行も可能



『ゲッターロボG』のキャラクター対比図。ベンケイの巨大さがなんとも印象的

後にオリジナルビデオアニメ『バース』（86年）などで知られ、その独特な動きに魅了されたファンも多い、まさにアニメ界の〝アクション・スター〟ともいうべき名アニメーター。まだデビューして間もない氏は、本作後半でメキメキと頭角を現わし、次作『大空魔竜ガイキング』（76年）で一気にブレイク！　以後は『無敵超人ザンボット3』（77年）など各社の作品でその辣腕を存分に振るうこととなる。氏は現在、ハワイに居を移されて国際的にご活躍中だ。

そんな新戦力を得たスタッフたちは、前シリーズの世界観を継承しつつ、さらなる内容的なグレードアップと世界観の広がりをはかっていった。

その顕著な例は、前シリーズにおいて試みられた〝反戦作品〟としての側面の強化である。

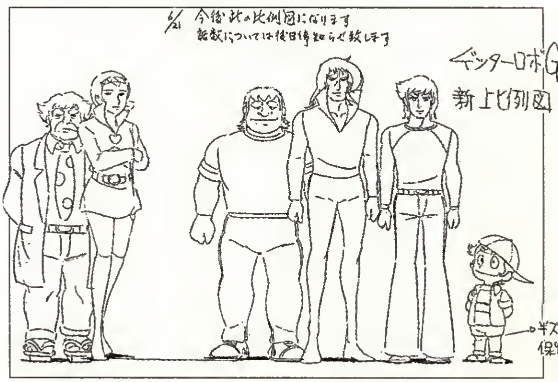
前シリーズでは、敵がハ虫人類という先住民族ということもあって、異民族との闘争ｏｒ生存競争的イメージで〝闘い〟が描かれていたが、本作の敵・百鬼帝国は、〝鬼〟という異民族ではあるものの、スタイル的により人間に近くなった分、通常の〝戦争もの〟的な描写を余儀なくされることとなった。恐竜帝国も、戦闘爆撃機や前線基地を多数保有し、通常の悪の軍団よりはミリタリカルなイメージで描かれてはいた。だが――やはり「〝トカゲの顔をした人間〟がヘルメットをかぶり戦闘機を操縦する図」というのはどうしても倒錯的、パロディ的なある種の〝おかしみ〟を誘引してしまうものがあった。

けれど、百鬼帝国は角こそ生えていこそすれ、あくまでも姿・形は人間そのものである。だから、軍服に身を包んだ人間が戦闘機を操って爆撃を行う様は必然的に「架空戦記」的世界観をかもし出すこととなったのだ。そんな、思わぬヴィジュアル面での効果も手伝って『ゲッターロボG』はかつてない〝反戦アニメ〟としての様相を呈していくようになる。

その点をふまえた上で――番組も中盤に差しかかるころになると、メインライターを田村氏が務め、上原、高久、馬嶋の3氏がその脇をかためる――というシフトが完成。田村氏がしっかりとすえた基本ライン上で、上原、高久、馬嶋の3氏は次々に〝反戦〟をテーマにした異色作を連発していった。

特に――上原氏の描いた第65話「友達は風になった」第67話「死闘！嵐吹く男の道」、高久氏の描いた第79話「緑の地球が死ぬ」、馬嶋氏の描いた第76話「湖に消えたミチル」第86話「百鬼老兵は死なず」は、ファンの間でも傑作の誉高い、人気エピソードとなっている。田村氏自身もそれに刺激されたかのように第62話「百鬼帝国！将軍への道」第66話「赤い蝶のバラード」第77話「鬼になったあいつ」などの傑作を輩出した。これらライター陣の突出した脚本も本作の大きな特徴のひとつとなっている。

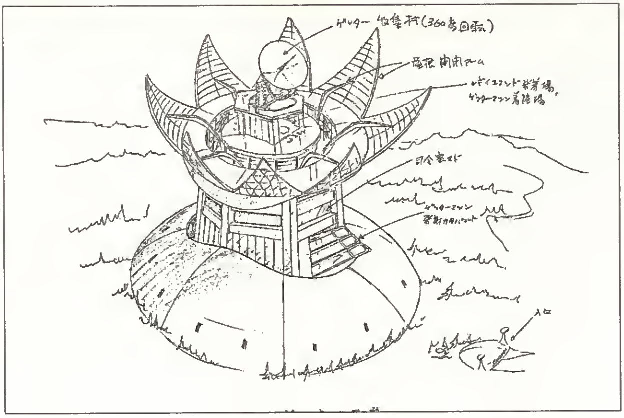
前シリーズに引き続いて主力アイテムはスポンサーであるポピーより発売された。「超合金」「ジャンボマシンダー」といった商品の売れ行きも好調で、視聴率も前シリーズよりはやや落ちるも、高い数値をキープ。安定した人気の中で、次なる〝ロボットアニメ・ブーム〟への橋渡しをにないつつ、3クールに渡る放送を見事にまっとうしたのだった。

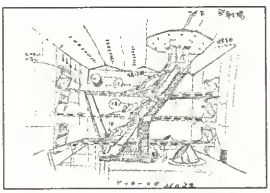


こちらは早乙女研究所のメンバーのみのキャラクター対比図。スタッフもベンケイの尋常でない巨大さが気になったのか、修整が施されている

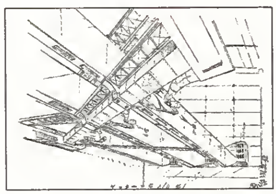
これが新・早乙女研究所のすべてだ!!

通称「フォーダムG」。設備の上では、基本的に旧・早乙女研究所とさして変わりない。しかしながら、戦闘を考慮した設計思想から工夫が随所に盛りこまれ、機能上ではかなり向上している。その風貌も研究所というよりは要塞に近い。ゲッター線収集装置も360度回転するようになり、収集能力も格段にあがっている。また、ゲッター線エネルギーを10倍にパワーアップする増幅装置を新たに備えたことが、なにより大きな特徴といえるだろう。

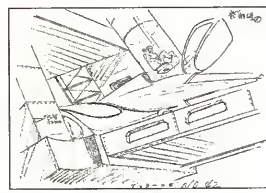




旧・カタパルトに比べ、格段の信頼性を誇る。唯一、第13話でコウモリ爆弾によって発進口を破壊された程度である

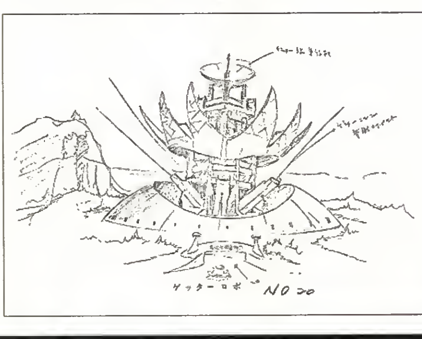


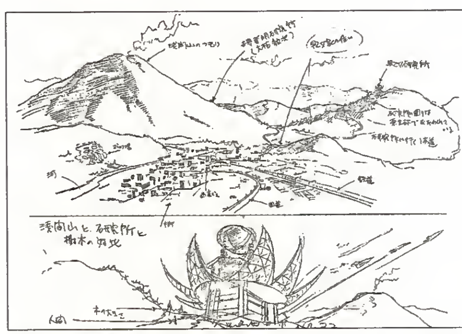
一新されたゲットマシン・発進用カタパルト。より強調されたメカニック感と巨大感がたまらない



「シートセッティング・ゴー！」のかけ声で、シートはパイプを通ってゲットマシン・コクピットへと移動する

新・早乙女研究所正面。バリヤー発生装置を破壊され、無防備となってしまった旧・研究所時代の経験から、防御システムを変更。強固な屋根を閉じて地下に潜るというシェルターのようなものとしている。これが実に優秀な防御システムであり、さすがの百鬼も手をやかされ、破壊には相当な戦力を要した。また、本編でも時折見かけられた「早乙女研究所」という文字の入ったゲートが印象的

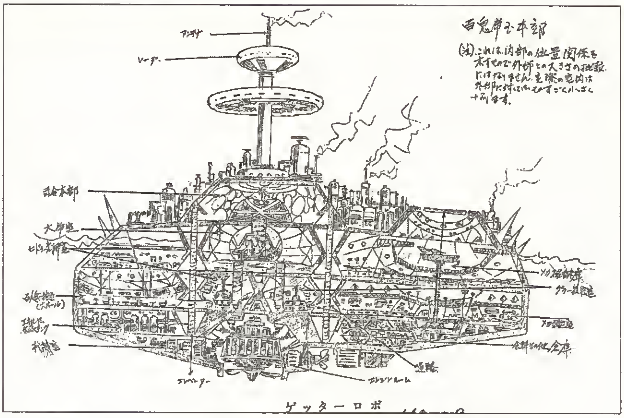




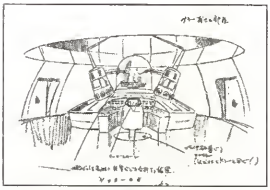
浅間山・山麓配置図。画面では解りにくかったフォーダムGと浅間山や街、世界発明研究所などとの位置関係が把握できる貴重な資料だ。実際の画面では登場していないゴルフ場や西友といった建物、鉄道線路なども描きこまれている。こうして見ると、第20、21話でエンジン不調に陥ったゲッターポセイドンが墜落した位置も確認できそうだ

これが百鬼帝国のすべてだ!!

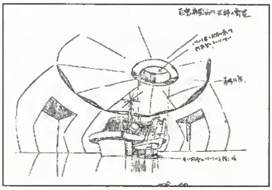
虎視眈々と地球征服の機会を狙っていた百鬼帝国は、恐竜帝国なきあと、侵略活動を開始。装いを新たにしたゲッターチームへ挑戦状を叩きつけた！鬼である彼らは、独自の先進科学を用いて建造した科学要塞島を本拠として百鬼百人衆と呼ばれる歴戦の勇士を送りこんでくる。さらに彼らの操る百鬼ロボット（百鬼メカなどの別称を持つ）をより強力なものとし、人間を改造した兵士の生産効率を上げるため、早乙女博士の開発したゲッター線増幅装置を狙っているのだ。



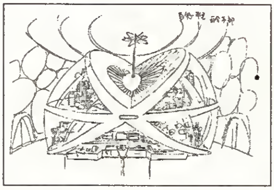
科学要塞島・内部図。かなり精密に描きこまれており、各室の配置がよくわかる



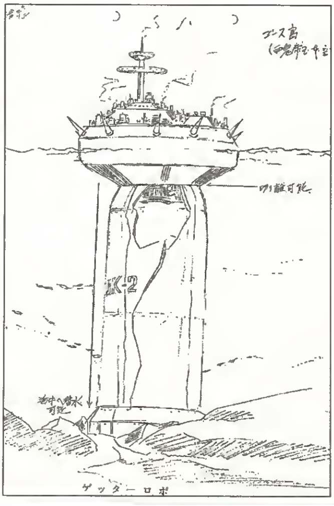
ヒドラー元帥の部屋。グラーの自室とほぼ同じ構造で、ブライ大帝の部屋への直通エレベーターが設けられている



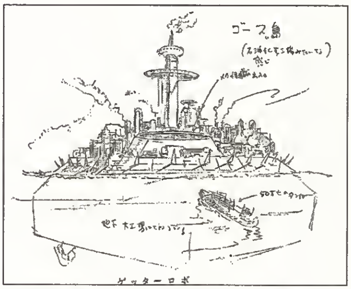
グラー博士の部屋。研究開発するための装置が部屋中央に設置されており、ここで百鬼メカの設計などもしている



司令本部。巨大なレーダー塔の下に位置する。最終回、グラー博士が遺した重力制御装置もここでコントロールした

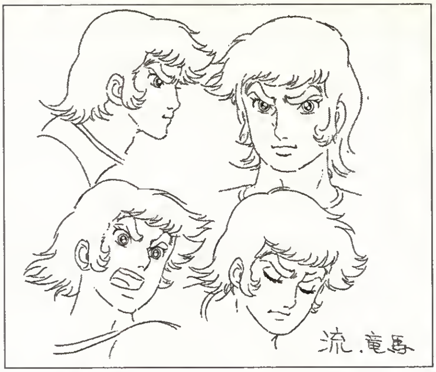


科学要塞島・全景。初期は海上と海中へ上下するエレベーター塔に合体していたが、第10話でゲッターロボの攻撃を受けて塔が撃沈されている。以降、要塞島は単体で活動するようになり、ゲッターチームや早乙女研究所、また国防軍の探索の目を逃れるため、頻繁に海中航行するようになった。だが、もともとそういった状況を想定してあったのか、海中移動用のプロペラは最初からとりつけられていた



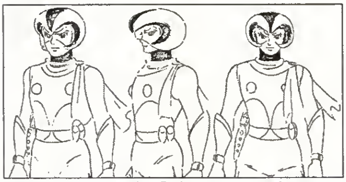
科学要塞島・外観。巨大なプラントや移動する工業地帯を思わせる科学要塞島。同一画面に浮かんでいる50万トン・タンカーが漁船に見えるくらい巨大だ。最終回ではこの巨体を飛行させて、東京を襲撃。甚大な被害を与えている。また、上段と左側の設定画に書かれている「ゴース島」という初期名称が興味深い

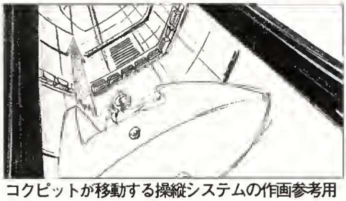
流竜馬



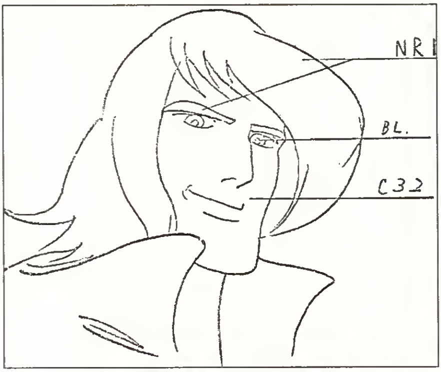
ドラゴン号及びゲッタードラゴンの操縦者。女生徒のファンも多くなり、生真面目だったリョウも仲間と生活を共にし、おどけた表情をのぞかせるようになった。また、長い戦いの中で、幼いころより叩きこまれていた剣術を採り入れた戦闘スタイルを確立。柄が伸縮自在となったダブルトマホークを刀のごとく扱ったり、対メカ鉄甲鬼戦ではすれ違いざま、居合い抜きのようにスピンカッターで斬りつけ、さらには百鬼ロボットの得物を白刃取りする場面を何度となく披露した。恐竜帝国のキャプテン・ギルバ、百鬼百人衆の大剣鬼、角面鬼とは生身で対決！日本刀を携え、強敵を流一刀流で葬っている。


リョウの表情集。精悍な顔だちはリョウの魅力のひとつ

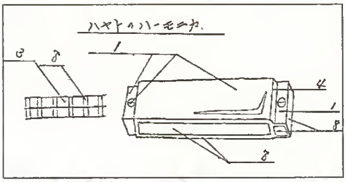

リョウのスーツ設定。『G』になっても変更はない


コクピットが移動する操縦システムの作画参考用設定

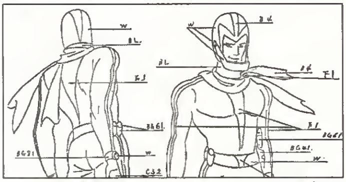
神隼人

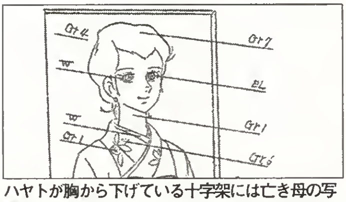


ライガー号及びゲッターライガーの操縦者。独断的な行動で仲間が傷つくなど、恐竜帝国との戦いで苦い経験をしたハヤトは戦いの辛辣さを知り、真面目な姿勢を見せるようになった。そのため、ひょうひょうとした態度をとりがちなベンケイと衝突する場面も何度か見られた。また、早乙女博士に共感した父・大造が神重工業ゲッター線研究所を建設。惜しくも百鬼に破壊されてしまうが、その一件で親子としての信頼関係をとり戻すに至っている。そして、百鬼帝国との最終決戦でミチルにいつも身につけていた十字架を渡し、彼女との仲を進展させた。



前作・第33話でマムシを倒したハーモニカの設定画


ヘルメット着用時のパイロット・スーツ色指定


ハヤトが胸から下げている十字架には亡き母の写真が……

車弁慶



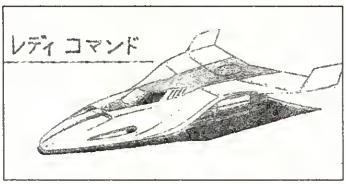
ムサシとはまた違う、とぼけた表情の多いベンケイ



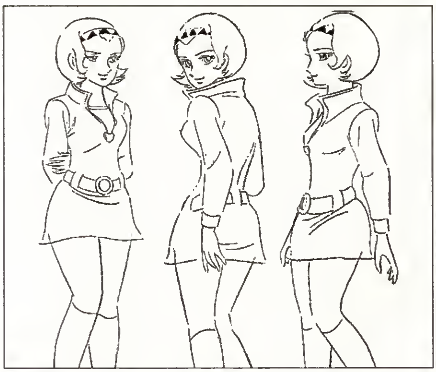

野球部に在籍するベンケイらしいパイロット・スーツ

ポセイドン号及びゲッターポセイドンの操縦者。愛称はベンケイ。リョウたちの通う浅間学園に転校してきた。後に野球部キャプテンとなり、人間に化けた百人衆・角面鬼と野球で対決したこともある。剣道部、柔道部の部員を一度に数十人ものしてしまうほどの怪力とタフな身体を買われてムサシの跡を継ぐ。だが本来は戦いの大嫌いな平和主義者で、動物や子供を愛する。食べることを趣味とし、ムサシ以上におおらかでノンビリした性格の持ち主のため、ゲッターチームにピンチを招いてしまうこともあったが、彼の力で勝利した戦いも少なくない。ジャンボ機の機長を務めるバンカラな男・車大介を父に持つ。

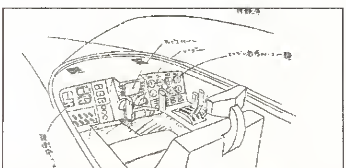
早乙女ミチル



第70話では、早乙女博士も操縦していた

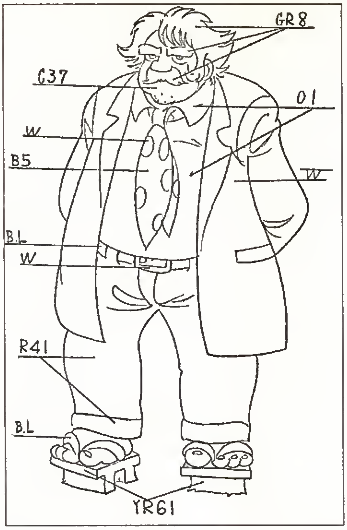



ミチルのパイロット・スーツの設定


レディコマンドのコクピット。細かく設定されている

『G』になってからも相変わらずのオテンバぶりで活躍。百鬼の侵略作戦を察知するなど、ゲッターチームに貢献する。ハヤトの幼な友達・イサム同様、彼女もまた幼なじみの紅林譲治を百鬼に改造され苦しい戦いを強いられたこともあった。また、百人衆の胡蝶鬼とは女として対決し、年頃の女の子らしい一面を見せた。さらに百鬼帝国との最終決戦ではハヤト不在の穴を見事に埋めて、ゲッターライガーを駆りメカ電獣鬼を撃破している。そして、どことなくハヤトの母に似ていた彼女は、ラストシーンでハヤトの気持ちを受け入れることとなった。なお、第14、15話で続けて水着姿を披露している。

早乙女博士





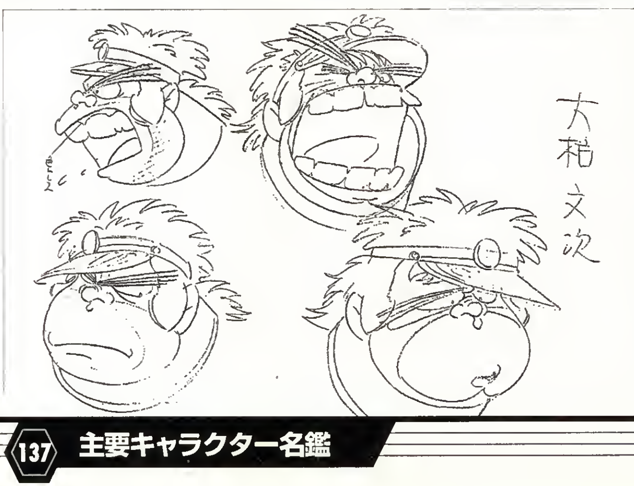
より激しい戦いに備え、恐竜帝国との戦いで培ったノウハウを注ぎ、新たな戦闘用ゲッターロボと要塞のコンセプトを持たせた新しい早乙女研究所を建造。百鬼帝国との激戦を繰り広げるゲッターチームをガッチリとバックアップした。

早乙女元気



優しさをもって人と接する彼は友達も多い。百鬼の天才少年・地虫鬼とも仲良くなり、ベンケイとも気の合う友達のように付き合う。また第32話では、マリアという女の子に一目惚れした。

大枯文次

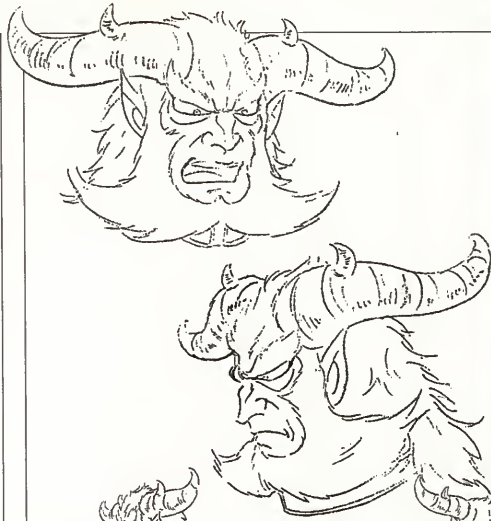


恐竜帝国との戦いにおいて、早乙女博士の開発した長距離砲・ゲッターナバロン砲の砲手を任されて活躍するが、『G』ではジョーホー、浅太郎とともになりを潜めてしまい、その後、彼らがどうなったかは定かではない。

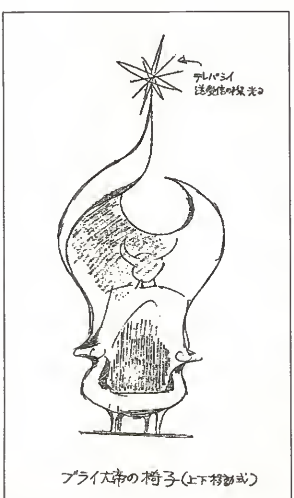
ブライ大帝



貫禄のあるブライ大帝のコスチューム。どことなく貴族のような気品にもあふれている。下段はブライの部屋にある椅子の設定画



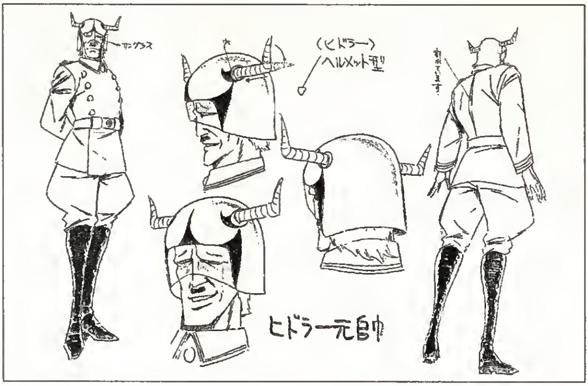


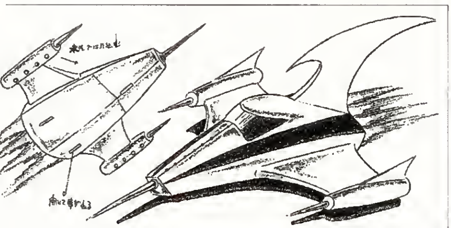


恐竜帝国滅亡を見届け、ゲッターチームが大打撃を受けたのをチャンスと見はからい、科学要塞島を浮上させて世界征服にのりだした。恐竜帝王ゴール以上に冷酷で非情な彼のやり口は、まさしく“鬼”の姿そのもの。百人衆のひとり、白骨鬼に帝国を裏切ったとして、愛娘・リサを殺すように命令したほどである。彼の命令は百鬼兵士にとって絶対であり、その怒りの声には誰もが震え上がった。だが、兵士に対する思いやりはある程度ふまえているようで、最終回において奇跡の生還をとげたヒドラーに休息するよう命令していた。

ヒドラー元帥

ブライ大帝の片腕を務める戦闘指揮官。百鬼帝国の武力をつかさどっている。ブライには忠誠をつくしているが、非常に腹黒い男。その昔、歴戦の勇士だった自雷将軍を罠にかけて元帥にまで成りあがり、卑怯な作戦もいとわない残忍な性格の持ち主。百人衆の中にも、彼の手にかかった者は少なくない。





戦場に赴いて指揮を執り、また戦闘機隊、爆撃機隊を率いて戦うこともあるヒドラーは専用の戦闘機を持つ。世界征服の障害となりうる国防軍の新鋭戦艦シーフォース号殲滅作戦においては、空爆隊を指揮し、自らもバリヤー突破という荒業をなして活躍した

グラー博士

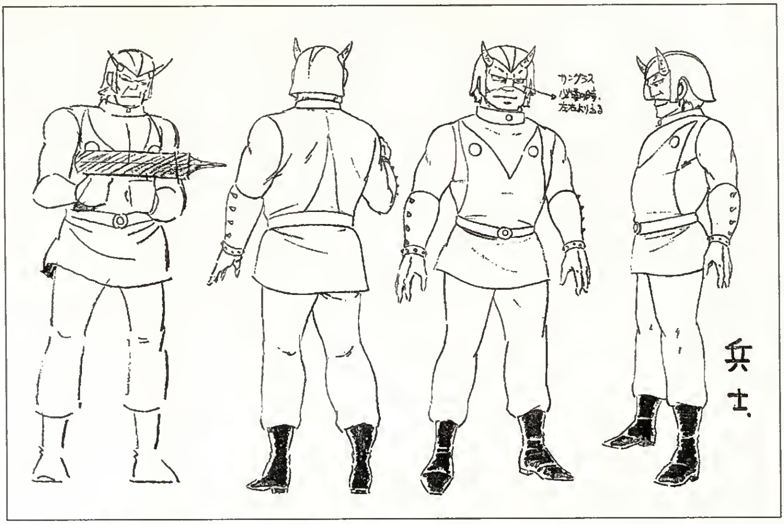


ヒドラーとともにブライ大帝の片腕を務める。百鬼帝国の頭脳であり、百鬼ロボットをはじめとする兵器などの開発、研究にいそしむほか、侵略作戦の立案も受け持っている。また、優秀な科学者である彼のもとには、天才少年・地虫鬼や弟子にあたる鉄甲鬼を代表に、才能ある若きエリートたちが多く集っている。老科学者らしい落ち着いた雰囲気と気品を持っているが、ときおり奇妙な言動を見せる。決戦で戦死するも、『重力制御装置』という大いなる遺産をブライに遺していた。

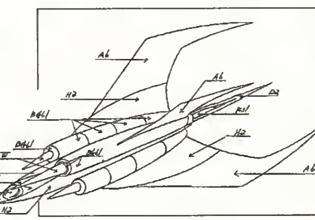
グラー博士のコスチュームは、アカデミーの科学者を連想させるが、線画で見ると職人の作務衣のようなラインも見受けられる



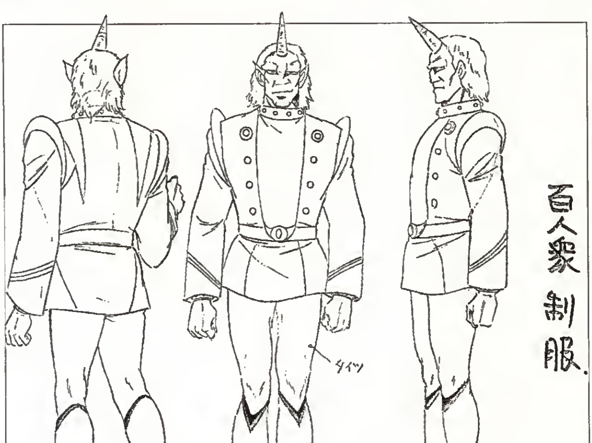
百鬼兵士



上段は一般兵士の設定画。『G』第11話に登場した自雷一族を例外とし、画面に登場した百鬼兵士は、統一してこの制服を着用していた。下段は百人衆の制服・設定画。兵士とは対照的に、百人衆の制服はこれを基本として様々なカスタムメイド・タイプが存在している。一角鬼や邪角鬼などは、その最たる部類に入るだろう。

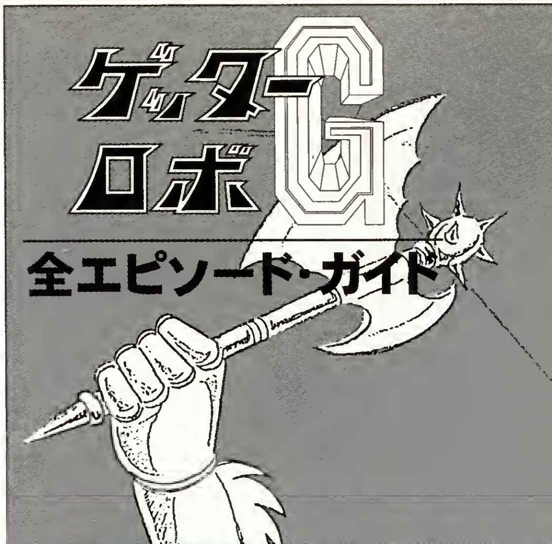


百鬼帝国の有する高性能戦闘機。ほかにも爆撃機や装甲車などがあり、作戦目的にあわせて主力、サポートで活躍する



百鬼一族には、もともと鬼であった者と人間を改造した者がいる。一般兵士は戦闘機、爆撃機を操縦。百人衆のサポートなどで戦闘に参加する。老若男女を問わず、戦績を挙げた優秀な戦士によって構成される「百鬼百人衆」というエリート集団が存在し、各人専用の百鬼ロボットを駆って作戦の前線で活躍。

さらに彼らは世界各国で前線基地を建造し、支部の活動を指揮している。そこからの功績によっては、栄えある将軍の位を授かることも可能であり、出世を目指して奮起する者も少なくはない。また、次代を担う子供たちにも一貫して、エリートである百人衆を目標とした教育がなされているのだ。



GETTER-ROBOT G ALL EPISODE GUIDE

本章にて掲載する図版は『ゲッターロボ』のエピソード・ガイド同様、基本的にはその回に登場するゲストキャラクターorメカニックである。それに該当するものがない場合は——①内容に添った形での稀少価値の高い基本設定、②その前後のエピソードに登場するキャラクターorメカ——の順で掲載した。やはりいささか苦しいものもあるが、どうかご了承頂きたい。

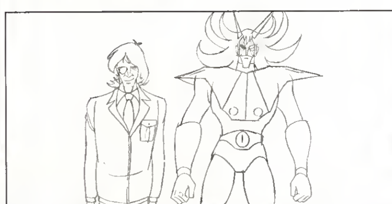
1「甦れゲッターロボ!!」

恐竜帝国の脅威が去り、早乙女博士たちは決戦で雄々しく散ったムサシの慰霊をとり行っていた。博士は亡きムサシに新しい研究所とゲッターロボ、そしてゲッター線増幅炉の完成を報告する。しかし、ムサシに代わるゲットマシン搭乗者は未だに見つかっていなかった……。そんなある日、元気は怪力無双の男・車弁慶と出会い、研究所へと案内する。怪力に加えてベンケイは、リョウたちでさえ音を上げる新ゲッター訓練用のシミュレーションに乗って、居眠りするほどのタフさをあわせ持っていた。そこに、新たなる敵、百鬼帝国襲来の報が入る。飛行訓練に飛び立っていたレディコマンドが迎撃に向かうが、百鬼ロボット・メカ一角鬼には歯が立たない。レディコマンドは撃墜され、同乗していた元気が一角鬼に捕らわれてしまった。元気の危機に奮起したベンケイは、リョウ、ハヤトとともに新ゲッターでメカ一角鬼に立ち向かった！　だが……。



2「恐るべき百鬼帝国の謎」

新ゲッターでメカ一角鬼に立ち向かったリョウたちであったが、メカ一角鬼の胸には元気が捕らわれていてうかつには手が出せない。強力な百鬼ロボットと不慣れな新ゲッターに振り回されながらも、ハヤトの機転で元気を救出。新ゲッターの強大なパワーでメカ一角鬼を倒す。だが、元気は川に落ちて重傷を負ってしまった。その頃、一角鬼を破られた百鬼帝国は作戦会議を行っていた。百鬼は、人間を完璧な先兵に改造するため、強力な侵略ロボットを造りあげるためにゲッター線増幅炉を欲していたのだ。そして、百鬼衆から選ばれた次なる刺客・独眼鬼が研究所襲撃に動き始めた！　独眼鬼は百鬼ロボットを操り、研究所に迫る。一命を取りとめた元気を守るため、ベンケイは再びゲットマシンに乗りこみ、リョウたちと出撃する。地に潜っていくメカ独眼鬼をゲッターライガーで追撃。ライガーミサイルが火を噴き、独眼鬼はもろくも敗れ去った。



3「悪の罠！空飛ぶ船団」

夜の海上で、突如としてタンカーが行方不明になるという事件が起こった。この知らせを聞いた早乙女博士は百鬼帝国のしわざと判断。来るべき戦いに備え、新ゲットマシン操縦訓練に力を注ぐ。そこに、百鬼帝国の改造したタンカー軍団が襲来！　タンカーを墜落させ、新早乙女研究所一帯を火の海にした。訓練中だったリョウたちが応戦するが、百鬼はタンカー一杯に詰まったオイルに特殊な添加物を混合し、ゲッター線エネルギーを吸収してしまう。激減するゲッター線エネルギー、しかもベンケイが、火事で傷ついた動物たちの保護に向かってしまった。動物たちを必死に治療するベンケイであったが、タンカーの中から姿を現したメカ牛面鬼の攻撃により、ベンケイの保護した動物たちは全滅してしまう。怒りに燃えたベンケイはゲットマシンで出撃。リョウたちと合体し、ゲッターポセイドンでメカ牛面鬼に立ち向かい、ストロング・ミサイルで動物たちの敵を討った。



4「ベンケイ！涙の勝利」

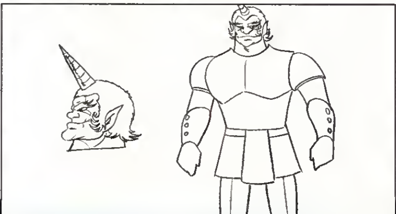
百鬼一族の中でも、変身能力に長けた白髪鬼がゲッターロボ討伐に向かう。その頃、元気たちと野球をしていたベンケイは、花のように可憐な少女と出会う。少女はリョウたちがベンケイの悪口を言っていたというが、ベンケイはその場では大して気にもしないでいた。だが、ベンケイを狙った嫌がらせが次々と起こり、ついにベンケイはリョウとハヤトを疑いだしてしまう。そんな時、メカ白髪鬼が出現。仲たがいしながらもゲッターチームは出動、白髪鬼と対決する。しかし、チームワークがバラバラだったため、リョウとハヤトは白髪鬼の脳波停止光線を浴びて目が見えなくなってしまった。ベンケイは、白髪鬼があの少女に化けて自分を騙していたことを元気からの連絡で知らされる。怒ったベンケイは、リョウたちを誘導してポセイドンに合体！　白髪鬼の攻撃にも退かず、圧倒的パワーで白髪鬼を破った。ベンケイは言う、「俺たちゃ、やっぱり三人でなくちゃな」と。



5「恐怖の水爆大作戦」

奪った濃縮ウランで水爆地雷を完成させた暗黒鬼は、浅間山中に地雷をしかける。が、動きを察知したゲッターチームによって捕らえられてしまった。しかし、これこそがヒドラーの計画したゲッター線増幅炉・奪取作戦だったのだ。暗黒鬼は、メカ暗黒鬼に設置した地雷のリモコン装置で博士たちを脅迫。ゲッター線増幅炉を要求し、悠々とメカ暗黒鬼に戻っていく。博士の発案により、リョウとハヤトがメカ暗黒鬼のコクピットに設置されたリモコン装置破壊に向かう。ベンケイが暗黒鬼の気をそらしているすきにリョウたちは見事、リモコン装置を破壊。暗黒鬼をも倒す。後は地雷処理のみと思われたその時、フルオートとなったメカ暗黒鬼が地雷に迫っていく！

リョウたちはすぐさまドラゴンに合体。メカ暗黒鬼を阻止しようとするが、メカ暗黒鬼には武器が一切通じない!?絶体絶命の危機を落雷が救う。メカ暗黒鬼は雷に撃たれて爆発。地雷を博士たちが解体するのだった。



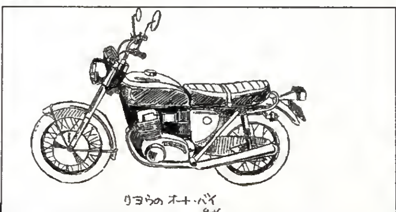
6「夢を裂く百鬼一族」

ある日、銀行から三百億円という大金が奪い去られた。それは、ゲッター線増幅炉の強奪を企む百鬼一族の実験だった。グラー博士の開発したマグネットパワーで宙に浮かんだ増幅炉を、百鬼ロボットで奪い去ろうという計画だ。しかし、そのためには増幅炉自体にもポイントゲージと呼ばれる装置を設置しなければならない。作戦指揮を任された小竜鬼は、ハヤトの姉・明日香と婚約した坂崎に目をつけた。ハヤトのもとへ婚約報告にやってきた明日香と坂崎であったが、坂崎は小竜鬼に襲われて百鬼一族に改造されてしまう。坂崎が増幅炉にポイントゲージを取りつけ、百鬼はまんまと増幅炉強奪に成功する。ハヤトに正体のばれた坂崎は、ハヤトともみ合ううちに自我を取り戻し、メカ小竜鬼に特攻！　爆死してしまった。怒りと悲しみを胸に秘め、ハヤトはライガーに合体。メカ小竜鬼を撃破し、増幅炉も無事にとり返した。そして、傷心の明日香は新天地へと旅立っていった。



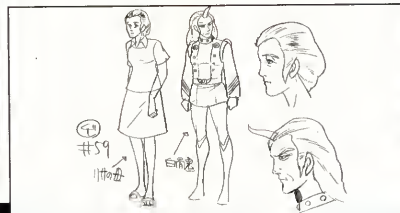
7「追跡！黒いジェット機」

ジャンボ旅客機の機長を務めるベンケイの父、車大介は突然、現れた黒いジェット機に衝突しそうになる。からくもかわした大介は、空の安全を守るため調査に飛び立ち、偶然にも百鬼帝国の前線基地を発見する。そこでは、百鬼一族の三頭鬼が百鬼ロボットと超ウラニウム爆弾を製造していたのだ。父を追ってきたベンケイであったが、大介と合流した直後、百鬼帝国に捕獲されてしまう。だが、父の機転で百鬼の手を逃れたベンケイは、駆けつけたリョウ、ハヤトと合流。大介を救出するために基地へと突入した。無事、大介を助けだしたベンケイたちはゲットマシンに乗りこみ、飛来した百鬼の黒いジェット機と対決。これを撃墜する。黒いジェット機は部品を運ぶ輸送機だったのだ。リョウたちは続いて現れたメカ三頭鬼にドラゴンで立ち向かい、壮絶な空中戦のすえ、これを打ち破った。三頭鬼が爆弾製造のために集めた人間たちも解放され、三頭鬼の爆弾計画は阻止されるのだった。



8「夜空に輝く二つ星」

七夕の日。ミチルは買い物の帰り路で、百鬼帝国に追われる少女と出会う。しかし、その少女の額には欠けた角があった。百鬼の少女・リサは、傷ついた小鳥をかばっただけで反逆者として追っ手をかけられたのだ。その頃、百人衆のひとり白骨鬼は、実の娘であるリサを抹殺するようブライに命じられる。奇しくも、五年ぶりに娘と再会するはずの日だった。困惑しながらも白骨鬼は元気を人質にとり、研究所へリサの身柄を要求。だが、白骨鬼はミチルに連れられて現れたリサを逃がし、元気たちも解放する。白骨鬼は戦士でなく、母親の道を選んだのだ。だが、逃亡したリサは非情な百鬼の追っ手、鬼丸の手にかかり殺されてしまう。現場に駆けつけたリョウたちを犯人と勘違いした白骨鬼は、メカ白骨鬼でゲッターに勝負を挑む。が、戦いの最中、愛娘リサの姿を思い出した白骨鬼は、ミチルの放ったコマンドミサイルに身をさらし、自ら命を絶つのだった……。



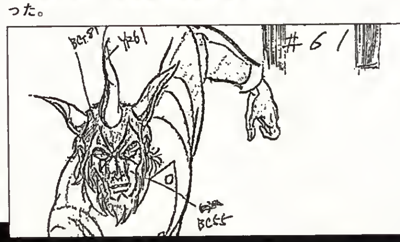
9「SOS！ゲッターロボ応答せよ」

ある嵐の晩、石油コンビナート地帯が百鬼ジェット機隊に襲われた。ジェット機隊殲滅に出動したリョウたちであったが、ジェット機隊の大半は忽然と姿を消してしまった。凄まじい暴風雨に視界をさえぎられ、研究所と交信不能におちいりながらも、リョウたちはなんとか研究所へと帰還する。だが、そこに博士やミチルたちの姿はなく、ゲッター線増幅炉も消えていたのだ。百鬼の襲撃!? 頭を抱えるリョウたち。しかし、ベンケイのつるしたテルテル坊主がないことから、リョウたちは、そこがニセ研究所だということを突き止めた。百鬼のしかけた時限爆弾の爆発寸前に研究所から脱出したリョウたちは、メカ飛竜鬼と遭遇。後を追ってきたミチルから、飛竜鬼が本物の研究所を襲撃し、増幅炉を奪ったことを知らされる。リョウたちはライガーに合体し、飛び去った飛竜鬼をフルスピードで追撃する！ ドラゴンに合体して増幅炉を奪還。ゲッタービームで飛竜鬼を撃墜した。



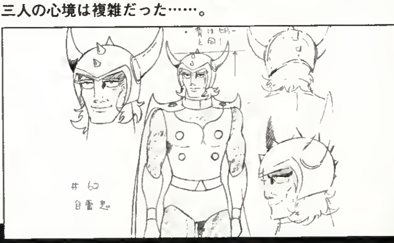
10「悪魔の島を攻撃せよ」

メカ飛竜鬼が逃走した方角に百鬼帝国の本拠地、科学要塞島があると推測したリョウたちは要塞島探索に向かう。リョウたちは、要塞島を探して飛んでいるうちに、船員たちが魔の海域と恐れるポイントに出てしまった。魔の海域に要塞島が潜んでいると睨んだリョウたちは、海域を徹底的に調査し始める。そして、難破した船の奇跡的生存者を見つけたリョウは、船員を救出。だが、船員は突然、背後からリョウに襲いかかった。船員は百鬼の兵士が化けた姿だったのだ。辛くも兵士を撃退するリョウであったが、右腕を負傷。傷をおして再びドラゴン号を発進させる。やっとの思いで要塞島を発見したリョウたちは攻撃を開始。凄まじい対空砲火と、海中に潜んでいたメカ海王鬼に苦戦するものの、ゲッターは海王鬼を破り、また水平砲撃ができないという要塞島の弱点を見いだした。ゲッターの猛襲に大打撃を受けた要塞島は煙幕を張り、姿をくらませたのだった。



11「百鬼帝国！将軍への道」

姿を消した要塞島を捜索するゲッターチーム。一方、ブライ大帝に直訴し、作戦許可をとった自雷鬼はゲッター打倒の早乙女作戦を実行にうつす。亡き地雷一族の勇者・自雷将軍の息子、自雷鬼の出現はヒドラーを恐れさせた。その昔、自雷将軍を罠にかけて処刑したのがヒドラーであったからだ。復讐心と野心を抱き、自雷鬼は百鬼ロボと移動要塞を完成させ、ゲッターに立ち向かう！ 東京を襲撃する自雷鬼の前に立ちはだかるゲッターであったが、自雷鬼の策にはまり、要塞に誘いこまれてしまう。要塞の中は、ゲッターの解体工場となっていたのだ。ゲッターに回転ノコギリが迫る！ だが、罠にはまっていたのは自雷鬼のほうであった。ヒドラーの放ったスパイに要塞内部を破壊され、自雷鬼自身も負傷してしまう。「ゲッター、俺はお前に負けたんじゃない！」自雷鬼の断末魔が要塞に響く。絶体絶命の危機から、幸いにも生還したリョウたち。しかし三人の心境は複雑だった……。



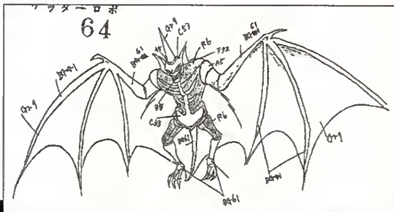
12「遙かなる荒野の決闘！」

アメリカ西部の町に、ダイヤモンドばかりを盗み出すギャング団が現れた。追跡するパトカーを、一瞬のうちに破壊する並外れた力を持つギャング団。その撃退をアメリカ連邦捜査局から依頼された早乙女博士は、ただちにゲッターチームを現地へと派遣する。博士の思ったとおり、ギャング団は百鬼帝国の邪角鬼の率いる兵士たちだった。邪角鬼はダイヤモンドを利用し、威力を50倍に高める新兵器・ダイヤモンドレーザーガンを大量生産しようとしていたのだ。邪角鬼の放ったギャング団の夜襲をうけたリョウたちは、ゲットマシンの燃料タンクを壊されてしまう。ギャング団の後を追ったハヤトは、うまい具合に邪角鬼の基地を発見する。リョウたちの連絡で駆けつけたレディコマンドにエネルギー補給され、修理を終えたゲットマシンで邪角鬼の支部を殲滅！　邪角鬼の操る百鬼ロボットも、ゲッタードラゴンのフルパワーとゲッタービームの前に敗れ去った。



13「こうもり爆弾！危機一髪」

傷つき、研究所に迷いこんできた鷹を介抱し、飼い慣らしたベンケイ。ベンケイは鷹に牛若丸という名をつけて可愛がっていた。そんなある日、ゲットマシン発進口にコウモリの大群が進入し、カタパルトに巣を作ってしまった。研究所総出でコウモリを除去するが、夜になるとコウモリたちは再び発進口に舞い戻ってきた。しかも、高性能小型爆弾を背負って……。百鬼百人衆のひとり、紫電鬼のしわざだ。コウモリたちに爆弾をとりつけ、コウモリたちを自由に操る装置を内蔵したメカ・コウモリで誘導したのだ。発進すればゲットマシンともども研究所も大爆発を起こしてしまう。ベンケイの発案により、牛若丸にコウモリを一掃してもらうが、牛若丸はメカ・コウモリと対決し、爆死してしまった。あおりで破壊された発進口を応急処置し、出撃したゲッターは、街で暴れていたメカ紫電鬼と激突。激怒するベンケイのストロング・ミサイルが火を吹き、紫電鬼を粉砕した。



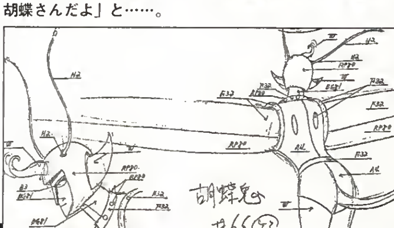
14「友達は風になった」

元気は、迷いこむように研究所に現れた不思議な少年と友達になった。スイカを食べる二人の少年から、自然に笑みがこぼれ始める。そんな時、百鬼のメカ地虫鬼が現れた。メカ地虫鬼を追って地中に潜ったリョウたちは不意をつかれ、メカ地虫鬼に捕らわれてしまう。しかも周囲にはガスが充満し始めた。ガスと暑さで失神寸前のリョウたちを、泣きながら応援する元気。それを見た少年は研究所を抜け出していく。少年は作戦を指揮する地虫鬼だったのだ。ゲッターを助けた地虫鬼は元気から風鈴を貰い、自分は元気にペンダントを渡すと帝国へ帰っていった。しばらくの後、ヒドラーの改造した地虫鬼が出現し、ゲッターはまたも苦戦を強いられる。しかし、元気のペンダントから飛び出したメカ地虫鬼の設計図で弱点を知ったゲッターは、メカ地虫鬼を撃破！　しかし、地虫鬼は反逆罪で銃殺刑にされてしまう……。それを知らぬ元気は、地虫鬼と再び巡り会えるよう打ち上がる花火に願っていた。



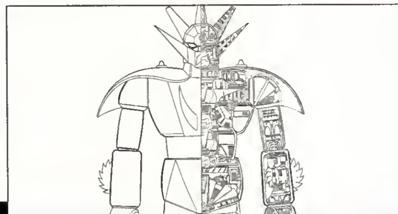
15「赤い蝶のバラード」

浅間学園で開催された水泳大会に、飛び入り参加した美しい少女。胡蝶と名乗った美少女は、何かにつけてリョウたちを誘いだし、リョウたちも次第に胡蝶へと思いを寄せていく。そんなある日、リョウたちは胡蝶に誘われて草原でバイクを走らせていた。しかし、ミチルが山で行方不明になった男の子を捜索していることを聞きつけ、合流して捜索に加わる。男の子を発見しながら、助けに飛びこまなかった胡蝶は、リョウに冷たい女性だと非難されてしまう。ショックを受けた胡蝶は百鬼ロボットを呼びだした。胡蝶は百鬼百人衆のひとりだったのだ！　メカ胡蝶鬼に乗りこみ、ゲッターに挑戦した胡蝶鬼。だが、優秀な戦士、胡蝶鬼もゲッターには破れてしまう。大破した百鬼ロボットからはい出した胡蝶鬼は、暖かい人間の女に戻ろうと自ら角をレーザーガンで撃ちぬいた。人間に戻り、絶命した胡蝶を抱えてリョウは言う。「もう、胡蝶鬼じゃない。美しい胡蝶さんだよ」と……。



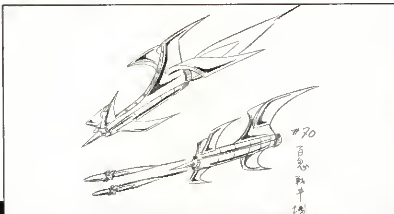
16 「死闘！嵐吹く男の道」

飛来した百鬼ロボットを迎え撃つため、出撃したゲッター。対峙した百鬼ロボット・メカ鉄甲鬼から響いてくる声を聞き、リョウは驚愕する。操縦者である鉄甲鬼は、他校の生徒にからまれていたリョウを助けた男だった。「あの時、言ったはずだ。近いうちに戦うことになると！」。言葉の意味を理解したリョウは鉄甲鬼の挑戦を受け、ドラゴンで立ち向かった。だが、ゲッターを研究しつくして開発されたメカ鉄甲鬼は強敵だった。トマホークにはトマホーク、チェーンにはチェーンで対抗してくる鉄甲鬼。しかも、これをチャンスと見こんだヒドラーがレーザー砲で攻撃してきた。レーザーはポセイドン号に命中、さらなるピンチへと追いこまれてしまう。正々堂々と戦いたいと願う鉄甲鬼はゲッターをかばい、自らもレーザーを浴びてしまう。鉄甲鬼はヒドラーのレーザー砲を撃退し、ボロボロになりながらもゲッターに挑戦。リョウは仕方なく、鉄甲鬼を撃破するのだった。



17 「コロよ明日に吠えろ！」

百鬼百人衆のひとり、闇虫鬼は利口な犬を改造して自由に操り、ゲッター線増幅炉を奪おうとしていた。ゲッター線増幅炉の点検日を翌日に控えた研究所では、可愛い来訪者を迎えていた。元気の拾ってきた子犬・コロである。だが、コロも闇虫鬼に改造された犬の一匹だった。そして翌日、点検のために増幅炉を分解し始めた頃、コロに手引きされて侵入した犬たちはリョウたちを襲い、増幅炉のパーツを奪っていく。何とか犬を撃退したリョウたちの前にコロが立ちふさがった。一匹がコロの母親であることに気づいたベンケイは、犬たちを助けようと角を折るが、逆にそのせいで犬たちは絶命してしまう。非道な百鬼のやり方に怒ったベンケイはリョウたちと合流。合体してメカ闇虫鬼と戦う。そして、ゲッタービームをくらった闇虫鬼はあえなく破れていった。元気の涙の訴えに、博士はコロを友人の動物医に委ねる。長い手術を終え、コロは元どおりの可愛い子犬に戻るのだった。



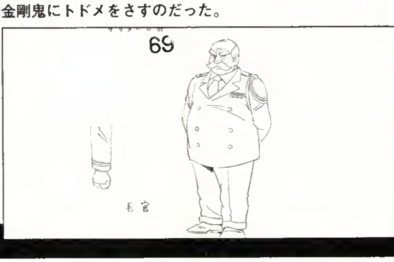
18 「危うし伊豆半島沖！」

ある日、伊豆半島沖で突如として海底火山が爆発、火山島が現れた。火山島はもうもうと、有毒ガスを含んだ黒い煙を噴き上げる。この火山島の出現を気に入らないと言うハヤトの直感は当たり、火山島から発進したメカ妖剣鬼と戦闘機隊が、研究所へ奇襲攻撃をかけてきた。研究所に大打撃を受けた博士は、第二波が襲来しないうちに攻撃に打ってでることにした。しかし、火山島へ海中から接近しようとしたポセイドンは、高圧電流の流れる金網に閉じこめられてしまう。そのすきに乗じた妖剣鬼は再び研究所襲撃に向かう。百鬼兵士の妨害をかわし、金網から脱出したリョウたちは研究所へ急行。妖剣鬼をくい止める。そして、ミチルが大型ミサイルを搭載したレディコマンドで、逆に要塞島を急襲！　要塞島撃退に成功する。要塞島追撃にかかるゲッター。だが、しぶとくくいさがる妖剣鬼に足止めされてしまい、リョウたちは要塞島を見失ってしまった。



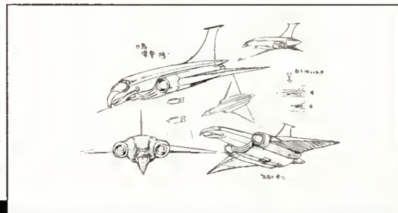
19 「早乙女博士を救出せよ！」

南国の島、竜王島で秘密裏に国防会議が開かれる。百鬼帝国から世界を防衛する要となっている早乙女博士も、会議に出席するため島へとやってきた。だが、百鬼帝国殲滅に協力することとなった国防軍との会議中、会議を嗅ぎつけた百鬼帝国に襲われてしまった。観光客をも人質に取った金剛鬼は、博士にゲッターの出撃を要求。さらに島へ到着したリョウたちを脅迫し、ゲッターをマグマのたぎる火山噴火口へと叩き落とした。しかし、狭い噴火口内での、困難な合体を成功させたリョウたちはライガーで脱出。兵士に化けて博士たちを救出する。ゲットマシンに乗りこんだリョウたちはドラゴンに合体してメカ金剛鬼と戦うが、トマホークを砕くメカ金剛鬼の強固なボディと剣に苦戦を強いられてしまう。博士は、救援に駆けつけたレディコマンドを自ら操縦してゲッターを好サポート！　そして、リョウは必殺ドラゴンキックとゲッタービームフルパワーで金剛鬼にトドメをさすのだった。



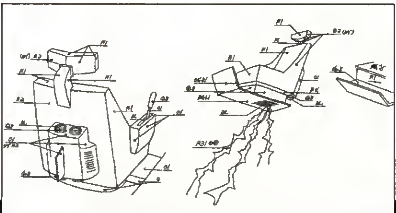
20「大攻撃！メカ要塞鬼」

日本近海に百鬼帝国の科学要塞島が出現した。ゲッターチームは今度こそとばかり、要塞島捜索に全力を注ぐ。だがこの時、すでに要塞島は北極海へと移動していた。そうとは知らぬゲッターチームが、躍起になって要塞島を探している間に、百鬼帝国は早乙女研究所・総攻撃の準備を着々と整え、無敵の空母・メカ要塞鬼を完成させていた。一方、海上を飛ぶリョウたちに巨大な車輪が襲いかかった。百人衆、随一の怪力を誇る大輪鬼が総攻撃を待てず、単身でゲッターに挑んできたのだ。大輪鬼自慢の大車輪はゲッターの武器を一切、寄せつけず、リョウたちは悪戦苦闘。一か八か、ポセイドンで力まかせに大車輪を受け止めるという作戦が成功！　逆転勝利を収めるが、ポセイドンもまた機能低下を起こしてしまう。しかも、大輪鬼がゲッターを引きつけている間にメカ要塞鬼は研究所を襲撃。リョウたちの目の前で、研究所が破壊されていった！



21「大決戦！シャインスパーク」

エンジン故障で墜落したゲッター、その目前で研究所はメカ要塞鬼の空襲をうけて崩壊してしまった。リョウたちは応急処置したゲッターで要塞鬼に突撃するが、要塞鬼から発進したメカ半月鬼に撃墜されてしまう。運悪くハヤトは右足に重傷を負ってしまったが、三人は何とか研究所まで帰還。気落ちするミチルや所員たちを励まし、先導して復興にとりかかる。生死不明となっていた博士も瓦礫の下から救い出され、秘密裏に完成させていた地下研究所でゲットマシンの修理と新兵器装備に全力集中する。そしてリョウたちは、新しい力を授かったゲッターで出撃。東京を攻撃する半月鬼を撃破し、大阪へ向かう要塞鬼の後を追った。巨大な要塞鬼の攻撃に翻弄されるゲッター。そこで三人は、新必殺技シャインスパークを撃つためのペダルを、合図とともに踏みこんだ！　痛みをこらえるハヤト。見事に放たれた新必殺技の前に、強敵メカ要塞鬼も粉砕されるのだった。



22「海底に消えたジャンボ機」

ベンケイはクイズの香港旅行ペア招待券に当選するが、いつ出動するかも分からないベンケイが行けるはずもなく、代わりに元気とミチルが香港へと旅立つ。だが、ベンケイはクイズに応募したことが一回もないことを思い出した。あるはずのない当選ハガキ、それは百鬼帝国の罠だった。ミチルと元気を乗せたジャンボ機は百鬼にハイジャックされ、行方不明になってしまう。ジャンボ機捜索に発進したリョウたちは、メカ獣王鬼に襲われて海深くへと落とされてしまう。一方、ミチルたちを人質にとったヒドラーは、ゲッター線増幅炉を要求するが、博士はリョウの作戦を信じてこれをはねのける。腹を立てたヒドラーは、獣王鬼にジャンボ機爆破を命令。しかし、リョウはこれを狙っていたのだ。獣王鬼を追跡してジャンボ機の位置を突きとめたリョウたちは、獣王鬼を海上へ引きずり出し、シャインスパークで撃破！　ジャンボ機を無事、救出した。



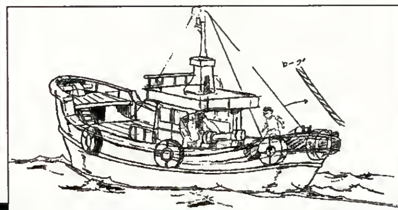
23「月光に踊るピエロ」

ゲッターの新兵器シャインスパークに歯が立たない百鬼帝国は、シャインスパークの秘密を探りだすため、百人衆の剣王鬼を差し向けた。サーカス団に化けた剣王鬼の一味は、リョウたち、そして大勢の観客が集まったところで山火事を起こす。混乱する観客たちを、リョウたちは研究所に逃げこませた。混乱に乗じ、研究所に忍びこんだ剣王鬼は夜を待って行動開始。名だたる怪盗のごとき見事な手並みで所長室へとたどり着く。金庫をこじ開けた剣王鬼は、シャインスパークの秘密ばかりかゲッター線増幅炉の設計図をもカメラに収めた。一方、剣王鬼の侵入を察知したハヤトは緊急警報をかけるが時すでに遅く、任務を終えた剣王鬼は呼び寄せた百鬼ロボットで一路、要塞島を目指していた。剣王鬼を追撃するゲッター。しかし、ビームを倍の力にして反射する剣王鬼の盾に苦戦する。リョウは月光で剣王鬼の目をごまかし、シャインスパークで撃墜。秘密を守り抜いたのだった。



24 「海に叫ぶ少年！」

密かにミサイル基地を建造した百鬼帝国。ニセモノの水爆ミサイルで世界を混乱させ、誘発する戦争で人間を破滅させようとしていたのだ。基地に近づいたために撃墜された戦闘機のパイロットは、基地の存在を証明するテープレコーダーを救助してくれた親子に預ける。だが、その船もまた百足鬼に沈められてしまった。ひとり生き残った少年、克也の持っていたテープから、百鬼帝国の計画を察知したゲッターチームはミサイル基地に潜入。ミサイルと基地の両方に爆破装置を設置した。リョウたちの救援に向かうミチルのレディコマンドには、父の敵を討とうと考えた克也がこっそりと忍びこんでいた。ミチルが届けてくれたゲットマシンに乗りこんだリョウたちは、侵入者に感づいて現れたメカ百足鬼と対決。これを打ち破り、ミサイル爆破にも成功する。そして克也は、エネルギー切れで動けないゲッターを狙う百足鬼を父の形見のモリで倒し、父の敵を討ったのだった。



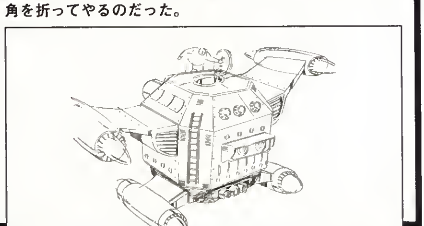
25 「湖に消えたミチル」

中部山中で行方不明になった東山教授とその一行を捜索に向かったレディコマンド。しかし、ミチルもまたSOSを発信した後、行方不明となってしまった。ミチルと教授たちを追って現地へとやってきたリョウたちは、ミチルの連絡にあった奇怪なダムを発見する。だが、そこには怪しい霧がたちこめていて全く手出しができない。一方、東山教授たちとミチルは、ダムにカモフラージュした大角鬼の基地に捕らわれていた。大角鬼はミチルを人質にして教授たちを脅迫、金属溶解液の開発に協力させる。だが、教授たちは薬品やダイナマイトを使って兵士たちを倒し、ミチルを救出。一行は自力で脱出を試みる。その頃、大角鬼の基地を発見したゲッターは、そこに現れたメカ大角鬼と交戦。弱点の脊椎へシャインスパークをぶちこみ、大角鬼を破った。教授たちも無事、脱出を果たし、教授のしかけた液体火薬によって、基地も爆破されたのだった。



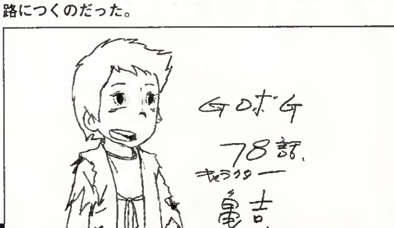
26 「鬼になったあいつ！」

とある男が交通事故で死んだ。倒れた男は角を生やし、煙に巻かれて消失したという。男の正体が百鬼であると目星をつけたゲッターチームから、ハヤトが現地調査に向かう。現場である新宿に着いたハヤトは、車にひかれそうになったお婆さんを助ける。偶然にも、お婆さんを一緒に助けた男は幼なじみのイサムであった。すさんだ生活を送るイサムは金と権力に目がくらみ、ヒドラーからの誘いを受け入れて百鬼の一員となってしまう。一方、新宿で調査を続けていたハヤトは、百鬼の若者狩りを指揮するイサムと遭遇。暴竜鬼と名のるイサムと戦う羽目になってしまう。ハヤトの説得も聞かず、ゲッターを攻撃するイサム。その攻撃に昼間、助けたお婆さんさえも巻き添えとなって死んでしまった。ハヤトは涙をのんでメカ暴竜鬼を撃破。人間の心をとり戻し、鬼になったことを後悔しながらイサムは息絶えていった。せめてもの救いにと、ハヤトはイサムの角を折ってやるのだった。



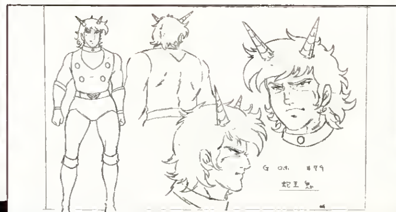
27 「ツバメよ元気に飛べ！」

傷ついたツバメを一生懸命に介護する元気とベンケイ。二人は傷の癒えたツバメを自然に帰すため、博士の制止を振り切って小笠原諸島へと向かった。ベンケイは、そこで亀吉という少年と出会う。最近、頻繁に起きている鉄鉱石輸送タンカー沈没事件の現場を目撃したという亀吉の証言から、ベンケイは早速、周辺海域を調査。特殊合金生産を行う百鬼の海底基地を発見した。ベンケイの連絡を受けて合流したリョウたちは、メカ鋼頭鬼と対戦。これを退けた。その頃、元気と亀吉は百鬼兵士に追われていた。意地を張り合いながらも、二人は協力して断崖に見つけたツバメの巣へと逃げこみ、危機一髪のところをゲッターに救われる。再び、海底基地粉砕に向かったポセイドンの前に、修理を終えたメカ鋼頭鬼が出現。エネルギーも残り少ないゲッターは短期決戦を挑む。シャインスパークで鋼頭鬼を葬ったゲッターは、海底基地を破壊。ミチルの補給を受け、帰り路につくのだった。



28「緑の地球が死ぬ！」

一年前、パトロールに出かけたミチルは、異様な黄色い川を見つけた。その周辺の大地は、まるで死んでいるかのようだった。上流へ進んだミチルは工場のようなものを発見するが、何者かによって捕らえられてしまう。その工場は、大量虐殺を狙った百鬼帝国の猛毒製造工場だったのだ。そして、ミチルはそこで変わり果てた小学校のときの同級生、紅林譲治と再会する。工場の廃棄物で変質した黄色い川によって、家族全員を失った彼は、人間たちに復讐するため百鬼の一員、蛇王鬼となったのだ。説得するミチルの声も彼にはもう届かない。しかし、毒を満載したメカ蛇王鬼で出撃する直前、蛇王鬼は黄色い川が百鬼のしわざだったことを知る。騙されていたことに気づいた蛇王鬼は、ミチルを助けるために死んでいった。そこに、ミチルを捜索していたゲッターが飛来。事情を聞き、メカ蛇王鬼と戦い、これを粉砕する。ミチルはきれいな水に戻った川へたむけの花束を流す。



29「涙のあとに口笛を」

ゲッター線平和利用を研究するため、ハヤトの父・神大造が秘密裏に建造していた神重工業ゲッター線研究所が完成した。これに着目した百鬼帝国は施設を丸ごと奪おうと、天魔鬼をさし向ける。一方、百鬼帝国の動きを察知したゲッターチームが神研究所を守ることになるが、未だ父にわだかまりを持つハヤトは素直になれずにいた。そんな時、ハヤトの姉・明日香がパリから帰国。父の研究所を訪れたところを、メカ天魔鬼に襲撃されて重傷を負ってしまった。明日香と同じ血液型だったリョウは、明日香への輸血をかってでる。そして、ひとりで飛び出していったハヤトの後を追い、リョウたちもゲットマシンで発進。ライガーに合体して天魔鬼に立ち向かうが、その攻撃に追いこまれていく。大造は、我が子の窮地を救うべく、研究所を犠牲にして天魔鬼にゲッター線エネルギーを放射！　ゲッターを救った。ハヤトは、大造の真意を知り、やっと手を取り合うことができた。



30「ドライスノー奇襲作戦！」

浅間山に今冬、初めての雪が降った。雪にはしゃぐ元気はスキーを教えてもらおうと、ベンケイを誘い出す。が、山ではリフトが建設中、惜しみつつ二人は山を下りるのだった。しかし、おかしなことにリョウが調査したところ、リフト建設の事実はなかった。思ったとおり、それは百鬼帝国の造りあげたメカ鉄丸鬼であった。百鬼は熱や衝撃に強い氷となるドライスノーを降らせ、研究所を凍らせようとしていたのだ。迫るメカ鉄丸鬼、だがカタパルトを凍らされたため、ゲットマシンは発進できない。そんな危機の最中、博士は冷静にドライスノーを調査。ゲッター線で起こした熱エネルギーに弱いことを突きとめる。リョウたちはゲットマシンのジェット噴射でドライスノーを排除して発進。ドラゴンに合体してメカ鉄丸鬼と戦う。ゲッターの攻撃に膝をついた鉄丸鬼は、皮肉にもドライスノーで氷づけとなり、自爆してしまった。危機を退けたリョウたちは山でスキーを楽しむ。



31「燃えろ！リョウの剣」

博士や仲間たちのはからいで、リョウは東京で開催される全日本武道大会に向かう。ここでリョウの父・竜作が最後の模範試合をするのだ。未だ衰えぬ太刀筋を見たリョウは、父の健在を確認して安心する。しかし、その模範試合に飛びこんできた大剣鬼道によって、竜作は倒されてしまった。またリョウも、謎の男に捕らえられそうになるが、すきを見て反撃。返り討ちにした。父の看護をするリョウの前に現れた大剣鬼道。リョウはその正体が百鬼百人衆・大剣鬼だということを見破り、父の敵を討つため大剣鬼と勝負する。多数の替え玉を使ってリョウを引きつけている間に、本物の大剣鬼は百鬼ロボットで研究所を襲撃する。リョウは、続々と現れる替え玉を全て倒し、メカ大剣鬼に必死の抵抗を続けていたハヤトたちと合流。ドラゴンに合体して大剣鬼に立ち向かった。メカ大剣鬼のコクピットを狙ってゲッタービームが炸裂！　リョウは怨敵、大剣鬼をうち破ったのだった。



32「元気あの子ってなんなのさ！」

海洋開発計画によって要塞島の位置を知られるのを恐れた百鬼帝国は、計画の妨害にかかる。目に見えない攻撃に海洋開発の潜水艦や港町が襲撃を受け、いままた海洋開発所がリョウたちの目前で炎上した。姿なき敵には、さすがのゲッターロボも手出しはできなかった。その頃、元気はマリアという少女と出会っていた。可愛いマリアに一目惚れした元気は、光る玉を恐れる彼女の恐怖症をなんとか治してやろうとする。元気の熱意で原因に立ち向かう勇気を出したマリアの前に、光り輝く玉が現れた。それは姿なき敵の正体、メカ鉄光鬼の放ったものだった。この玉でレーザーを反射させ、人目にふれることなく攻撃していたのだ。研究所が危ないと知った元気の連絡を受けてゲッターが出動。恐るべき敵、メカ鉄光鬼を葬り去った。元気は、恐怖症を克服したマリアに宝物のビー玉をプレゼント。マリアは元気との再会を約束し、街へと帰っていった。



33「夕焼け空が知っている」

ＴＶニュースのアナウンサーが放送中に突然、歌い始めた。そして街や港、いたるところで人が、突如として狂ったように奇妙な行動をとるという怪事件が多発。急を要する事態に、博士は東京へ事件と光線の調査に向かう。怪事件は、百鬼帝国の恐角鬼が完成させたクレイジービームの引き起こしたものだった。大混乱を起こす街。博士から事件の実態が見えるまで出動を禁じられていたリョウたちであったが、凄惨な現状に黙っていられず、三人はゲットマシンで出撃していく。金属をも透過して効果を発揮する恐怖の兵器、クレイジービームをさけながら戦うゲッターは、傷つきボロボロになっていく。一方、博士はクレイジービームがガンマＸ線を利用した光線であることを知った。ビームをさえぎるバリュウムを詰めたカプセルをレディコマンドにセットし、ゲッターの救援に向かわせる。間一髪のところをバリュウムに助けられたゲッターは、メカ恐角鬼を粉砕した。



34「対決！百鬼三兄弟」

度重なる百人衆の敗退に、激怒するブライ大帝。その前に現れた角面鬼三兄弟はゲッター打倒を誓って出撃した。ある日、ベンケイは浅間学園にフラリと現れた他校の野球部員、清水一角と勝負する。ベンケイの剛速球、一角のピッチャー返し、互角の力を見せた二人は意気投合。ベンケイは一角を研究所へと招待する。だが、一角は角面鬼三兄弟の長男だった。一角は、リョウたちが油断している間に弟、二角を研究所へ忍びこませる。しかし、元気とハヤトが同じ時刻に違う場所で一角を目撃したという証言から、リョウたちは彼が角面鬼三兄弟であることを知る。正体のばれた角面鬼は、百鬼ロボットを駆ってゲッターに挑戦。分身攻撃でゲッターを翻弄する。だが、角面鬼の戦法を見破ったリョウたちは、メカ角面鬼にシャインスパークを放つ。大破したメカ角面鬼から脱出した三兄弟と、リョウたちは生身で対決！　激闘の末、強敵三兄弟を打ち破ったのだった。



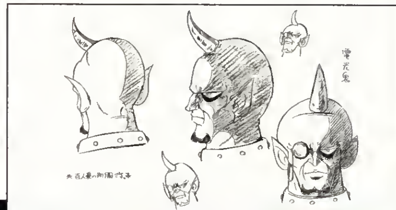
35「百鬼老兵は死なず」

ゲッターロボなみの活躍が期待される新鋭戦艦シーフォース号。その進水式を狙って、百鬼帝国の爆撃機部隊が襲来する。シーフォースは、百鬼の爆撃にひるむどころか敵機を次々に撃墜するが、ヒドラーの一撃にバリヤーを破られて危機におちいってしまう。救援に現れたゲッターを前に、爆撃隊は撤退するが、血気盛んな少年兵・牛餓鬼はたった一機でゲッターに突撃。リョウは威嚇攻撃で退けようとするが、シーフォースの砲撃が牛餓鬼の爆撃機を撃破してしまった。ヒドラーは、牛餓鬼がゲッターにやられたと、父・牛剣鬼に嘘を教える。息子の復讐に立ち上がった老兵、牛剣鬼は百鬼ロボットに乗りこみ、ゲッターに挑戦。実戦でならした腕前でゲッターを苦戦させる。かたくなな牛剣鬼にリョウは叫ぶ。戦いのことしか教えなかったお前が息子を殺したんだ、と。その言葉は牛剣鬼の胸に深く突き刺さり、牛剣鬼はシャインスパークを真っ向から受けて息絶えるのだった。



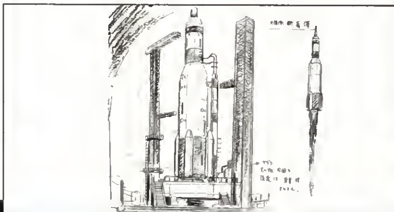
36「ベンケイ暗殺計画」

研究所へとバイクで急ぐベンケイは、少女と接触事故を起こしてしまう。幸いにも少女のケガは軽傷で済み、ベンケイは応急処置をして別れた。火事で父親を亡くし、そのショックで口がきけなくなった少女・チコ。その唯一の友達であった子犬も、ゲッターと百鬼帝国の戦闘に、巻きこまれて死んでしまった。悲しみにくれるチコに目をつけた電光鬼は、老人に化けて言葉巧みにチコに近づき、チコを被害者にたてて研究所に抗議。チコに持たせたウサギのサイボーグ爆弾でベンケイを暗殺しようとする。だが、間一髪で爆弾に気づかれてしまい計画は失敗に終わる。姿を現したメカ電光鬼を倒すべく出撃したゲッターであったが、チコを人質にとられて戦うことができない。電光鬼シャワーに苦しむポセイドン。だが、チコはミチルの活躍によって救出され、落雷のショックで再び口がきけるようになったのだ。そして、残虐なメカ電光鬼はストロングミサイルを受けて倒れたのだった。



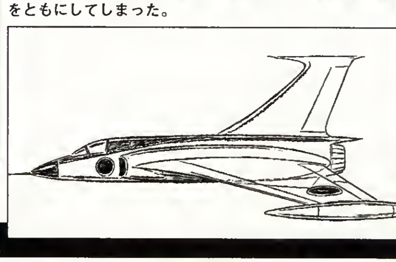
37「危機迫る日本近海！」

百人衆も残りわずか六人となり、ブライ大帝は最後の総攻撃を決意。伊豆大島に前線基地を建設、世界の主要大国に潜んでいた百人衆と百鬼ロボットを結集させた。百鬼帝国の活動を察知した博士たちは、百鬼が決戦準備をかためていると推測。偶然にも、伊豆大島で百鬼ロボットを目撃したという男の証言から、まず島民の大避難作戦を展開することとなった。防衛軍の協力を得たゲッターチームは、目立つ大型のタンカーと輸送機に百鬼の目を向けさせ、そちらに気をとられている間に潜水艦で島民を脱出させた。合体ロボットへの改造を進めていた百鬼は、とりあえず出撃できるメカ雷電鬼で応戦。ゲッターがシャインスパークを使用したのを見はからい、完成したばかりの合体ロボットを発進させる。しかし、タンカー内に待機していたレディコマンドがゲッターに給油。必殺のシャインスパークが合体ロボットに炸裂し、百鬼の作戦は阻止されたかに見えた……。



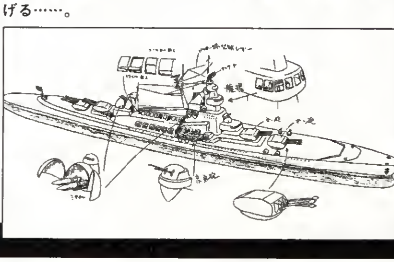
38「ブライ大帝決死の大反撃！」

命中寸前で分離し、ゲッターのシャインスパークを逃れていた合体ロボットが再び活動を開始！　東京湾警戒にあたる国防軍をけちらして東京に上陸。街で大暴れし始めた。待機していたゲッターチームは即座に出撃。合体ロボットの前に立ちふさがるが、合体ロボットはメカ甲角鬼を分離させ、ゲッターにぶつけてきた。ゲッターが甲角鬼に手を焼いているすきに、分離したメカ闇虫鬼が研究所襲撃に向かう。一刻の猶予もならなくなったリョウはシャインスパークの使用を決断！　甲角鬼を撃破し、闇虫鬼追撃に向かう。だが、研究所を目の前にしてゲッターは燃料がつき、不時着してしまう。燃料補給に緊急発進したレディコマンドもまた、闇虫鬼に発見され、攻撃を受けて不時着。ハヤトはミチルに母の形見の十字架を預けると、レディコマンドで闇虫鬼に応戦。メカ闇虫鬼の装甲に穴をあけ、中に侵入したハヤトは動力室を破壊。爆発するメカ闇虫鬼と運命をともにしてしまった。



39「大決戦！日本上空」

感傷に浸る間もなく、ゲッターチームは国防軍と協力して合体ロボットに総攻撃を開始。ミチルの操縦するゲッターライガーが、分散したメカ輪魔鬼をうち倒す！　応援に駆けつけたメカ十方鬼、メカ電獣鬼もシャインスパークの餌食となり、ブライ大帝は持ち駒のほとんどを失う。一方、爆発するメカ闇虫鬼から逃げおおせたヒドラーは、ハヤトを捕虜にして要塞島に生還。ブライ大帝は最後に残された力、重力制御装置で科学要塞島を飛行させて東京を襲撃する。補給を終えたゲッターは要塞島殲滅に出撃するが、その分厚い装甲に傷ひとつ負わせることもできなかった。その頃、博士とリョウの通信を聞いたハヤトは牢を抜けだし、動力室を破壊して外壁に穴を開けた。そこにゲッターがシャインスパークをぶちこみ、要塞島は大爆発！　ついに百鬼帝国は滅び去り、脱出したハヤトもリョウたちに救出された。戦い終わったゲッターチームは美しい夕焼けを見上げる……。



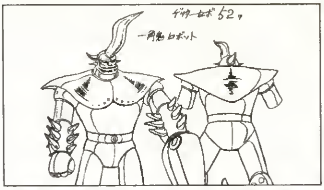
全メカ百鬼紳士録



DESTROY ALL MECHANIC HUNDRED DEMONS

メカ一角鬼

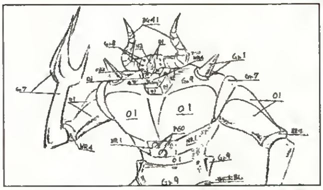
#1・#2



一角鬼が搭乗する百鬼ロボット。百鬼帝国の世界征服を実現させるべく、その手始めとして早乙女研究所のゲッター線増幅装置を強奪するのが目的だ。目から放つ怪光線、角から発するビーム、口から発射するロケット弾、口から吹き出す突風、そして左手の巨大なハサミ……と、やけに武器は多い。新型ゲッターの操縦に慣れないリョウ達の前に強敵として立ちはだかったが、ドラゴンのダブルトマホークブーメラン→ゲッタービームで絶命する。

メカ牛面鬼

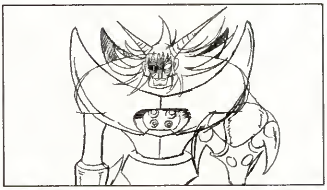
#3



「スカイタンカー作戦」を指揮する、牛面鬼が搭乗する百鬼ロボット。強奪したタンカーを空母に改造し、空から特殊添加物を混ぜた重油の雨を降らせて山火事を起こし、その煙でゲッター線を遮断した。メカ牛面鬼は、タンカー部隊の一隻に化けて出撃。武器は、角から発射するビーム、ヒヅメミサイル、そして肩口から放つ、敵の計器を狂わせる電撃を流すロッド式アンカー。ポセイドンのゲッターサイクロン→ストロングミサイルで絶命する。

メカ独眼鬼

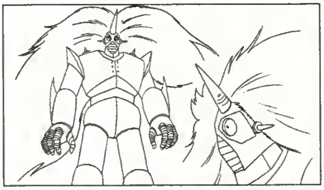
#2



独眼鬼が搭乗する百鬼ロボット。百鬼帝国が乗っ取ったダムの水底に隠れていたが、ゲッター線増幅装置を強奪する目的で出撃する。武器は、口から発する緑色の炎、腹から放つミサイル、そして両腕のカギ爪。両腕のカギ爪を回転させて地中を掘り進むことができ、地中から研究所を襲撃しようとしたが、ライガーのチェーンアタックで地中から強引に引きずり出されてしまう。ライガーミサイルを4発連続で食らって絶命する。

メカ白髪鬼

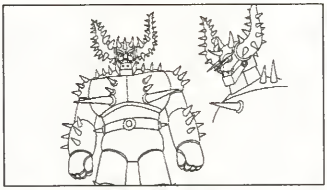
#4



変身能力に長ける百鬼衆、白髪鬼が搭乗する百鬼ロボット。白髪鬼が少女に化けて、ゲッターチームの新米ベンケイに近づき、チームワークを乱して、ゲッターロボを倒す作戦に参加する。武器は、指から放つミサイルと、長髪を振り乱しての防御壁。また、頭の角から脳波停止光線を放つことができ、リョウ、ハヤトの2人を戦闘不能にする。しかし、光線も友情の涙を流すベンケイの前には効かず、ポセイドンのストロングミサイルで絶命。

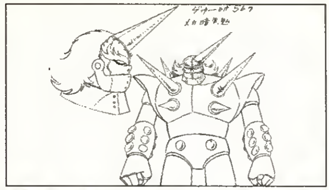
メカ針千本鬼

#4



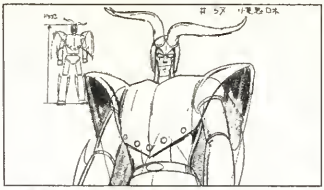
ゲッターロボの能力を調べるために、わざと街で暴れるために出撃した百鬼ロボット。武器は体中のメカバリで、飛ばして相手に刺し、そこから電撃を流す。また、体が切られても個々に独立して活動することができ、体をスピンさせて敵に特攻攻撃をしかける。ゲッタードラゴンにとりついて自爆したが、無駄死に終わった。ロボットの中から声がしなかったので、誰も搭乗者はいなかったと思われるが、いたとしたらたぶん針千本鬼ってヤツなんだろう。

メカ暗黒鬼 ＃5



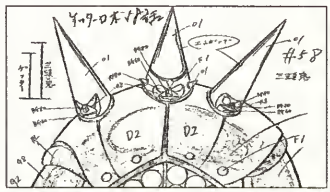
暗黒鬼の搭乗する百鬼ロボット。強奪した濃縮ウランで作った水爆地雷を町外れに埋めて、これをネタにゲッター線増幅装置のひきわたしを迫った。武器は、胸から放つ角ミサイルと、ロッド式伸縮の腕。頭部コックピットに地雷の起爆装置がセットされていたが、リョウ達にこれを破壊され、しかも暗黒鬼も部下の流れ弾に倒れたため、フルオート操作で地雷を爆破しようとする。ドラゴンを攻めたてたが、ふりかざした大木に雷が落ちて爆死する。

メカ小竜鬼 ＃6



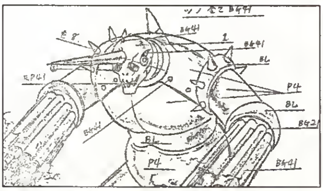
小竜鬼が搭乗する百鬼ロボット。ハヤトの姉の婚約者、坂崎を百鬼兵士に改造し、ゲッター線増幅装置にマグネット装置をとりつけさせて、磁力で引き寄せてこれを強奪しようとした。武器は、目から放つマグネット光線と口から放つミサイル。マグネット光線はロボットの計器をすべて狂わし、ゲッターライガーはミサイルさえも撃てなくなってしまう。しかし、分散したライガー号のミサイルだけでコックピットを破壊されて絶命する。

メカ三頭鬼 ＃7



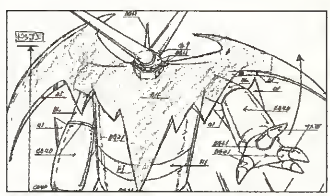
三頭鬼が搭乗する百鬼ロボットで、多数の戦闘機が発着できる、百鬼帝国前線基地にて製作される。予定では、肩の２本の角に超ウラニウム爆弾を埋め込み、研究所を襲撃するはずだった。武器は、３本の頭から放つビーム、腹から発射するミサイル、左右２本の頭飛ばし、両腕の角。ゲッターチームが基地に進撃したため、超ウラニウム爆弾なしで出撃したのだが、ゲッタードラゴンのダブルトマホークブーメラン→ゲッタービームで絶命する。

メカ白骨鬼 ＃8



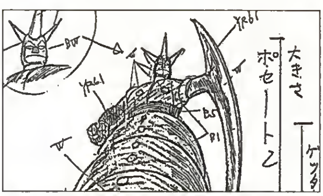
白骨鬼が搭乗する百鬼ロボット。両腕のマシンガンと、頭の角から放つ殺人光線を武器に、打倒ゲッターを目的に出撃した。その戦闘中に娘のリサが裏切ってしまったため、ブライ大帝に彼女の処刑を命じられる。研究所に引き取られたリサを取り戻し解放したが、訓練校長の鬼丸に殺されてしまう。これに逆上した白骨鬼はゲッターと決闘。善戦したが、リサの思いに応えるべく、わざとコマンドマシンのコマンドミサイルを受け絶命する。

メカ飛竜鬼 ＃9



飛竜鬼が搭乗する百鬼ロボット。嵐の夜に、百鬼ジェット機に石油コンビナートを襲わせ、出撃したゲッターロボに妨害電波装置をとりつけ、偽の早乙女研究所で彼らを捕捉する。そしてそのスキに研究所を襲撃し、ゲッター線増幅装置を強奪しようとした。武器は、角から放つビームのみ。恐竜兵士の潜む右腕を飛ばして、研究所のドームに挟み込み、ゲッター線増幅装置を奪い去るが、ゲッタードラゴンのゲッタービームで絶命する。

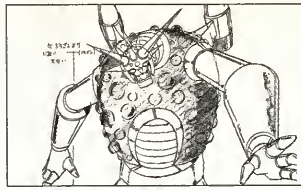
メカ海王鬼 ＃10



海王鬼が搭乗する百鬼ロボット。船舶が次々に沈没するという海域に潜む、百鬼帝国の科学要塞島に向かうゲッターロボを海中から攻撃するために出撃した。ヤドカリのようなロボットで、武器は両腕の巨大な鎌と、無数の足での羽交い締め攻撃。要塞島に攻め込もうと海面スレスレに飛ぶゲッタードラゴンを、海中に引きずり込んでは苦しめた。ゲッタードラゴンのダブルトマホークやスピンカッターで足を切られ、さらにスピンカッターで切りつけられて絶命する。

メカ自雷鬼

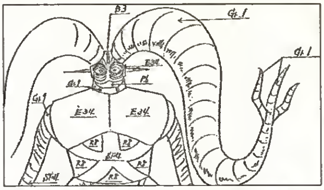
#11



自雷将軍の息子、自雷鬼が搭乗する百鬼ロボット。自雷一族の要塞島にゲッターロボを引きずり込んで解体する「早乙女作戦」に参加する。武器は、頭の角ブーメラン、腹から発射する爆撃ミサイル、肘から放つミサイル。また、頭部は切り離されても独立して活動できる。東京襲撃の際に、ゲッタードラゴンのダブルトマホークで胴体を破壊され、逃げる頭部を追ってきたゲッターを見事要塞島に捕捉するが、作戦が失敗したため頭部は自爆する。

メカ邪角鬼

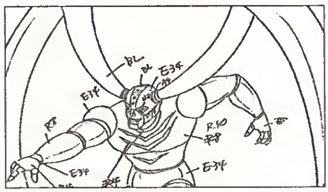
#12



邪角鬼が搭乗する、バッファロー型の百鬼ロボット。アメリカ西部で強盗団に化けてダイヤモンドを次々に強奪し、これを基にして「ダイヤモンドレーザーガン」を開発、大量生産する作戦に参加。腕力はあるようだが、化学兵器は一切なく、武器は、巨大な2本の角と、両腕のムチだけ。ゲッタードラゴンを得意のムチで攻め立て、がんじがらめにしたが、体当たりを食らい形勢逆転。スピンカッターで腹を切られ、ゲッタービームで絶命する。

メカ紫電鬼

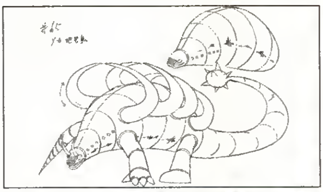
#13



紫電鬼が搭乗する百鬼ロボット。コウモリの帰巣本能を利用し、爆弾を取りつけたコウモリでゲットマシン発射口を占領してゲッターロボを破壊する「コウモリ作戦」に参加する。武器は、頭部の角の先にある長いツルハシと、そこから放つ電撃、ツルハシブーメラン、口から吐く炎。また、体をスピン回転させて地中を掘ることができ、バリアも装備している。ゲッターポセイドンに投げ飛ばされて、ストロングミサイルで絶命する。

メカ地虫鬼

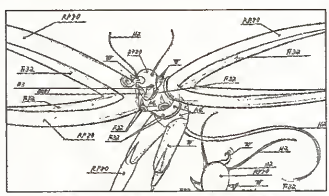
#14



帝国の天才少年、地虫鬼が自分で製作し、操る百鬼ロボット。研究所を地底から襲撃する「つるべ落とし作戦」を実行する。武器は、目から放つビーム、口から発射するミサイル、尻尾の鉄球、右前足のドリル。また、背中の角で敵を捕らえてガスで窒息させる攻撃もある。地虫鬼が裏切ったため、途中からヒドラーが指揮をとる。頭部中央部に作戦のコントロールカートリッジがあり、これをドラゴンのスピンカッターで破壊されて爆死する。

メカ胡蝶鬼

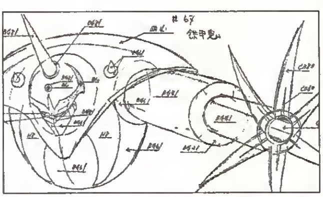
#15



ブライ直属の命を受けた、胡蝶鬼が搭乗する百鬼ロボット。胡蝶鬼がゲッターチームに近づき、その美貌でチームワークを乱してゲッター線増幅装置を奪う作戦に参加する。武器は、両腕の巨大なハサミから発進させる蝶型メカと、ハサミを飛ばす攻撃。戦闘機部隊を率いるヒドラーを追い返すほど、胡蝶鬼は自分の作戦に絶対の自信を持っていた。しかし、リョウにそのプライドを傷つけられ、怒りに任せて出撃し、ドラゴンのゲッタービームで絶命する。

メカ鉄甲鬼

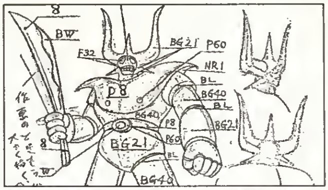
#16



打倒ゲッターを目的に、鉄甲鬼が自ら製作、搭乗する百鬼ロボット。ドラゴン、ライガー、ポセイドンの武器をすべて装備している。劇中で見せた武器は、角から放つビーム、2本のトマホーク、左腕から放つミサイル、チェーンアタックまで。ポセイドンへの合体中にヒドラーの戦車に邪魔されてしまい、プライドが傷ついた鉄甲鬼はヒドラーを攻撃。戦車の弾に被弾しボロボロになりながら、ゲッタードラゴンとの再戦に挑む。スピンカッターで絶命する。

メカ闇竜鬼

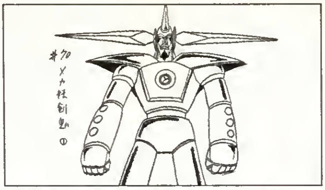
#17



闇竜鬼が搭乗する百鬼ロボット。各地で誘拐し改造を施したメカ警察犬軍団を使って、ゲッター線増幅装置の点検日に研究所を襲撃、その出力回路を奪う作戦に参加する。武器は巨大なナタと、角から放つ黒いビーム。ゲッタードラゴンのダブルトマホークを白刃取りするほどの強者だが、戦闘中ナタを振り飛ばされてしまい、これが腹に突き刺さって、形勢逆転。トマホークブーメランで角を切られて、ゲッタービームで絶命する。

メカ妖剣鬼

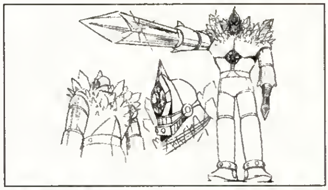
#18



執念深い性格の、妖剣鬼が搭乗する百鬼ロボット。伊豆半島沖の火山島にカモフラージュされた帝国の基地に配備された。武器は耳にある2本の剣と、腹から放つミサイル。剣はゲッタービームを受け止めたり、ビームを反射させて放つことも可能だ。ゲッターが火山島に向かう間に、火山島から百鬼特別攻撃隊と共に出撃し、2度にわたり研究所を襲った。ゲッタービームでボロボロになりながらも、後ろから羽交い締めにして自爆しようとするが、失敗に終わる。

メカ金剛鬼

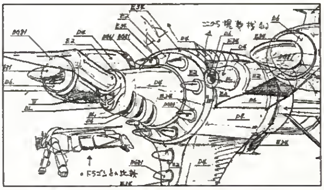
#19



金剛鬼が搭乗する百鬼ロボット。竜王島の観光客を人質に取り、百鬼帝国対策の国際会議に出席していた早乙女博士に、ゲッターロボ出撃を強要、不意打ちでゲッターを倒す「竜王島作戦」に参加する。武器は両腕の剣のみだが、ボディと剣がとても固くて、ゲッタードラゴンのトマホークをボロボロにしてしまうほどだ。ゲッタードラゴンのドラゴンキックで火山口に叩き落とされ、フルパワーのゲッタービームで火山を噴火させられて爆死する。

メカ要塞鬼

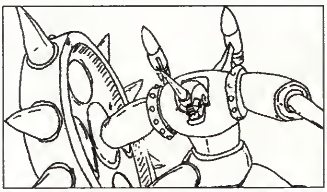
#20・#21



左右の翼に2体の百鬼ロボットを、体内には100機の爆撃機、200機の戦闘機を搭載する空母型の百鬼ロボットで、日本総攻撃のために軍艦島から出撃した。独自の武器は肩口から放つミサイルのみだが、翼を破壊されても補助翼で補うシステムを有する。圧倒的な火力で研究所を襲撃し、ボロボロにした後、東京も爆撃して制覇した。次に大阪を襲撃しようとしたが、ゲッターロボに阻まれてしまう。ゲッタードラゴンの新必殺技シャインスパークで絶命する。

メカ大輪鬼

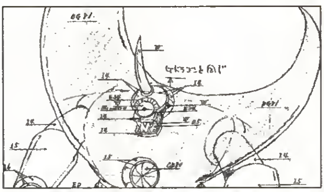
#20



大輪鬼が搭乗する百鬼ロボット。メカ要塞鬼に搭載されるはずだったが、倒された百人衆の敵討ちに燃える余り、先走ってゲッターと対決する。武器は、肩口から放つミサイルと、両手の巨大な大輪を回転させて飛ばす攻撃。百人衆一の怪力が飛ばす大輪だけに、この攻撃が強力極まりなく、ゲッタードラゴン、ライガーは全く歯が立たなかった。しかしポセイドンに2つの大輪を受け止められ、ゲッターサイクロン→ストロングミサイルで絶命する。

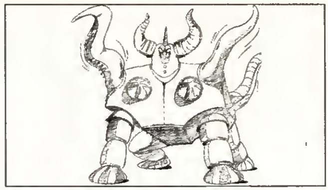
メカ半月鬼

#20・#21



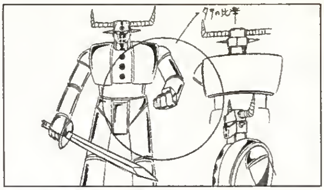
メカ要塞鬼の左翼に搭載されて出撃した、半月鬼の搭乗する百鬼ロボット。高速で飛襲する空戦タイプで、武器は、目から放つビームと、腹から連射する鉄球。最初、得意の空中体当たりでドラゴンを攻撃、分離したゲットマシンを3体とも叩き落として岩の下に生き埋めてしまう。しかし東京を破壊している最中に、ゲッターロボと再戦。ゲッターポセイドンに引っこ抜いた街灯で、鉄球を打たれて目を潰され、ストロングミサイルで絶命。

メカ獣王鬼 #22



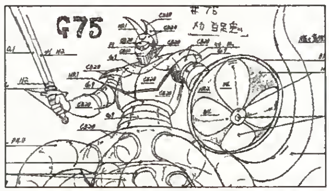
獣王鬼が搭乗する、闘牛型の百鬼ロボット。ミチル、元気を乗せたジャンボ機をハイジャックし、ゲッター線増幅装置の引き渡しを迫る作戦に参加する。武器は、肩から放つミサイルと、2本の角を伸ばしての電撃攻撃。人質の乗るジャンボ機を助けようとするゲッターポセイドンを前に、力押しで善戦するも、フィンガーネットでふりまわされて海上に引き上げられてしまう。そしてゲッタードラゴンのシャインスパークで絶命する。

メカ剣王鬼 #23



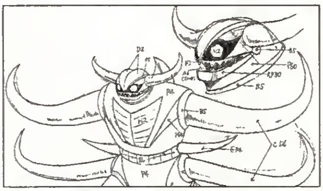
剣王鬼が搭乗する百鬼ロボット。サーカス団員に化けた剣王鬼が、研究所内に潜入してシャインスパークの秘密を盗み出す作戦に参加する。剣と盾を武器にゲッタードラゴンと戦ったが、特に反射力の強い盾が強力で、ゲッターロボのあらゆる攻撃を防ぎ、反射してしまう。ゲッタービームをも反射する盾だったが、ドラゴンの行動を正確に追尾するあまり、月光で目くらまししていたシャインスパークを防ぐことができずに直撃を受け絶命する。

メカ百足鬼 #24



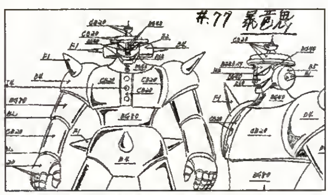
百足鬼が搭乗する百鬼ロボット。南海の孤島に設置、製作していた水爆搭載の大陸間弾道弾で世界大戦を引き起こす作戦に参加し、島に近づく船や戦闘機を次々に沈めていった。武器は、剣と盾、無数のタコ足。また、盾にトゲを生やして回転させる防御技も有する。ポセイドンのゲッターサイクロンを食らうが、なんとか岩場にしがみつき空中に巻き上げられずにはすむ。起死回生を図ろうとするもエネルギー切れ。爆死はしなかった。

メカ大角鬼 #25



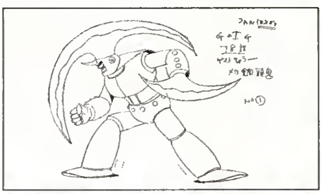
大角鬼が搭乗する百鬼ロボット。一流の科学者を捕らえて、あらゆる金属を溶かしてしまう液体を開発させる作戦に参加する。武器は、腹から放つミサイル、万力角による羽交い締め攻撃、体当たり攻撃。湖の底に隠れていたが、ポセイドンのストロングミサイルで地上に追い立てられる。万力角でゲッターを攻め立てたが、ライガーともどもガケから落ちて、弱点の脊髄を岩に強打。ゲッタードラゴンのシャインスパークを背中に受けて絶命する。

メカ暴竜鬼 #26



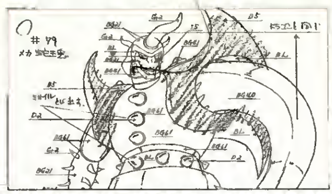
百鬼帝国新宿支部長が車に轢かれて死んだため、その後任としてハヤトの幼なじみイサムを改造した、暴竜鬼が搭乗する百鬼ロボット。新宿の若者を百鬼兵士に改造し、街を乗っ取る作戦に参加する。武器は、頭の角から放つビーム、腰のドリル、体中の角から放つ収束ビーム。公園の下に潜んでいたが、ハヤトが百鬼兵士集会を邪魔したことに怒り、出撃する。ライガーのドリルアームで頭の角を、ライガーミサイルで他の角を破壊され、墜落して爆死する。

メカ鋼頭鬼 #27



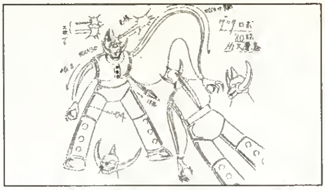
鋼頭鬼が搭乗する、頭に2本の鎌を持つ百鬼ロボット。小笠原沖合に建設された海底製鋼所を任され、鉄材を積むタンカーを強奪して百鬼特殊溶鉱炉で特殊鉄材を生産する作戦に参加する。武器は、胸から放つミサイル、ロッド式で伸ばす頭の鎌、左腕の鎌。ゲットマシンに海底製鋼所を発見されたため出撃し、ライガーのドリルアームで頭の鎌をボロボロにされ、ドラゴンのトマホークで左腕を切られる。そしてシャインスパークを食らって爆死する。

メカ蛇王鬼 #28



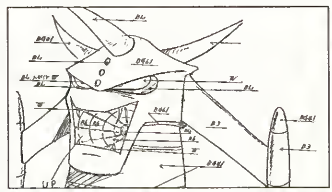
人間に恨みを持っていたため、白蛇鬼の手で百鬼となった蛇王鬼が搭乗する予定だった百鬼ロボット。東京人口の半分を殺せる猛毒を開発し、試験的に白竜湖一帯を黄色い液体で汚染し、緑を奪い占拠していた。蛇王鬼が裏切ったため、白蛇鬼が搭乗し、東京を死の街に変えるべく出撃した。猛毒以外の武器は胸から放つミサイルと左腕のムチ。ポセイドンに火山火口付近までひきずられて、ドラゴンのシャインスパークを食らって絶命する。

メカ天魔鬼 #29



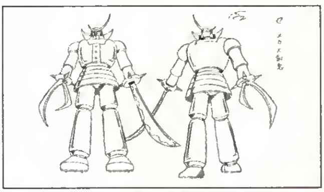
巨漢の天魔鬼が搭乗する百鬼ロボット。富士山麓の神ゲッター線研究所を破壊し、ゲッター線増幅装置を奪う目的で出撃。武器は、頭の角から放つビームと、胸から発射するミサイル。2回ほどゲットマシンの合体を阻止するが、ミサイルにひるんだスキに合体されてしまう。ゲッターライガーのチェーンアタックを受けるが、角ビームで応戦して逆にライガーをピンチに追い込む。しかしその間に、ゲッター線集積装置のゲッター線を浴びてしまい爆死する。

メカ鉄丸鬼 #30



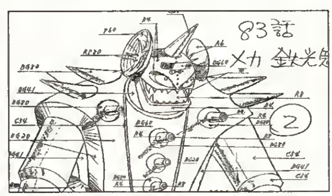
鉄丸鬼が搭乗する百鬼ロボット。自然の雪に紛れて、なかなか溶けない氷ドライスノーを降らせ、研究所を凍らせて、ゲッター線増幅炉を奪う「ドライスノー作戦」に参加する。口から降らせるドライスノー以外の武器は、両端に鉄球と鎌を備えたもの。見事に研究所を凍りつかせ、しかも中にいる人々を凍死寸前にするというところまで追い詰めた。ドラゴンのゲッタービーム→ドラゴンキックでドライスノーがもれてしまい、爆死する。

メカ大剣鬼 #31



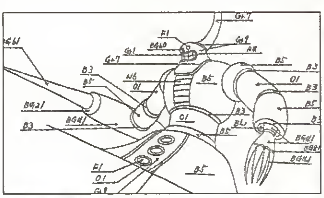
剣術の達人、大剣鬼が搭乗する百鬼ロボット。大剣鬼は武術大会に乱入して、リョウの父に大ケガを負わせてリョウを挑発。替え玉を何人も使ってリョウを東京におびき出し、その間に早乙女研究所を襲撃する。武器は両腕の刀と、ヒジ穴から放つトゲ（敵の体内に毒ガスを送り込む）。リョウが替え玉にかまっている間に研究所を攻めたてたが、結局ゲッタードラゴンのゲッタービームを左目のコックピットに食らって絶命。足にはスパイク付。

メカ鉄光鬼 #32



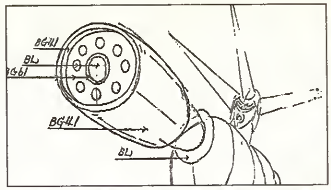
鉄光鬼が搭乗する百鬼ロボット。横浜や神戸などの海洋開発施設をことごとく破壊、次に研究所も襲うべく出撃する。空に2枚の反射板を打ち上げて、眉間から発するレーザーをこれに当てて反射して、地上を攻撃する。本体は遠方の地中に隠れているので、敵に発見されることはなく攻撃できた。反射レーザー以外の武器は、胸から放つビーム。ドラゴンキックを5発も食らってコックピットを破壊され、シャインスパークで絶命する。

メカ恐角鬼 #33



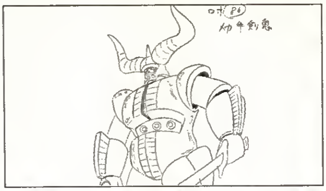
恐角鬼が搭乗する百鬼ロボット。頭の角から発するクレイジービームで、人々を発狂させてしまう作戦に参加する。ビーム以外の武器は、ロッド式に伸ばす左手のツメ、右手のモリ、下半身のジェット部分から放つ機銃。クレイジービームは、乗り物の中だろうと貫通してしまうので、思うように攻めこめないゲッターロボを相手に善戦した。しかしビームを通さないバリュウムでコーティングした、ドラゴンのダブルトマホークブーメランで絶命する。

メカ角面鬼 #34



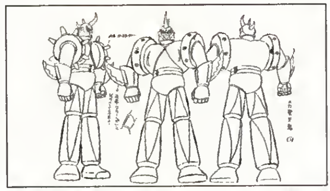
一面鬼、二面鬼、三面鬼の角面鬼兄弟が搭乗する百鬼ロボット。研究所に侵入した三兄弟が、ゲッターロボの内部構造を探りだし、そのデータを基にゲッターロボを倒す目的で出撃した。武器は、口から吐く炎、右腕のマシンガン、右腕中央部から飛ばすヤリ。３体に分身することができ、ゲッターロボを翻弄したが、ダブルトマホークブーメランで注意をそらされて、目にゲッタービームを食らってしまう。シャインスパークで絶命する。

メカ牛剣鬼 #35



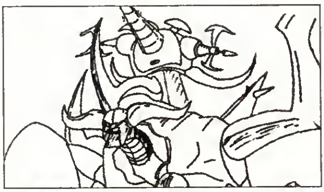
初陣で死んだ牛餓鬼の父親で、かつて空の英雄と謳われた牛剣鬼が搭乗する百鬼ロボット。息子の敵討ちをするべく、ゲッターロボを倒すために出撃した。武器は、剣と盾、腰から放つミサイル、口から吹き出す突風「百鬼タイフーン」、そして剣を地面に突き刺して地割れを起こす「アースクエイク」。ドラゴンのダブルトマホークブーメランで剣を壊されると、誇らしき戦士として仁王立ちでシャインスパークを食らって絶命する。

メカ雷光鬼 #36



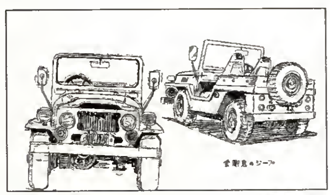
雷光鬼が搭乗する百鬼ロボット。テスト飛行でゲッターロボと対戦した際に、流れ弾に当たって死んだ子犬の飼い主の少女チコを利用したベンケイ暗殺作戦に参加する。武器は、頭の角から発するビーム、腕から出したカッター、肩口のマシンガン、額から放つレーザービームガン。そして最大の必殺技は、頭の角から雷を敵に落とす「必殺電光シャワー」。ゲッターポセイドンのフィンガーネットでふりまわされて、ストロングミサイルで絶命する。

合体百鬼ロボット #37・#39



メカ雷電鬼（予定のみで終わる）、メカ輪魔鬼、メカ闇虫鬼、メカ甲角鬼、メカ雷獣鬼、メカ十方鬼の６体の百鬼ロボットが合体した、百鬼帝国最強のロボット。帝国の総攻撃に出撃し、東京湾を襲撃した。武器は、口から吐く炎、目から放つビーム、腕から発射するミサイルなど。戦況に応じて各百鬼ロボットは分離して戦うことができる。合体時の方が圧倒的に火力とパワーが強いのだが、分離時にゲッターロボに各個撃破されてしまう。

メカ雷電鬼 #37



百人衆に残された６人のうちの１人、雷電鬼が搭乗する百鬼ロボット。帝国の総攻撃に参加するべく、ニューヨークを襲撃して、要塞島に集結する。合体百鬼ロボットの一部として組み込まれる予定だったが、組み込まれる直前にゲッターロボが大島に飛来したため、これを迎え撃つべく出撃する。武器は、背中の輪から放つ炎のヤリで、雷雲を呼び起こして自分に有利な戦場を作り出して戦った。ゲッタードラゴンのシャインスパークで絶命する。

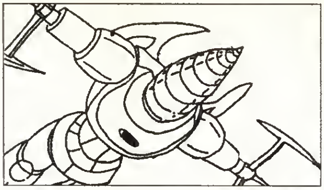
メカ闇虫鬼 #37・#38



帝国の総攻撃にむけて要塞島に集結した、百人衆の残党６人のうちの１人、闇虫鬼が搭乗する百鬼ロボット。東京総攻撃の前哨戦としてパリを襲撃した後、合体百鬼ロボットの一部に組み込まれる。メカ甲角鬼がゲッターロボを足止めしている間に、分離して研究所の方を襲撃。武器は、目から放つビームと、口から発射するミサイル、翼で起こす突風。見事研究所の破壊に成功したが、ハヤトが内部に忍び込んで機関室を破壊したために爆死する。

※メカ百鬼のうち、雷電鬼、甲角鬼、十方鬼、雷獣鬼に関しては設定画が現存していません。お持ちの方はご一報を

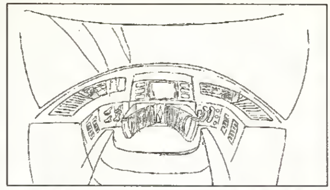
メカ輪魔鬼



百人衆残り６人のうちの１人、輪魔鬼が搭乗する百鬼ロボット。百鬼帝国の東京総攻撃の前哨戦としてモスクワを襲撃し、要塞島で合体百鬼ロボットの一部として組み込まれる。最後の大決戦で分離して、ゲッターロボを迎え撃った。武器は、頭のドリル、腕のモリ、胸から放つミサイル。ミチルが操縦するゲッターライガーに、チェーンアタックで振り回されて、ドリルアームで絶命する。ミチルにやられた、唯一の百鬼ロボットである。

#37〜#39

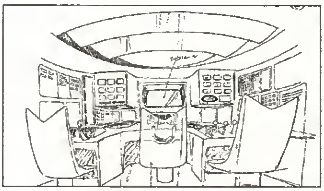
メカ甲角鬼



百人衆残党６人のうちの１人、甲角鬼が搭乗する百鬼ロボット。帝国の総攻撃の手始めにロンドンを攻撃した後に、合体百鬼ロボットに組み込まれる。研究所襲撃に向かうメカ闇虫鬼を追おうとするゲッターロボの前に、分離してたちはだかる。武器は、角から発するビーム、体中から放つ石つぶて、体から放出する電撃攻撃。ポセイドンを羽交い締めにして電撃をくらわせたり、石つぶて攻撃で善戦するも、ドラゴンのシャインスパークで絶命する。

#37・#38

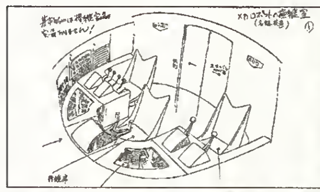
メカ十方鬼



百人衆最後の６人のうちの１人、十方鬼が搭乗する百鬼ロボット。百鬼帝国が総力を結集して仕掛ける東京攻撃作戦に参加し、合体百鬼ロボットに組み込まれる。ゲッターチームと国防軍の、陸海空から攻撃する反撃に対して、分離してこれを迎え撃った。武器は、角から発するビームのみ。ゲッターライガーのマッハスペシャルですっかり翻弄されてしまい、メカ雷獣鬼と合体したが、ゲッタードラゴンのシャインスパークを食らって絶命する。

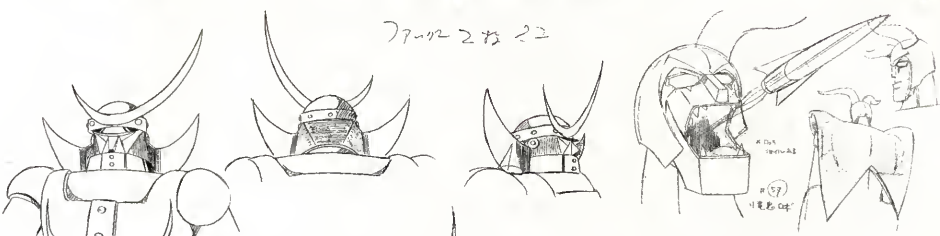
#37〜#39

メカ雷獣鬼



百人衆残党６人のうちの１人、雷獣鬼が搭乗する百鬼ロボット。百鬼帝国の東京総攻撃のために製作された合体百鬼ロボットの一部として組み込まれる。国防軍をも交えた、ゲッターチームの陸海空の３方からの反撃を迎え撃つべく、分離してゲッターと戦う。武器は、口から放つミサイルのみ。ゲッターライガーのマッハスペシャルに翻弄され、メカ十方鬼と合体したところを、ゲッタードラゴンのシャインスパークを食らって絶命する。

#37・#38



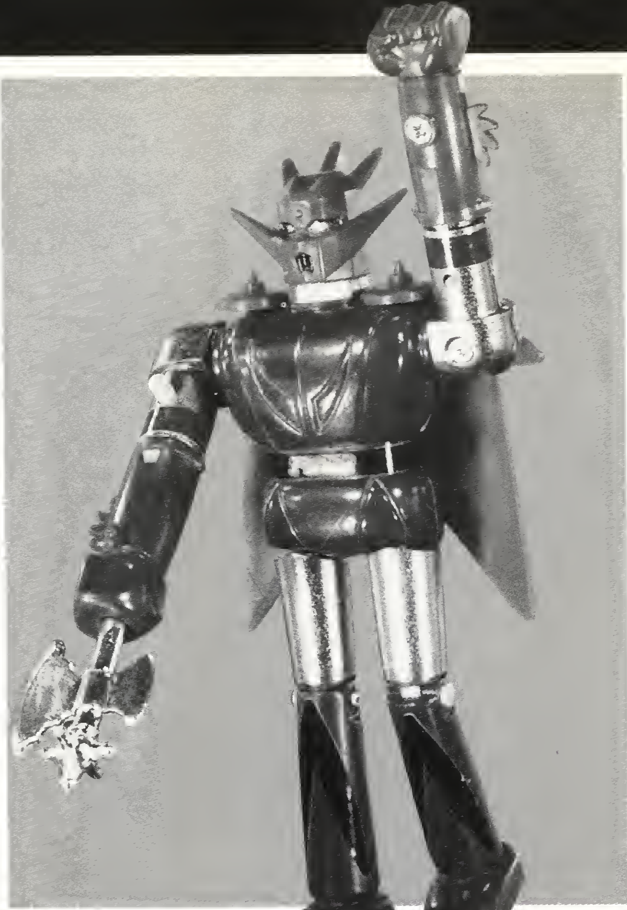


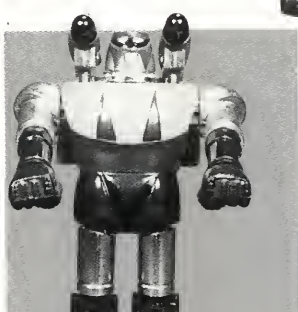
「貴重だから載っけてみました」の余り設定３点。左より大剣鬼、剣王鬼、小竜鬼

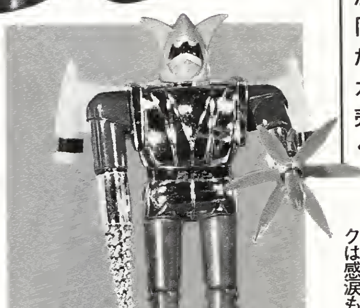
大雪山にアイテムを見た②
『ゲッターロボG』編

超合金

前作『ゲッターロボ』以上にマーチャンダイジングに力の注がれた本作のアイテムは、『ゲッターロボ』で培われたノウハウを活かしつつ、ほぼそれを踏襲・強化する形で展開された。『ゲッターロボ』同様、本項では紹介しきれなかった“最重要アイテム”として「ジャンボマシンダー」シリーズから「ゲッタードラゴン」「ライガー」「ポセイドン」の3種が発売されていたことを付け加えておく。

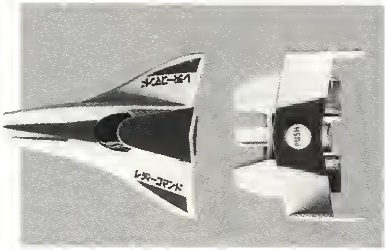

超合金・ゲッタードラゴン


超合金・ゲッターポセイドン


超合金・ゲッターライガー

実にスムーズな流れとして「ゲッターロボG」もスポンサーであるポピー（現・バンダイ）のレーベル「超合金」からドラゴン、ライガーポセイドンの3種が発売された。プロポーションは格段によくなっている。また、ギミック的にも趣向が凝らされ、特にポセイドンの足のキャタピラの変形ギミックは感涙ものだ





ポピニカ・レディーコマンド

ポピニカ



ポピニカ・ドラゴン号

やはり「ポピニカ」より3機のニューゲットマシンと、ミチルの操縦するニューマシン・レディーコマンドの4種が発売された。旧ゲットマシン同様、アイディアたっぷりのギミックが楽しい。また、今回ここには掲載できなかったが、「新早乙女研究所」こと「フォーダムG」も「ポピニカ」シリーズのひとつとして発売されていた

ピースメーカー&ミニ超合金



こちらはカラーリングを施されたDX版の3体セット。ドラゴン、ライガー、ポセイドンのそろいぶみに、当時何百、何千万という子供たちが感涙にむせんだことだろう。背面のBOX–ARTも関口猪一郎氏の筆によるもので、最高にカッコよかったと断言できる



75年に超合金のスケールモデルとしてポピーが発売したのが「ミニ超合金」＝「ピースメーカー」だ。“亜鉛合金で成形されたヒーローの全身彫像”といった趣のミニフィギュアで、『G』からはドラゴン、ライガー、ポセイドンの3種が発売された。同シリーズからは他に「仮面ライダーストロンガー」「グレートマジンガー」などのヒーローも発売されていた

レコード

音楽ページで紹介できなかった『ゲッターロボ』とのカップリングシングル



かるた

やはり欠かせない定番アイテムである「かるた」は、『ゲッターロボG』タイトルでも発売された。『G』編に至ってからは「えあわせ」の存在は確認されていない

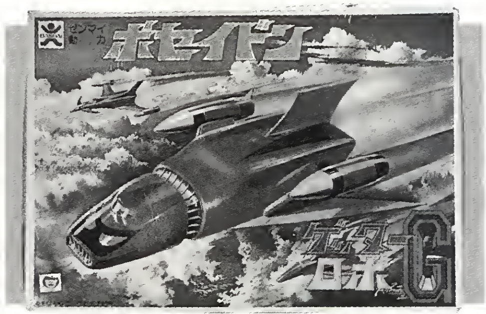


プラスチックモデル

バンダイからは旧『ゲッター』同様、積極的にプラスチックモデルの商品展開が行われた。ただし、この時期になると玩具の主力商品が「超合金」に代表されるダイカスト＝亜鉛合金モデルに移っていたため、規模的には縮小されることとなった



プラスチックモデル・ドラゴン号



プラスチックモデル・ポセイドン号

ソフトビニール人形

「スーパーロボット大作戦」のゲッタードラゴン。同シリーズでは、「ゲッターライガー」も発売予定に入っていたが、突然の商品展開の中止により未発売に終わってしまった。同様に発売されなかったものに「ガイキング」「コン・バトラーV」がある。つくづく残念でならない。バンダイさんいまこそ、いまなら……！



ミニサイズのソフビ人形から、ゲッタードラゴン、ライガー、ポセイドンの3体。スタンダードサイズも発売が確認されている



HG

97年に発売されたミニフィギュア、いわゆる〝ガシャポン〟商品。ライガーとポセイドンも発売

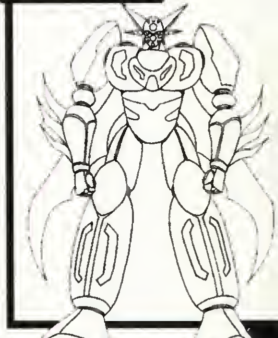


NOW ON GETTER ROBOT 2

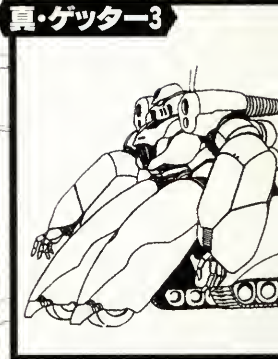
『スーパーロボット大戦』シリーズ

大久保一光

GETTER ROBOT IN GAME WORLD


真・ゲッター1


真・ゲッター2


真・ゲッター3

1991年4月に発売されて以来、続々とシリーズを世に送りだし、スーパーロボット・アニメファンの心を魅了した『スーパーロボット大戦』シリーズ（以下、「スパロボ」と略させて頂く）。数多く登場する歴代ロボットたちの中に、我らが「ゲッターロボ」の勇姿があった。時を同じくしてスタートをきった新作『ゲッターロボ號』のCOMICと共に、17年の歳月を経てゲッターは新たなる戦場へと赴いたのだ。ここでは、パラレル・ワールドともいえる「スパロボ」の、もうひとつの〝ゲッター・ワールド〟を簡単に紹介していこう。

なんといってもアニメ版『ゲッター』のファンにとって嬉しかったのは、ゲッター・ワールドを彩った名ゲストキャラクターの登場であろう。ゲスト・キャラなら「テキサスマック」「ゲッターQ」。メカザウルスなら「ザイ」「ズー」「バド」。百鬼一族からも、百鬼ロボット（メカ百鬼）とそろいぶみで「鉄甲鬼」「胡蝶鬼」らが参戦。かんじんの「ゲッター」自身も、グレードアップしていく〝合体グラフィック〟が、セールスポイントのひとつとなっていた。

3つめのトピックスとしては、「第4次S」（プレイステーション版）からオリジナル声優陣による音声が出るようになったこと。

原作に準じたイヴェントもさることながら、「スパロボ」ならではの解釈やオリジナル・エピソードも存在し、ファンの話題をさらった。

「第2次」ではムサシが死ぬことなく、ゲッターはパワーアップを果たす。つまり、「ムサシの操縦するゲッターポセイドン」という夢のシチュエーションが我々の眼前で展開されたわけである。ムサシの特攻は、続く「第3次」で再現されることとなるが、ここでムサシは「ゲッターG」を守るためにゲッター3で無敵戦艦ダイに特攻するという、当時の『小学4年生』（小学館）のコミカライズを彷彿とさせるイヴェントとなっていた。もちろん、後にはベンケイが登場。そのままストーリーを引き継いだ「第4次（第4次S、スパロボFを含む）」では、死んだムサシに代わって「ゲッター3」を操縦することとなったベンケイが「大雪山おろし」を（技として）修得するイヴェントがあった。さらに驚くべきことに、ベンケイに「大雪山おろし」をコーチするのはハヤトとミチルの二人（なんで？）ではないか？

また……ゲッターQを駆って、リョウたちの行く手をさえぎるのが脅迫されたミチル（姉妹ってところがポイント高い！？）だったり、鉄甲鬼が挑戦するのが旧ゲッターだったり、極めつけはプロト・ゲッターで出撃したリョウのセリフ「やはりプロト・ゲッターでは無理か！」——など、アニメ版『ゲッター』ファンをニヤリとさせるご愛嬌ネタも見られる。

しかし、最大の見せ場となったのは「真・ゲッター」の登場だろう。「スパロボ」に登場したこの「真・ゲッター」は、初登場となった『ゲッターロボ號』とは異なる展開、活躍をみせたことでファンの話題をさらった。原作では上半身のみの登場だった「真・ゲッター2」、未登場に終わった「真・ゲッター3」の設定を、ゲーム出演にあわせて石川賢自らが描き下ろしたというのは、ファンにとってなによりの知らせであった。

原作では、究極のゲッターロボとして開発、新造されたまったく別の機体であったが、ゲーム版オリジナル・ストーリーでは、旧ゲッターがゲッター線の暴走により変貌を遂げて誕生する（！）。究極のモンスターマシーンとして驚異的なパワーを見せつけたのはゲーム中でも同じだった（さすがに敵をとりこむことはできないが）。

装いも新たに発売された「新スーパーロボット大戦」では真・ゲッターはリアル頭身となり（ほかの登場ロボットたちも同じだが、それまではデフォルメされた、いわゆる〝SDキャラ〟として登場していた）、リョウ、ハヤト、ベンケイもアニメ版設定から、石川賢の描き下ろしによるゲーム・オリジナル設定版に変更されている。

そして、双葉社発行の『スーパーロボット大戦コミック』に掲載された石川賢入魂の新作『ゲッターロボVSゲッターロボG』。そこで展開された〝夢の対決〟も、「スパロボF」冒頭でストーリーに組みこまれている。なんとこちらでは、あしゅら男爵がゲッターGを奪取！　リョウたちが旧ゲッターを駆使して奪還するという「スパロボ」ならではの「お約束」的なストーリーとなっていた。ゲーム製作スタッフのマニアぶりに改めて敬意を表する次第である。



ゲッタァ〜〜トゥマホォゥウクゥッッ!!!

声優インタビュー

我が青春の流竜馬〜神谷明讃歌

岩佐陽一

テレビアニメ『ゲッターロボ』『ゲッターロボG』『ゲッターロボ號』を語る上で決して忘れてはいけない存在——それが声優の神谷明氏だ。『ゲッターロボ』『G』では主人公・流竜馬を、『ゲッターロボ號』では大道剴を——時を経て新旧『ゲッター』にて、それぞれ重要な役割を演じた氏は、いままた新作オリジナルビデオアニメ『真（チェンジ！）ゲッターロボ』で「ナレーション」を担当している。

今回、氏にINTERVIEWをお願いしたのだが、残念ながらご多忙ゆえ実現ならなかった。そこで本稿を氏へのオマージュとして捧げさせて頂く。

神谷明——氏こそまさに映像世界での『ゲッター』の立役者であろう。いや、それだけではない。氏が『ゲッターロボ』にて確立し、以後のロボットアニメに多大なる影響を及ぼしつつ——自らも開発、そして神谷明のお家芸としてしまったものに〝神谷明ＯＴＡＫＥＢＩ！〟がある。

もはや説明は不要であろう。

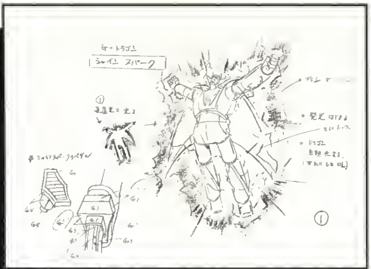
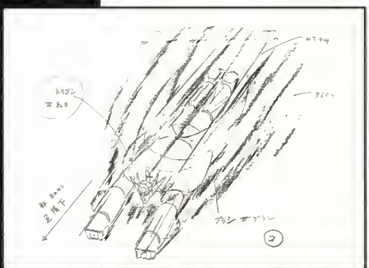
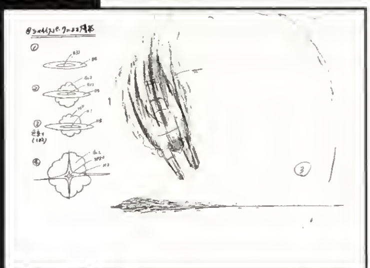
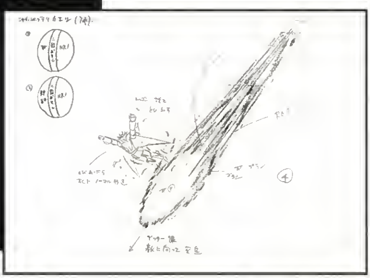
「ゲッタ〜〜、トゥマホゥウク！」。

「シャ〜〜イン、スゥパ〜〜ク！」。

——当時、テレビアニメ『ゲッターロボ』を体感していた者なら、このフレーズを聴いた（目にした）だけで、誰もが氏の声と共に耳元から、あの時の興奮を思い出すことだろう。

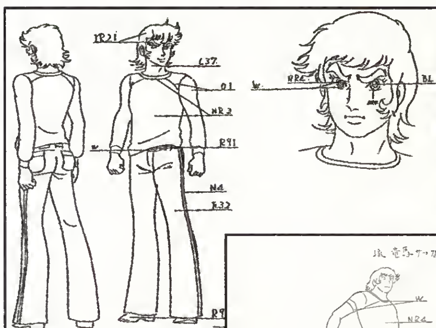
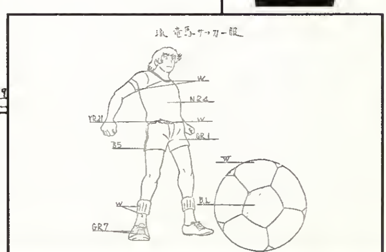
そう……！

〝『ゲッターロボ』の声の記憶〟——人々がそれを呼び覚ます時、「神谷明」はそのキーパーソンとして、永遠に『ゲッター』を愛する人々の心の奥底に刻みこまれ続ける名前なのである。

（アニメ版の）ゲッタードラゴンを愛する者すべてにとって忘れられない超究極必殺技「シャ〜〜イン、スゥパ〜〜ク！」の設定4点を一挙掲載。燦然たる光のイメージが破壊に昇華するその瞬間のイメージがかつてない興奮を我々に与えてくれた。ドラゴノザウルスとてひとたまりもないのも無理もない

流竜馬

アニメ版『ゲッターロボ』のキャラクター紹介ページに収録し切れなかった設定を2点。リョウの色指定と、サッカーユニフォーム。カッチョイ〜！

キートン山田〈山田俊司〉INTERVIEW ハヤト役

「顔でキャスティングされたのかなぁ、と思いました」

構成／大和 光



——まず最初にお伺いしたいのですが、ハヤト役はオーディションがあったのでしょうか？

キートン　ありませんでした。

——最初にハヤトの絵、つまりキャラクターをご覧になった印象はいかがでしたか？　ハヤトとの出会いをお聞かせ下さい。

キートン　顔が長い人だなぁ、顔でキャスティングされたのかなぁ、と思いました。

——実際にハヤトを演じられてから、印象は変わりましたか？

キートン　演じていくうちに好きになってきました。あのころは、ちょっとニヒルな役が多かったですね。

——共演の方の印象はいかがでしたか？

キートン　神谷さん、八奈見乗児さん、緒方賢一さんと収録後、毎週のようにマージャンをしていましたし、酒を飲みにも行っていました。

——アフレコ中のエピソード・失敗談等がございましたら？

キートン　もう、忘れました。

——『ゲッターロボ』で印象に残っているエピソード、もしくはキャラクターがございましたら。

キートン　悪役も同時に演じていたので（役名は忘れましたが……）、ハヤトと会話する時は、つらくもあり楽しくもありました。

——わかりました。それでは、全国5千万のハヤトファンにメッセージをお願いします。

キートン　いまだにファンがいるなんて信じられない気持ちです。でも、思い出としていつまでも、神隼人が心の中にいることは素晴らしいことだと思います。

——本日はありがとうございました。

（98年8月5日　アンケートにてご回答頂きました）

きーとん・やまだ：本名・山田俊司。45年10月25日生。北海道出身。『大空魔竜ガイキング』（76年）『超電磁ロボ コン・バトラーV』（76年）など代表作多数。『ちびまる子ちゃん』（90年）のナレーションで世を席巻した。

神隼人



西尾 徳 INTERVIEW

ムサシ役

「ゲッター3のキャタピラが好きでしたね」

インタビュアー／大和 光

―ムサシといえば西尾さん。もう切っても切り離せないほどのハマリぶりですが、オーディションのようなものはあったのでしょうか？

西尾 オーディションは特になかったと思います。僕、オーディションで受かったことってあんまりないんですよ（微笑）。たいていおっことされちゃうから。『ゲッターロボ』のキャスティングに関しては、たしか青二（プロ）さんの仕切りで、僕はそちらのマネジャーさんからご指名できたと思うんですけど。大久保にあるスタジオの「タバック」で録ってたのを憶えてます。

―ムサシの第一印象はいかがでしたか？

西尾 やっぱり、僕に合った役だとは思いましたね。面白い奴でね。役的にはすんなり入っていけましたし。ただ、なかなか口が合わなくてみなさんにはご迷惑をおかけしちゃいましたけど。

―先日、脚本をご担当された上原（正三）さんにもお話を伺ったんですが、やっぱりムサシがいちばんのお気に入りだっておっしゃってましたよ。



西尾 そうですか。キャラクターが面白いからでしょうね。僕自身もまだ若かったんで、まァ、いまよりはですけど、ムサシに年齢が近かったもんですから、比較的入っていきやすかったっていうか……親近感は感じましたけどね。

―共演の方の印象はいかがでしたか？

西尾 いや、もうみなさんに親切にして頂いて。特に早乙女博士役の富田（耕生）さんには役者としての心構えみたいなところまでご指導頂きまして、ありがたかったです。でも、神谷さんにしても山田さんにしても、当時は「若手若手」って言われていたのに、いまはもうすっかり大御所になられちゃって……。

―「ゲッター3」の印象はいかがでした？

西尾 ムサシがゲッター3に乗ったとたん、自分としてもいきなりカッコよくなったというか……なんだか急に強くなったような感じがしましたね。それと……僕はいまだに戦車が好きなもので、あのゲッター3のキャタピラが好きだったんですよ。話は変わりますが、いま〝お宝ブーム〟とかで昔のオモチャが高いんですってね？ それでなんかの雑誌をめくっていたら、超合金……でいいんでしたっけ？ 人形がありますよね。あれのゲッター3が、3体の中でいちばん高いんですってね。当時は子供も小さかったもんで、僕も買ったんですよ。捨ててはいないと思うんですけど、押し入れの奥に入ってるもんですから出てこないんですよね。ま、出てきたからって売りにいくわけじゃあありませんけど、なんだか嬉しくってね（微笑）。

―最後にファンにメッセージをお願いします。

西尾 （照れ笑い）え～、いままでムサシを応援してくれてありがとうございます。これからもムサシを忘れないで下さい。

―本日はありがとうございました。

（98年7月29日 於 東京・渋谷）

にしお・とく：49年9月12日生。岐阜県出身。趣味は映画鑑賞。声優デビューは『冒険ガボテン島』（67年）のゴリラ役。『あしたのジョー』（69年）『ストップ!!ひばりくん』（84年）『超人機メタルダー』（87年）などに出演。

気は優しくて力持ち、あゝ車弁慶
八奈見乗児讃歌

岩佐陽一

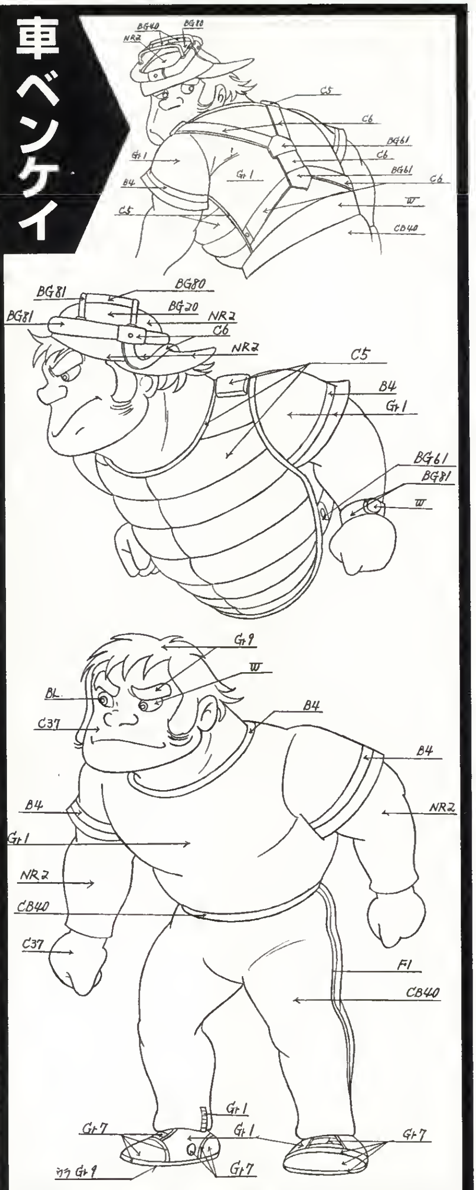
テレビアニメ界に欠かせぬ逸材といえばこの人、八奈見乗児氏。硬軟・善悪とり混ぜて幾多の名キャラクターを見事に演じ分けられる氏は、まさにアニメ界きっての名バイ・プレイヤーといえるだろう。

硬のほうでは『巨人の星』(68年)の伴宙太、『マジンガーZ』(72年)の弓弦之介教授、『UFOロボ グレンダイザー』(75年)の宇門源蔵博士etc。軟のほうでは『花のピュンピュン丸』(67年)のOK探偵局長、『もーれつア太郎』(68年)のココロのボス、ご存知『ヤッターマン』(77年)のボヤッキーをはじめとする〝タイムボカンシリーズ〟の三悪のひとりetc. etc. ……本邦テレビアニメ作品において「これは……!」という名サブキャラクターは決まって八奈見氏の独壇場であった。

『ゲッターロボG』でも、気は優しくて力持ちの車弁慶ことベンケイを演じる一方で、ゲッターチームの仇敵、否、人類の敵・ブライ大帝も憎々しげに演じ分けられており、堂々たる名人芸を披露して下さっていた。

今回、残念ながらご本人の意向により当時のお話を伺うことはできなかった。けれど、ベンケイは、そして――ブライは、演じた八奈見氏の名前と共にいつまでも我々『ゲッターロボG』ファンの胸のうちに刻みこまれ続けていくことだろう。

車ベンケイ



キャラクター紹介ページに掲載できなかったベンケイの設定画。豪放磊落なキャラクターが魅力だった



同じくキャラ紹介のページに掲載できなかったブライ、ヒドラー、グラー博士の3悪そろいぶみ。八奈見氏と矢田（耕司）氏は、同年秋よりスタートした実写変身ヒーロー作品『アクマイザー3』でもコンビを組んでいた

吉田理保子 INTERVIEW 早乙女ミチル役

「ミチルが本当に好きなのはやっぱりリョウだと思う」

インタビュアー／岩佐陽一

――ミチル役はオーディションだったのでしょうか？

吉田 なかったと思う。同時期にメグちゃん（『魔女っ子メグちゃん』）と『アルプスの少女ハイジ』（73年）のクララがあって……キャラクターが似ないようにするのが大変でした。ミチルはキリッとしてて、あたしの性格に合ってたわね。当時の〝ロボットもの〟って役の設定がしっかりしてたから、役に入っていきやすかったですね。いまのアニメと違って人間がちゃんと描けていましたから。

――共演の方の印象はいかがでしたか？

吉田 大ベテランに囲まれ、八奈見さん、富田さんにはとくに育てて頂きました。『惑星ロボ ダンガードA』（77年）もそうですし。面白い話では「神谷さんが結婚する」って話を聞いたファンが〝私と〟だと早合点したようです。

――実際のところいかがでしたか？

吉田 全然ない！ですね（微笑）。当時は、神谷さん、キートン（山田）さんなんかも世代が同じ……っていうか、ちょっとは離れているんですけど、ある種の連体感で結ばれていて……若手がベテランに教えられながらがんばるっていう状況だったので恋愛どころではなくて……。いい意味でアニメ界全体に「新人を育てよう」っていう風潮がいまよりありましたね。いまは〝使い捨て〟っていうか……本数が多すぎるせいもあるんでしょうけど。

――この次期、〝ロボットもの〟のヒロイン役が多かったですね。『鋼鉄ジーグ』（75年）の卯月美和とか『UFOロボ グレンダイザー』（76年）のグレース・マリア・フリードとか。

吉田 そういえばそうですね。でも、ミチルはどっちかっていうとハッキリしてるタイプで、卯月美和は優しさが前面に出て落着いた雰囲気で、マリアはメグにいろんなものがくっついた感じで……。一見、同じようでもキャラクターが微妙に違っていたのでそんなに苦にはなりませんでしたけどね。



――ミチルは最後にハヤトと結ばれますが、これはファンも驚きました。

吉田 そうね。でも、ミチルが本当に好きなのはやっぱりリョウだと思う。あのシチュエーションで「嫌だ」とは言えないもの。だからあれはハヤトの片思いで、気持ちはリョウにあったと思うの。

――吉田さんとしては、誰がタイプですか。

吉田 もしかするとハヤトかもしれないな（微笑）。

――それでは最後に、メッセージをお願いします。

吉田 ミチルはあなたの永遠の恋人です（微笑）。いつまでも大切にして下さい。

（98年7月31日 於 東京・代々木 81プロデュース）

よしだ・りほこ：1月24日生。『一休さん』（75年）『アクマイザー3』（75年）などのアニメ・実写作品をはじめ、洋画『氷の微笑』のアテレコなど代表作あまりにも多数。現在、㈱81プロデュース取締役営業本部長。

GETTER ROBOT



これが『ゲッター』の音楽だ！

全音楽関連アイテム紹介

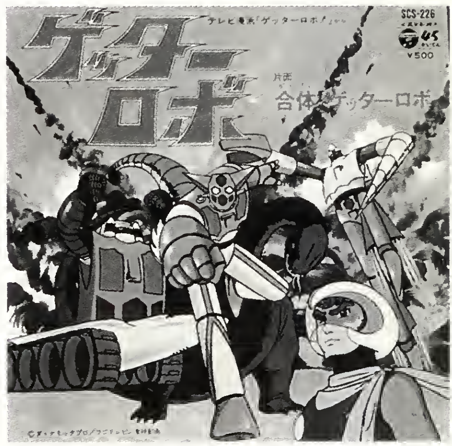
漫画と違ってヴァーチャルに五感に訴えてくるのがアニメ作品である。そこにおいて「音楽」の果たす役割はあまりにも大きいといえよう。本章では、ある意味、内容以上に忘れ難い『ゲッターロボ』シリーズの音楽世界を解説していこう。同時に、音楽関連アイテムに関しても簡単に紹介させて頂く。

ゲッターロボ 音楽の世界

岩佐陽一

『ゲッターロボ』及び『ゲッターロボG』の音楽を菊池俊輔が担当したことは同作品にとってなによりも幸福だったとしかいいようがない。「パラララララッパラッパラッパッパッ〜♪」という強烈なイントロダクションに始まり、ささきいさおの「ガンガンガンガンッッ〜♪」というOTAKEBI！でスタートし、ラスト・イントロまで一気呵成に聞かせてしまう本作の主題歌は、全アニメ作品の中でも五指に入る傑作として、人々の耳と脳裏に激しく焼きついている。早い話、『ゲッターロボ』という作品自体は忘れていても、カラオケで誰かがこの主題歌を歌うのを聞けばたちどころに脳裏に甦らせる人間の潜在人口はかなりの数に上る。ある意味、作品以上の知名度と"愛情"をもって受け入れられているのが『ゲッターロボ』の主題歌「ゲッターロボ！」なのである。

この時期、菊池俊輔はこの手の子供向けアニメ作品及び実写変身ヒーロー作品の主題歌及び劇中音楽を一手に担っていた感がある。



日本コロムビアより発売された主題歌シングル。主題歌と挿入歌の2曲を収録。この2曲に当時どれだけ多くの子供たちが耳と胸を熱く焦がしたことか!? 発売は74年の4月。描き下ろしのセル画によるジャケットも「燃える！」

『ゲッターロボ』のオンエアがスタートした74年の1年間に彼が手掛けた作品タイトルをざっと挙げただけでも――『バーディー大作戦』『闘え！ドラゴン』『仮面ライダーX』『電人ザボーガー』『新造人間キャシャーン』『ウリクペン救助隊』『がんばれ!!ロボコン』『仮面ライダーアマゾン』『破裏拳ポリマー』etc．etc．……とまァ、思わずため息をもらしてしまいそうな、膨大といっていい数である。

ふつうの作曲家ならルーティンワークになってしまいがちなそれを、菊池はどの作品にも均しく、その世界観を的確に象徴した見事な主題歌と劇中音楽を提供し続けていった。これは驚くべきことである。

69年、ウェスタン・マーチのリズムに乗って「アニメ主題歌の歴史を変えた！」と言われる『タイガーマスク』を手掛けて以来、この時期、間違いなく氏は、"テレビまんが"における楽曲の最初の頂点を迎えていたといっていいだろう。そんな幸運な状況下で作曲された「ゲッターロボ！」だけに、菊池の74年度のBEST WORKと断言して差し支えないほどの完成度を誇っている。そして、ロボットアニメの主題歌といえば作品自体の人気と同じく、『マジンガーZ』の主題歌「マジンガーZ」と並んですぐさま筆頭に挙げられるほどの名曲中の名曲としていまなお語り継がれているのである。

さて――本作のレコード関係は日本コロムビアと朝日ソノラマより発売された。

以下、作品別にオンエア当時のアイテムの発売状況を記そう。

■『ゲッターロボ』
●主題歌シングル
●ヒット曲（挿入歌）集（LP盤）
●同・カセットテープ　（以上日本コロムビア）
●主題歌＆ドラマソノシート　（以上朝日ソノラマ）

■『ゲッターロボG』
●主題歌＆挿入歌シングル　（以上日本コロムビア）
●主題歌＆挿入歌＆ドラマソノシート　（以上朝日ソノラマ）

この他、両社から発売されていた、さまざまなテ

レビ作品を集めた〝混載盤〟には本作は必ずといっていいほど収録されており、いわゆる〝パチモンカセット〟などまで含めた場合、その全容をつかむにはかなりの困難を有する。
また、劇場版に関しては『UFOロボ グレンダイザー・ゲッターロボG・グレートマジンガー 決戦！大海獣』のみ主題歌シングルが日本コロムビアより、主題歌&ドラマソノシートが朝日ソノラマより――そして、アポロン音楽工業からはカセット絵本が発売された。
なお、『グレートマジンガー対ゲッターロボ』『グレートマジンガー対ゲッターロボG 空中大激突』、この『決戦！大海獣』に関しては作品の性質上、競演作品それぞれの音楽両方が劇中に使用されることとなった。〝菊池節〟と〝渡辺節〟の対決も子供たちには期せずしてなにより嬉しいプレゼントとなったわけである。



こちらはシングル盤の裏ジャケット。これを見た誰もがミチルはリョウとくっつくと思っていたのだが……

『ゲッターロボ』の劇中音楽は、主題歌のインストゥルメンタル及びアレンジ曲が主にメカザウルス（&メカ百鬼）とのバトルシーンで使用されていた。インストゥルメンタルは、山田俊司の「テレビ、スゥイッチ・オン！」の〝OTAKEBI！〟でもおなじみ予告編にも使用されていた名曲中の名曲。アレンジ音楽については、元曲がマイナー調であることも手伝って、苦戦のゲッターロボを盛り上げるのに絶大なる効果を発揮していた。
哀しみのシーンに多用されていたのが、水木一郎のバラード歌唱で有名な挿入歌「平和の戦士たち」のアレンジ音楽―と、思いきや、この曲はBGMに歌詞をつけたものである。本曲の〝ハーモニカ演奏ヴァージョン〟はそのまま、劇中でハヤトが愛用のハーモニカで奏でる曲として使用されていた。また、特記すべきは『G』編の最終回に使用された「ミチルのテーマ」であろう。行方不明のハヤトの替わりにライガー号に搭乗。ゲッターライガーにチェンジしてメカ百鬼相手に善戦するミチルの勇姿を嫌が応にも盛り上げていた。この選曲センスのよさも本作の魅力のひとつである。



名作アニメの主題歌&挿入歌、それに代表的な音楽を加えた「サウンドメモリアルシリーズ」の1枚。他に「マジンガーZ」なども発売されていた

その『G』編では、音楽は『ゲッターロボ』の流用。エンディング曲「不滅のマシンゲッターロボ」及び挿入歌「われらのゲッターロボ」のみが新録された。「われらのゲッターロボ」は『G』の第1話、新ゲッターの初合体シーンに使用されて絶大なるインパクトを我々視聴者に与えてくれていた。
そんな名曲ぞろいの劇中音楽は、折からのアニメブームの渦中、79年に日本コロムビアより発売の「菊池俊輔の世界」に収録されたのが初である。これは「渡辺宙明の世界」と同時に発売された企画盤



82年に日本コロムビアより発売された待望の音楽集。「テレビオリジナルBGMコレクション」シリーズの1枚として発売された。小松原一男の描き下ろしによるジャケット・アートも素晴らしい

で、両巨頭の代表作の中から特に逸品を選んでその劇中音楽を収録したもの。当時、アニメ作品のサウンドトラックなど夢のまた夢と思っていたアニメファンを狂喜乱舞させた。我らが『ゲッターロボ』は同じ菊池作品である『タイガー・マスク』『キャシャーン』『グレンダイザー』と共に収録。名曲の幾つかがチョイスされた。なお現在、この盤は〝ボーナストラック〟を追加されてCDで復刻されている。

この企画盤の成功により、日本コロムビアは同年、「テレビオリジナルBGMコレクションシリーズ」をスタート。『科学忍者隊ガッチャマン』（72年）『勇者ライディーン』（75年）などの名作アニメの音楽集が続々と発売されていく。それから3年後の82年、そのラインナップの1枚としてようやく本作単独の音楽集が発売されることとなった。現在、こちらはCD復刻には至らず。一刻も早いCD化をファンは待ち望んでいる。その後は、日本コロムビアより84年に発売された「アニメサウンドメモリアル」シリーズの1枚として、主題歌&挿入歌、それに主要音楽を収録したLP盤が発売されている。

永きの沈黙を破って登場した「新ゲッターロボ」＝『ゲッターロボ號』の音楽は、プロデューサーが『マジンガーZ』の横山賢二氏だったこともあって、渡辺宙明が手懸けることとなった。当時、東映の実写変身ヒーロー作品〝『宇宙刑事』シリーズ〟で新境地を開拓していた氏は、そのノウハウを本作に導入。ここに新時代の『ゲッターロボ』の音楽が完成をみる。

この時期のアニメ界全体の風潮もあって当初、主題歌のみ新進のロックバンドが歌っていたが、作品イメージに合わないとの理由から、第15話より主題歌も渡辺の作曲による「ゲッターロボ號」に文字どおりチェンジ！　水木一郎の熱唱と共に忘れられない名主題歌となった。

そして――最新オリジナルビデオアニメ『真（チェンジ!!）ゲッターロボ　世界最後の日』の音楽は――!?



『ゲッターロボ號』の主題歌シングルCD。宙明＆水木のタッグだ。やはり二人の力がひとつになればマグネットパワー嵐を呼ぶぜ！

COCC-7702



日本コロムビアより発売の音楽集。他にヒット曲集も発売された。宙明節が奏でるつぶぞろいの名曲がこの1枚に！

『ゲッターロボ』『ゲッターロボG』主題歌・挿入歌リスト

タイトル	作　詞	作・編曲	歌
ゲッターロボ！	永井　豪	菊池　俊輔	ささきいさお
ゲッターロボわが命	早乙女達人	菊池　俊輔	ささきいさお
平和の使い	高円寺　博	菊池　俊輔	コロムビアゆりかご会
戦いははてしなく	伊賀井直人	菊池　俊輔	堀江美都子
アタック！ゲッターロボ	上原　正三	菊池　俊輔	ささきいさお
ぼくらのゲッターロボ	早乙女達人	菊池　俊輔	コロムビアゆりかご会
いくぜ兄弟！ゲッターロボ	永井　豪	菊池　俊輔	ささきいさお
平和の戦士たち	早乙女達人	菊池　俊輔	水木一郎
カムオン・ゲッター1.2.3	中村しのぶ	菊池　俊輔	ささきいさお、コロムビアゆりかご会
恐竜帝王の呪い	永井　豪	菊池　俊輔	日本合協会
ミチルのテーマ	早乙女達人	菊池　俊輔	堀江美都子
合体！ゲッターロボ	和泉　高志	菊池　俊輔	ささきいさお、コロムビアゆりかご会
不滅のマシンゲッターロボ	和泉　高志	菊池　俊輔	ささきいさお、コロムビアゆりかご会
われらのゲッターロボ	和泉　高志	菊池　俊輔	ささきいさお

GETTER OTHER DISCOGRAPHE

ここでは、『ゲッターロボ』及び『G』に関する朝日ソノラマ発売のソノシート。そして、現在も聴取可能なCD復刻盤を幾つか紹介。ここに紹介した以外にもさまざまなヴァージョンが発売されているのでCD店で各自ご確認されたし



朝日ソノラマより発売されていたソノシート。新録音による完全新作ドラマも併録されている。……のはいいが、なぜか本編とキャストが異なっているのが面白い



こちらは『G』のソノシート。やはりドラマが収録されているがキャストは同じ



「ヒット曲集」の復刻盤CD。『決戦！大海獣』の主題歌＆挿入歌も併録されているのが嬉しい



「菊池俊輔の世界」の復刻盤。「テレビオリジナルBGMコレクション」の復刻も希望したい



79年に発売された「永井豪の世界」の復刻盤。『ゲッターロボ』の主題歌とエンディングを収録。『魔女っ子チックル』(77年)なども併録されている

完全新録音ドラマCD
ゲッターロボvsゲッターロボG



『SUPER ROBOTS MUSEUM"DRAMA EDITION"ゲッターロボVSゲッターロボG THE RETURN OF GETTER』

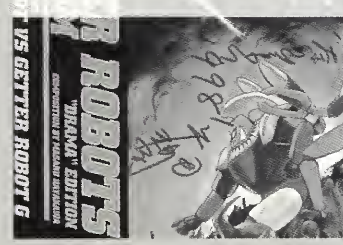
双葉社より発売中の『スーパーロボット大戦コミック』に収録されている『ゲッターロボVSゲッターロボG』をベースに、新たにオリジナルドラマとして新録音されたのが、97年に日本コロムビアより発売されたドラマCD『ゲッターロボVSゲッターロボG』だ。

テレビアニメ版のオリジナルキャスト、神谷明、キートン山田、八奈見乗児3氏のそろいぶみに往年のファンは大感激！　また、諸般の事情により富田耕生が出演できず、替わってその穴を埋めるのが、大枯文次というのもアニメファン泣かせなアレンジでGOO！　もちろん文次役もオリジナルキャストである矢田耕司。氏は敷島博士役も兼任している。

STORYは、地リュウ族の残党に奪われたゲッターロボGを相手に、リョウ、ハヤト、ベンケイの3人が旧型ゲッターロボで立ち向かうというもの。神谷叫びの健在ぶりに思わず知らず目頭が熱くなってしまう……。

劇中音楽もテレビアニメ版のオリジナル音源を使用。そのこだわりぶりもファンには嬉しい限りだ。現在も絶賛発売中なので、ぜひ一聴をお薦めしたい。

●CDスタッフ
原作／永井豪・石川賢とダイナミックプロ■脚本／桎本修平、早川優■演出／勝田稔男



ジャケット裏に頂いた矢田耕司氏のサイン。ハッキリ言って自慢です。矢田さん、どうもでした

菊池俊輔INTERVIEW

『ゲッターロボ』『ゲッターロボG』音楽

「作曲時、ロボット物ということは意識しませんでした」

インタビュアー／早川　優

―『ゲッターロボ』は菊池さんにとって東映動画4本目の作品ですが、仕事の依頼はどなたから？

菊池　プロデューサーの勝田（稔男）さんからです。あの頃、僕は東映動画では勝田さんや、斎藤侑さん（『タイガー・マスク』（69年）、『バビル2世』（73年）との仕事が多かったですね。

―当時、菊池さんのお仕事は実写作品が中心だったと思いますが、アニメーションの音楽を作られる上で意識されたことはありますか？

菊池　『宇宙パトロール　ホッパ』（64年）の時は、初めてのアニメでしたから、明るく楽しい…古いディズニーの作品を意識して書いたと思います。それ以降は、僕の中に動画と実写の区別はなかったです。アニメーションだからというのではなく、物語によって（音楽の）スタイルを変えていきます。僕はヤクザ映画の仕事が多かったですけれど、ヤクザ映画の音楽と…たとえば『超人バロム・1』（72年）の音楽とでは、スタイルを変えるのと同じです（笑）。この頃は主題歌もやらせてもらっていましたから、先に歌や主題曲を作ってスタイルを決めて、それがOKとなったら、その方向性を見て劇伴（劇中の音楽）を作っていくわけです。だから、タイトル音楽をいかに書くかがポイントなんですよ。



―『ゲッター』の主題歌は詞先（詞に合わせて曲を作る）ですか？

菊池　そうです。僕の場合、詩が先にあった方が気持ちを入れ易いんです。頭の「ガンガン」の部分は、スケッチを（スタッフに）聴かせた後に意見が出て、追加したと思います。永井豪さんとの打ち合わせは記憶にないですね。

―作曲のメニュー出しはどなたが？

菊池　あの頃の作品は、僕がいつも組んでいた選曲の宮下滋さんです。彼が学校の後輩だったこともあって、指名で選曲をお願いしていました。

―ハヤトのテーマは歌になりましたね。

菊池　テーマを後から歌にしたことは他の作品でもありました。『ゲッターロボ』では、文次のテーマを浪花節的に作ったことも印象に残っています。

―『ゲッター』は、アクション曲のヴァリエーションが豊富に思えます。

菊池　たしか勝田さんからの細かい注文を受けて2回目の録音の時に色々な曲を作った記憶があります。

―劇中曲の指揮はどなたが？

菊池　歌もののカラオケは中谷勝昭さん。劇伴は森田吾一さんで、録音は青山のアバコ・スタジオです。

―24年前の作品を振り返っての感想などを。

菊池　作曲時に、ロボットものということは意識しませんでした。当時は頼まれれば、いくらでも書けましたねぇ。若さっていいですよ（笑）。

きくち・しゅんすけ：31年、青森県弘前市出身。61年の『8人目の敵』以来、映画音楽を中心に作曲を続ける。『仮面ライダー』（71年）、『ドラえもん』（79年〜）、『暴れん坊将軍』（78年〜）など、代表作多数。

GETTER ROBOT



GETTER THE MOVIE

劇場版ゲッターロボの世界

劇場版ゲッターロボ ゲッターロボGの世界

東映が春休みと夏休み（冬休みもあり）に児童を対象に公開するプログラムピクチャー、それが「東映まんがまつり」だ。ここでは、我らがゲッターロボがグレートマジンガーをはじめとする「マジンガーシリーズ」のスーパーロボットたちと堂々の競演を果たした思い出の劇場作品を紹介しよう。

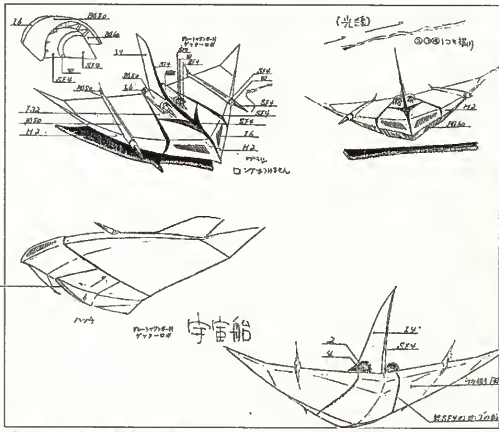
グレートマジンガー対ゲッターロボ

「東映まんがまつり」の大きな呼びもののひとつとなった人気プログラムに〝ロボット対決シリーズ〟があった。その口火を切ったのが73年夏に公開された『マジンガーZ対デビルマン』である。むろん、デビルマンとの競演も嬉しかったが、贅沢な子供たちはほどなく〝ロボット同士〟の激突を望むようになった。だが、マジンガーに並ぶ一方の雄がいない。そこへ彗星のごとく現れたのが我らが『ゲッターロボ』だった。ひょっとしたら今度の「まんがまつり」はいよいよ……そんな子供たちのふくらむ期待に応えるべく満を持して登場したのが『グレートマジンガー対ゲッターロボ』である。

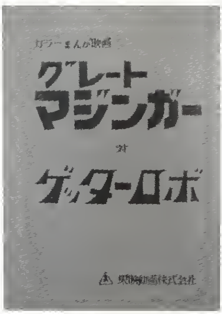
とはいえ『ゲッター』ファンにはいささか遺憾な話ながら、やはりメインは「グレートマジンガー」であるため、タイトル順はグレートが先。主題歌も「おれはグレートマジンガー」が使用されていた。

●STORY

ある日、謎の大型宇宙船が地球に飛来した。調査のため出動した早乙女研究所のゲッターチームは、宇宙船からの攻撃に臨戦態勢に突入。宇宙船はチェンジしたゲッター1の攻撃を巧みにかわし、姿を消した。同じころ東京は、宇宙船から降下した宇宙怪獣に蹂躙されていた。金属を常食とするそのモンスターは、宇宙金属獣ギルギルガンと呼ばれた。科学要塞研究所から出撃したグレートマジンガーが応戦に出るも機能に障害を来たし、撤退を余儀なくされてしまう。事態を重く見た早乙女博士は、科学要塞研究所所長・兜剣造博士に協力を要請。ここに2大ロボットによる共同戦線が実現した。ゲッターとグレートのダブルパワーの前にさしもの宇宙金属獣も爆破四散して果て、地球に平和がよみがえった。

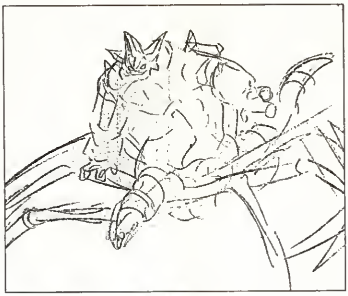


残念ながら本作の設定は未発見に終わった。お持ちの方はご一報を。なお、この宇宙船は次作『空中大激突』のものである



台本の表紙。藤川桂介氏所蔵のもの

●DATA
◎75年3月21日公開
◇上映時間30分◇ワイドフジカラー
◎製作／今田智憲◇企画／有賀健、横山賢二◇脚本／藤川桂介◇作画監督／小松原一男◇演出／明比正行
◎出演／神谷明（流竜馬）、キートン山田（神隼人）、西尾徳（巴武蔵）、野田圭一（剣鉄也）、富田耕生（早乙女博士）、柴田秀勝（兜剣造）、吉田理保子（早乙女ミチル）、中谷ゆみ（炎ジュン）、大竹宏（ボス）

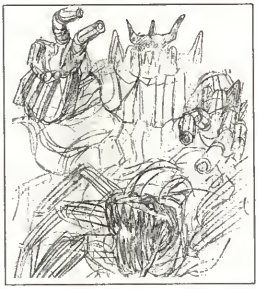




ギルギルガンの変態を提示したラフスケッチ。石川賢氏の筆によるものと思われる

ギルギルガン

地球侵略をもくろむ謎の宇宙人が地球人殲滅用に放った宇宙金属獣。その名のとおりあらゆる金属を口から吸収してエネルギーにかえる。昆虫とハ虫類が合体したような幼態、背中から鬼のような本体がせり出した中段階に変態、そして、宇宙エネルギーのつまった宇宙船を食して最終形態へと3大進化を遂げた。幼態は口から放つ溶解液や、鋭い牙で攻撃。成体は両手に持った巨大な鎌、両翼から発する光線で攻撃した。超パワーで2大ロボットを圧倒したがダブルパワーの前にあえなく敗退。



大迫力の幼態の顔のアップ・ラフ。やはり石川氏の筆と思われる。ダイナミックパワー、猛爆発だ！

コミカライズの世界



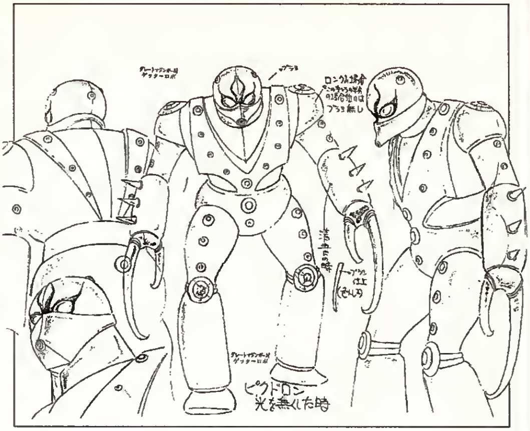
本作のコミカライズは、75年3月発行の『TVマガジン』（講談社）「春休み増刊号」に特別読み切りとして掲載された。描くは当時小学館の「学年誌」で『ゲッターロボ』を、秋田書店の『冒険王』で『グレートマジンガー』を執筆していた桜多吾作氏。『グレート』の主人公・剣鉄也に思い入れの強い氏は、彼を中心にすえた物語構成を展開しながらも、ゲッターチームの描きこみにも力を入れている。特に、原作のように血気盛んなハヤト、乱闘の果てに下着も露になった愛娘と炎ジュンの姿を見て「発育いいな」とモノローグする早乙女博士は見逃せない。現在は双葉社刊『グレートマジンガー』の第4巻に収録されているので、ご一読されたし。



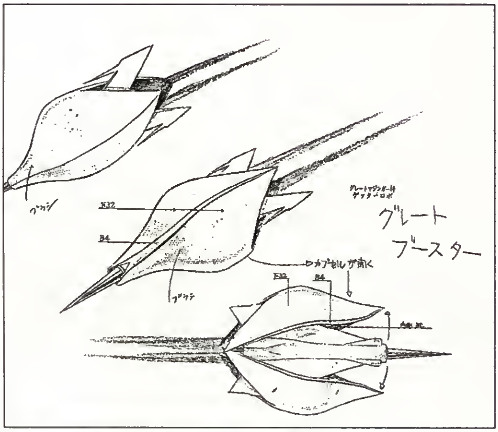
漫画版でも2大ロボットの共闘は胸うち奮える！　それにしても、ゲットマシンの合体シーンでリョウたちが「セットゲッター1」と叫んでいるのはなぜだろう？

グレートマジンガー対ゲッターロボG 空中大激突

続映中の『グレートマジンガー』と、5月よりリニューアル・スタートした『ゲッターロボG』が競演する、劇場版『ゲッターロボ』シリーズ第2弾。前回では1匹だったスペースモンスターも今回は3体に増殖。劇場版『仮面ライダー』シリーズ同様、銀幕だけでしかお目にかかれない新モンスターを渇望する子供たちを大いに悦ばせた。

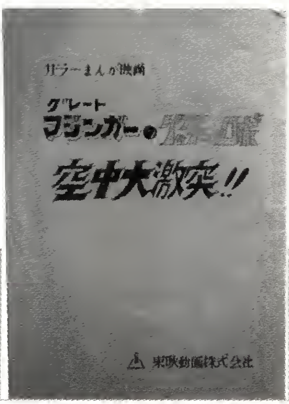


さて、本作ではふたつのトピックスがある。ひとつはテレビに先行して行われた『グレートマジンガー』の新必殺兵器「グレートブースター」の登場である。『マジンガーZ対デビルマン』同様、プレ『グレートマジンガー』の番組強化策の性質を有していた本作だけに、デビルマン同様「ゲッターもダシ?」と思いきや……そう! ふたつ目のトピックス。それは、劇場版オリジナルの〝ムサシの最期〟及び〝新ゲッターへの交替劇〟である。これにより本劇場版の世界観が、「東映まんがまつり」だけのパラレルワールドであること、そして、5月よりスタートした新ゲッターを再度印象づけることに成功している。



●STORY

謎の宇宙船が3匹の宇宙怪獣を引き連れて地球を襲った。ゲッターロボが迎え討つが、その戦いでムサシが戦死してしまう。哀しみも束の間、ボングが羽田空港を襲った。グレートマジンガーの活躍でボングは倒されるが、宇宙船は最終兵器・ピクドロンを送りこんできた。そこへ新ゲッターロボが出現! 新ゲッターのパワーとグレートの新兵器が見事ピクドロンを撃破するのだった。

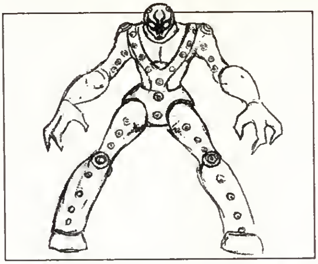


台本の表紙。やはり藤川桂介氏所蔵のもの。藤川先生、ありがとうございました

●DATA
◎75年7月26日公開
◇上映時間30分◇ワイドフジカラー
◎製作／今田智憲◇脚本／藤川桂介◇作画監督／小松原一男◇演出／明比正行
◎出演／神谷明（流竜馬）、キートン山田（神隼人）、西尾徳（巴武蔵）、八奈見乗児（車弁慶）、野田圭一（剣鉄也）、富田耕生（早乙女博士）、柴田秀勝（兜剣造）、吉田理保子（早乙女ミチル）、中谷ゆみ（炎ジュン）、大竹宏（ボス）、緒方賢一（謎の宇宙人）



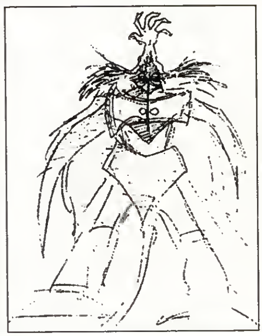
光波獣ピクドロン



石川賢氏によるピクドロンのデザイン画。デザイン段階での呼称は"ビブロドン"であった。なお、本作のデザイン画、設定画の類は現存のものがあまりに少ない。お持ちの方は一報を

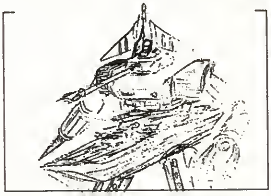
謎の侵略円盤が送りこんだ地球攻略の最後の切り札。ふだんは、金属状の本体の表面に、吸収した光エネルギーを放電させている。武器は口から放つ光の矢。この矢はあらゆる機械に侵入して内部から破壊するという恐るべき武器で、グレートの右手も破壊されてしまった。最期は、ゲッタートマホークとグレートブースターの2弾攻撃に破れ去った

空魔獣グランゲン



宇宙怪獣第1号。クラゲのようにしなやかな体で相手の体にしがみつき、外見とは裏腹の猛パワーで破壊する戦法を得意とする。最期は、ハヤトをかばったムサシのベアー号に体当りする形で相討ちとなった

結合獣ボング



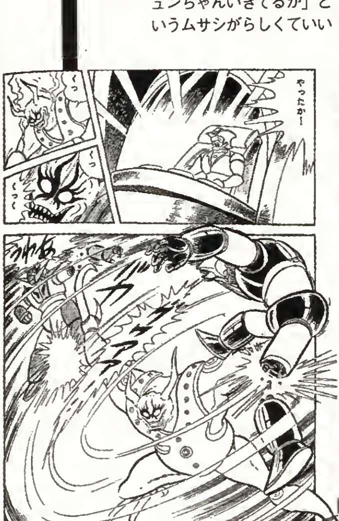
宇宙怪獣第2号。無数の砲門&ミサイル発射口を有し、おそらくはロボット怪獣と思われる。足のジェット噴射で飛行も可能。ビューナスAを苦しめたが、駆けつけたグレートにひとたまりもなく撃破されてしまった

コミカライズの世界

本作のコミカライズは75年8月発行の『TVマガジン』（講談社）「夏休み増刊号」のスペシャル企画として読み切り掲載された。描くは御大・石川賢。93ページに渡って展開されるストーリーは映画とほぼ同じながら、読み応えと迫力は満点！　なにより『週刊少年サンデー』（小学館）での連載が打ち切りになって約ひと月後の、「ゲッター」だけにもう嬉しかったのなんの。この直後に『冒険王』（秋田書店）での連載再開を知り、さらなる至福の瞬間を感じることになるのだった。現在は、大都社より発行の『ゲッターロボ大決戦』中に収録。原作版でもアニメ版でもない本作オリジナルのゲッター1は必見だ。



「鉄也はどうでもいいのジュンちゃんいきてるか」というムサシがらしくていい



本作のモンスターデザイナーでもある石川氏自らが描くピクドロンは大迫力！　2大ロボットもすっかり圧倒され気味だった。

UFOロボ グレンダイザー・ゲッターロボG・グレートマジンガー
決戦！大海獣



我らがゲッターロボが登場する劇場作品の最後にして、劇場版「マジンガーシリーズ」のラストを飾った超大作、それが本作である。タイトルどおり、3大ロボットが夢の競演を果たしたこの作品は、いまをときめく人気ゲームソフト「スーパーロボット大戦」の原点ともいうべき作品。すでにオンエア自体は終了していたグレートマジンガー、ゲッターロボGの2大スーパーロボットに銀幕で再会できるなど、誰が想像し得たであろうか。まさに、76年の夏休み、子供たちにとって最大のプレゼントだったといえる。

●STORY

石油を喰らって無限に増殖する古代恐竜・ドラゴノザウルスが太平洋沖に出現した。ゲッターチームを伴って調査に赴いた早乙女博士は事態の重大さを鑑み、科学要塞研究所及び宇宙科学研究所に協力を要請。ゲッターロボG、グレートマジンガー、グレンダイザーの3大ロボット連隊の活躍で強敵・ドラゴノザウルスも海の藻屑と消えた。

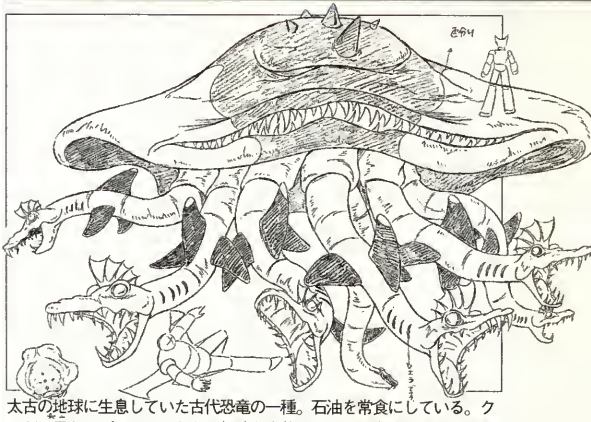
●DATA
◎76年7月25日公開
◇上映時間30分◇ワイドフジカラー
◎製作／今田智憲◇脚本／高久進◇作画監督／木野達児◇演出／明比正行
◎出演／神谷明（流竜馬）、キートン山田（神隼人）、八奈見乗児（車弁慶、宇門源蔵）、野田圭一（剣鉄也）、富山敬（宇門大介）、石丸博也（兜甲児）、富田耕生（早乙女博士）、鈴木泰明（弓弦之助）、吉田理保子（早乙女ミチル）、中谷ゆみ（炎ジュン）、大竹宏（ボス）

コミカライズの世界



本作のコミカライズは、76年8月発行の『TVマガジン』（講談社）「夏休み増刊号」にスペシャル読み切りとして掲載された。描くは再び桜多吾作氏。『ゲッターロボ』『グレートマジンガー』『グレンダイザー』、この3作品のコミカライズを3つとも手懸けた氏が描いただけあって、読み手である我々もすんなり入っていけた。

ドラゴノザウルス



太古の地球に生息していた古代恐竜の一種。石油を常食にしている。クラゲに目と口がついたような不気味な本体はふだんは海底に潜み、恐竜の首の形をした触手を海上に伸ばしてタンカーを襲った。3大ロボットがオモチャに見えてしまうほどの巨体を誇りながら、触手をプロペラのように回転させての空中飛行が可能。ゲッタードラゴンのシャインスパークを浴びて絶命した

GETTER ROBOT



『ゲッターロボ』『ゲッターロボG』

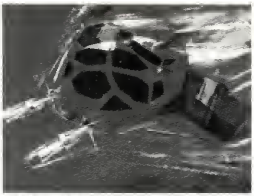
カード&ブロマイドワールド

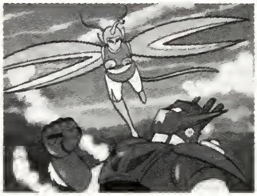
ゲッターロボ カード&ブロマイドワールド

堤　哲哉

『ゲッターロボ』『G』は、お菓子メーカーによるおまけカードは存在していない。駄菓子屋を中心に発売された、いわゆる"駄菓子カード"と呼ばれる物が、山勝、天田印刷、丸昌の3社から発売されていた。3社とも発売形態は1箱に1袋2枚入りで10円のカードが50付、"ラッキーカード"が出ればその場でアルバムと交換できるシステムだった。数多くの駄菓子カードの中で、3社が競合しているのは、他に『鋼鉄ジーグ』(75年)があるだけで、それだけ『ゲッターロボ』の人気が高かったといえるだろう。3社の発売枚数は合計で約1200種にのぼり、これはカルビーの『仮面ライダー』(71年)～『V3』(73年)に至るシリーズの合計を上回り日本一である。ただ、使用できる図版に限りがあるためか、3社共通で見られるものが多数あるのが難点だ。ここでは、わかりやすいように各社のカードの特徴を解説しよう

山勝版『ゲッターロボ』





裏面文章の印刷が青色なのが特徴。『G』編まで通し番号になっている。『ロボ』編は288番まで。289～299番は欠番。『G』編が300～483番で、コマ焼きと描き下ろしイラストを使用。若干番号の大きいタイプも別に48番まで存在する。



丸昌版『ゲッターロボG』



続き番号として始まっているが、301番からなので222～300番は欠番となっている。342番までの42種、『G』編は描き下ろしイラストのみ。丸昌製『ゲッター』シリーズは水増しがあまりにも多く、後になって代表の岡野昌一郎氏も「あれはやるべきではなかった、いまでも後悔しています」と述懐している。



ゲッターロボG

315

ブライ大帝

百鬼帝国の支配者。強力なテレパシー能力を持っており、それで部下の百鬼一族を支配している。ゲッターロボGを倒し、世界中の人間を鬼に改造してしまうのが目的である。

56400

丸昌版『ゲッターロボ』



1弾42種で3弾まで作られている。1弾は42番までだが、2弾は50番～136番までを適当に番号を飛ばして42種作られているので、いくら集めても番号は通りはしない。3弾は180～221番までの42種。

ゲッターロボ

①

ゲッター1

ゲッタービーム砲を内ぞうし、ゲッター線を照射する。真空メスを内ぞうし、むねから真空の風をふん射してすべてのものを切だんする。
反動力マントで空中をとぶ。

52122



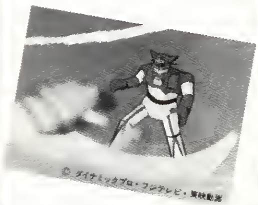
天田版『ゲッターロボ』





最高番号は360番。番号表記の横または上に“ゲッターロボ”の文字がロゴで表記されているが、1弾の60番までは数字の表記しかない。また番号表記のないカードが24種類あるため収集は困難を極める。





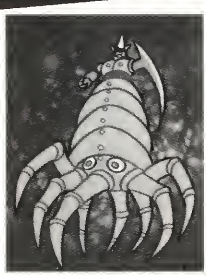


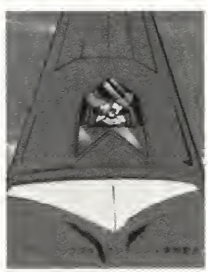
天田版『ゲッターロボG』





全部で3弾まで発行されているが、41〜119番は存在せず。2弾が120番から始まるという、まるで「多く出ている」ように見せる“水増し”が行われている。1弾と3弾は描き下ろしイラスト版で、最高番号は220番まで。







劇場版カード



『グレートマジンガー対ゲッターロボG　空中大激突』

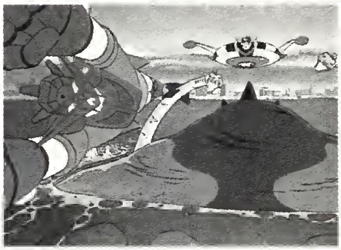


山勝版は2弾114番まで、丸昌版は42番まで。カードの作画の質はアニメカード史上最高ともいえる素晴らしい物で、「ゲッター」と「グレート」、夢の2大ヒーローの共演を充分堪能させてくれる。
山勝版はテレビ版同様、裏面は青色印刷となっている。





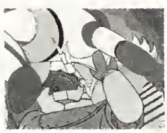
UFOロボグレンダイザー・ゲッターロボG グレートマジンガー　決戦！大海獣

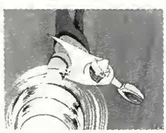
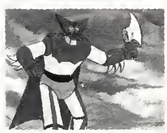


山勝版が1弾48番まで、丸昌版は1弾42番まで。山勝版には同一番号同一図版でありながら背景処理にまったく色の違う2タイプが存在。ロボットのビームの色が白色と黄色という異なる2タイプがある。

ブロマイド



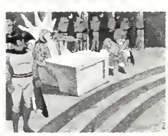




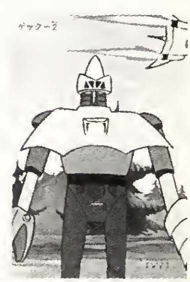








ブロマイドは丸昌から1枚10円売りの物が「第1弾」のみ発売されるにとどまった。全18種。この時期、ブロマイドは折からの“カードブーム”におされて停滞期にあり、ブロマイドが製作されている作品自体が非常に少なくなっていた。ここでは全図版を紹介しよう。





こういったキャラクター名の間違いなども当時のブロマイドの魅力のひとつだった

GETTER ROBOT



ゲッター號登場！

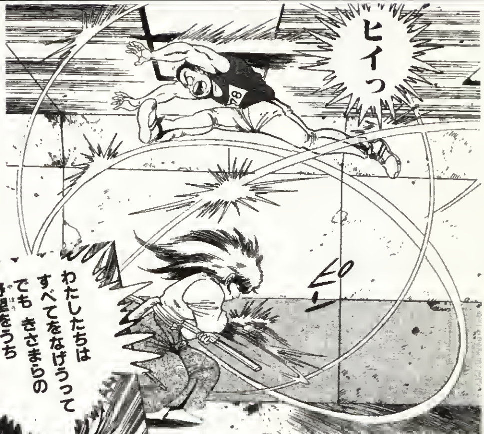
ゲッターロボ號の世界

狙われたゲッターロボ號

原作版『ゲッターロボ號』の世界



初登場時は無敵の感が強かった
ゲッター號もアラスカ戦線で
ズタボロになって以来
すっかり影が……



印象的な號と翔の“出会い”のシーン。初登場時の翔は“狂える剣客”といった雰囲気を漂わせていた。明らかにハヤトの初登場シーンを意識して描かれていた



最高に燃えるハヤトの宣戦布告シーン。たぎる“狂気”の健在ぶりにファンも“狂喜”した

『ゲッターロボ號』協奏曲

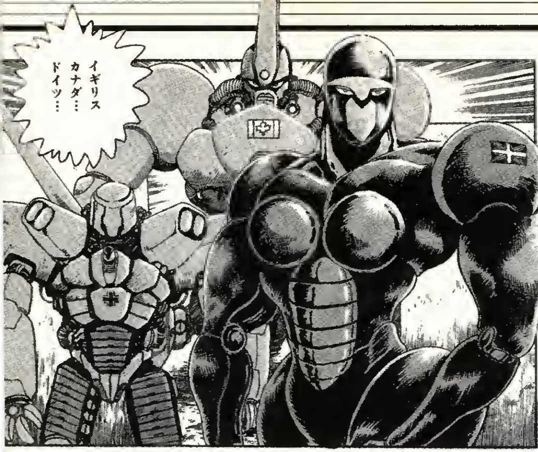
大門　豊

多くの患者を生んだ合法ドラッグ・原作版『ゲッターロボ』。それが永い沈黙を破り再開されたのは1991年の1月だった。

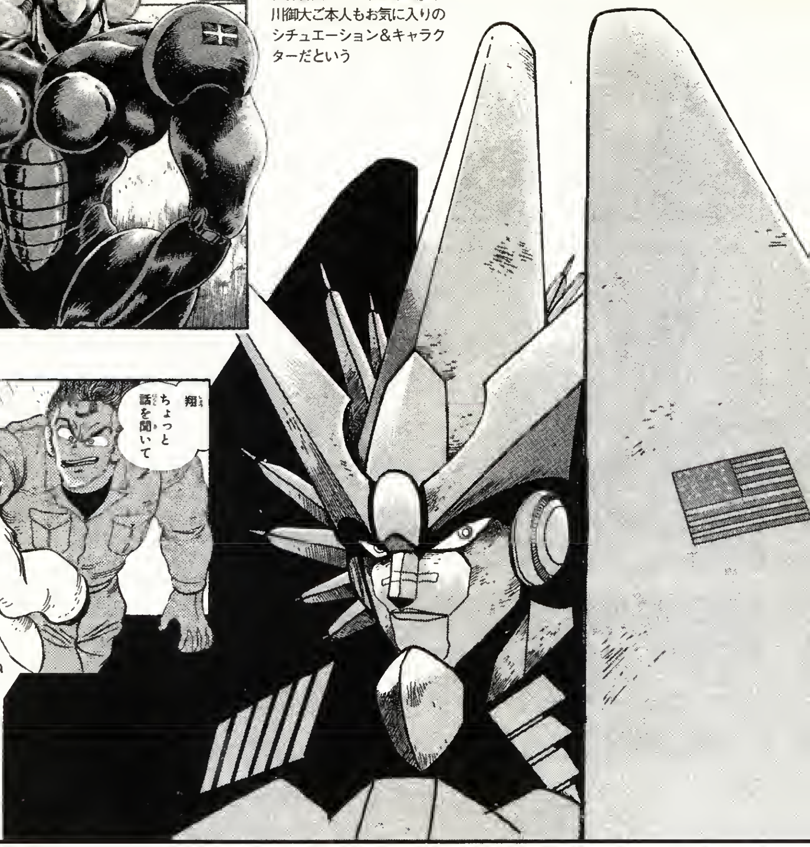
原作版『ゲッターロボ號』は『月刊少年キャプテン』（徳間書店）で連載された。『ゲッターロボ』の続編だが、開始から以降2年4ケ月もの歳月を経て完結。結果全30章にも渡る前作以上の長編作品となった。ここでは便宜上、勝手に物語を3つに分けて紹介させて頂く。

新ゲッターの合体事故から始まるショッキングな第一部は、新メンバーの號と翔、剴の3人がそろうまでの誕生編だ。前作から続いてハヤトこと神隼人が登場し、彼のパイロット選出のための人体実験が序盤の主軸となっている。『ゲッターロボ』を知らない読者でも読めるよう、ハヤト独自の価値観は見せながらも前作とのつながりは一切触れず、微妙なバランスを保った内容になっている。後の急展開を考えると、ここまではまだテレビ版に近いと言えよう。

そして第2部は、国連軍とランドウ軍の最前線での戦いを描いた〝アラスカ編〟。戦争漫画ばりのその展開は一見するとかなり異質な内容だが、ここに登場する国連軍のメカは各自が『アブネー奴が乗るバケモノじみたロボット』という、ゲッター同様のスタンスを持っていてかなりカッコイイ。石川賢氏自身のお気に入りらしく、このエピソードは物語全



完全にゲッター號を食ってしまった感のあるステルバー＆世界各国のロボット軍団。石川御大ご本人もお気に入りのシチュエーション＆キャラクターだという





数少ない石川御大描くところの“お色気シーン”。胸の形が『魔獣戦線』のマリアそっくりだ……って、当り前だよな。同じ作者なんだもん

体の半分を占めている。

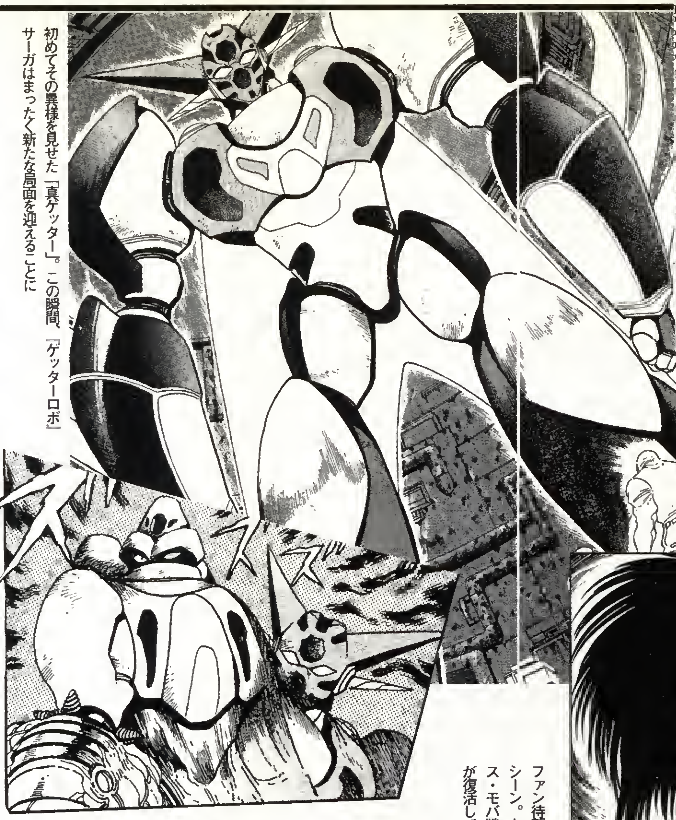
最終章の第3部。自分の婚約者まで使った、ハヤトのクールなロシアンルーレットから始まる。そして朽ち果てた早乙女研究所と〝本当のゲッターロボ(真ゲッターロボ)〟の登場により、ここで物語は初めて前作『ゲッターロボ』とのつながりを見せる。そしてリョウこと流竜馬と恐竜帝国が再び登場。真の役者が揃い、物語は旧ゲッターチームと恐竜帝国の戦いの渦に、號が巻きこまれる図式に変わる。激戦の中で剴は真ゲッターを通じ、実は〝ゲッターエネルギー〟に意志があることを知る。そして人類の存亡をかけた最終決戦。……最後に何が起こったかについてはご承知のとおり、ここでは書かないでおこう。

こうして十数年のブランクを破り、原作版『ゲッターロボ』は一応完結した。ベンケイは一体？……etc.いくつかの謎とハヤトを残したまま。それはリョウで始まり、そして意外にもリョウで終わったのだった。

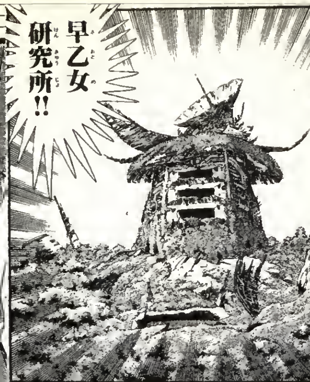
……では最後にアニメ版との共通点をここに記し、このコーナーを終了させて頂く。この2つの作品は、同じタイトルを共有するもののまったくの別物ではあるが、それでもこれだけの共通要素が存在した。

キャラクターについて

●橘博士。NISAR所属の科学者であることはたしかだが、原作版での詳しい役職は不明。ゲッターを造ったことと家族構成は同じようだ。ちなみにNISARは原作版ではネーサー、アニメ版ではネイザーと読む。



初めてその異様を見せた「真ゲッター」。この瞬間、『ゲッターロボ』サーガはまったく新たな局面を迎えることに





ファンを騒然とさせた「真ゲッター2」の登場シーン。この瞬間、『ゲッターロボ』と『魔獣戦線』の世界はリンクした!?



ファン待望の流竜馬再登場シーン。なぜかメカザウルス・モバ戦で受けた顔の傷が復活している

●翔の兄・シンイチ。ランドウとの戦いで死亡し、そのことが翔を戦士として目覚めさせる。原作版は信一だがアニメ版では真一と書く。

●Dr.ポチ。『マシンを愛する者』にしっかり登場している。残念ながらセリフはない。

ゲッターロボについて

●背中のローターとGアームライザーの存在を除けば、原作もアニメもほぼ同じ。どちらもゲッター線は使ってないようだ。ただし原作版では合体後のロボット形態もそれぞれゲッター1、ゲッター2……と呼ぶのでかなりまぎらわしい。

メタルビーストについて

●〝メタルビースト〟という呼称は同じ。『プロフェッサーランドウ』に登場したメタルビーストは、アニメ版2話「バトルヘリ攻防戦」で登場した〝クラブ〟と同型。また原作の〝ガローンZ54〟は、アニメ版49話「脅威!!邪帝復活」で〝ガローン〟という名で登場。それぞれデザインは微妙に異なる。

展開について

●ゲッターロボのパワーアップ。……というよりも、真ゲッター1＝スーパーゲッター1号と考えたほうが正解かも知れない。

●ランドウの失脚。飼い犬に噛まれ死ぬ。ここで真の敵が登場し、物語は急展開となる。

……以上。他に存在する可能性もあるが、今思いついたものだけ書いたので、その辺はあしからず。



原作版『ゲッターロボ號』COMICリスト

章	サブタイトル	登場メタルビースト	登場メカザウルス	連合軍メカ
PART. 1	狙われた男	人間型メタルビースト		
PART. 2	プロフェッサーランドウ	水中用メタルビースト、蛇牙城(ベガゾーン)、病院のメタルビースト、他メタルビースト多数		
PART. 3	鋼鉄の戦士	空爆ビースト（3匹）		
PART. 4	マシンを愛する者	水中用メタルビースト		
PART. 5	ショーの始まり	メタルビースト多数		
PART. 6	反逆	ＡＶ58多数		
PART. 7	戦場の放浪者	ギャロＰ24多数、ドラゴンタートル、メタルビースト・バトルギガー、他メタルビースト多数		
PART. 8	降伏か死か	名称不明メタルビート軍団(以下)		ステルバーα－04（アメリカ陸軍）
PART. 9	ノラ犬たちの群れ	メタルビースト多数		
PART. 10	作戦	空爆ビースト、他メタルビースト多数		
PART. 11	ダグ・スネーク渓谷	メタルビースト・ガローンＺ54、嵬膺屠(ギガント)Ｘ２嵬膺屠Ｘ３、娥瑠萬(ガルマン)Ｂ25、尾蚓(ビーイン)ＲＸ1、他メタルビースト多数		ロボスーンＴ520(カナダ陸軍)、ＢＢ５(イギリス陸軍)、グスタフＨ24(ドイツ陸軍)、テキサス(アメリカ陸軍)
PART. 12	新たな敵			ビィートＴ23(アメリカ陸軍)
PART. 13	空飛ぶクジラ	メタルビースト多数		クジラ2005Ｄ(日本/ネーサー)
PART. 14	兄と妹	〃		
PART. 15	ゲッター復活!!	〃		
PART. 16	誤った決断	〃		
PART. 17	アラスカ最大の戦い	〃		
PART. 18	ドラゴン対テキサス	〃		
PART. 19	再び日本へ	ＡＶ58（多数）		
PART. 20	眠れる勇者	メタルビースト多数		ステルバーＦ24(アメリカ陸軍)、ステルバーＦ28(〃)、バロンフ8000Ｄ(ロシア連邦)、ボルガ80000(ロシア連邦)、グレムル20ＭＤ(ロシア連邦)、自強(じきょう)70型(中国人民解放軍)、キングダム007(ダブルオーセブン)(イギリス海軍)
PART. 21			翼竜型メカザウルス	雷鉤(ライコー)2400(中国軍)、ロボスーン型１体(名称不明)
PART. 22	ハ虫人類の出現	デビラ・ムウ		
PART. 23	グリーンアース教	中型メカザウルス多数		
PART. 24	再会	〃		
PART. 25	恐竜帝国の復活		昆虫の大群、トンボ型メカザウルス	ステルボンバー4000（アメリカ）
PART. 26	ストナー・サンシャイン		昆虫の母艦	
PART. 27	女帝・ジャテーゴ	〃	メカザウルス多数	名称不明機多数
PART. 28	進化の時	〃	〃	
PART. 29	最後の戦い	〃	〃	
PART. 30	すべてはここから…	〃	ジャテーゴ専用メカザウルス	

幻の扉ページ再録! PART-3

MABOROSHI

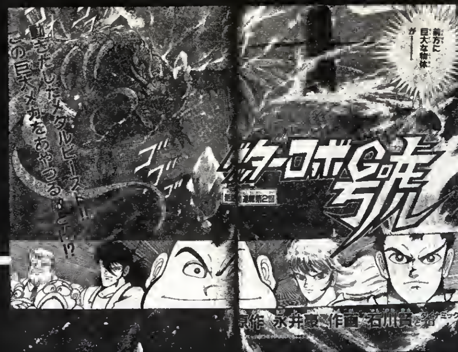
以下に再録する『ゲッターロボ號』の扉ページは、『月刊少年キャプテン』（徳間書店）連載時のものである。現在、『キャプテン』版の扉絵に関しては、そのほとんどが大都社より発行中の単行本に収録されているが、編集サイドによる熱気のこもった「キャッチコピー」は当然のごとく削除されている。そこで今回、連載時の興奮を呼び覚ますなによりの資料として、それら“傑作コピー”の入った扉絵を一堂に会して復刻掲載する。各人各様の、連載当時の熱気を思い出す“引き金”になれば幸いである。



91年1月号



91年2月号



91年3月号



91年5月号



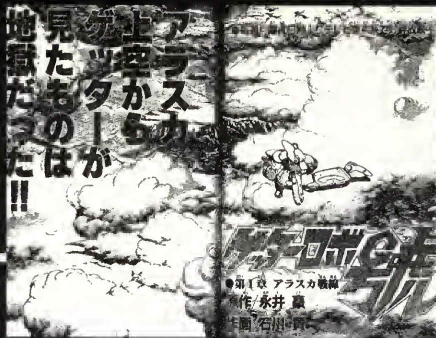
91年4月号



91年7月号



91年6月号



91年8月号



91年9月号



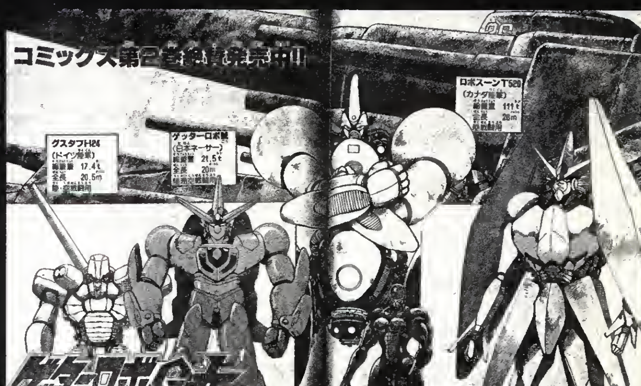
91年10月号



91年11月号



91年12月号



92年1月号



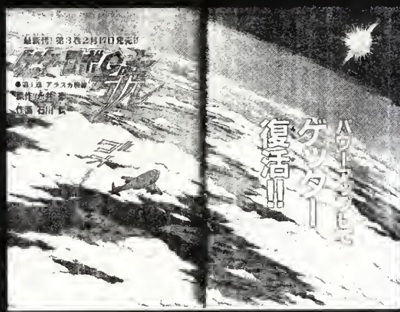


92年2月号

92年5月号



92年4月号



92年3月号



92年6月号



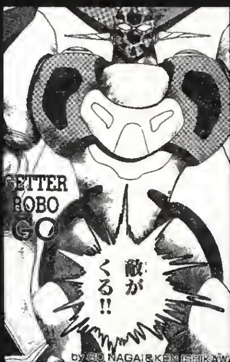
92年7月号



92年 8 月号



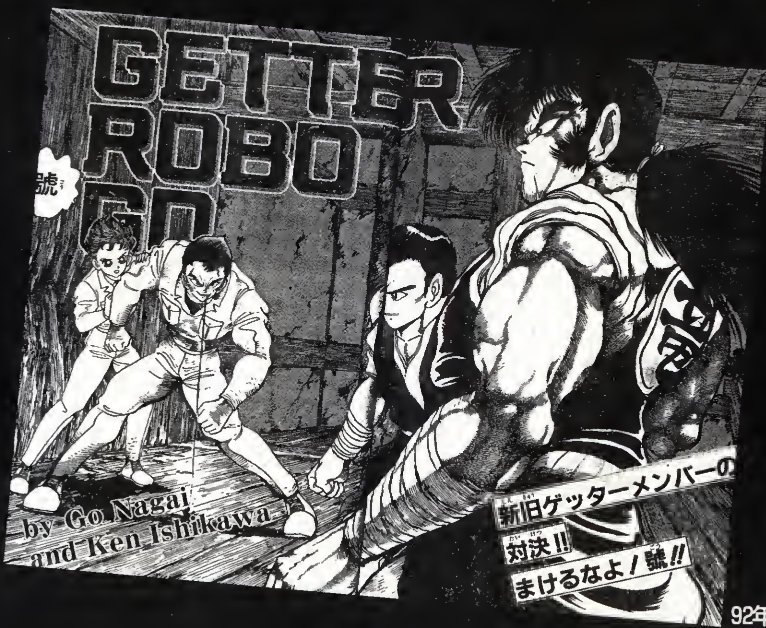
92年11月号



92年 9 月号



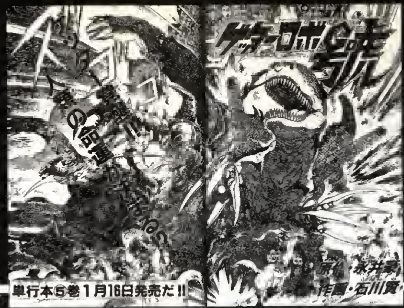
92年12月号



92年10月号



93年4月号



93年2月号



93年1月号



93年3月号



93年5月号

『月刊少年キャプテン』
91年2月号～93年5月号掲載

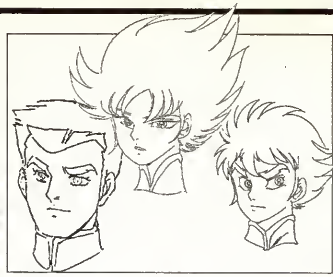
TVアニメ版『ゲッターロボ號』の世界

新たな可能性に挑戦したもう一つのゲッター世界

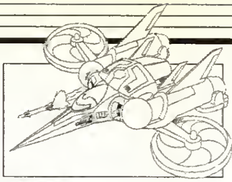
大門 豊

TV版「ゲッターロボ號」は原作版と違い「ゲッターロボ」の続編ではなく、完全なオリジナルとして制作された。そのため旧作を踏襲しているのはタイトルと、主役ロボの合体システムのみに留まっている。

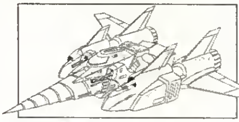
世界各国に突如として現われ、都市を破壊するメタルビースト。世界征服をもくろむプロフェサー・ランドウの宣戦布告だ。だが国連の軍用兵器では、G鉱石で造られたメタルビーストには歯が立たない。防衛庁はNISERの宇宙開発用ロボット・ゲッターロボに出撃を要請する。同じG鉱石で造られたゲッターならば、メタルビーストと互角に戦えるからだ。だがNISERの所長・橘博士はそれを拒み続ける。平和利用に造ったゲッターを戦争に使いたくはないのだ。しかしテストパイロットの一文字號は博士を説得し、武装もないままゲッターロボに乗り込み戦場に向かう。そして仲間の援護により、メタルビーストにからくも勝利するのだった。



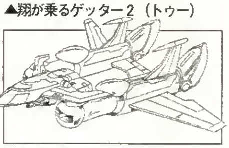
▶右から主人公の一文字號。橘博士の娘で紅一点の橘翔。正義感の強い大道剴



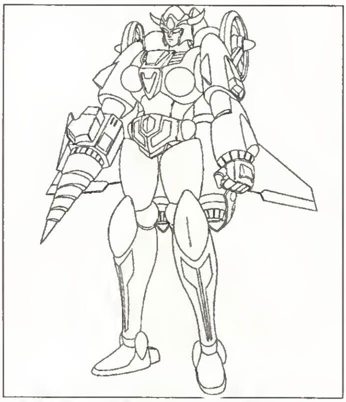
▲號が乗るゲッター1



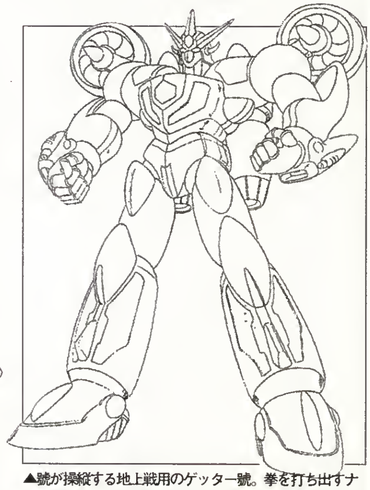
▲翔が乗るゲッター2（トゥー）



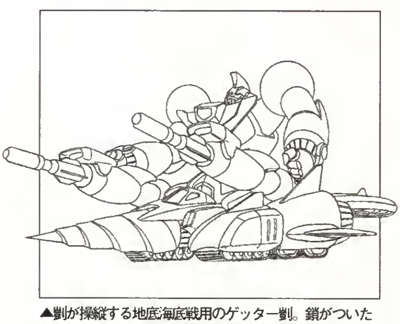
▲剴が乗るゲッター3



▲翔が操縦する空中戦用のゲッター翔。胸から打ち出すブレストボンバー。新体操のリボンのようなストリングアタック。右手のドリルで敵に突っ込むトルネードアタックが武器

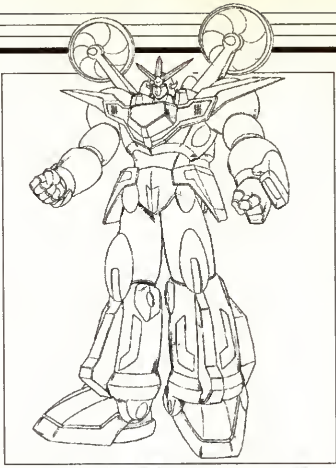


▲號が操縦する地上戦用のゲッター號。拳を打ち出すナックルボンバー。背中のローターから出る光線・マグフォーンサンダー。ローターを外して投げるブーメランソーサーが武器

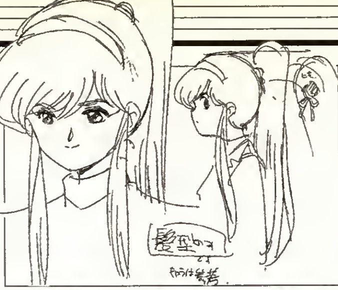


▲剴が操縦する地底海底戦用のゲッター剴。鎖がついたミサイルのハープンキャノンと通常弾のインパクトキャノン。胸から放射する熱光線・ブレストビームが武器。3体とも原作版と若干デザインが異なる

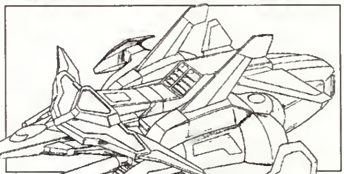
以上が第1話のストーリーだ。ここに登場するゲッターロボは武器もなければ、分離・変型もしない肉弾戦ロボットで、ゲッター線という宇宙線も出てこない。また、ボディにG鉱石（磁鉱石という別名もある）という超合金を使う設定や、戦いの中で武装を強化してゆく展開は「マジンガーZ」を思わせる。やがて11話を経て3機合体になり、31話で新たな敵ナルキスの出現。32話でパワーアップとして新装備Gアームライザーが登場し、そして45話でランドウを倒したナルキスが真の敵となり、ストーリーは最終決戦へ向かってゆく。



▲Gアームライザーを装着したスーパーゲッター號。これによりエネルギーが増幅され、G鉱剣ソードトマホークを使うことができるようになった。32話から登場



▲G鉱剣を開発した吉井博士の娘・レミ。最重要キャラ

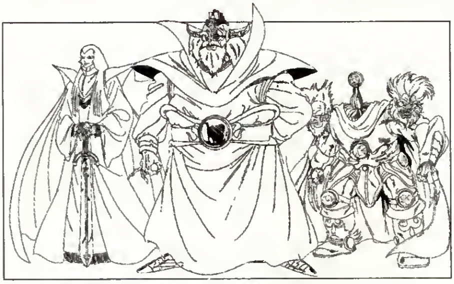


▲エネルギー増強プロテクター・Gアームライザー

当時の評価はあまり高いとは言えず、敵のインパクトが「進化したハ虫類」や「実在した鬼」に比べると弱いことや、初期の地味な展開について来れなかったアニメファンも多かったようだ。旧作と比べられてしまうのがリメイク作品の宿命だが、「ゲッターロボ」で「マジンガーZ」するという図式は面白い試みだったと思う（ストレートすぎるがゆえに誰も考えなかったはず）。本年10月には東映ビデオからLDも発売されるので、これを機会に再評価されてもよいとは思うのだが……。



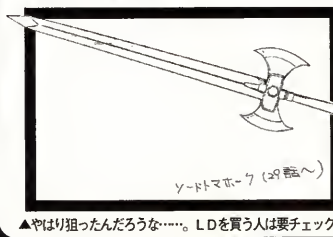
▲後半から登場したナルキス。超能力を使ってゲッターを苦しめたが、その正体は最後まで判らなかった。後ろの大女は侍従のディアナ



▲ランドウ（中）と、彼の造った人工人間ラセツ（左）にヤシャ（右）

「トマホォーク、ブゥーメラン!」

「ゲッターロボ號」で唯一、神谷明氏にこのセリフを言わせた話がある。46話「ナルキス、新たなる挑戦」で、なんとゲッター剴がソードトマホークを投げるシーンがあるのだ！



▲やはり狙ったんだろうな……。LDを買う人は要チェック!!



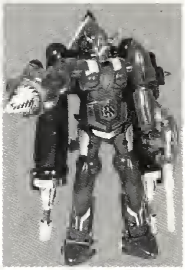
▲ランドウのメカ要塞・蛇牙城（ベガゾーン）。元来はG鉱石採掘所であるポーラステーションだった。前半のキーとなるG鉱石はここでしか取れないという設定

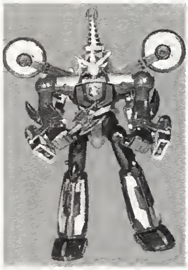
大雪山にアイテムを見た③
『ゲッターロボ號』編

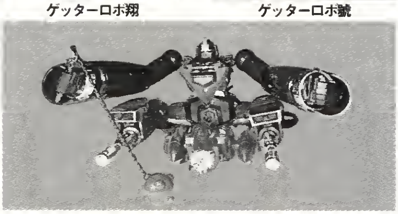
『ゲッターロボ』ファンなら誰もが幼少のころに夢見た完全合体・変形。それを実現させるべく企画されたのが"新ゲッター・サーガ"である『ゲッターロボ號』だった。そんな誕生背景を持つだけあって『號』に関連したフィギュア系アイテムのほとんどが"完全合体・変形"を実践している。その分、デザインに制約が生まれることになってしまったものの、やはり3機に合体・変形する「ゲッターロボ」にファンは狂喜したものだ。なお、本作の玩具に関する商品展開はスポンサーでもある「ユタカ」によって行われた。

スーパー合体ゲッターロボ號

ネイザーが開発した新たな攻撃兵器にしてゲッターロボ號の武装兵器でもある「Gアームライザー」の登場と同時に発売された究極の『ゲッターロボ號』アイテム。ゲッター1、2、3を駆使しての號、翔、剴への完全変形。さらには、アームライザーの分離・装着による最終戦闘形態をテレビどおりに完全再現している。なお、ファンの熱烈なラヴコールに応えて今秋、再販が決定。9月下旬より店頭に並ぶので必ずやGETせよ！


ゲッターロボ翔

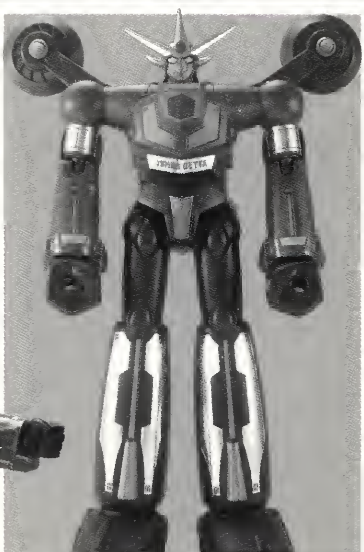

ゲッターロボ號

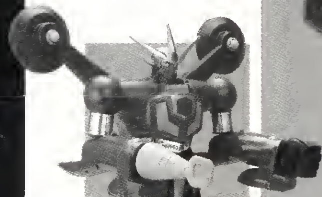

ゲッターロボ剴

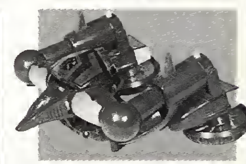

スーパーゲッターロボ號

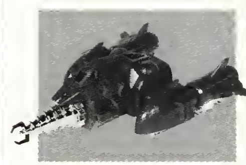
ジャンボゲッター

ジャンボマシンダーを意識したビッグサイズのゲッター號。残念ながら他の2体は造られなかったため、本家のようなムチャな合体を楽しむギミックはついていない。また後半の主役メカであるスーパーゲッターロボ號は商品化されなかった




背中のドリルを手から発射できる。残念ながらマシンダーの武器は装着できない


ゲッター1


ゲッター2


ゲッター3

石川賢 INTERVIEW

石川賢、『ゲッター』を語る。

インタビュアー／大和　光

（128ページから続く）

――会心の作というのは、『ゲッターロボ』『G』もふくめてということですか？

石川　そうです。さっきも言ったとおり『ロボ』とか『G』のころっていうのは、連載に間に合わせるだけで精いっぱいでなにがなんだかわからなかったんです。キャラクターの描き方やなんかがようやくわかってきたのは『號』になってからですね。

――それは意外ですねぇ。

石川　あそこで各国のロボットがいっぱい出てきて「ああキャラクターっていうのはこう描けばいいんだ」、キャラクターを描く面白さみたいなものがわかった気がして……。これだったら「しばらくは主人公を置き去りにしてもいいかな？」と思って。わりかし僕の作品っていうのは、主人公がストーリーをグイグイ引っ張っていくパターンが多いんで、これはけっこう珍しいことでしたね。

――それで號は、しばらく〝ビィート〟でがんばることになっちゃったんですね（微笑）。話は飛びますが、「真・ゲッター」の登場は最初から構想があったんでしょうか？

石川　初っ端にハヤトを出して……まァ、「早乙女研究所を受け継ぐのはハヤトしかいないな」と思って……リョウはあのとおりの性格ですしね（微笑）。描き進めていくうちに「前のゲッターはいまどうなっているんだろう？」って思ってきて……。だから最初、ハヤトを出した時は、他のことはまったく考えてなかったですね。

――ではもちろん、ベンケイも？

石川　もう全ッ然（微笑）。

――早乙女博士たちは死んだのではなく進化したということですよね？

石川　それ以上ツッコまれると僕も困るんで……実は僕もわかってないんですよ（微笑）。

――わかりました（微笑）。それでは、お話を「真・ゲッター」に戻して……『號』はアニメが終わってからも連載がしばらく続きましたね。

石川　テレビが終わって、漫画も終わるって話も出たんだけど、最後まできっちり描かせてほしいってお願いして……それで「真・ゲッター」を出したんですよね。まさかそれを新たに描くことになるとは思ってませんでしたが。

――『スーパーロボット大戦COMIC』ですね。

石川　やっぱりこのままいくとゲッターは生物に進化していくんだろうなァ……。

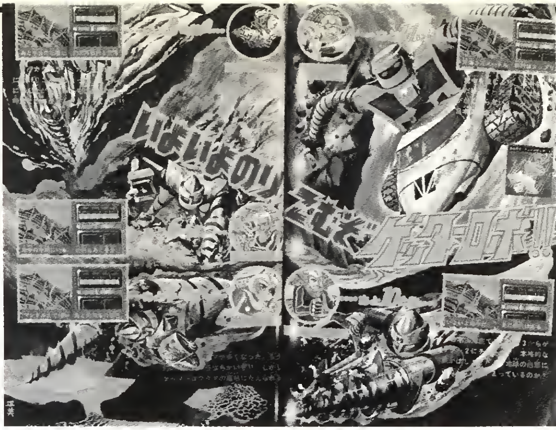
――機械の究極の進化は生物ということですね？　それでは本日はお忙しいところをありがとうございました。

（98年8月3日　於　東京・ダイナミックプロ）



連載当時『少年キャプテン』に掲載された『ゲッター號』の単行本の宣伝ページ。燃える広告だ！

『ゲッターロボ』『ゲッターロボG』
『テレビランド』掲載 カラーグラビアの世界



75年3月号



76年3月号

少年の夢を紡ぐ "カラーグラビア"

大久保一光

本作『ゲッターロボ』及び続編『ゲッターロボG』は学年誌、児童誌で各々コミカライズ作品が連載され、カラーグラビアや情報コーナーが誌上をにぎわせていた。

ここでは放送当時、1974年4月号から1976年3月号までの2年間。『テレビランド』（徳間書店）に掲載された特集記事を中心として、関連記事目録とともに主だった特集の内容について紹介したいと思う。

まず、『ゲッターロボ』が初顔見せとなったのが74年4月号の新番組紹介ページ。そして翌月、5月号からはつねに5ページ以上の特集スペースが設けられていった。

74年5、6月号ではヒーロー・ロボットであるゲッターや同、9月号の早乙女研究所、7月号では敵・恐竜帝国の紹介など、放送序盤の6ヶ月間はメカやキャラの紹介に徹しているが、74年11月号から作品のストーリー進行に合わせたトピックが、グラビアとして扱われるようになっていく。この11月号では、テレビシリーズ第30話「フェニックスが甦る時」で行われた有視界操縦への改造を、「ゲッターの弱点を大改造!!」というタイトルで採り挙げている。以降、74年12月号「ゲッターの強力なみかたナバロン砲とは!」、75年5月号「新ゲッターロボついに完成!!〜」などで、同様のパワーアップに関連した特集記事が組まれた。

また、75年8月号では11ページという、かなりの

※本来このページは記事の性質上、ここに入るべきものではありませんが、ページ構成の関係からこうなってしまったことをお詫びすると同時にどうかご了承願います。

『ゲッターロボ』『ゲッターロボG』『テレビランド』主要関連記事目録

掲載号	特集タイトル	備　　考	総数	カラー
'74年4月号	新しい仲間たち	新番組紹介	1/2P	1/2P
5月号	新登場！　ゲッターロボのすべて	構成・絵／ダイナミックプロ	7P	4P
6月号	ゲッターロボ合体のなぞゲッターロボもう一つの強力武器　ほか		8P	4P
7月号	特報!!　恐竜帝国をあばく！	絵／岡崎甫雄、鎌田忠春	5P	5P
8月号	これがゲッターロボの操縦方法だ!!	ゲッターロボ操縦法図解	5P	5P
9月号	ゲッター基地のひみつ	早乙女研究所の特集と図解	7P	7P
10月号	馬力アップだ！　ゲッターロボ	絵／岡崎甫雄	5P	5P
	流竜馬があかす早乙女研究所の宇宙計画！		5P	
11月号	ゲッターの弱点を大改造!!　ほか	絵／岡崎甫雄	5P	5P
12月号	ゲッターの強力なみかたナバロン砲とは！　ほか	絵／渡辺正美	5P	5P
'75年1月号	ゲッターロボ・パイロットテスト　もしきみがゲッターロボを操縦したら?	絵／池松均	5P	5P
	ゲッターロボ・パイロットテスト　こたえのページ、メカザウルス情報		2P	
2月号	帝王ゴールの三大作戦地獄へ行け！　ゲッターロボ!!	構成／今道英治　絵／渡辺正美	5P	5P
3月号	恐竜帝国探検記！　ほか	絵／渡辺正美	5P	5P
	これがゲッターロボ　恐竜帝国のすべてだ	構成／不知火プロ　絵／成井紀郎	13P	
4月号	新ゲッターロボをつくれ！　ほか	絵／池松均	8P	4P
5月号	新ゲッターロボついに完成!!　早乙女博士がかたる新ゲッターの威力!!	絵／岡崎甫雄	5P	5P
6月号	新ゲッターロボ合体のしくみ!!	絵／岡崎甫雄	5P	5P
	ムサシの体あたり攻撃で恐竜帝国ついに絶滅!!		2P	
7月号	ゲッターロボG　つよいぞ！　ドラゴン　ほか	新ゲッターロボの性能紹介	7P	3P
8月号	グレート・マジンガー対ゲッターロボG空中大激突!!	絵／渡辺正美、岡崎甫雄、今道英治	11P	8P
9月号	ゲッターロボG百鬼帝国とは!?	百鬼帝国内部図解　ほか	4P	4P
10月号	ゲッターロボ・G大強化!!	シャインスパーク登場に合わせた紹介記事	7P	
11月号	これが新・早乙女研究所だ!!	新・早乙女研究所の特集記事	2P	2P
	新・早乙女研究所の内部にはいる!!		5P	
12月号	弱点はここだ！　ゲッターロボ・G	構成・カット／不知火プロ	5P	
'76年1月号	早乙女博士が考えた百鬼かいめつ作戦!!　ゲッター攻撃開始!!　ほか		4P	
2月号	百鬼帝国の要塞島を倒せ！　早乙女博士が語る秘密作戦！	テレビ番組表ページ内	1.25P	
3月号	ゲッターロボ・G百鬼帝国の大反撃！	絵／岡崎甫雄	2P	2P

綴じこみ付録

'75年8月号	ゲッターロボGの新しい仲間　その名は車ベンケイブロマイド
'76年1月号	ヒーローブロマイド　ゲッターロボG
2月号	1976占いつき人気者ブロマイド　ゲッターロボG
3月号	人気ヒーローめんこブロマイド　ゲッターロボG

ボリュームでゲッター登場の劇場版、二作目にあたる「グレート・マジンガー対ゲッターロボG　空中大激突」の特集を大々的に採り挙げ、これを渡辺正美、岡崎甫雄、今道英治ら、『テレビランド』でゲッターのグラビアを支えた三氏が競演するという豪華な内容で盛り上げていた。

さらに注目したいのが、当時のスーパーロボット（メカニック）ものの定番とも言える操縦法伝授の特集だ！　74年8月号「これがゲッターロボの操縦法だ!!」は、コクピットのボタン配置や、何をどうすればこう動く、と後のリアルロボット系にも負けない詳細な図解と解説が掲載されており、いまさらながらに驚かされる充実した内容となっている。同様の特集記事としては、75年1月号「ゲッターロボ・パイロットテスト」があった。

イラストレーターに関しても岡崎甫雄が主戦力として奮闘しているほか、同誌で『グレートマジンガー』（74年）のコミカライズを手掛けた今道英治が75年2月号で構成とイラストレーターとして、先ほどもふれた通り同年8月号ではイラストレーターとして参加。75年3月号では、『宇宙鉄人キョーダイン』（76年）などで知られる成井紀郎が1色1／3、短冊サイズの特集ページでイラストを書き下ろしているなど、興味深い漫画家の名も見受けられる。

最後に今回、編集スケジュールの都合上、学年誌や他児童誌の関連記事やコミカライズ作品の詳細なDATAを調査・掲載できなかったことをお断りすると同時に、いずれ必ずそれらを白日のもとにさらす機会をつくることをお約束して本稿のしめくくりにしようと思う。

渡辺宙明INTERVIEW

「あえて旧作を意識するのはやめました」

『ゲッターロボ號』音楽

インタビュアー／大和 光

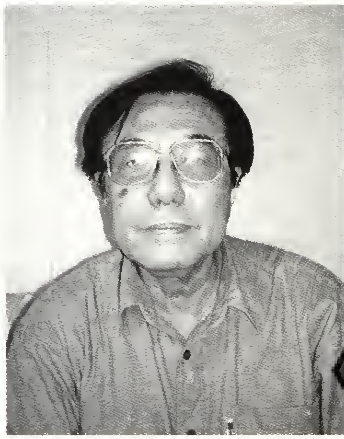
RESPECT 渡辺宙明

――まず、渡辺さんが『ゲッターロボ號』の音楽を担当されることになったいきさつを伺わせて下さい。

渡辺 『ゲッターロボ號』の製作が決定する少し前に、東映動画の横山（賢二）さんのほうから「『マジンガーZ』の新作を創りたい。もし製作が決まったらぜひ音楽をお願いしたい」という打診を頂いていたんですよ。しばらくして再び連絡があった時には、諸般の事情で映像化には至らなかったらしく『ゲッターロボ』の新作に替わっていたんです。その時点では、主題歌は別の人でいく。音楽だけ私に頼みたいということになっていました。

――当初、主題歌は新進のロックバンドが歌っていましたね。

渡辺 ええ。あのころは、ああいったタイアップがいちばん盛んな時期でしたからね。最近はそうでもないようですが。それで1クール（13本）の放送が終わった時点で、やはり主題歌も私の曲でいきたいと申し出がありまして、主題歌を変えたんです。水木（一郎）さんが歌うことになって、挿入歌も7曲作りました。



――作曲をされるにあたって旧作の『ゲッターロボ』はご覧になられました？

渡辺 いや、観てません。あえて旧作を意識するのはやめました。私、旧作はまったく観たことがないんですが、『マジンガーZ』と並ぶロボットアニメの原点と言われているわけでしょう？　だから自分なりのアプローチで攻めてみることにしました。新しい主題歌に関しては、パンチの効いた部分を活かすようにして作曲しました。BGMについては予算と闘いつつ、華麗な〝ブラス・サウンド〟を追求してみました。演奏は「東室製作」で、スタジオは「大平スタジオ」。トラック・ダウンを「青葉台スタジオ」で行いました。

――実際にオンエアされた作品をご覧になった感想はいかがでしたか？

渡辺 横山さんの企画だけあって『マジンガーZ』っぽいところも多分にありましたよね。でも、『マジンガー』ともちょっと違う世界観で……。キャラクター的には後半に登場したナルキスが印象に残っています。

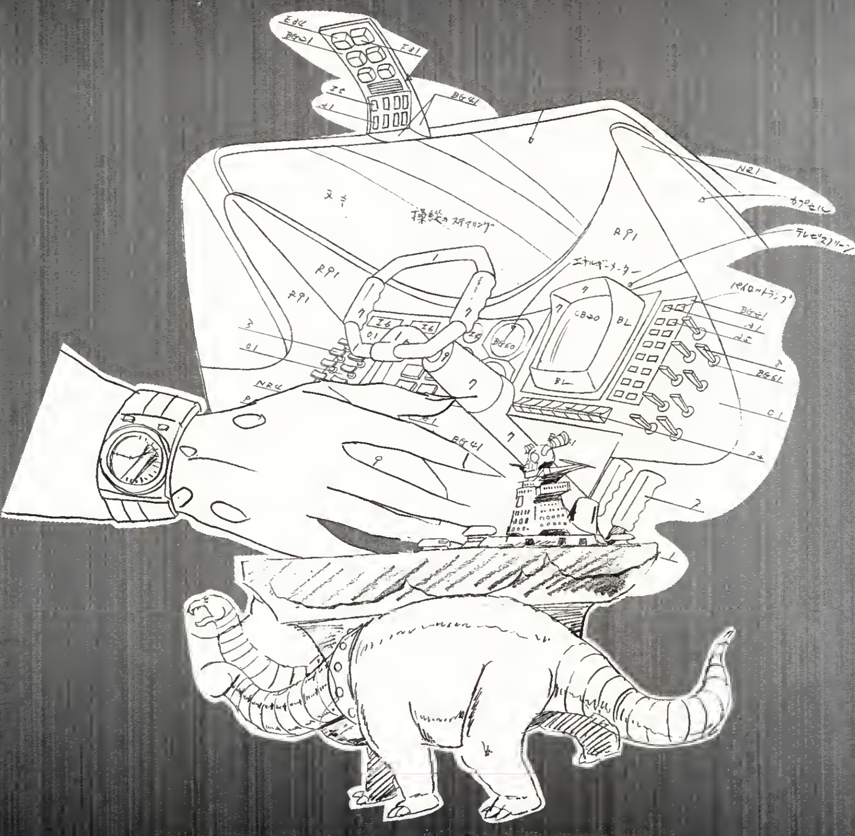
そういえば、挿入歌の1曲を草尾（毅）さんに歌ってもらうことができてよかったと思っています。昨（97）年、やはり草尾さんが主題歌を務めていた『ビーロボカブタック』（テレビ朝日系）という実写作品で草尾さんが作詞した挿入歌を作曲しましたが、彼は非常に歌がウマいですね。

――そうですね。本日はお忙しいところをありがとうございました。

（98年6月12日　於　東京・渋谷　渡辺氏宅）

わたなべ・みちあき：作曲家。8月19日生。名古屋市出身。東京大学卒業後、作曲の道へ。映画『忍びの者』（64年）、テレビ『人造人間キカイダー』（72年）『マジンガーZ』（72年）など代表作あまりにも多数。

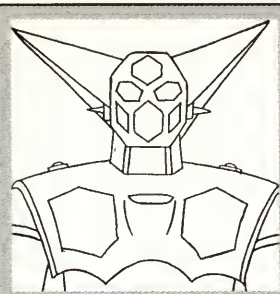
GETTER ROBOT



『ゲッターロボ』&『ゲッターロボG』&『ゲッターロボ號』

スタッフ&キャストリスト

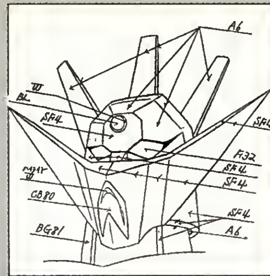
ゲッターロボ
各話スタッフリスト



放映No.	作画	仕上	美術	背景	撮影	編集	製作進行
1	大島聡明、鈴木孝男、坂井゛等、川口栄夫、岡崎　正	平賀豊産、柴　隆之、西正　力、木村文一	辻　忠直	スタジオコスモス 勝又　激	町田賢樹	古村　均	岸本松司、松浦錠平、井上ふみ子
2	小林　一、田代和男、成川裕子、小湊　治、田加木一夫	五十嵐玲子、藤橋清美、新納三郎、岡田良明	福本智雄	アトリエローク 川井　憲	平尾三喜	古村　均	岸本松司、飯岡真理子、的場節代
3	森　利夫、須田　勝、刀根夕子、西沢桂子、上野茂々子	岩切紀親、仲　正美、小野塚玲子、中島正之	伊藤岩光	スタジオコスモス アトリエローク	高橋宏固	古村　均	岸本松司、社方徹夫、的場節代
4	石山卓也、青鉢芳信、石井邦幸、新田寛人、高橋さとみ	森田　博、佐藤章二、増川千鶴子、谷口恭子	福本智雄	スタジオコスモス アトリエローク	武井利晴	古村　均	岸本松司、西村哲一、的場節代
5	友永和秀、林　和夫、柳井　純、荒井　操、川筋　豊	藤本芳弘、柴　隆之、西正　力、佐藤百合子	伊藤岩光	アトリエローク 川井　憲	細田民男	古村　均	岸本松司、井内秀治、的場節代
6	小林　一、田代和男、飯岡真理子、小湊大介、難波　一	奥西紀美子、土田久美子、小椋正豊、浜桂太郎	辻　忠直	スタジオコスモス 勝又　激	目黒　宏	古村　均	岸本松司、成川裕子、的場節代
7	高倉建夫、刀根夕子、西沢桂子、上野茂々子、松本元子	岩切紀親、仲　正美、三輪春美、中島正之	福本智雄	アトリエローク 川井　憲	緒方範生	古村　均	岸本松司、桜井利行、的場節代
8	大島聡明、鈴木孝夫、坂井文雄、岡崎恵三、川口秀夫	黒沢和子、古屋純子、森田　博、佐藤章二	伊藤岩光	アトリエローク 阿部泰三郎	片山章男	古村　均	岸本松司、松浦錠平、的場節代
9	友永和秀、林　和夫、井内秀治、川筋　豊、甘柏真男	藤本芳弘、柴　隆之、西正　力、佐藤百合子	下川忠海	アトリエローク 川井　憲	緒方範生	古村　均	岸本松司、柳井　純、的場節代
10	石山卓也、青鉢芳信、石井邦幸、新田寛人、高橋さとみ	藤本芳弘、柴　隆之、西正　力、木村文一	伊藤岩光	サンアートスタジオ スタジオコスモス	町田賢樹	古村　均	岸本松司、西村哲一、的場節代
11	中村　明、葛岡　博、大曽根真智子、村仲景子、花井由美子	藤本芳弘、柴　隆之、西正　力、道下美裕子	下川忠海	スタジオコスモス 勝又　激	高橋秀行	古村　均	岸本松司、山田美裕、的場節代
12	田代和男、小林慶輝、飯岡真理子、成川弘子	藤本芳弘、柴　隆之、西正　力、道下美裕子	福本智雄	アトリエローク 川井　憲	平尾三喜	古村　均	岸本松司、坂本　岩、的場節代
13	増谷三郎、鹿島恒保、川島　明	藤本芳弘、坂本陽子、浜桂太郎、高橋啓子	伊藤岩光	アトリエローク 川井　憲	武井利男	松原千佳子	岸本松司、猪狩　肇、的場節代
14	菊池城二、段タロウ、西沢桂子、刀根夕子、あきの六段	岩切紀親、仲　正美、小野塚玲子、中島正之	下川忠海	サンアートスタジオ 山口俊和	緒方範生	町田孝子	岸本松司、社方徹夫、的場節代
15	中村　明、村仲啓子、花井由美子、滝川佳子、柳岡　勤	藤本芳弘、柴　隆之、西正　力、佐藤百合子	伊藤岩光	サンアートスタジオ 山口俊和	細田民男	鳥羽亮一	岸本松司、山田美裕、的場節代
16	鈴木孝夫、大島聡明、坂井良雄、笹原　茂、中里愛子	藤本芳弘、柴　隆之、西正　力、木村文一	福本智雄	アトリエローク 阿部泰三郎	片山幸男	本山　収	岸本松司、松浦錠平、的場節代
17	石山卓也、林　和男、石井邦幸、新田寛人、高橋ひとみ	藤本芳弘、柴　隆之、西正　力、道下美智子	福本智雄	サンアートスタジオ アトリエローク	片山幸男	鳥羽亮一	岸本松司、西村哲一、的場節代
18	友永和秀、林　和男、井内秀治、伊藤　泉、川筋　豊	藤本芳弘、柴　隆之、西正　力、木村文一	下川忠海	サンアートスタジオ アトリエローク	菅谷信行	本山　収	岸本松司、柳井　純、的場節代
19	田代和男、小林慶輝、飯岡真理子、成川裕子、小湊　昇	藤本芳弘、浜桂太郎、坂本陽子、長田幸子	伊藤岩光	スタジオコスモス 勝又　激	前橋秀行	鳥羽亮一	岸本松司、坂本　岩、的場節代
20	神田光臣、金沢銅二、木子孝栄、原　昌二	安田泰治、金田明子、梢　吉子、花井千斗子	泰　秀信	木下栄一 安井啓政	金田顕一	田中　修	岸本松司、宮合秀武、的場節代
21	川島　明、鹿島恒保、増谷三郎、	藤本芳弘、柴　隆之、西正　力、佐藤百合子	福本智雄	アトリエローク 川井　憲	町田賢樹	田中　修	岸本松司、猪狩　肇、的場節代
22	中村　明、村仲啓子、大曽根真智子、滝川佳子	藤本芳弘、柴　隆之、西正　力、道下美智子	伊藤岩光	プロダクションアイ アートベアー	平尾三喜	田中　修	岸本松司、山田美裕、的場節代

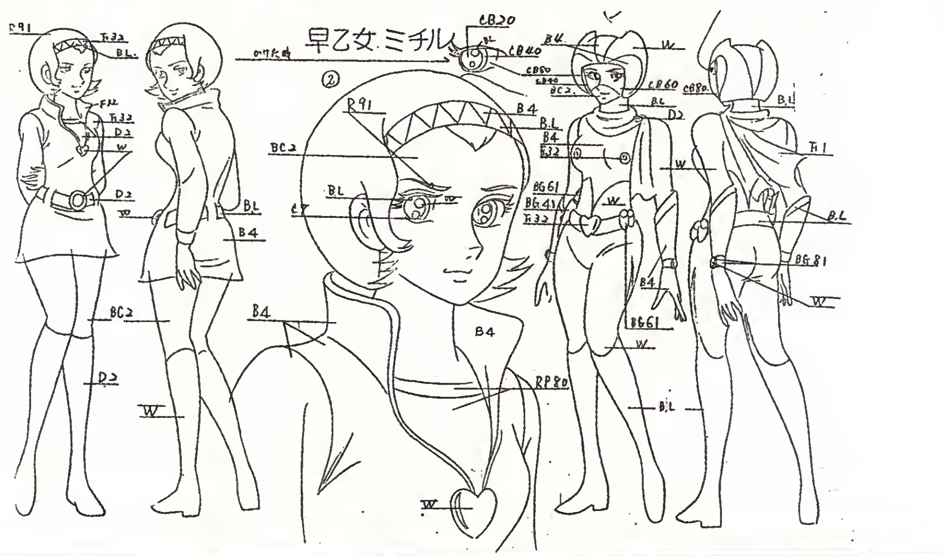
放映No.	作　画	仕　上	美術	背景	撮影	編集	製作進行
23	友永和秀、林　和男、井内秀治、伊藤　泉、川筋　豊	藤本芳弘、小椋正豊、浜桂太郎、宮沢あき子	福本智雄	アトリエローク 阿部泰三郎	佐藤隆郎	田中　修	岸本松司、柳井　純、的場節代
24	後藤静夫、林　和男、鈴木　昇、飯野　孝、井上　慎、桑原玲子	藤本芳弘、高橋達雄、前田剛弘、林　昭夫	福本智雄	アトリエローク 阿部泰三郎	武井利晴	田中　修	岸本松司、坂本　巌、的場節代
25	八武崎好郎、土屋幹夫、楠田　悟、高橋由美子、福地直之	藤本芳弘、仲　正美、三輪春美、中島正之	福本智雄	アトリエローク 川井　憲	緒方範生	田中　修	岸本松司、佐藤しげ子、的場節代
26	鈴木孝夫、葛西　博、坂井文夫、中里あい子、長崎重信	藤本芳弘、スタジオロビン、高橋　章、酒井日出子、杉本隆一	遠藤重義	プロダクションアイ 松原千佳子	細田民男	田中　修	岸本松司、松浦錠平、的場節代
27	田代和夫、小林慶輝、飯岡真理子、成川裕子、小湊　昇	藤本芳弘、高橋　章、前田剛弘、高橋啓子	福本智雄	アトリエローク 阿部泰三郎	目黒　宏	田中　修	岸本松司、坂本　巌、的場節代
28	石山卓也、青鉢義信、石井邦章、新田寛人、高橋由美子	岩切紀親、仲　正美、三輪春美、中島正之	伊藤岩光	プロダクションアイ 現代制作	緒方範生	田中　修	西村哲一、的場節代
29	中村　明、村仲啓子、花井由美子、大曽根真智子、近藤文男	藤本芳弘、スタジオロビン、高橋恵子、富永　勤	遠藤重義	アトリエローク 沼井信明	片山幸男	田中　修	山田美裕、的場節代
30	八武崎好郎、土屋幹夫、楠田　悟、高橋由美子、佐久間信和	藤本芳弘、高橋達雄、前田剛弘、村松錦三郎	辻　忠直	スタジオコスモス 勝又　激	前橋秀行、松原千佳子	田中　修	佐藤しげ子、的場節代
31	段タロウ、木場田実、杉村啓子、西沢桂子、刀根夕子	柴　隆之、中島正之、小野塚玲子、田井由喜子	福本智雄	アトリエローク 阿部泰三郎	緒方範生	田中　修	多田康之、的場節代
32	田代和夫、小林慶輝、飯岡真理子、成川裕子、小湊　昇	藤本芳弘、高橋達雄、前田剛弘、戸塚友子	伊藤岩光	現代制作 プロダクションアイ	町田賢樹	田中　修	坂本　巌
33	鈴木孝夫、葛西　博、坂井文夫、中里あい子、長崎重信	藤本芳弘、高橋達雄、前田剛弘、酒井日出子	辻　忠直	スタジオマンモス 勝又　激	平尾三喜	松原千佳子	松浦錠平
34	石山卓也、青鉢義信、石井邦幸、新田寛人、高橋さとみ	藤本芳弘、スタジオロビン、村松錦三郎、戸塚友子	福本智雄	プロダクションアイ 杉本隆一	武井利晴	田中　修	坂本　巌
35	中村　明、村仲啓子、花井由美子、大曽根真智子、近藤文男	藤本芳弘、高橋達雄、前田剛弘、高橋　章	伊藤岩光	プロダクションアイ サンアートスタジオ	細田民男	松原千佳子	山田美裕
36	八武崎好郎、土屋幹夫、楠田　悟、高橋由美子、佐久間信和	柴　隆之、中島正之、小野塚玲子、田井由喜子	辻　忠直	アトリエローク 阿部泰三郎	目黒　宏	田中　修	片岡修二
37	段タロウ、木場田美、杉村啓子、西沢桂子、刀根夕子	柴　隆之、中島正之、小野塚玲子、田井由喜子	福本智雄	アトリエローク 沼井信明	緒方範生、神原直美	松原千佳子	多田康之
38	小湊　昇、田代和男、飯岡真理子、金田伊助、成川裕子、小林慶輝	藤本芳弘、佐坂仁子、滝沢喜美子、高橋啓子	伊藤岩光	スタジオコスモス 勝又　激	藤橋秀行	田中　修	坂本　巌
39	葛西　博、鈴木孝夫、大島　聡、長崎重信、中里あい子	藤本芳弘、高橋達雄、前田剛弘、酒井日出子	遠藤重義	アトリエローク 工藤剛一	片山幸男	松原千佳子	松浦錠平
40	石山卓也、青鉢芳信、石井邦幸、新田寛人、高橋さとみ	藤本芳弘、加藤順子、中島正之、村松錦三郎	福本智雄	牧野光成 杉本隆一	緒方範生	田中　修	竹澤裕美子
41	中村　明、村仲啓子、花井由美子、大曽根真智子、江藤文男	藤本芳弘、加藤順子、中島正之、林　昭夫	伊藤岩光	アトリエローク 川井　憲	町田賢樹	松原千佳子	山田美裕
42	星野赫子、鈴木孝夫、土屋幹夫、高橋由美子、楠田　悟、佐久間信和	藤本芳弘、中島正之、小野塚玲子、田井由喜子	辻　忠直	アトリエローク 工藤剛一	緒方範生	田中　修	片岡修二
43	葛西　博、鈴木孝夫、大島　聡、長崎重信、中里あい子	藤本芳弘、高橋達雄、前田剛弘、酒井日出子	福本智雄	アトリエローク 阿部泰三郎	平尾三喜	松原千佳子	松浦錠平
44	小湊　昇、田代和男、飯岡真理子、金田伊助、成川裕子	藤本芳弘、高橋達雄、前田剛弘、高橋啓子	辻　忠直	アトリエローク 川井　憲	細田民男	田中　修	坂本　巌
45	青鉢義信、石井邦幸、新田寛人、高橋さとみ、西村啓一	藤本芳弘、中島正之、高橋　章、坂本陽子	伊藤岩光	アトリエローク スタジオコスモス	武井利晴	田中　修	竹澤裕美子
46	星野赫子、土屋幹夫、楠田　悟、佐久間信和、福地信之	藤本芳弘、岡田良明、小川秀子、植松陽子	福本智雄	アトリエローク スタジオコスモス	目黒　宏	田中　修	片岡修二
47	葛西　博、大島　聡、長崎重信、相原信洋、武田政夫	藤本芳弘、高橋達雄、前田剛弘、中島正之	伊藤岩光	アトリエローク サンアートスタジオ	片山幸男	田中　修	松浦錠平
48	金田伊助、田代和男、田辺　了、小湊　昇、飯岡真理子	藤本芳弘、岡田良明、小川秀子、植松陽子	福本智雄	アトリエローク 川井　憲	藤橋秀行	田中　修	成川裕子
49	青鉢義信、新田寛人、石井邦幸、高橋さとみ、今川　忠	藤本芳弘、林富喜江、加藤順子、堀田文子	福本智雄	アトリエローク 高野正直	町田賢樹	松原千佳子	竹澤裕美子
50	金田伊助、田代和男、田辺　了、小湊　昇、成川裕子	藤本芳弘、浜桂太郎、小川秀子、植松陽子	伊藤岩光	スタジオコスモス 勝又　激	平尾三喜	松原千佳子	飯岡真理子
51	葛西　博、大島　聡、長崎重信、相原信洋、後藤紀子	藤本芳弘、平尾千秋、小川秀子、植松陽子	伊藤岩光	アトリエローク 沼井信明	武井利晴	松原千佳子	松浦錠平

ゲッターロボG
各話スタッフリスト



放映No.	作画	仕上	美術	背景	撮影	編集	製作進行
1	石井邦幸、新田寛人、 高橋さとみ　山崎竹道	藤本芳弘、町田良明、 篠永捷子、大塚節子	辻　忠直	スタジオコスモス 勝又　激	前橋秀行	松原千佳子	竹澤裕美子
2	金田伊功、田代和男、 田辺　了、小湊　昇、成川裕子	藤本芳弘、佐藤章二、 小川秀子、植松陽子	伊藤岩光	アトリエローク 阿部泰三郎	平尾三喜	田中　修	高山秀樹
3	泉口　薫、稲野義信、河村信道、 川口栄夫、上野茂々子	中島正之、柴隆之、 田井由喜子、木村真子	内川文広	スタジオコスモス アトリエローク	佐野禎史	田中　修	多田康之
4	葛岡　博、大島　聡、長崎重信、 相原信洋、武田政夫	藤本芳弘、小椋正豊、 林富喜江、金山春江	内川文広	スタジオコスモス 下川忠海	山田順弘	松原千佳子	片岡修二
5	青鉢芳信、石井邦幸、新田寛 人、高橋さとみ、山崎竹道	藤本芳弘、林富喜江、 小川秀子、植松陽子	勝又　激	スタジオコスモス 勝又　激	池田重好	松原千佳子	竹澤裕美子
6	金田伊功、田辺　了、小湊　昇、 飯岡真理子、成川裕子	藤本芳弘、森田　博、 佐藤章二、鈴木悠子	内川文弘	サンアートスタジオ 下川忠海	吉村次郎	松原千佳子	高山秀樹
7	西条　明、村仲啓子、前田康成、 泉口薫、河村信道	柴　隆之、田井由喜子、 小野塚玲子、中島正之	勝又　激	スタジオコスモス 勝又　激	佐野禎史	田中　修	多田康之
8	葛岡　博、大島　聡、長崎重信、 相原信洋、武田政夫	藤本芳弘、浜桂太郎、 小川秀子、植松陽子	川本征平	アトリエローク 阿部泰三郎	町田賢樹	松原千佳子	福島和美
9	金田伊功、田辺　了、小湊　昇、 飯岡真理子、成川裕子	藤本芳弘、坂本陽子、 林富喜江、鈴木京子	勝又　激	スタジオコスモス サンアートスタジオ	平尾三喜	松原千佳子	高山秀樹
10	西条　明、村仲啓子、前田康成、 泉口　薫　河村信道	藤本芳弘、浜桂太郎、 小川秀子、植松陽子	川本征平	アトリエローク 川井　憲	佐野禎史	松原千佳子	多田康之
11	金田伊功、田辺　了、小湊　昇、 飯岡真理子、成川裕子	藤本芳弘、高橋達雄、 中島正之、前田剛弘	川本征平	アトリエローク 川井　憲	寺尾三千代	松原千佳子	高山秀樹
12	青鉢芳信、石井邦幸、新田寛 人、高橋さとみ、山崎竹道	藤本芳弘、林富喜江、 小川秀子、植松陽子	勝又　激	スタジオコスモス アトリエローク	佐藤隆郎	松原千佳子	竹澤裕美子
13	西条　明、村仲啓子、前田康成、 泉口　薫、河村信道	柴　隆之、中島正之、 木村真子、金子美佐江	川本征平	アトリエローク 川井　憲	佐野禎史	松原千佳子	多田康之
14	青鉢芳信、石井邦幸、新田寛 人、高橋さとみ、山崎竹道	藤本芳弘、浜桂太郎、 新納三郎、原　芳子	勝又　激	スタジオコスモス	菅谷信行	松原千佳子	竹澤裕美子
15	友永和義、葛岡　洋、長崎重信、 後藤紀子、山内昇寿郎	藤本芳弘、岡田良明、 小川秀子、植松陽子	川本征平	アトリエローク 沼井信朗	佐藤隆郎	松原千佳子	福島和美
16	金田伊功、田辺　了、小湊　昇、 飯岡真理子、成川裕子	藤本芳弘、坂本陽子、 林富喜江、石川朗子	内川文広	アトリエローク 阿部泰三郎	前橋秀行	松原千佳子	高山秀樹
17	中村　朗、村仲啓子、椎谷　繁、 大曽我真智子、加藤良子	柴　隆之、木村真子、 榧木真弓、中島正之	福本智雄	スタジオコスモス 勝又　激	佐野禎史	松原千佳子	多田康之
18	石井邦幸、新田寛人、 高橋さとみ、長谷川知子	藤本芳弘、高橋達雄、 中島正之、前田剛弘	川本征平	アトリエローク 阿部泰三郎	白井久男	松原千佳子	竹澤裕美子
19	内山正幸、川筋　豊、林　和男、 甘粕浩滋、鍋島初恵	岡田良明、平尾千秋、 浜桂太郎、後藤幸子	内川文広	アトリエローク 沼井信朗	池田重好	松原千佳子	福島和美
20	金田伊功、田辺　了、小湊　昇、 飯岡真理子、成川裕子	藤本芳弘、高橋達雄、 中島正之、前田剛弘	下川忠海	アドコスモ 襟丘智子	吉村次郎	松原千佳子	高山秀樹
21	内山正幸、川筋　豊、林　和男、 甘粕浩滋、鍋島初恵	藤本芳弘、加藤順子、 堰合　昇、吉田了子	川本征平	アトリエローク 川井　憲	町田賢樹	松原千佳子	井内秀治
22	内山正幸、鈴木孝夫、笠原良 夫、堺　武男、西村哲一	藤本芳弘、高橋辰雄、 中島正之、前田剛弘	川本征平	アトリエローク 高野正道	清水政夫	松原千佳子	福島和美

放映No.	作　画	仕　上	美術	背景	撮影	編集	製作進行
23	石井邦幸、新田寛人、高橋さとみ、長谷川知子	藤本芳弘、中島正之、堀田文子、篠永捷子	下川忠海	スタジオコスモス アトリエローク	前橋秀行	松原千佳子	竹澤裕美子
24	金田伊功、田辺 了、小湊 昇、飯岡真理子、成川裕子	藤本芳弘、岡田良明、坂本陽子、大堀陽子	内川文広	アトリエローク 阿部泰三郎	寺尾三千代	松原千佳子	高山秀樹
25	内山正幸、鈴木孝夫、笠原良夫、堺 武男、西村哲一	藤本芳弘、中島正之、大塚節子、吉田了子	川本征平	アトリエローク 高野正道	山田順弘	松原千佳子	福島和美
26	石井邦幸、新田寛人、高橋さとみ、長谷川知子	藤本芳弘、高橋辰雄、中島正之、前田剛弘	内川文広	アトリエローク 川井 憲	池田重好	松原千佳子	竹澤裕美子
27	内山正幸、川筋 豊、林 和男、甘粕浩滋、鍋島初恵	藤本芳弘、岡田良明、加藤順子、篠永捷子	川本征平	アトリエローク	町田賢樹	松原千佳子	井内秀治
28	金田伊功、田辺 了、小湊 昇、飯岡真理子、成川裕子	藤本芳弘、高橋辰雄、中島正之、前田剛弘	千葉秀雄	アトリエローク 川井 憲	菅谷信行	松原千佳子	高山秀樹
29	石井邦幸、新田寛人、高橋さとみ、長谷川知子	藤本芳弘、岡田良明、堀田文子、大塚節子	内川文広	遠藤重義 下川忠海	清水政夫	松原千佳子	竹澤裕美子
30	内山正幸、鈴木孝夫、笠原良夫、堺 武男、西村哲一	藤本芳弘、高橋辰雄、中島正之、前田剛弘	川本征平	アトリエローク 笠原淳二	前橋秀行	松原千佳子	井内秀治
31	奥山玲子、的場茂夫、坂野隆雄、小林敏明、薄田嘉信	藤本芳弘、加藤順子、岡田良明、吉田了子	内川文広	アトリエローク 川井 憲	山田順弘	松原千佳子	福島和美
32	内山正幸、川筋豊、林和男、甘粕浩滋、鍋島初恵	藤本芳弘、高橋辰雄、中島正之、前田剛弘	川本征平	アトリエローク 高野正道	池田重好	松原千佳子	井内秀治
33	森秀樹、金山通弘、服部昭夫、石山毬緒、金山圭子	藤本芳弘、岡田良明、篠永捷子、堀田文子	内川文広	アトリエローク 川井 憲	清水政夫	松原千佳子	福島和美
34	金田伊功、田辺了、小湊昇、飯岡真理子、成川裕子	藤本芳弘、高橋辰雄、中島正之、前田剛弘	川本征平	アトリエローク 川井 憲	吉村次郎	松原千佳子	高山秀樹
35	内山正幸、鈴木孝夫、笠原良夫、堺 武男、西村哲一	藤本芳弘、中島正之、堀田文子、篠永捷子	千葉秀雄	アトリエローク 高野正道	山田順弘	松原千佳子	高山秀樹
36	阿部 隆、小川明弘、小林敏明、坂野隆雄、臼田嘉信	藤本芳弘、高橋辰雄、中島正之、前田剛弘	川本征平	アトリエローク 笠原淳二	片山幸男	松原千佳子	福島和美
37	奥山玲子、田村晴夫、服部照夫、石山毬緒、金山圭子	藤本芳弘、高橋辰雄、中島正之、前田剛弘	川本征平	アトリエローク 笠原淳二	前橋秀行	千蔵 豊	福島和美
38	金田伊功、田辺 了、小湊 昇、飯岡真理子、成川裕子	藤本芳弘、堀合昇、大塚節子、加藤順子	内川文広	アトリエローク 川井 憲	片山幸男	松原千佳子	高山秀樹
39	金田伊功、田辺 了、小湊 昇、飯岡真理子、成川裕子	藤本芳弘、中島正之、篠永捷子、堀田文子	川本征平	アトリエローク 笠原淳二	菅谷信行	千蔵 豊	高山秀樹



ゲッターロボ ゲッターロボG 放映リスト

『ゲッターロボ』

話数	サブタイトル	放映日	脚本	演出	作画監督
1	無敵！ゲッターロボ発進	9. 4／ 4	上原 正三	勝間田具治	小松原一男
2	決戦！三大メカザウルス	11	上原 正三	生頼 昭憲	野田 卓雄
3	恐竜帝国レインボー作戦	18	上原 正三	川田 武範	森 利夫
4	燃える血潮の南十字星	25	上原 正三	落合 正宗	伊賀 章二
5	闇をつらぬけゲッターチーム	5／ 2	雪室 俊一	山口 康男	小松原一男
6	恐竜！東京ジャック作戦	9	田村多津夫	生頼 昭憲	野田 卓雄
7	悪を許すな突撃ラッパ	16	雪室 俊一	山口 秀憲	森 利夫
8	危機一髪ゲッター２	23	田村多津夫	勝間田具治	小松原一男
9	栄光のキャプテンラドラ	30	雪室 俊一	小湊 洋市	中村 一夫
10	急降下！ゲッター３は行く	6／ 6	松岡 清治	森下 孝三	白土 武
11	激突！ドリル対ドリル	13	田村多津夫	山口 康男	白土 武
12	吠える不死身のウル	20	上原 正三	葛西 治	野田 卓雄
13	一本勝負！大雪山おろし	27	雪室 俊一	勝間田具治	増谷 三郎
14	紅の空に命を賭けろ!!	7／ 4	田村多津夫	川田 武範	菊池 城二
15	悠子に捧げるバラード	11	雪室 俊一	小湊 洋市	中村 一夫
16	恐竜帝国の謎を追え	18	上原 正三	勝間田具治	小松原一男
17	狙われた設計図	25	田村多津夫	森下 孝三	白土 武
18	恐竜帝国のすごい奴	8／ 1	上原 正三	山口 康男	白土 武
19	リョウ最後の出撃！	8	田村多津夫	生頼 昭憲	野田 卓雄
20	大空襲！突然の恐怖	15	田村多津夫	田宮 武	落合 正宗
21	アメリカから来たロボット	22	上原 正三	葛西 治	川島 明
22	悲劇のゲッターQ	29	上原 正三	小湊 洋市	中村 一夫
23	浅間山の大発明狂	9／ 5	上原 正三	白土 武	白土 武
24	大要塞に向って撃て	12	上原 正三	生頼 昭憲	飯野 皓
25	合体！風速100メートル	19	田村多津夫	山口 秀憲	神宮さとし
26	帝王ゴール大噴火作戦	26	上原 正三	山口 康男	白土 武
27	大魔人ユラーの怒り	10／ 3	上原 正三	生頼 昭憲	野田 卓雄
28	襲撃!!地竜族三人衆	10	上原 正三	落合 正宗	落合 正宗
29	洪水地獄の死闘	17	上原 正三	森下 孝三	中村 一夫
30	不死鳥の甦る時	24	上原 正三	小湊 洋市	神宮さとし
31	危機！ハヤトよ立ち上がれ	31	田村多津夫	川田 武範	菊池 城二
32	恐怖！赤い霧の罠	11／ 7	上原 正三	生頼 昭憲	野田 卓雄
33	果てしなき大空に誓う	14	田村多津夫	山口 康男	小松原一男
34	女竜戦士ユンケの涙	21	上原 正三	落合 正宗	落合 正宗
35	ムサシ！男はつらい	28	田村多津夫	小湊 洋市	中村 一夫
36	要塞撃滅！トロイ作戦	12／ 5	上原 正三	奥田 誠治	神宮さとし
37	悪の指令！博士を狙え	12	田村多津夫	葛西 治	落合 正宗
38	魔の海からの脱出!!	19	上原 正三	生頼 昭憲	野田 卓雄
39	悲しみは流れ星の彼方に	26	上原 正三	山口 康男	小松原一男
40	日本列島凍結作戦！	50. 1／ 9	田村多津夫	落合 正宗	落合 正宗
41	姿なき恐竜空爆隊	16	上原 正三	葛西 治	中村 一夫
42	栄光のキャプテンラドラ(再放送)	23	雪室 俊一	小湊 洋市	中村 一夫
43	吠える不死身のウル(再放送)	30	上原 正三	葛西 治	野田 卓雄
44	恐竜帝国の謎を追え(再放送)	2／ 6	上原 正三	勝間田具治	小松原一男
45	アメリカから来たロボット(再放送)	13	上原 正三	葛西 治	川島 明
46	大要塞に向って撃て(再放送)	20	上原 正三	生頼 昭憲	飯野 皓
47	帝王ゴール大噴火作戦(再放送)	27	上原 正三	山口 康男	白土 武
48	北極に進路をとれ！	3／ 6	田村多津夫	奥田 誠治	神宮さとし
49	奪われたゲッターロボ	13	上原 正三	小湊 洋市	小松原一男

話数	サブタイトル	放映日	脚本	演出	作画監督
50	ムサシ！怒りの海底	20	田村多津夫	生頼　昭憲	野田　卓雄
51	脱出！宇宙の墓場	27	田村多津夫	落合　正宗	落合　正宗
52	恐るべき氷竜族の侵略	4／ 3	上原　正三	奥田　誠治	神宮さとし
53	帝王ゴール地上に現わる	10	田村多津夫	山本　寛己	小松原一男
54	マグマの恐竜帝国へ突入!!	17	上原　正三	生頼　昭憲	野田　卓雄
55	大爆発！くたばれ恐竜帝国	24	田村多津夫	落合　正宗	落合　正宗
56	帝王ゴール決死の猛反撃	5／ 1	上原　正三	生頼　昭憲	野田　卓雄
57	恐竜帝国の滅びる日	8	上原　正三	山口　康男	小松原一男

『ゲッターロボG』

話数	サブタイトル	放映日	脚本	演出	作画監督
58	甦れゲッターロボ!!	15	高久　　進	小湊　洋市	落合　正宗
59	恐るべき百鬼帝国の謎	22	高久　　進	生頼　昭憲	野田　卓雄
60	悪の罠！空飛ぶ船団	29	上原　正三	葛西　　治	山口　泰弘
61	ベンケイ！涙の勝利	6／ 5	田村多津夫	山口　康男	小松原一男
62	恐怖の水爆作戦	12	高久　　進	落合　正宗	落合　正宗
63	夢を裂く百鬼一族	19	上原　正三	生頼　昭憲	野田　卓雄
64	追跡！黒いジェット機	26	田村多津夫	川田　武範	中村　一夫
65	夜空に輝く二つ星	7／ 3	高久　　進	山口　康男	小松原一男
66	ＳＯＳ！ゲッターロボ応答せよ	10	田村多津夫	生頼　昭憲	野田　卓雄
67	悪魔の島を攻撃せよ	17	高久　　進	川田　武範	中村　一夫
68	百鬼帝国！将軍への道	24	上原　正三	葛西　　治	野田　卓雄
69	遥かなる荒野の決闘！	31	田村多津夫	茂野　一清	落合　正宗
70	こうもり爆弾！危機一髪	8／ 7	高久　　進	森下　孝三	中村　一夫
71	友達は風になった	14	上原　正三	落合　正宗	落合　正宗
72	赤い蝶のバラード	21	田村多津夫	山口　康男	小松原一男
73	死闘！嵐吹く男の道	28	上原　正三	生頼　昭憲	野田　卓雄
74	コロよ明日に吠えろ！	9／ 4	田村多津夫	川田　武範	中村　一夫
75	危うし伊豆半島沖！	11	田村多津夫	落合　正宗	落合　正宗
76	早乙女博士を救出せよ！	18	高久　　進	山口　康男	伊勢田幸彦
77	大攻撃！メカ要塞鬼	25	田村多津夫	生頼　昭憲	野田　卓雄
78	大決戦！シャインスパーク	10／ 2	田村多津夫	白土　　武	伊勢田幸彦
79	海底に消えたジャンボ機	9	高久　　進	川田　武範	白土　　武
80	月光に踊るピエロ	16	馬嶋　　満	落合　正宗	落合　正宗
81	海に叫ぶ少年！	23	田村多津夫	葛西　　治	野田　卓雄
82	悪の罠！空飛ぶ船団(再放送)	30	上原　正三	葛西　　治	山口　泰弘
83	湖に消えたミチル	11／ 4	馬嶋　　満	笠井　由勝	白土　　武
84	鬼になったあいつ！	13	田村多津夫	落合　正宗	青鉢　芳信
85	ツバメよ元気にとべ！	20	馬嶋　　満	山口　康男	伊勢田幸彦
86	追跡！黒いジェット機(再放送)	27	田村多津夫	川田　武範	中村　一夫
87	緑の地球が死ぬ！	12／ 4	高久　　進	生頼　昭憲	野田　卓雄
88	涙のあとに口笛を	11	馬嶋　　満	落合　正宗	青鉢　芳信
89	SOS！ゲッターロボ応答せよ(再放送)	18	田村多津夫	生頼　昭憲	野田　卓雄
90	ドライスノー奇襲作戦！	25	馬嶋　　満	山口　康男	白土　　武
91	燃えろ！リョウの剣	51. 1／ 8	田村多津夫	葛西　　治	木野　達児
92	元気あの子ってなんなのさ！	15	田村多津夫	白土　　武	伊勢田幸彦
93	夕焼け空が知っている	22	馬嶋　　満	葛西　　治	広田　　全
94	百鬼帝国！将軍への道(再放送)	29	上原　正三	葛西　　治	野田　卓雄
95	対決！百鬼三兄弟	2／ 5	田村多津夫	生頼　昭憲	野田　卓雄
96	百鬼老兵は死なず	12	馬嶋　　満	白土　　武	伊勢田幸彦
97	遥かなる荒野の決闘(再放送)	19	田村多津夫	茂野　一清	落合　正宗
98	ベンケイ暗殺計画	26	高久　　進	山口　康男	木野　達児
99	早乙女博士を救出せよ！(再放送)	3／ 4	高久　　進	山口　康男	伊勢田幸彦
100	危機迫る日本近海！	11	馬嶋　　満	笠井　由勝	広田　　全
101	ブライ大帝決死の大反撃！	18	田村多津夫	生頼　昭憲	野田　卓雄
102	大決戦！日本上空	25	田村多津夫	生頼　昭憲	野田　卓雄

『ゲッターロボ』『ゲッターロボG』
ゲスト・キャスト一覧

テレビシリーズ『ゲッターロボ』及び『ゲッターロボG』には魅力的なゲスト・キャラクターが多数、登場している。ここではその主だったゲスト・キャラをキャスティングとともに一覧で紹介する。また今回、幸運にも当時、プロデューサー・勝田稔男氏が記録していた「キャスティング・ノート」をお借りすることができた。キャスティングの裏づけはこのノートによるものであることをつけ加えておく。

『ゲッターロボ』

話数	キャラクター名	声優名
#1	早乙女達人	野田圭一
#4	神　明日香	菊地紘子
#8	滝（弟）	田中亮一
	滝（兄）	緒方賢一
	グラン	田中亮一
#9	ラドラ	緒方賢一
#11	バルキ	緒方賢一
#13	岩倉大次郎	緒方賢一
#14	ガルマ	若本規夫
#15	悠子	吉田理保子
	母・良江	菊地紘子
#16	クック	赤羽根　明
	シック	赤羽根　明
#17	ルーガ	菊地紘子
#18	ザンキ	野田圭一
	キャプテンA	緒方賢一
	〃　B	キートン山田
	〃　C	神谷　明
#19	流　竜作	神　弘無
	ドロス	長谷川克弘
	主任	緒方賢一
	岩本	キートン山田
#20	早乙女和子	千々松幸子
	〃　少女時代	吉田理保子
	和子の父	神　弘無
	ヨギラ	緒方賢一
#21	ジャック	井上真樹夫
	メリー	菊地紘子
#22	ミユキ	つかせのりこ
#24	アラン	矢田耕司
	エラン	緒方賢一
#25	バミラ	田中亮一
#27	ギバラ	矢田耕司
#28	ギット	緒方賢一
	ザット	キートン山田
	ビット	田中亮一
	勝田博士	矢田耕司
#29	ビクト	神　弘無
	浩一	山本圭子
	姉・良子	菊地紘子
#31	ギラン	矢田耕司
#32	キザラ	矢田耕司
	ゼオラ	緒方賢一
#33	マズマ	緒方賢一
#34	ユンケ	菊地紘子
	流ジュン	吉田理保子
#35	巴タケ	菊地紘子
	ザラン	緒方賢一
#36	ダダ	矢田耕司
#37	マンダ	緒方賢一
#39	星野さおり	千々松幸子
	祖父	矢田耕司
#40	ギルバ	矢田耕司
#43	イザナ	矢田耕司
	ロナン	神　弘無
	ハガチ	緒方賢一
#44	弘	山本圭子
	ギジラ	矢田耕司
#45	神　大造	矢田耕司
	ハヤトの母	菊地紘子
	ゴアラ	緒方賢一
#46	サウス	緒方賢一
	スノウ	矢田耕司
#47	早田信一	森　功至
	早田の婚約者	菊地紘子
#49	グルバ	神　弘無
#50	ズマラ	キートン山田
	ガロガ	緒方賢一
	ギソラ	矢田耕司
	ガルン	神谷　明
#51	ブライ大帝	緒方賢一

『ゲッターロボG』

話数	キャラクター名	声優名
#1	一角鬼	緒方賢一
#2	独眼鬼	神　弘無
	研究所医師	矢田耕司
#3	牛面鬼	矢田耕司
#4	白髪鬼	矢田耕司
	少女	千々松幸子
#5	暗黒鬼	神　弘無
#6	小竜鬼	緒方賢一
	坂崎	森　功至
#7	三頭鬼	加藤　治
	車　大介	柴田秀勝
#8	白骨鬼	野沢雅子
	リサ	千々松幸子
	鬼丸	緒方賢一
#9	飛竜鬼	矢田耕司
#10	海王鬼	矢田耕司
#11	自雷鬼	神　弘無
	自雷将軍	矢田耕司
#12	邪角鬼	緒方賢一
#13	紫電鬼	矢田耕司
#14	地虫鬼	野沢雅子
#15	胡蝶鬼	菊地紘子
#16	鉄甲鬼	矢田耕司
#17	闇竜鬼	緒方賢一
#18	妖剣鬼	矢田耕司
#19	金剛鬼	神　弘無
	国防長官	矢田耕司
#20	大輪鬼	緒方賢一
	兵士A	井上和彦
#21	半月鬼	矢田耕司
#22	獣王鬼	緒方賢一
	添乗員・北口	矢田耕司
#23	剣王鬼	矢田耕司
#24	百足鬼	矢田耕司
	克也	山本圭子
#25	大角鬼	緒方賢一
	東山教授	矢田耕司
#26	暴竜鬼（イサム）	森　功至
	イサムの母	菊地紘子
	新宿支部長	矢田耕司
#27	鋼頭鬼	矢田耕司
	亀吉	山本圭子
#28	蛇王鬼	森　功至
	〃　子供時代	つかせのりこ
	白蛇鬼	矢田耕司
#29	天魔鬼	加藤　治
#30	鉄丸鬼	矢田耕司
#31	大剣鬼	野田圭一
	流　流作	八奈見乗児
#32	鉄光鬼	矢田耕司
	マリア	桂　玲子
#33	恐角鬼	矢田耕司
	医師	神　弘無
#34	角面鬼	矢田耕司
#35	牛剣鬼	矢田耕司
	牛餓鬼	曽我部和恭
	艦長	神　弘無
#36	電光鬼	矢田耕司
	チコ	千々松幸子
#38	闇虫鬼	矢田耕司
#39	輪魔鬼	矢田耕司

ゲッターロボ スタッフ&キャストリスト

放映期間■1974年4月4日～1975年5月8日
［カラー30分、全51話］
放映■毎週木曜日　19：00～19：30　フジテレビ系

●スタッフ
■原作／永井　豪、石川　賢とダイナミックプロ
■連載／週刊少年サンデー、小学館の学習雑誌、テレビランド（徳間書店）
■企画／別所孝治、勝田稔男
■音楽／菊池俊輔
■主題歌／「ゲッターロボ！」作詞：永井　豪／作曲：菊池俊輔／歌：ささきいさお　「合体！ゲッターロボ」作詞：和泉高志／作曲：菊池俊輔／歌：ささきいさお、コロムビアゆりかご会
■制作担当／大野　清
■キャラクターデザイン／小松原一男
■美術設定／辻　忠直
■制作／フジテレビ、東映

●キャスト
■神谷　明：流　竜馬
■山田俊司＝キートン山田：神　隼人／ガレリィ長官／ナレーター
■西尾　徳：巴　武蔵
■吉田理保子：早乙女ミチル
■菊池紘子：早乙女元気／早乙女和子
■富田耕生：早乙女博士／ジョーホー
■緒方賢一：バット将軍／浅太郎
■神　弘無：帝王ゴール
■矢田耕司：大枯文次／大魔人ユラー（第27話～）
■早乙女達人：野田圭一（第1話のみ）

ゲッターロボG スタッフ&キャストリスト

放映期間■1975年5月15日～1976年3月25日
［カラー30分、全39話］
放映■毎週木曜日　19：00～19：30　フジテレビ系

●スタッフ
■原作／永井　豪、石川　賢とダイナミックプロ
■連載／週刊少年サンデー、小学館の学習雑誌、テレビランド（徳間書店）、冒険王（秋田書店）
■企画／別所孝治、勝田稔男、小田克也
■音楽／菊池俊輔
■主題歌／「ゲッターロボ！」作詞：永井　豪／作曲：菊池俊輔／歌：ささきいさお　「不滅のマシン　ゲッターロボ」作詞：和泉高志／作曲：菊池俊輔／歌：ささきいさお、コロムビアゆりかご会
■制作担当／菅原吉郎
■キャラクターデザイン／小松原一男
■美術設定／辻　忠直
■制作／フジテレビ、東映

●キャスト
■神谷　明：流　竜馬
■山田俊司＝キートン山田：神　隼人／ナレーター
■八奈見乗児：車　弁慶／ブライ大帝
■吉田理保子：早乙女ミチル
■菊池紘子：早乙女元気／早乙女和子
■富田耕生：早乙女博士／ジョーホー
■緒方賢一：ヒドラー元帥／浅太郎
■矢田耕司：グラー博士／大枯文次

ゲッターロボ號 スタッフ&キャストリスト

放映期間■1991年2月11日～1992年1月27日放送
［カラー30分・全50話］
放映■毎週月曜日　18：00～18：30　テレビ東京系

●スタッフ
■原作／　永井　豪、石川　賢とダイナミックプロ
■企画協力／ダイナミック企画
■連載／小学館　学年別学習雑誌、幼稚園、てれびくん、別冊コロコロコミック、徳間書店　月刊少年キャプテン
■企画／　大西良昌（ビックウエスト）・横山賢二
■プロデューサー：岡崎千代（テレビせとうち）、吉田竜也
■音楽／渡辺宙明
■主題歌／「21世紀少年（21st centhry boy）」（＃1～＃14・ＯＰ）作詞：尾上　文／作曲：岡井大二／編曲：遠山　裕　岡井大二／歌：貴水博之
「GRIEVOUS RAIN」（＃1～＃14・ＥＤ）作詞：久和カノン　作曲：大堀　薫／編曲：遠山　裕／歌：貴水博之「ゲッターロボ號」（＃15～＃50・ＯＰ）作詞：康珍化／作曲・編曲：渡辺宙明／歌：水木一郎　森の木児童合唱団
「友達になりたい」（＃15～＃50・ＥＤ）作詞：康　珍化／作曲・編曲：渡辺宙明／歌：水木一郎
■シリーズ・ディレクター／芝田浩樹
■製作担当／目黒　宏・小塚憲夫
■総作画監督、キャラクターデザイン／大島城次
■美術／行　信三
■制作／テレビせとうち・ビックウエスト・東映

●キャスト
■草尾　毅：一文字　號
■小林優子：橘　翔
■神谷　明：大道　剴
■永井一郎：橘博士
■金丸淳一：武藤由自
■原えりこ：リー・フォア・メイ
■佐藤正治：Dr.ポチ
■田の中勇：Dr.タマ
■遠藤みやこ：吉井レミ（第28話～）
■郷里大輔：プロフェッサー・ランドウ
■弟：池水通洋／兄：佐藤正治：ヤシャ男爵
■女：阿部道子／男：永井一郎：ラセツ伯爵
■堀川　亮：ナルキス子爵

ゲッターロボ號 放映リスト

話数	サブタイトル	放映日	脚本	演出・絵コンテ	作画監督	美術
1	出動!!武器なき戦い	'91.2／11	星山　博之	芝田　浩樹	大島城次／袴田裕二	行　　信三
2	バトルヘリ攻防戦	2／18	大橋　志吉	山田　　徹	加賀美高浩	小板橋かよ子
3	武装せよ！ゲッターロボ	2／25	武上　純希	新田　義方	佐藤　敬一	行　　信三
4	ダブルボンバー炸裂!!	3／ 4	外池　省二	明比　正行	菊池　城二	小板橋かよ子
5	剴、決死のダイビング	3／11	星山　博之	吉沢　孝男	大島　城次	行　　信三
6	橘博士奪回作戦！	3／18	大橋　志吉	川田　武範	菊池　城二	松宮　正純
7	叫べ!!熱き兄弟の絆	3／25	武上　純希	山田　　徹	加賀美高浩	行　　信三
8	驚異！敵は大空にあり	4／ 1	外池　省二	新田　義方	佐藤　敬一	行　　信三
9	ネイザー本部危機一髪	4／ 8	星山　博之	明比　正行	大島　城次	行　　信三
10	激突!!恐怖の海底決戦	4／15	大橋　志吉	吉沢　孝男	菊池　城二	松宮　正純
11	合体せよ！鋼鉄の戦士	4／22	武上　純希	川田　武範	加賀美高浩	行　　信三
12	翔、復讐のバラード	4／29	星山　博之	山田　　徹	佐藤　敬一	松宮　正純
13	反撃せよ！ゲッター剴	5／ 6	大橋　志吉	新田　志吉	大島　城次	行　　信三
14	クローン人間の恐怖	5／13	武上　純希	明比　正行	菊池　城二	松宮　正純
15	子供たちを救出せよ	5／20	外池　省二	吉沢　孝男	佐藤　敬一	行　　信三
16	出来るか？海中初合体	5／27	星山　博之	川田　武範	菊池　城二	松宮　正純
17	立てテツ！自分に勝て	6／ 3	大橋　志吉	芝田　浩樹	加賀美高浩	行　　信三
18	無法なる挑戦者	6／10	武上　純希	山田　　徹	大島　城次	松宮　正純
19	メタルビーストの亡霊	6／17	大橋　志吉	新田　義方	佐藤　敬一	行　　信三
20	華麗なスピード対決	6／24	星山　博之	明比　正行	中平　晴也	松宮　正純
21	ネイザー基地壊滅作戦	7／ 1	外池　省二	吉沢　孝男	菊池　城二	行　　信三
22	悲劇！深海の独裁者	7／ 8	武上　純希	川田　武範	加賀美高浩	松宮　正純
23	共に戦え！我戦友よ	7／15	大橋　志吉	山田　　徹	大島　城次	行　　信三
24	人間蒸発事件を追え！	7／22	星山　博之	新田　義方	佐藤　敬一	松宮　正純
25	戦えガイ！涙の約束	7／29	外池　省二	明比　正行	中平　晴也	行　　信三
26	大暴れ！ヤシャ男爵	8／ 5	大橋　志吉	吉沢　孝男	菊池　城二	松宮　正純
27	ベイシティ危機一髪	8／12	武上　純希	川田　武範	加賀美高浩	行　　信三
28	聖剣ソードトマホーク	8／19	大橋　志吉	山田　　徹	梨澤　孝司	松宮　正純
29	翔、明日への誓い	8／26	星山　博之	芝田　浩樹	箕輪　　悟	行　　信三
30	とどけ！蒼き宇宙の敵	9／ 2	外池　省二	新田　義方	大島　城次	松宮　正純
31	謎の貴公子ナルキス	9／ 9	武上　純希	明比　正行	菊池　城二	行　　信三
32	Ｇアームライザー発動!!	9／16	大橋　志吉	吉沢　孝男	中平　晴也	松沢　正純
33	対決！ゲッターＶＳ由自	9／23	外池　省二	川田　武範	菊池　城二	行　　信三
34	恐怖!!禁断の海域	9／30	星山　博之	山田　　徹	大島　城次	松宮　正純
35	台風メタルビースト	10／ 7	大橋　志吉	芝田　浩樹	梨澤　孝司	行　　信三
36	奪われた磁鋼剣	10／14	外池　省二	明比　正行	菊池　城二	松宮　正純
37	モンゴルの青き狼	10／21	武上　純希	吉沢　孝男	箕輪　　悟	行　　信三
38	ナルキス浮遊要塞（前編）	10／28	星山　博之	川田　武範	中平　晴也	苫村　　竜
39	ナルキス浮遊要塞（後編）	11／ 4	星山　博之	山田　　徹	大島　城次	行　　信三
40	ゲッター１を救出せよ	11／11	大橋　志吉	芝田　浩樹	梨澤　孝司	苫村　　竜
41	重力の罠からの脱出	11／18	千葉　克彦	新田　義方	加賀美高浩	行　　信三
42	暴走！メタルビースト	11／25	外池　省二	明比　正行	菊池　城二	苫村　　竜
43	ヤシャ、緑の地に死す	12／ 2	武上　純希	吉沢　孝男	箕輪　　悟	行　　信三
44	ギリシャの神々の反乱	12／ 9	大橋　志吉	川田　武範	大島　城次	苫村　　竜
45	帝王ランドウ消滅す!?	12／16	星山　博之	山田　　徹	中平　晴也	行　　信三
46	ナルキス、新たなる挑戦	12／23	千葉　克彦	芝田　浩樹	梨澤　孝司	苫村　　竜
47	国連決議・降伏せよ!!	'92.1／ 6	外池　省二	新田　義方	菊池　城二	行　　信三
48	突撃!!４人の戦士	1／13	大橋　志吉	明比　正行	加賀美高浩	苫村　　竜
49	驚異!!邪帝復活	1／20	武上　純希	吉沢　孝男	大倉　雅彦	行　　信三
50	ゲッターよ永遠に眠れ	1／27	星山　博之	芝田　浩樹	大島　城次	苫村　　竜

幻の『G』COMIC再録!

以下、18ページに渡って掲載するのは『小学四年生』(小学館)75年6＆7月号に掲載された『ゲッターロボG』の漫画である。御大自らの執筆。"別のメカを合体させて乗っ取る"というアイディアの素晴らしさにも関わらず、これまで一度も復刻されたことのない幻の逸品となっていた。そこで今回、"巻末付録"として一挙掲載を敢行！　原稿未発見により印刷物からの復刻であるため、一部お見苦しい箇所もあるやもしれないが何卒ご了承頂きたい。




怪物体あらわる。
ピュー
ピュ〜ー！
円ばんじょうの飛行物体です。
なんだなんだ。
うわあ。
バシュッ！
はかせ、UFOがあらわれたそうで！
おっ、見たまえ、すごい数だ。

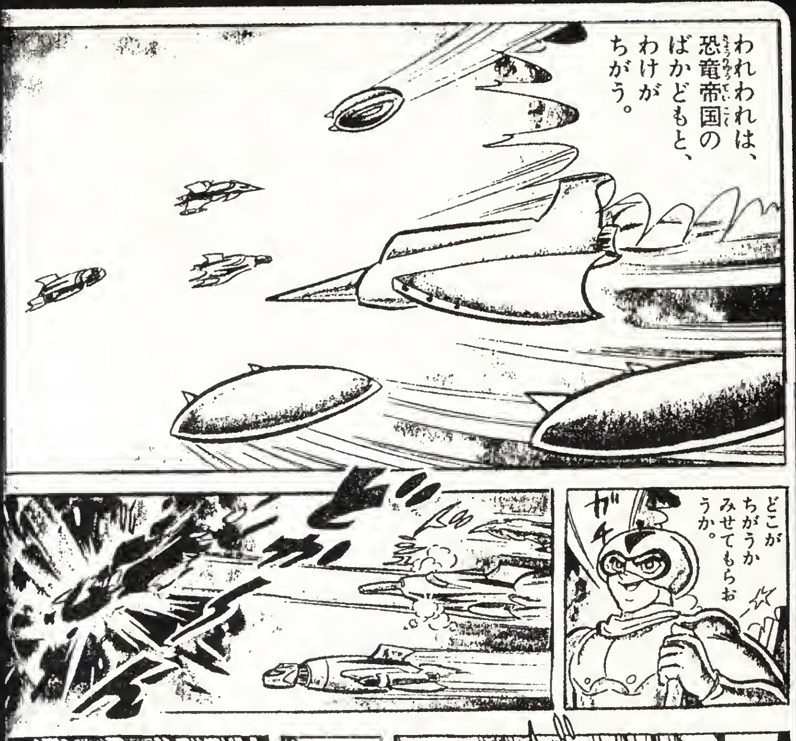


なんだなんだUFOだってから、どんなにすげえかと思ったら、
わりとちんけなの。
あんなんじゃ、ゲッターが出りゃいちころだぜ。
それゲッター出動じゃ！
むこうからきてる。
相手がなにものかわからないうちに手を出すな。
なにがあるかわからん。
わははは、早乙女研究所のめんめん……おはつにお目にかかる。

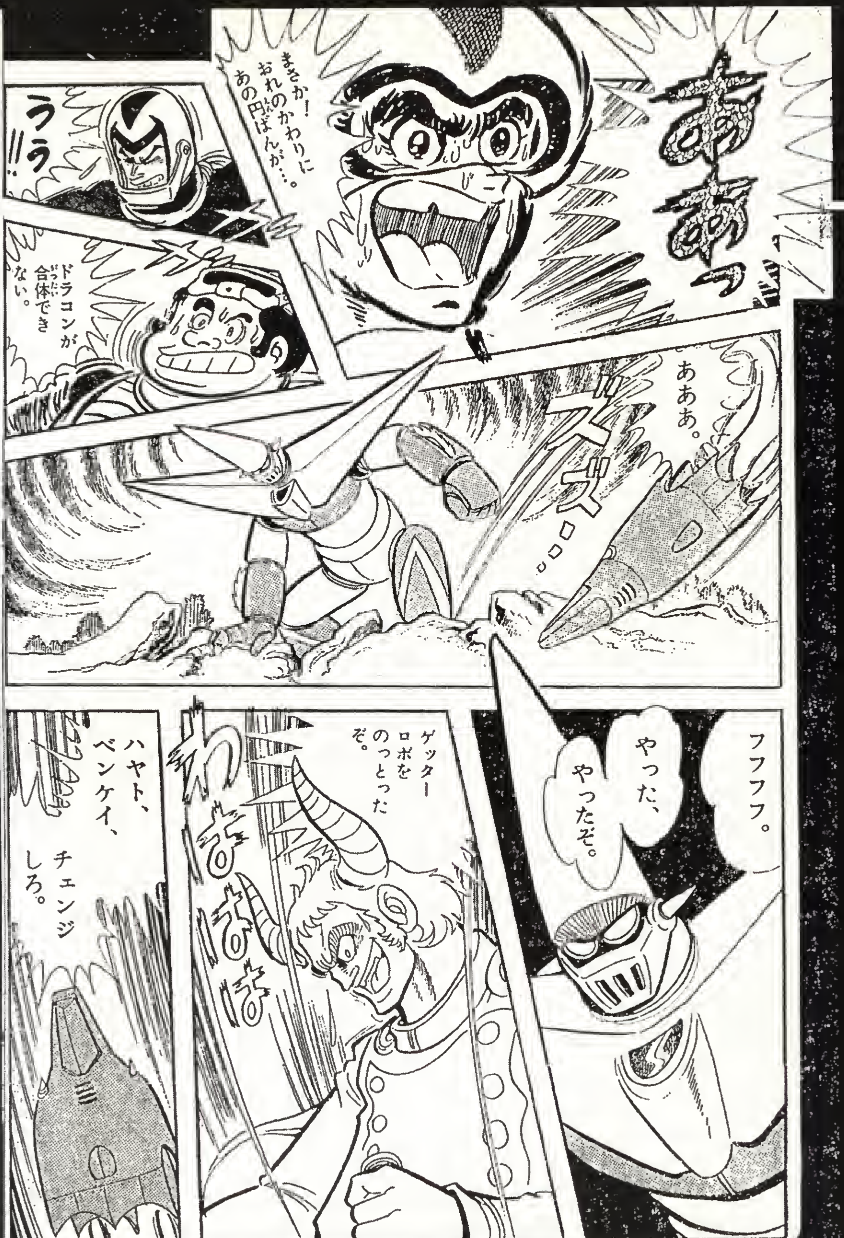

わたしは、百鬼帝国の双角鬼だ。
きさまらのゲッターロボにちょう戦するために来た!
ゲッターにちょう戦だと?
わらわせちゃいけねえよ、ゲッターにちょう戦なんて、
そんな小型円ばんでなにができるてんだ。
ゲッターをあまく見ると、いてえ目をみるよ。
やつら、ゲッターの力をしらんはずはあるまい……。なにかあるぞ……。
円ばんが全部合体するのかな。
ない、ない、
かっこつけやがってんだよばかめ。
どうしたゲッター出てこい。
おじけづいたか!



●「ゲッターロボ」は、毎週木曜日夜七時から、フジテレビ系で全国テレビ放映ちゅう。


われわれは、恐竜帝国のばかどもと、わけがちがう。
ガチ
どこがちがうかみせてもらおうか。
合体だ!
ドラゴンゆくぜ!
今だ!
あっ。


うわっ
ぎゅうん
あっ
ガキッ
うわあああ


あああっ
まさか! おれのかわりに あの円ばんが…。
ウウ!!
ドラコンが合体できない。
あああ。
フフフフ。
やった、やったぞ。
わははは
ゲッターロボをのっとったぞ。
ハヤト、ベンケイ、チェンジしろ。

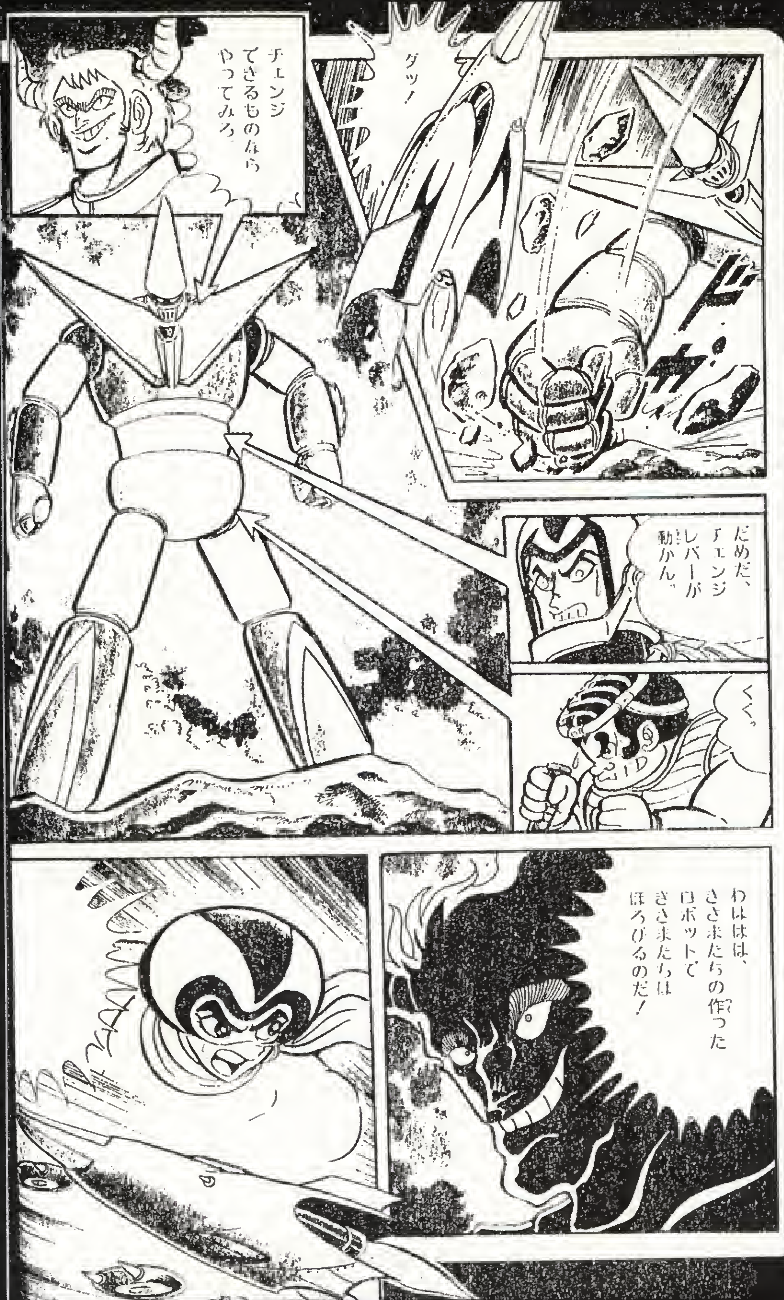
●ドラゴンのかわりに、てきの円ばんが合体するなんて……。リョウのピンチをすくえるのか!!



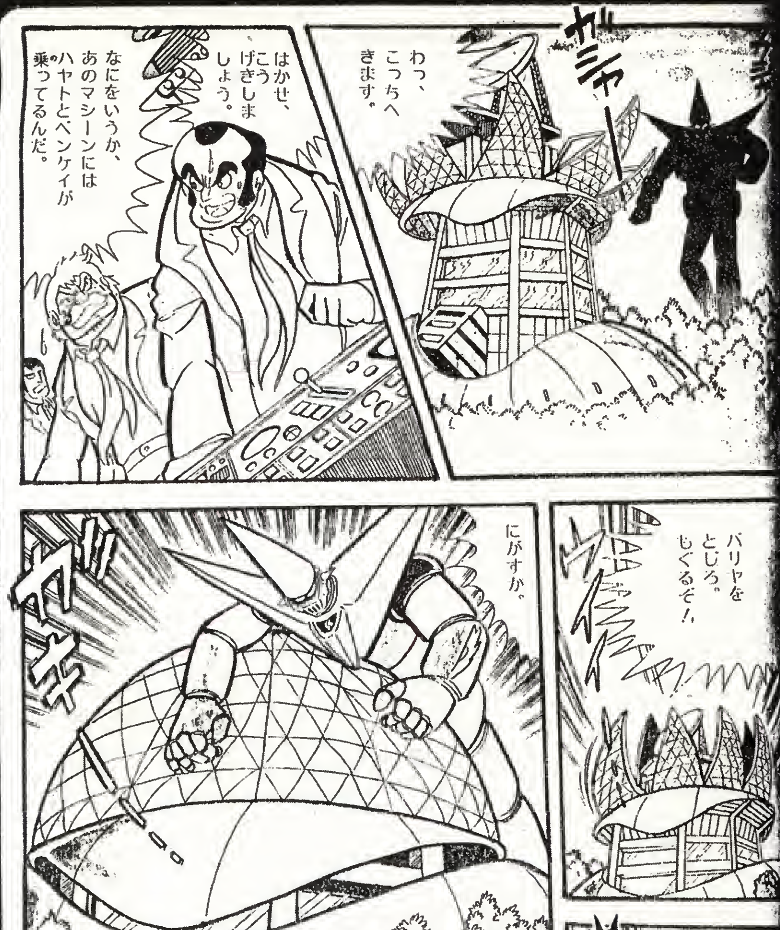
■小学四年生7月号に続きます。お楽しみに。■

●百鬼帝国の怪人にのっとられたゲッターロボ。ハヤト、ベンケイがあぶない!





●「ゲッターロボG」は、毎週木曜日夜七時から、フジテレビ系で全国テレビ放映ちゅう。

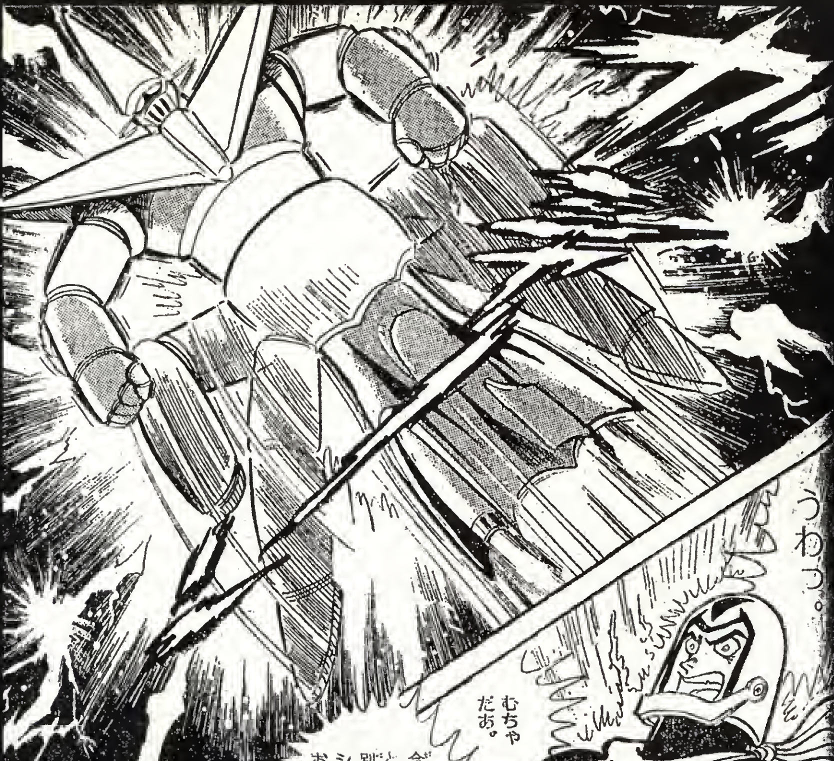

ガシャー
わっ、こっちへきます。
はかせ、こうげきしましょう。
なにをいうか、あのマシーンにはハヤトとベンケイが乗ってるんだ。
バリヤをとじろ。もぐるぞ!
にがすか。
研究所をもちあげようとしています。
すごいパワーです。


フフフフ。
いけねえ、このままじゃ研究所がつぶされるぜ。
くそう、うぎぎ。
ベンケイ、おれたちから自ばくするぞ。
え？自ばく！
もう、ほかに方法がねえ。
どう体と足がふっとびゃ頭も生きちゃいめえ。
おれたちが死にゃおすむことだ。
まて、ハヤト！
とめるな、リョウ。
たすかる方法がある。
いちかばちかの方法だ。


フフフ
どんな手が
あるというんだ。
もたもたしてたら
研究所は
つぶされるぞ。
あわてな
さんな。
こういうのは
タイミングてのが
だいじなんだ。
たたき
こわして
くれる、
グォー！
今だ！



あ！
うっ。
それ、いちかばちかの大勝負だ。いけ！



うわっっ。
むちゃだぉ。
合体してるところに別のが合体したらショートをおこすぞ。
しょうちよ。
うわ。


おれたちが
まいるか……、
やつが
くたばるのが
はやいか、
勝負よ。
ゲッター
ライガー、
チェンジだ。
うわあ、
たまらねえ。
にげろ!
にがすなあ。



●やったぞゲッター！ 三人のチームワークが勝利をよんだんだ！

THE GETTER PRESENTS!



本書の発売を記念して、夢工房宝島、ステルス、浪曼堂の3社から特製アイテムを提供して頂くことになりました。

夢工房宝島&ステルスより

★魔王鬼の挑戦　★一閃　★一撃
★オリジナルビデオアニメ版 真・ゲッター1
（以上72ページに掲載）

浪曼堂より

★ゲッタードラゴン　金メッキ（シャインスパーク）ヴァージョン（写真左）
★真ゲッター1（71ページに掲載）
★真ゲッター2（71ページに掲載）

本書の感想・ご意見を書いて送って下さった方のなかから抽選で13名の方に上記アイテムのうちどれか1点が当たります。官製葉書にてふるってご応募下さい。なお、発表は発送をもって替えさせて頂きます。
［宛先］〒162-8540　東京都新宿区東五軒町3-28　㈱双葉社CTR
「ゲッターロボ大全」係まで
［〆切］1998年12月25日（消印有効）

●執筆者紹介

岩佐　陽一
いわさ・よういち：67年生。神奈川県出身。出版・映像の総合プロデュース会社（株）バッドテイスト代表取締役。みなさん、ご一緒に『バケタン一家』みたいなドラマ、『みごろたべごろ笑いごろ！』みたいなバラエティ、『バトルホーク』みたいなヒーローもの、『グロイザーX』みたいなアニメを創りませんか？

大久保一光
おおくぼ・かずみつ：71年1月3日生。東京都出身。（株）バッドテイスト所属。98年10月発売の『南海奇皇（ネオランガ）』LDライナーノートの構成・執筆を担当中。恋人も募集中。

大和　光
やまと・ひかる：67年生。沖縄出身。本業は官能小説家だが、生来の“魔女っ子アニメ好き”が災いして、もっぱら“魔女っ子ライター”として活躍中。近々、信じられないようなもの凄いロボットアニメの原作を発表する予定。

サデスパー堀野
さですぱー・ほりの：71年2月13日生。東京都出身。某社で編集を勤務。同人サークル「全怪獣怪人研究所」代表という点を買われて、本書執筆に参加。仕事が重なり夏コミにいけなかった。顔は犬系。

大門　豊
だいもん・ゆたか：66年1月23日生。東京都出身。ロボット&おもちゃ系ライター。ミニ四駆でゲットマシンを造ったことで有名。双葉社から発売中の『モンスターファーム最強秘伝書』も執筆している。顔が恐い。

堤　哲哉
つつみ・てつや：60年9月4日生。東京都出身。本業漫画家。仮面ライダースナックのカードなどキャラクターカード・ブロマイドの収集が趣味。ことしは『ダン』『一文字隼人』、9月発売の『ハヤタ』など自伝本製作に携わってます。

早川　優
はやかわ・まさる：65年3月31日生。埼玉県出身。映画、アニメーションのサウンドトラック盤CDの企画・構成を中心に活動。現在、『ウルトラマンダイナ』（Vol.4）、『夢のクレヨン王国』（Vol.2）、『宇宙からのメッセージ』ほかのサントラCDの作業中。

●表紙イラスト／石川　賢

●カバーデザイン／VoLARE inc.

●本文デザイン／やまもと・ひろゆき

●協力（五十音順）
小学館、大都社、ダイナミック企画、ダイナミックプロ、都筑兵庫、東映動画、徳間書店、白夜書房『フィギュア帝国』編集部、ユタカ

●SPECIAL THANKS（五十音順）
石川賢、上原正三、勝田稔男、勝間田具治、キートン山田、小松原一男、団龍彦、永井豪、永井隆、西尾徳、藤川桂介、吉田理保子

●参考文献
『ロマンアルバム㉜　ゲッターロボ&G』（徳間書店、1980年）

●アイテム協力（五十音順）
ステルス田中雷工房、夢工房宝島、浪曼堂

●レトロ・アイテム協力
空想科学古物商　えむぱい屋
〒170-0013　豊島区東池袋4-27-14　リーダースビル
サンシャイン南602号
☎03(3986)1008

※文中一部敬称略させて頂きました。ご了承下さい

ゲッターロボ大全

GETTER ROBOT CHRONICLE

編　者：岩佐陽一　©ダイナミック企画・東映動画
原著作：永井豪＆石川賢　©ダイナミックプロ
発行者：井上功夫
発行所：株式会社双葉社
〒162-8540　東京都新宿区東五軒町3番28号
電話03-5261-4818（営業）
03-5261-4837（編集）
印刷所：三晃印刷株式会社
製本所：株式会社ダイワビーツー

ISBN 4-575-28885-3　C0076